第2章　環境に関する意識アンケート調査

1. アンケート調査について

1.1 調査目的

アンケート調査は、本市が次年度に策定を予定している「次期柳井市環境基本計画（仮称）」の基礎資料とするため、市民や事業者の環境問題に関する関心及び自然環境の保全や地球温暖化対策などの取組状況、今後の取組意欲を把握することを目的に実施した。

1.2 調査概要

アンケート調査の調査概要は、下表に示すとおりである。

項目	市民	事業者
調査対象	市内に在住している方の中から1,000人を無作為に抽出	市内の主要事業所から214事業所を抽出
調査方法	郵送により調査票を配布し、郵送・webにて調査票を回収	
調査期間	2025（令和７）年10月23日（木）～2025（令和７）年12月31日（水） ※当初回答〆切は2025（令和７）年11月30日（日）であったが、回答者数を増やすため、同年12月31日（水）まで延期した。 ※2025（令和７）年12月１日（月）：礼状兼催告状の発送	
回収率	発送数：1,000票 未着数：８票 回収数：464票 （郵送：277票、web：187票） 回収率：46.8%	発送数：214票 未着数：０票 回収数：130票 （郵送：56票、web：74票） 回収率：60.7%

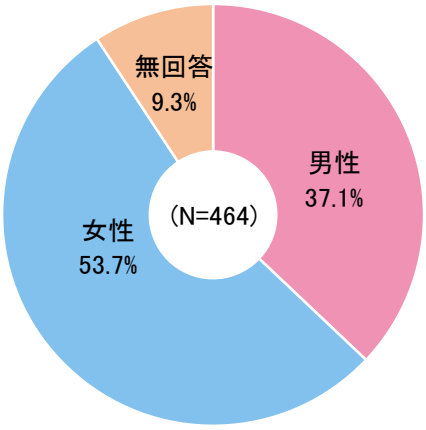
※回収率は有効回答数（発送数から未着数を除外した数量）に対する割合を示す。

2. 市民アンケート調査結果

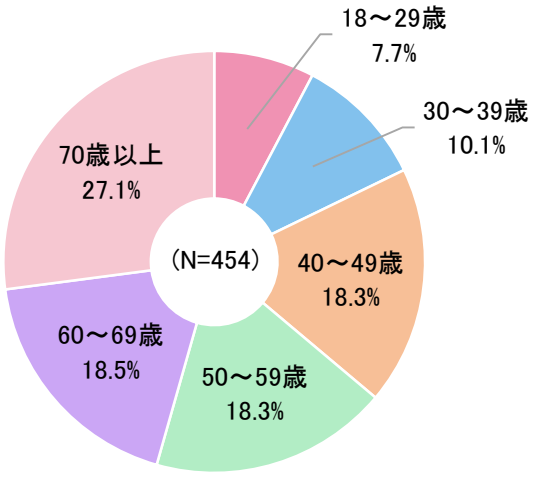
問１　あなたのことについてお聞かせください。
あてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。

回答者の情報

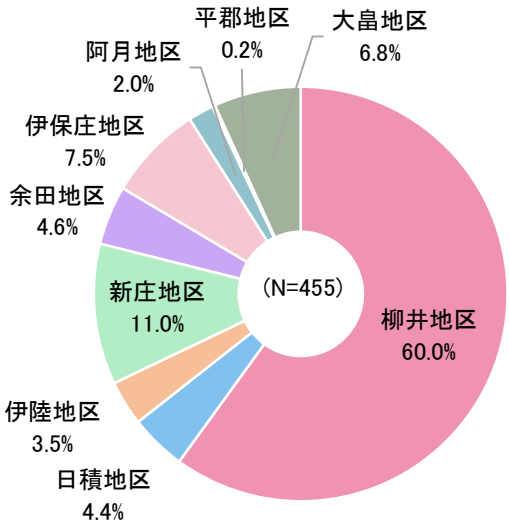
(1) 性別



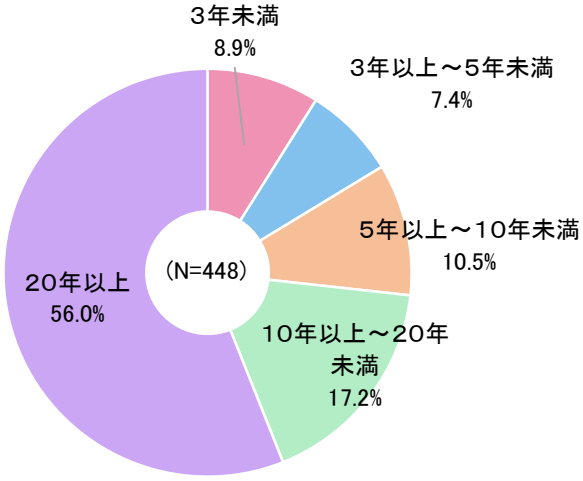
(2) 年齢



(3) 住所

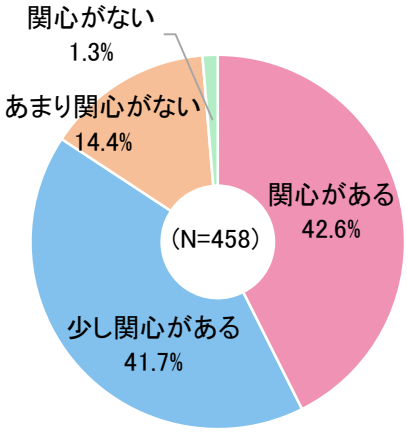


(4) 居住年数



- ◆ 回答者の性別は、女性が約５割、男性が約４割である。なお、無回答の方は約１割を占めている。
- ◆ 回答者の年齢は、70 歳以上が 27.1%と最も多く、次いで 60～69 歳の 18.5%、40～49 歳及び 50～59 歳の 18.3%となっており、50 歳以上が６割以上を占めている。
- ◆ 回答者の居住地区は、柳井地区が 60.0%と最も多く、次いで新庄地区の 11.0%、伊保庄地区の 7.5%である。
- ◆ 回答者の居住年数は、20 年以上が 56.0%と最も多く、７割以上が居住年数 10 年以上となっている。

問２　あなたは環境問題に関心がありますか。
あてはまるものを１つ選んで番号に○印をつけてください。



【全体結果】

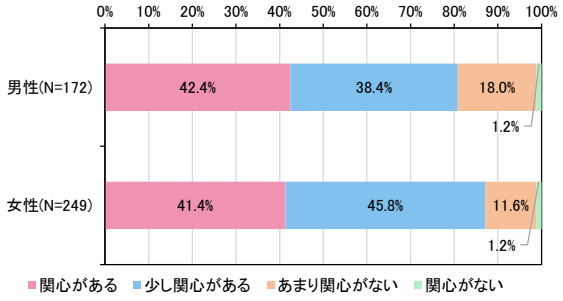
◆　環境問題に「関心がある」と回答した方の割合が 42.6%と最も高く、「関心がある」または「少し関心がある」と回答した方の割合が８割以上を占めている。そのため、環境問題に対する関心は高いと考えられる。

◆　一方、「関心がない」と回答した方の割合は 1.3%であった。

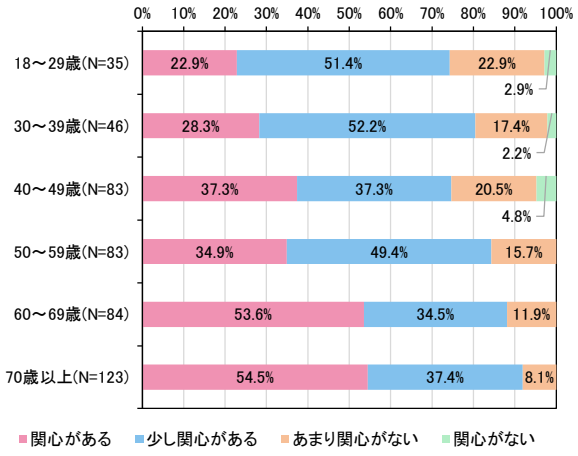
【属性別結果】

問２　環境問題の関心度

〈性別〉



〈年齢別〉

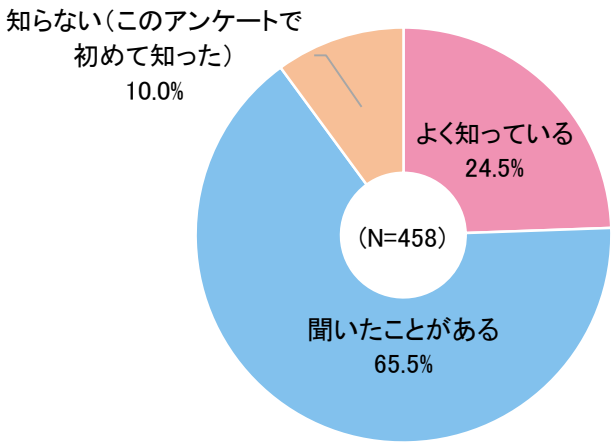


◆　「関心がある」と回答した方の割合について、男性及び女性ともに約４割と同程度であり、性別による違いは見られなかった。

◆　回答者の年代が高くなるにつれ「関心がある」と回答した割合が高くなる傾向があり、60 歳以上の方の５割以上が「関心がある」と回答した。

◆　一方、回答者の年代が低くなるにつれ、「あまり関心がない」または「関心がない」と回答した方の割合が高くなる傾向が見られる。

問３　あなたは、『カーボンニュートラル』という言葉をご存知でしたか。
あてはまるものを１つ選んで番号に〇印をつけてください。



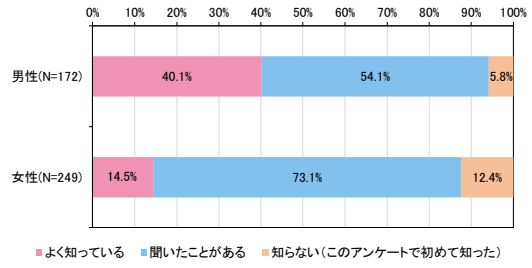
【全体結果】

◆　「カーボンニュートラル」を「よく知っている」または「聞いたことがある」と回答した方の割合が９割を占めている。

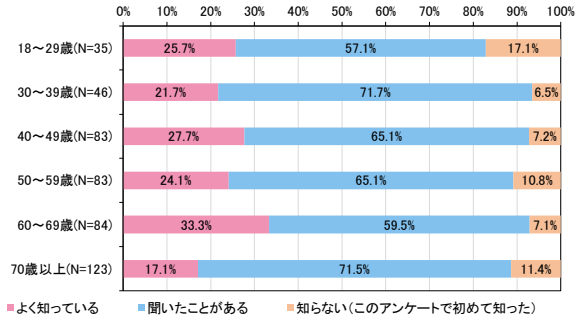
【属性別結果】

問３　「カーボンニュートラル」という言葉の認知度

〈性別〉



〈年齢別〉

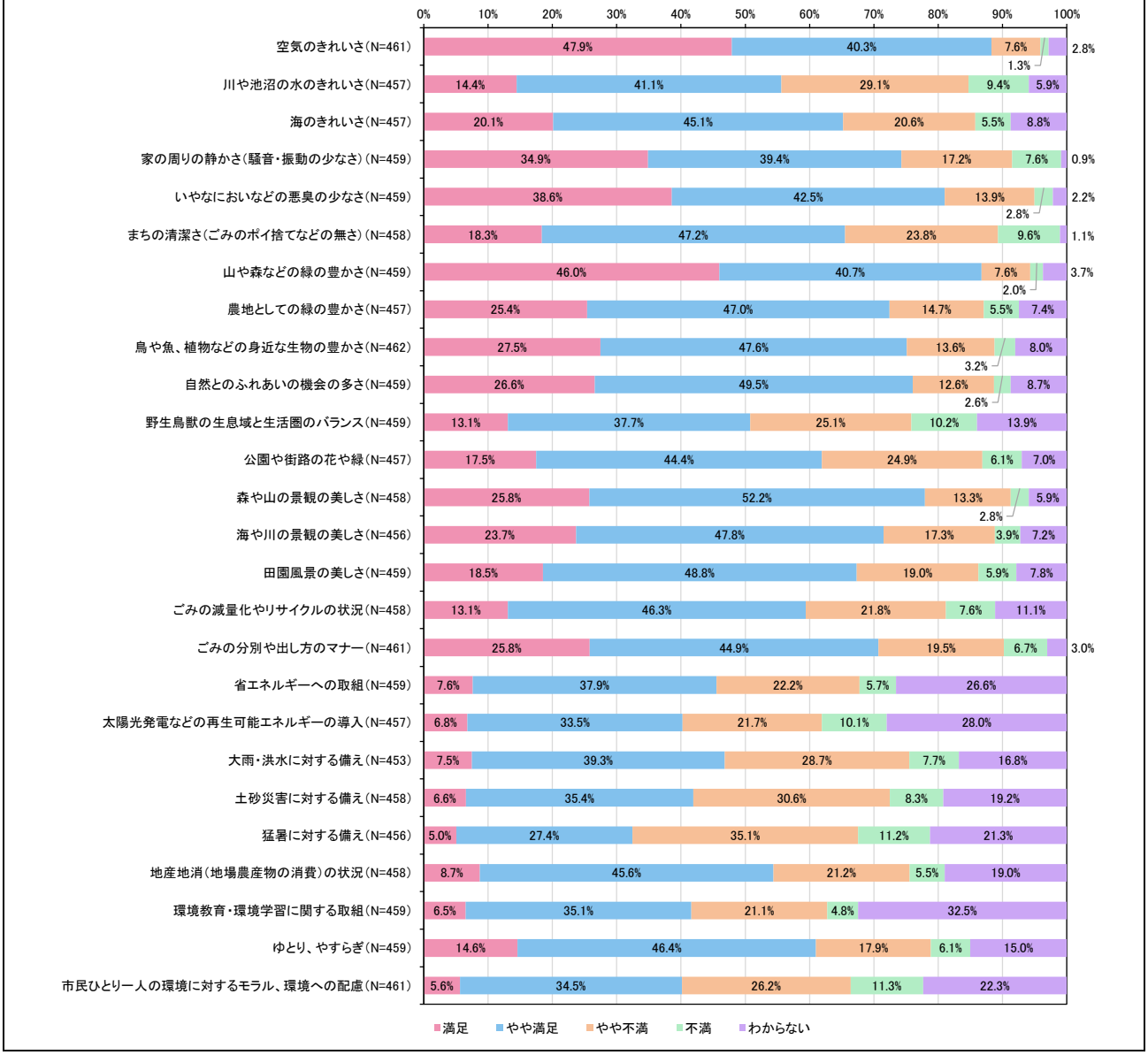


◆　「よく知っている」と回答した方の割合について、男性は 40.1％と高く、女性は 14.5％にとどまった。

◆　いずれの年代も「聞いたことがある」と回答した方の割合が最も高く、「よく知っている」と回答した方の割合は約２～３割程度であるため、周知の機会を設ける必要があると考える。

問４　あなたはお住まいの地区の環境についてどの程度満足されていますか。また、柳井市の将来の望ましい環境にとってどの程度重要だと思いますか。
項目ごとにあてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。

〈満足度〉



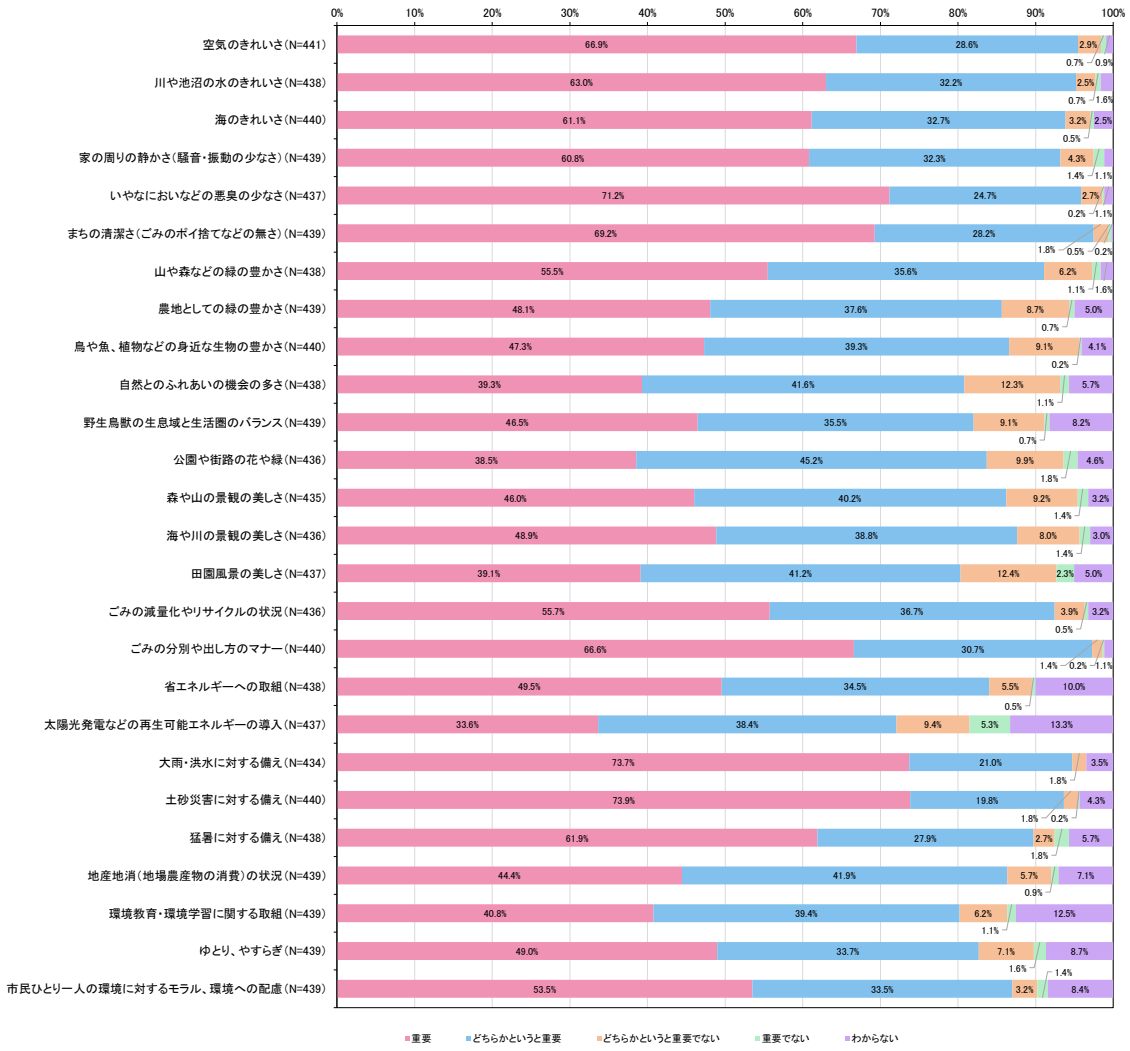
【全体結果】

◆　「満足」と回答した方の割合が最も高い項目は、「空気のきれいさ」の 47.9%であり、次いで「山や森などの緑の豊かさ」の 46.0%、「いやなにおいなどの悪臭の少なさ」の 38.6%である。

◆　一方、「やや不満」または「不満」と回答した方の割合が最も高い項目は、「猛暑に対する備え」の 46.3%であり、次いで「土砂災害に対する備え」の 38.9%、「川や池沼の水のきれいさ」の 38.5%である。

◆　気候変動対策（緩和・適応）や環境教育、環境への配慮に関する項目は、「満足」または「やや満足」と回答した方の割合が５割未満であり、「わからない」と回答した方の割合が約２割を占めている。

〈重要度〉



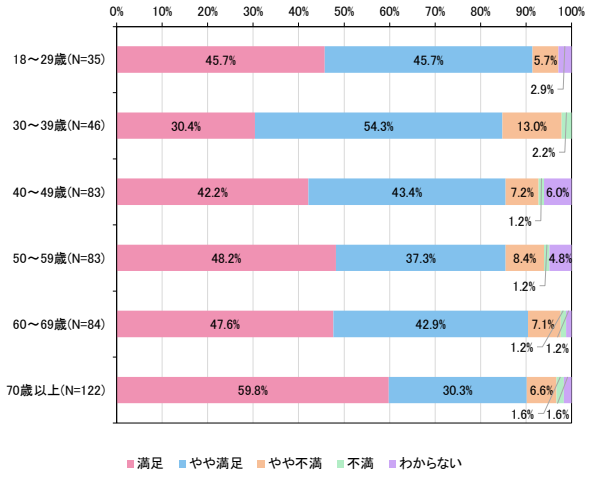
【全体結果】

- ◆ 「重要」と回答した方の割合が最も高い項目は、「土砂災害に対する備え」の 73.9%であり、次いで「大雨・洪水に対する備え」の 73.7%、「いやなにおいなどの悪臭の少なさ」の 71.2%である。
- ◆ 一方、「どちらかというと重要でない」または「重要でない」と回答した方の割合が最も高い項目は、「田園風景の美しさ」及び「太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入」の 14.7%であり、次いで「自然とのふれあいの機会の多さ」の 13.4%、「公園や街路の花や緑」の 11.7%である。
- ◆ 生活環境や気候変動対策（適応）に関する項目は、比較的「重要」と回答した方の割合が高かった。
- ◆ 気候変動対策（緩和）や環境教育に関する項目は、「わからない」と回答した方の割合が約 1 割を占めている。

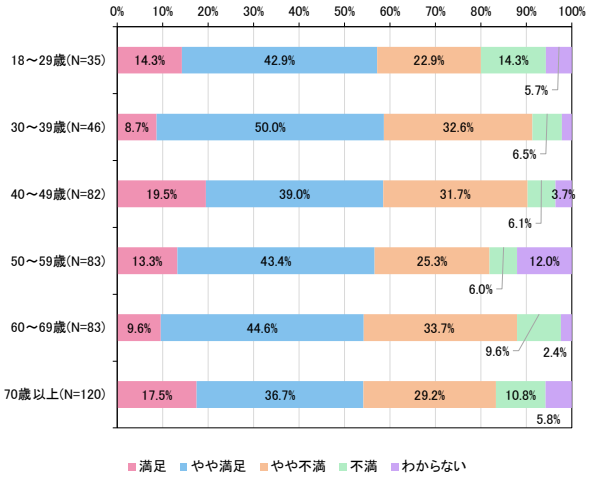
【属性別結果】

問４　満足度〈年齢別〉

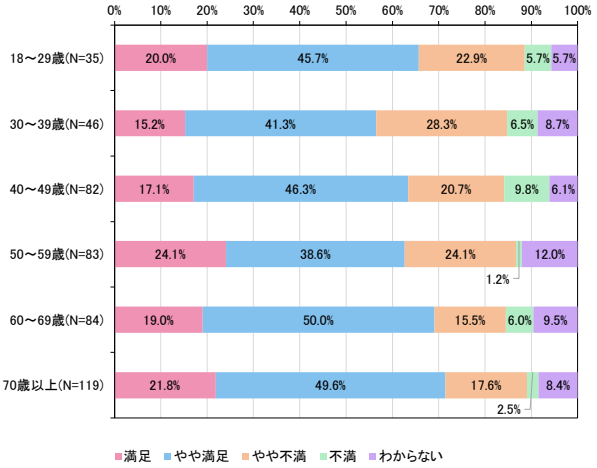
空気のきれいさ



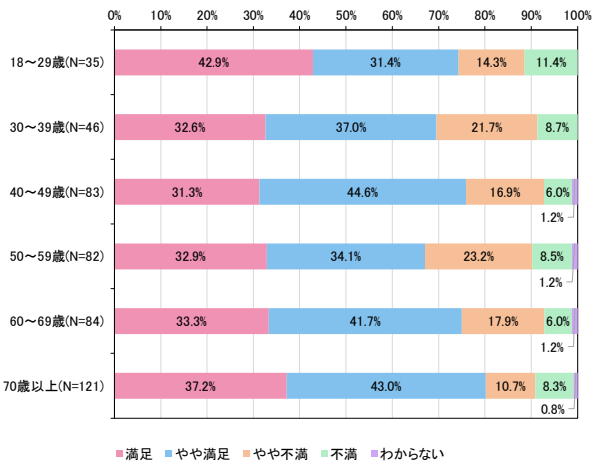
川や池沼の水のきれいさ



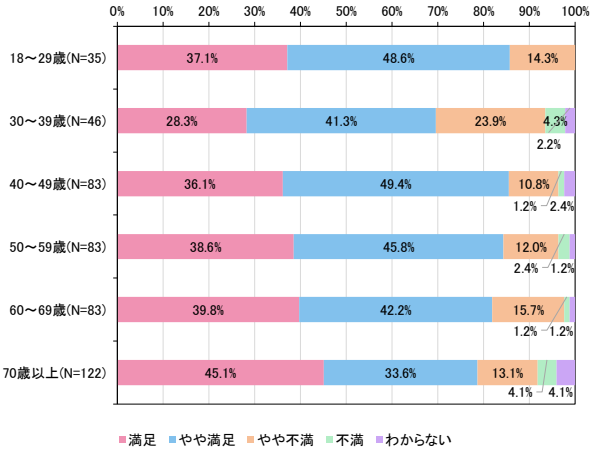
海のきれいさ



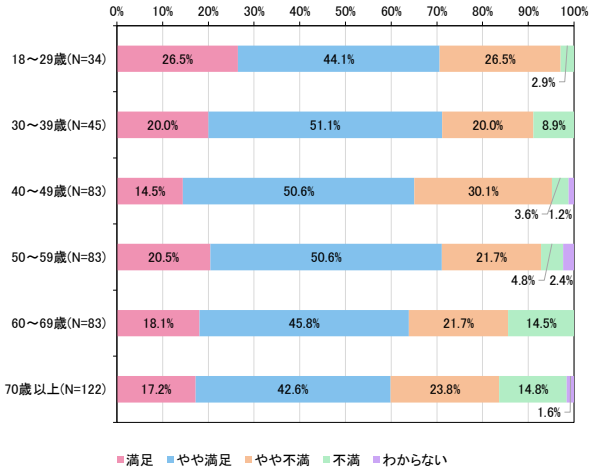
家の周りの静かさ(騒音・振動の少なさ)



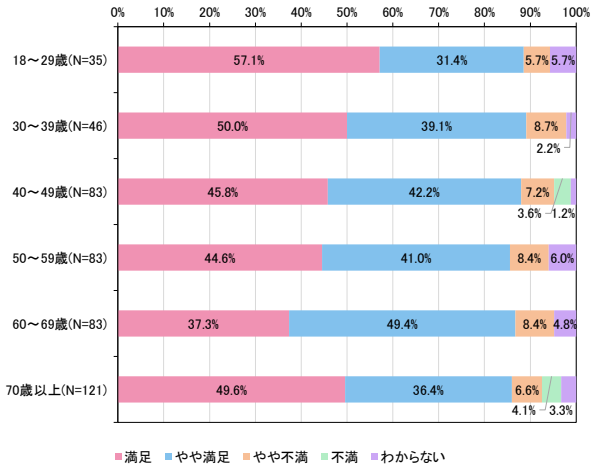
いやなにおいなどの悪臭の少なさ



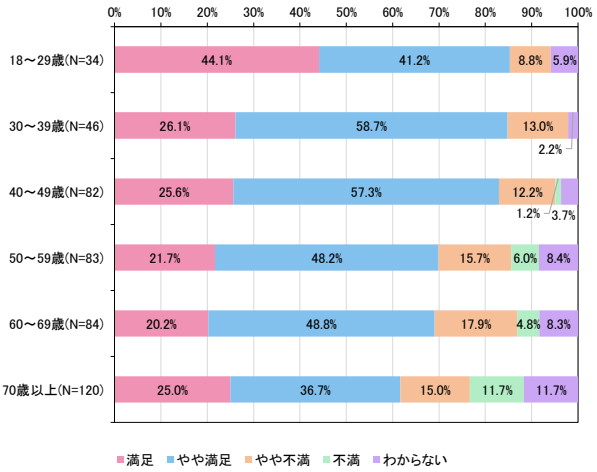
まちの清潔さ(ごみのポイ捨てなどの無さ)



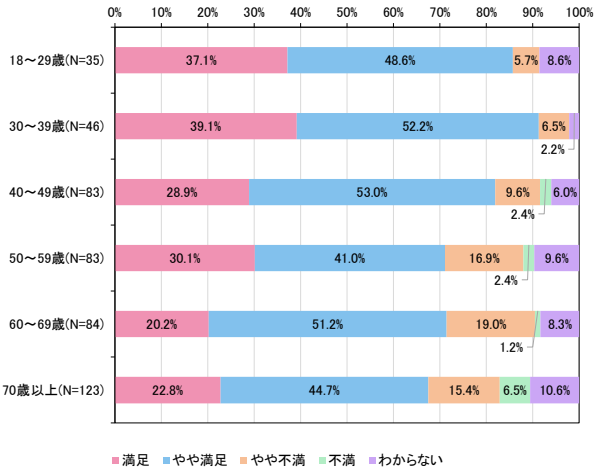
山や森などの緑の豊かさ



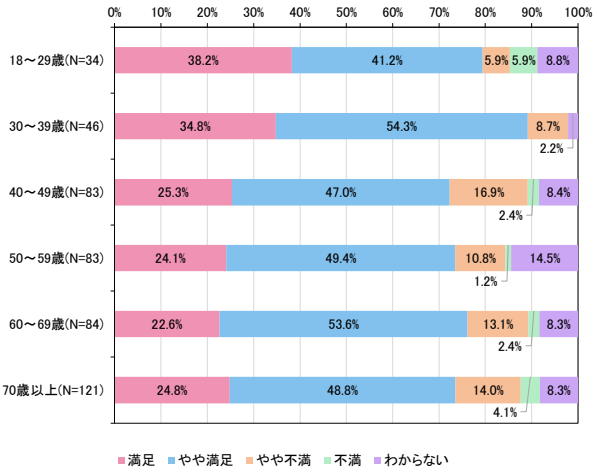
農地としての緑の豊かさ



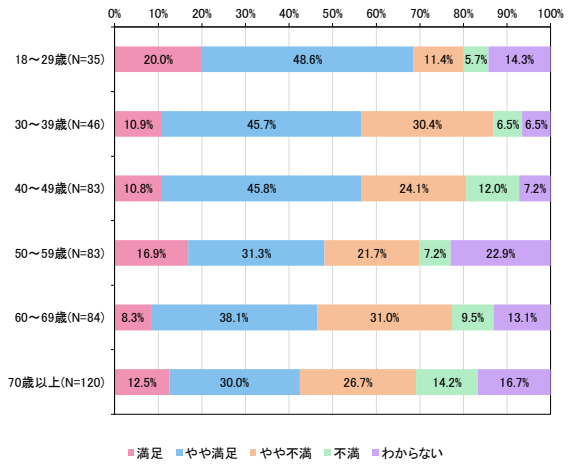
鳥や魚、植物などの身近な生物の豊かさ



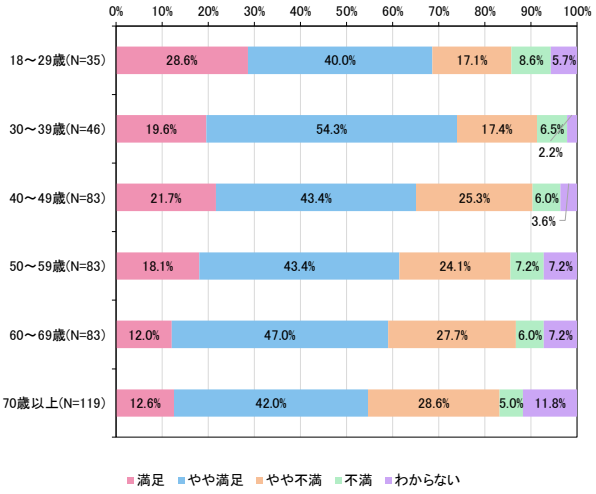
自然とのふれあいの機会の多さ

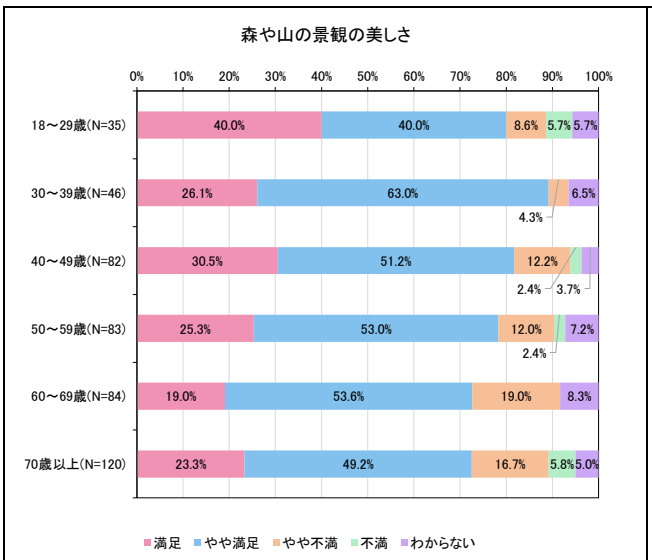


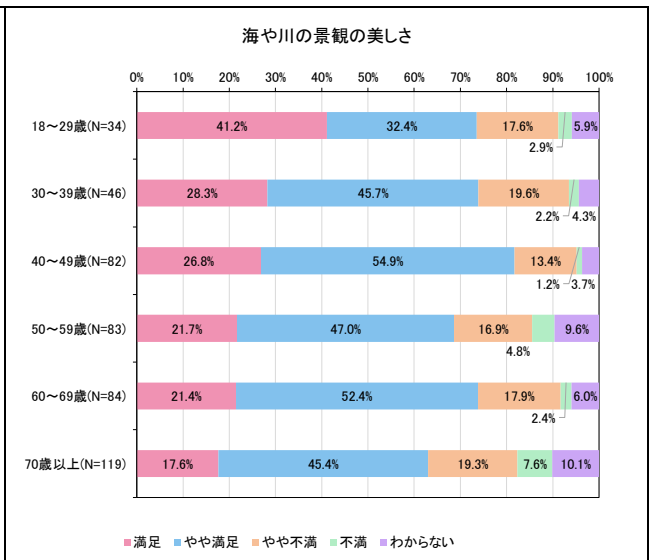
野生鳥獣の生息域と生活圏のバランス

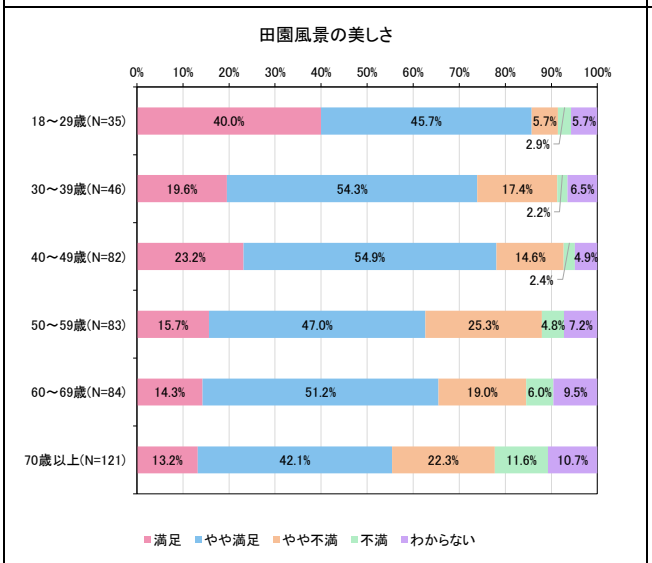


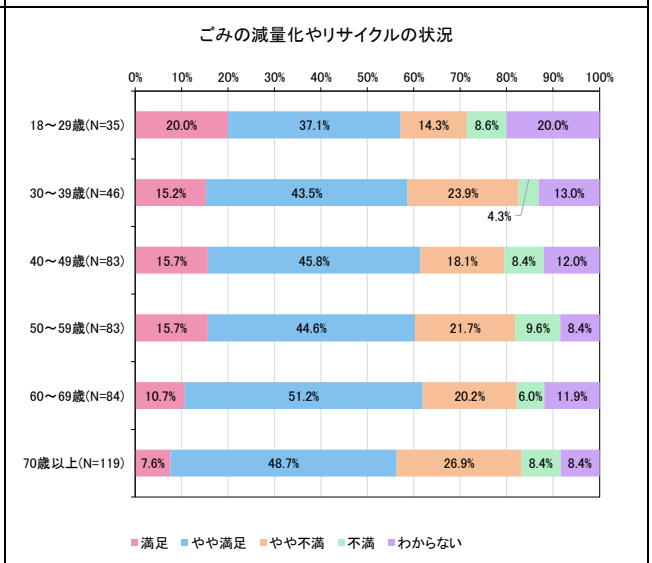
公園や街路の花や緑

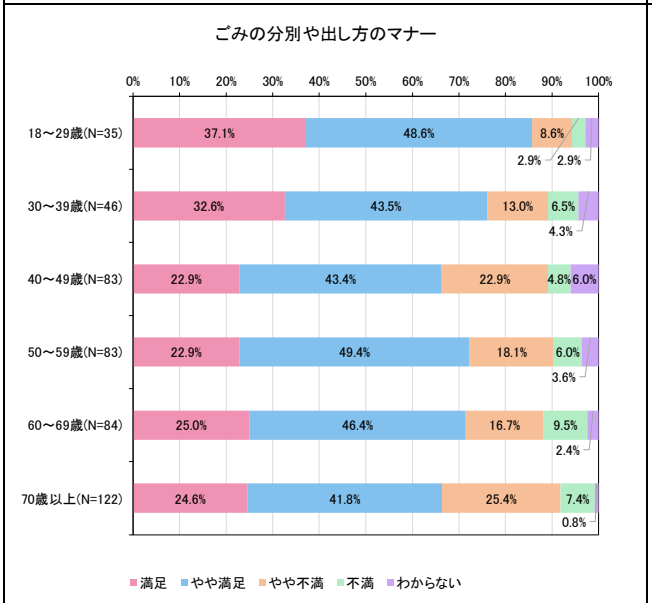


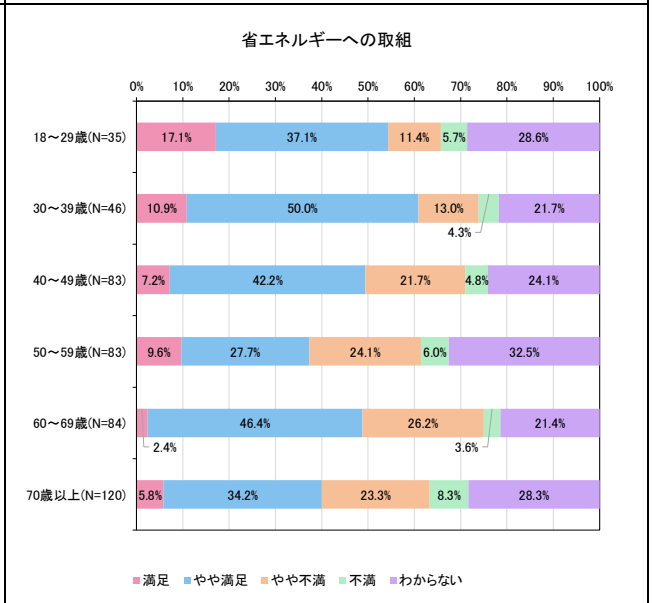

森や山の景観の美しさ
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 40.0% 40.0% 8.6% 5.7% 5.7%
30～39歳(N=46) 26.1% 63.0% 4.3% 6.5%
40～49歳(N=82) 30.5% 51.2% 12.2% 2.4% 3.7%
50～59歳(N=83) 25.3% 53.0% 12.0% 2.4% 7.2%
60～69歳(N=84) 19.0% 53.6% 19.0% 8.3%
70歳以上(N=120) 23.3% 49.2% 16.7% 5.8% 5.0%
満足 やや満足 やや不満 不満 わからない


海や川の景観の美しさ
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=34) 41.2% 32.4% 17.6% 2.9% 5.9%
30～39歳(N=46) 28.3% 45.7% 19.6% 2.2% 4.3%
40～49歳(N=82) 26.8% 54.9% 13.4% 1.2% 3.7%
50～59歳(N=83) 21.7% 47.0% 16.9% 4.8% 9.6%
60～69歳(N=84) 21.4% 52.4% 17.9% 2.4% 6.0%
70歳以上(N=119) 17.6% 45.4% 19.3% 7.6% 10.1%
満足 やや満足 やや不満 不満 わからない

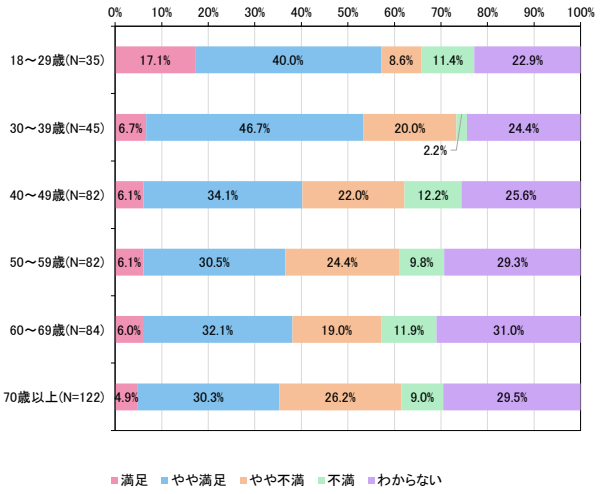

田園風景の美しさ
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 40.0% 45.7% 5.7% 2.9% 5.7%
30～39歳(N=46) 19.6% 54.3% 17.4% 2.2% 6.5%
40～49歳(N=82) 23.2% 54.9% 14.6% 2.4% 4.9%
50～59歳(N=83) 15.7% 47.0% 25.3% 4.8% 7.2%
60～69歳(N=84) 14.3% 51.2% 19.0% 6.0% 9.5%
70歳以上(N=121) 13.2% 42.1% 22.3% 11.6% 10.7%
満足 やや満足 やや不満 不満 わからない


ごみの減量化やリサイクルの状況
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 20.0% 37.1% 14.3% 8.6% 20.0%
30～39歳(N=46) 15.2% 43.5% 23.9% 4.3% 13.0%
40～49歳(N=83) 15.7% 45.8% 18.1% 8.4% 12.0%
50～59歳(N=83) 15.7% 44.6% 21.7% 9.6% 8.4%
60～69歳(N=84) 10.7% 51.2% 20.2% 6.0% 11.9%
70歳以上(N=119) 7.6% 48.7% 26.9% 8.4% 8.4%
満足 やや満足 やや不満 不満 わからない

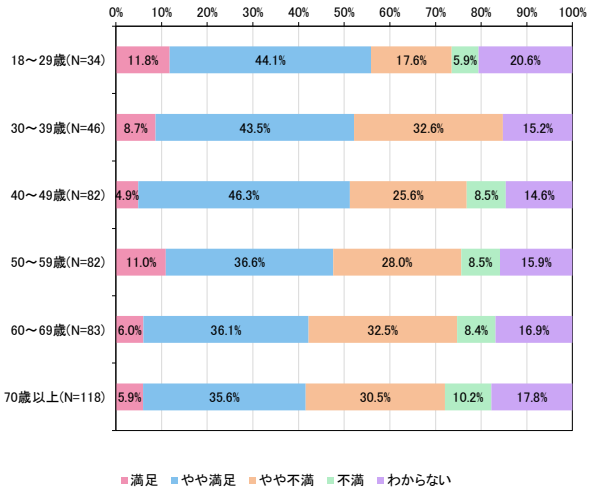

ごみの分別や出し方のマナー
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 37.1% 48.6% 8.6% 2.9% 2.9%
30～39歳(N=46) 32.6% 43.5% 13.0% 6.5% 4.3%
40～49歳(N=83) 22.9% 43.4% 22.9% 4.8% 6.0%
50～59歳(N=83) 22.9% 49.4% 18.1% 6.0% 3.6%
60～69歳(N=84) 25.0% 46.4% 16.7% 9.5% 2.4%
70歳以上(N=122) 24.6% 41.8% 25.4% 7.4% 0.8%
満足 やや満足 やや不満 不満 わからない


省エネルギーへの取組
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 17.1% 37.1% 11.4% 5.7% 28.6%
30～39歳(N=46) 10.9% 50.0% 13.0% 4.3% 21.7%
40～49歳(N=83) 7.2% 42.2% 21.7% 4.8% 24.1%
50～59歳(N=83) 9.6% 27.7% 24.1% 6.0% 32.5%
60～69歳(N=84) 2.4% 46.4% 26.2% 3.6% 21.4%
70歳以上(N=120) 5.8% 34.2% 23.3% 8.3% 28.3%
満足 やや満足 やや不満 不満 わからない

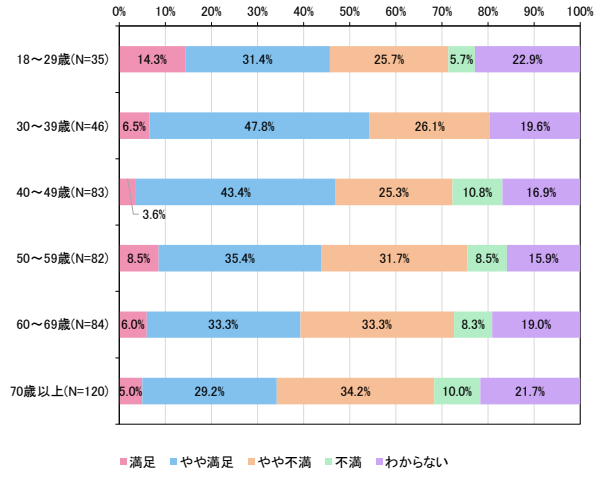
太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入



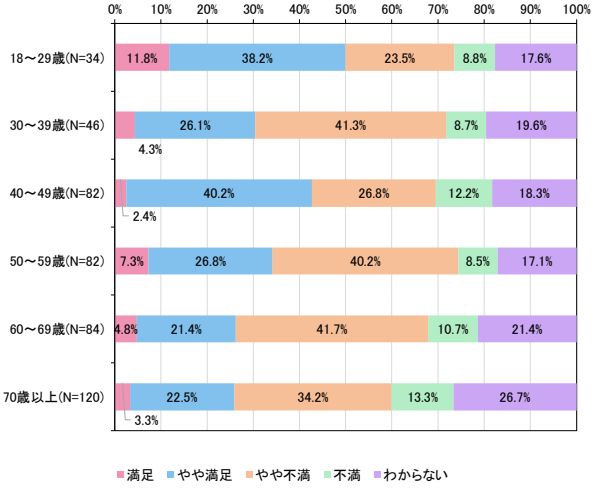
大雨・洪水に対する備え



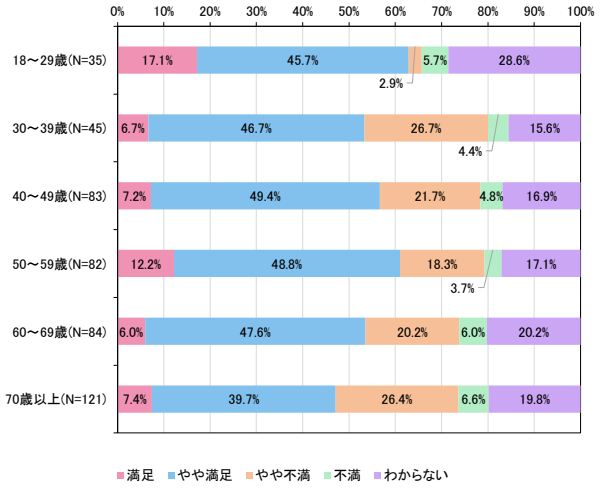
土砂災害に対する備え



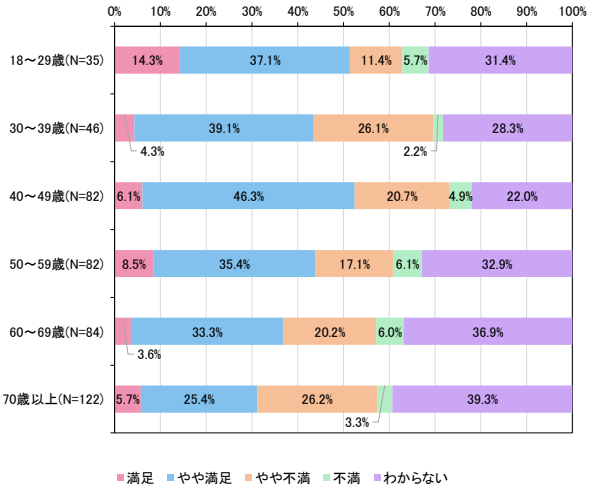
猛暑に対する備え

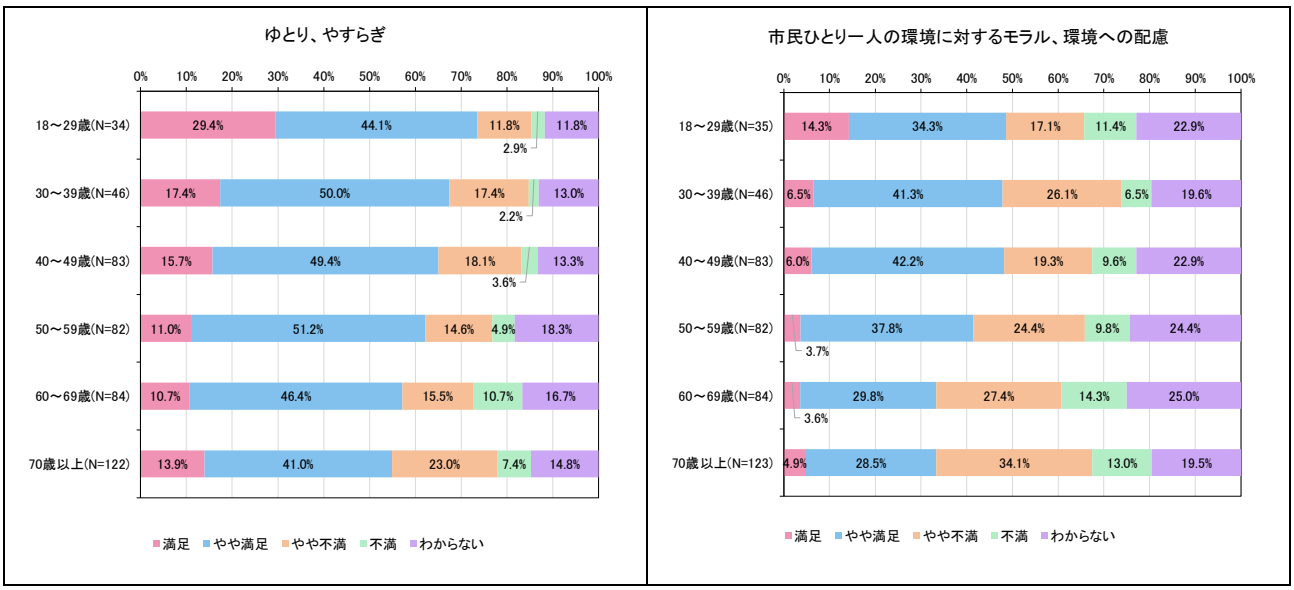


地産地消（地場農産物の消費）の状況



環境教育・環境学習に関する取組

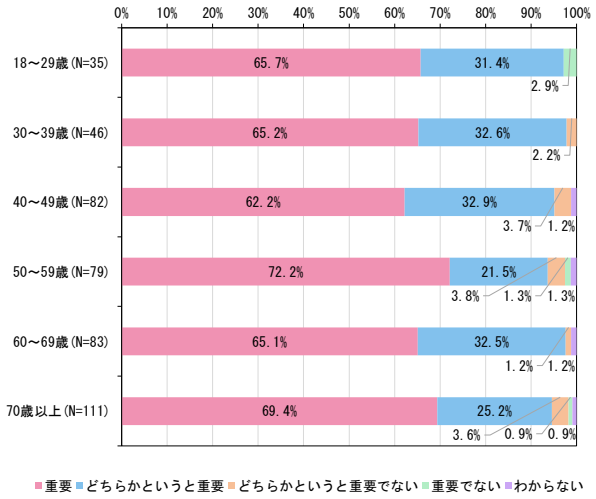




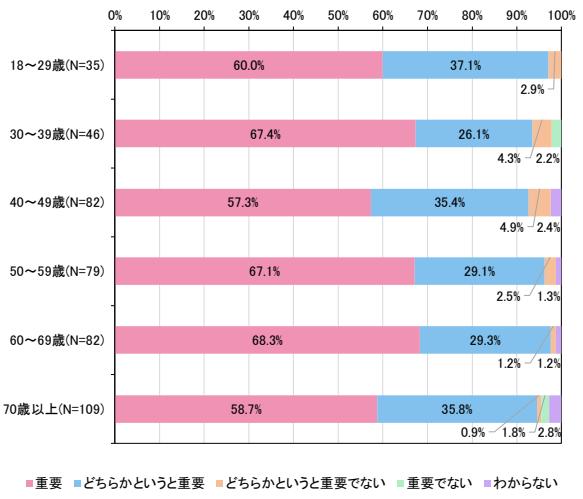
◆ 年代別の満足度について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。ただし、「農地としての緑の豊かさ」、「鳥や魚、植物などの身近な生物の豊かさ」、「田園風景の美しさ」、「太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入」の項目については、若い年代の方が高齢者と比較して「満足」または「やや満足」と回答した方の割合が高い傾向が見られる。

問４　重要度〈年齢別〉

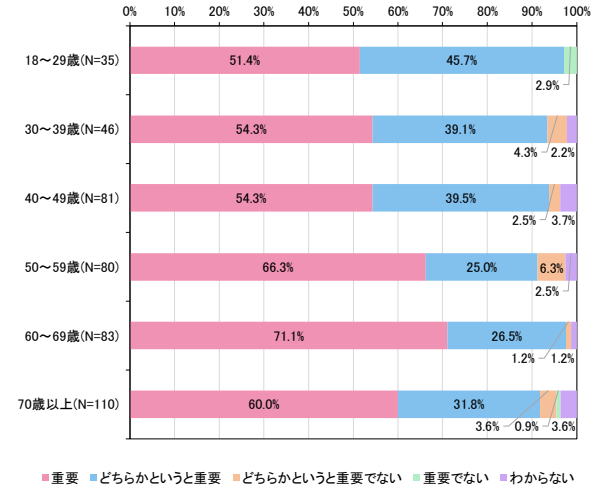
空気のきれいさ



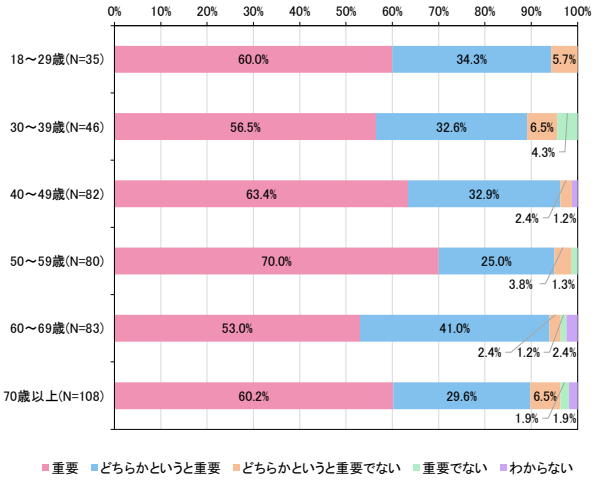
川や池沼の水のきれいさ



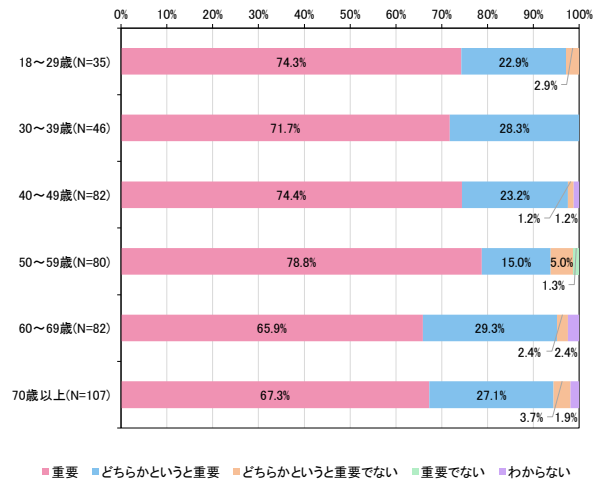
海のきれいさ



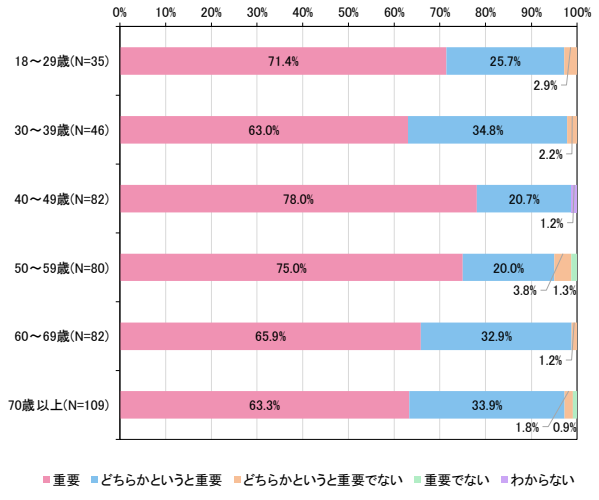
家の周りの静かさ(騒音・振動の少なさ)



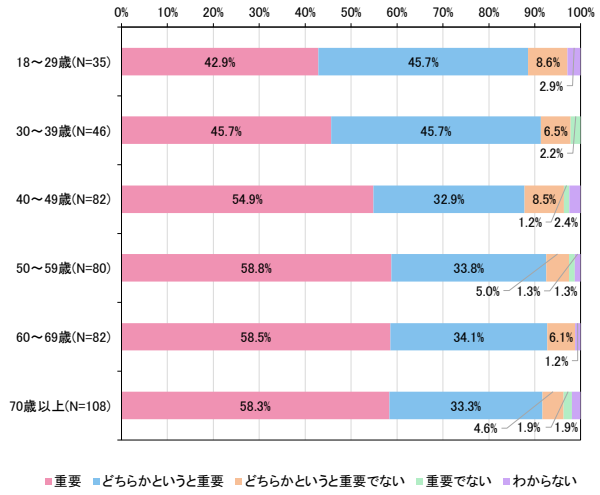
いやなにおいなどの悪臭の少なさ



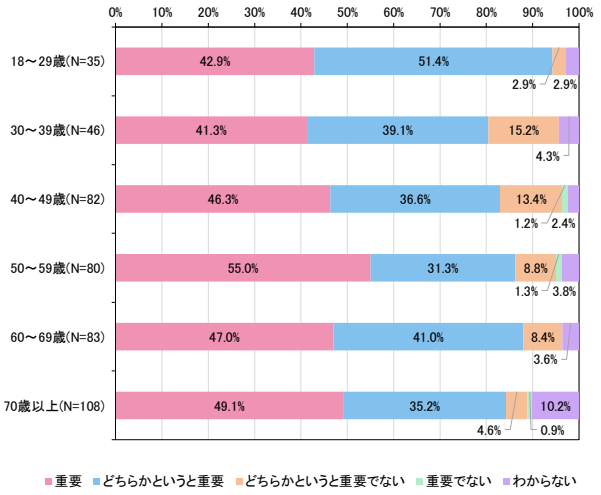
まちの清潔さ(ごみのポイ捨てなどの無さ)



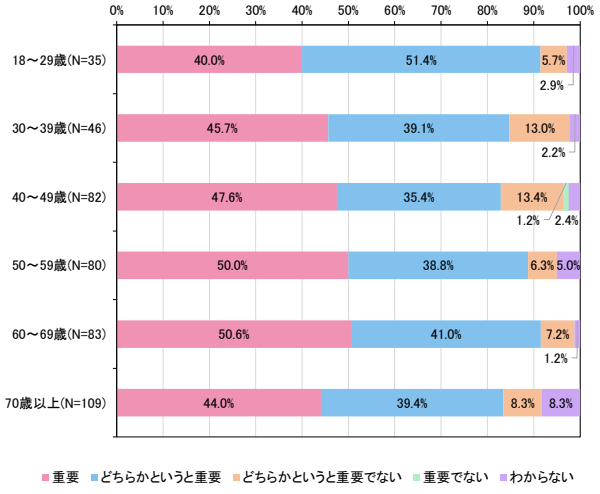
山や森などの緑の豊かさ



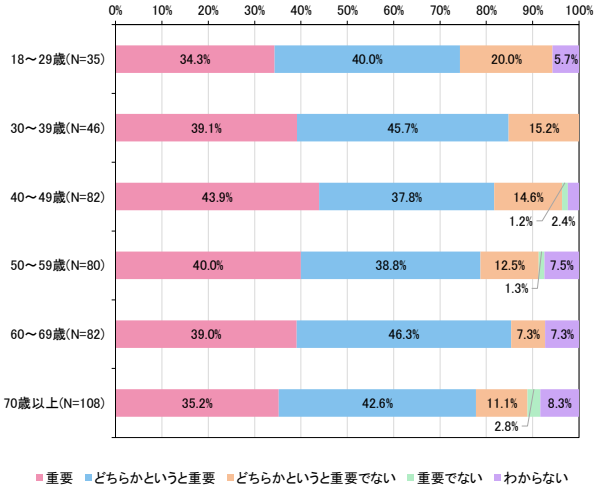
農地としての緑の豊かさ



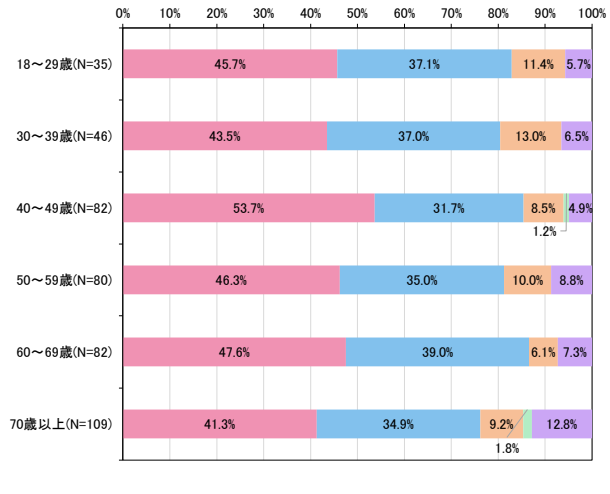
鳥や魚、植物などの身近な生物の豊かさ



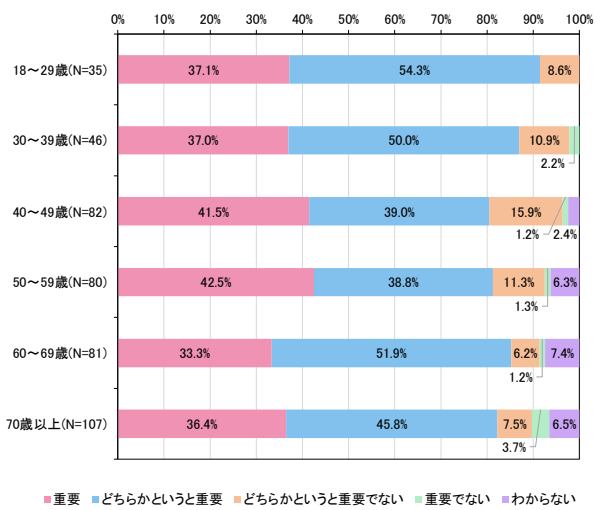
自然とのふれあいの機会の多さ



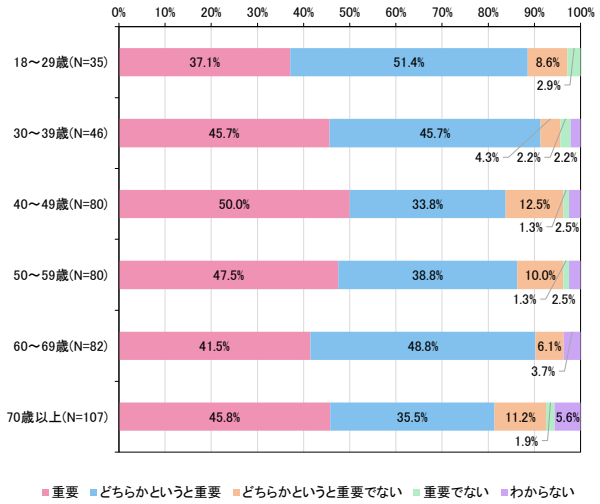
野生鳥獣の生息域と生活圏のバランス



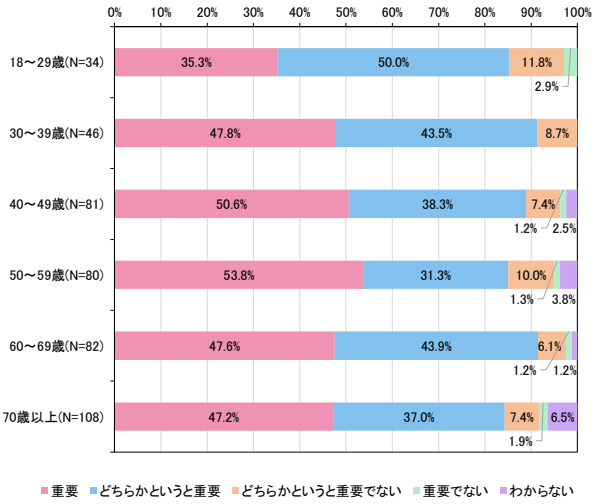
公園や街路の花や緑



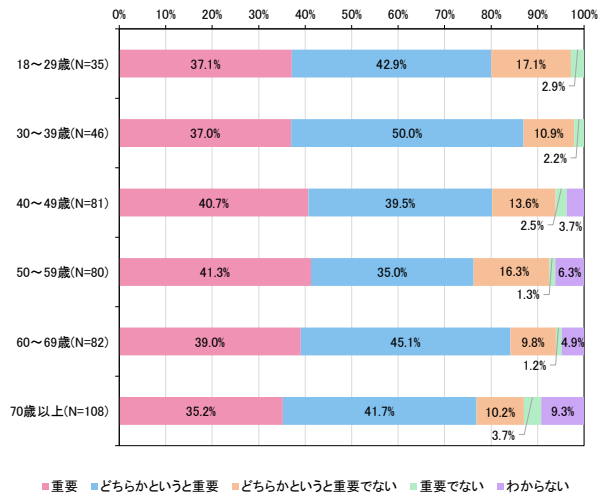
森や山の景観の美しさ



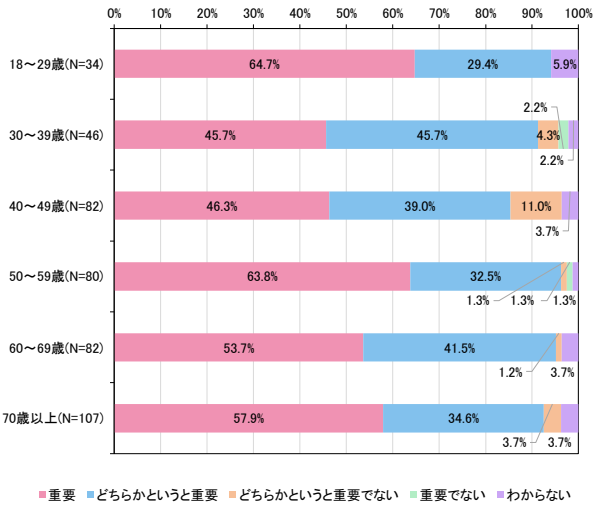
海や川の景観の美しさ



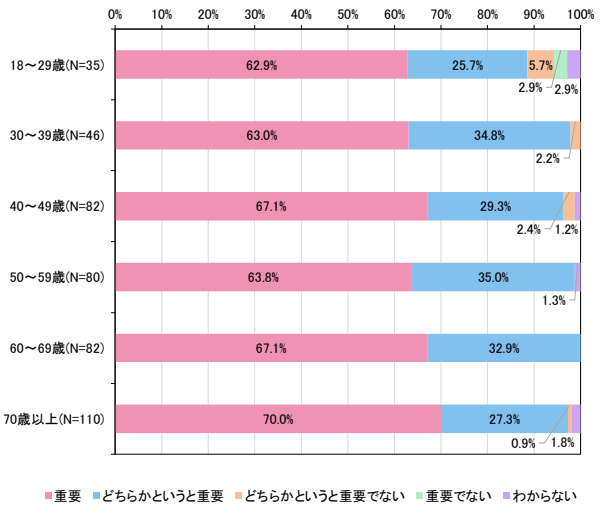
田園風景の美しさ



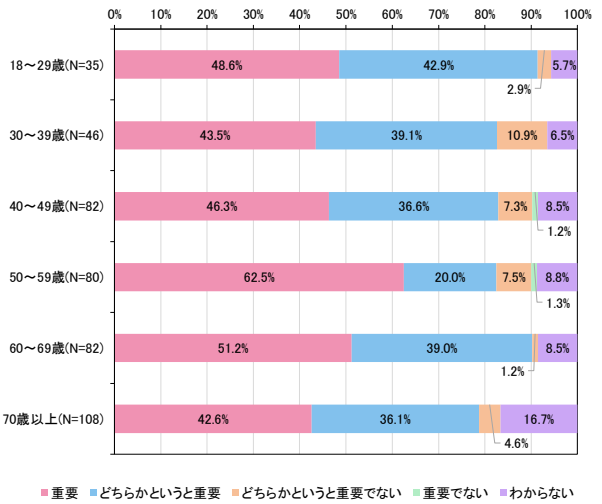
ごみの減量化やリサイクルの状況



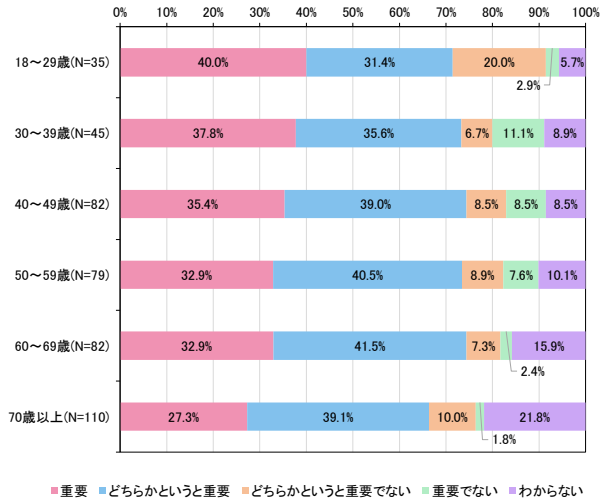
ごみの分別や出し方のマナー



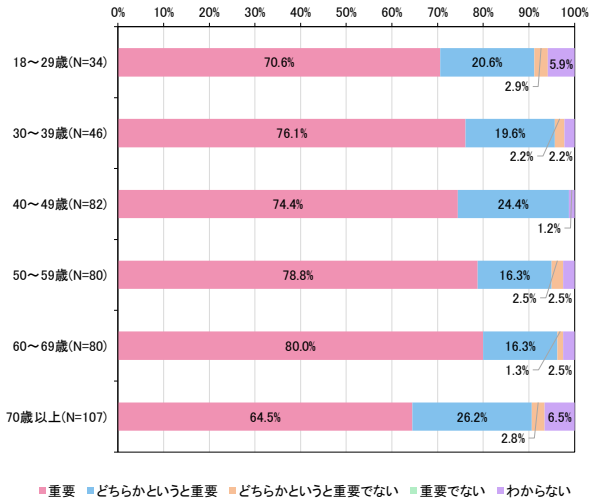
省エネルギーへの取組



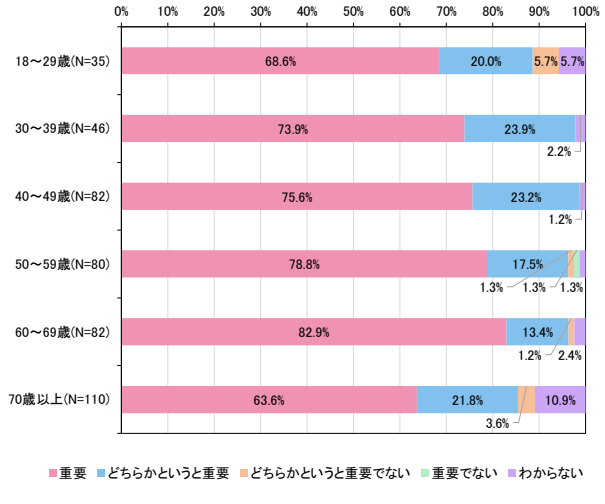
太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入



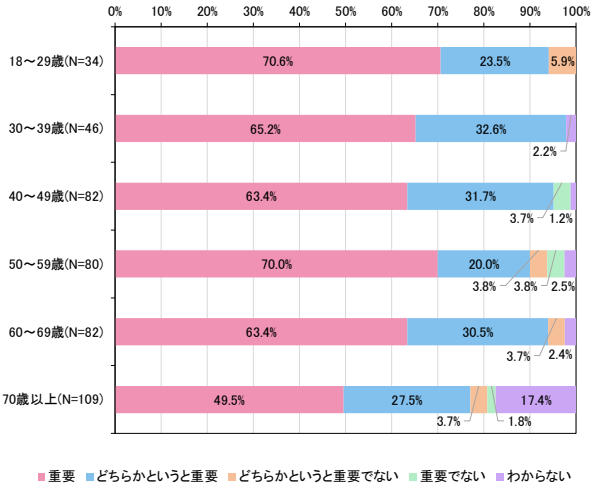
大雨・洪水に対する備え



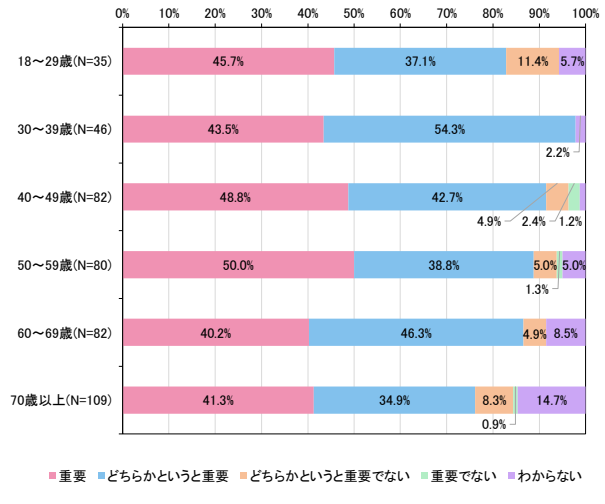
土砂災害に対する備え



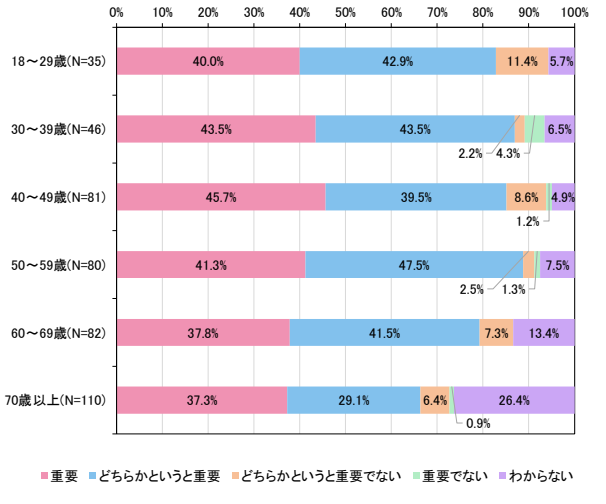
猛暑に対する備え

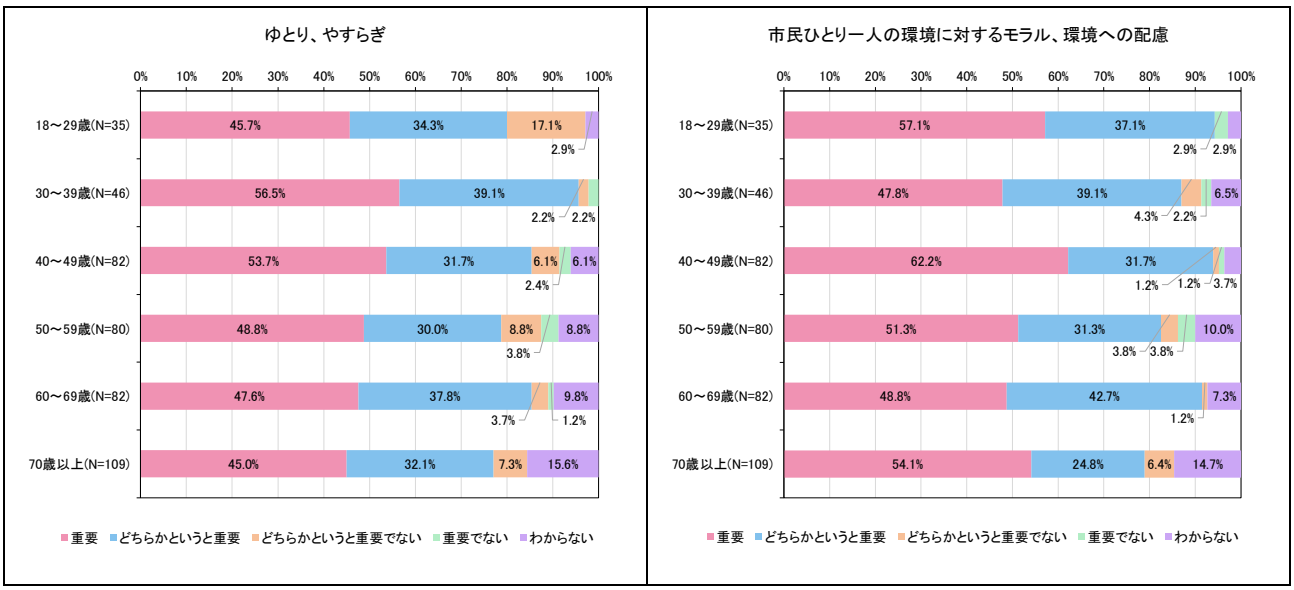


地産地消（地場農産物の消費）の状況



環境教育・環境学習に関する取組

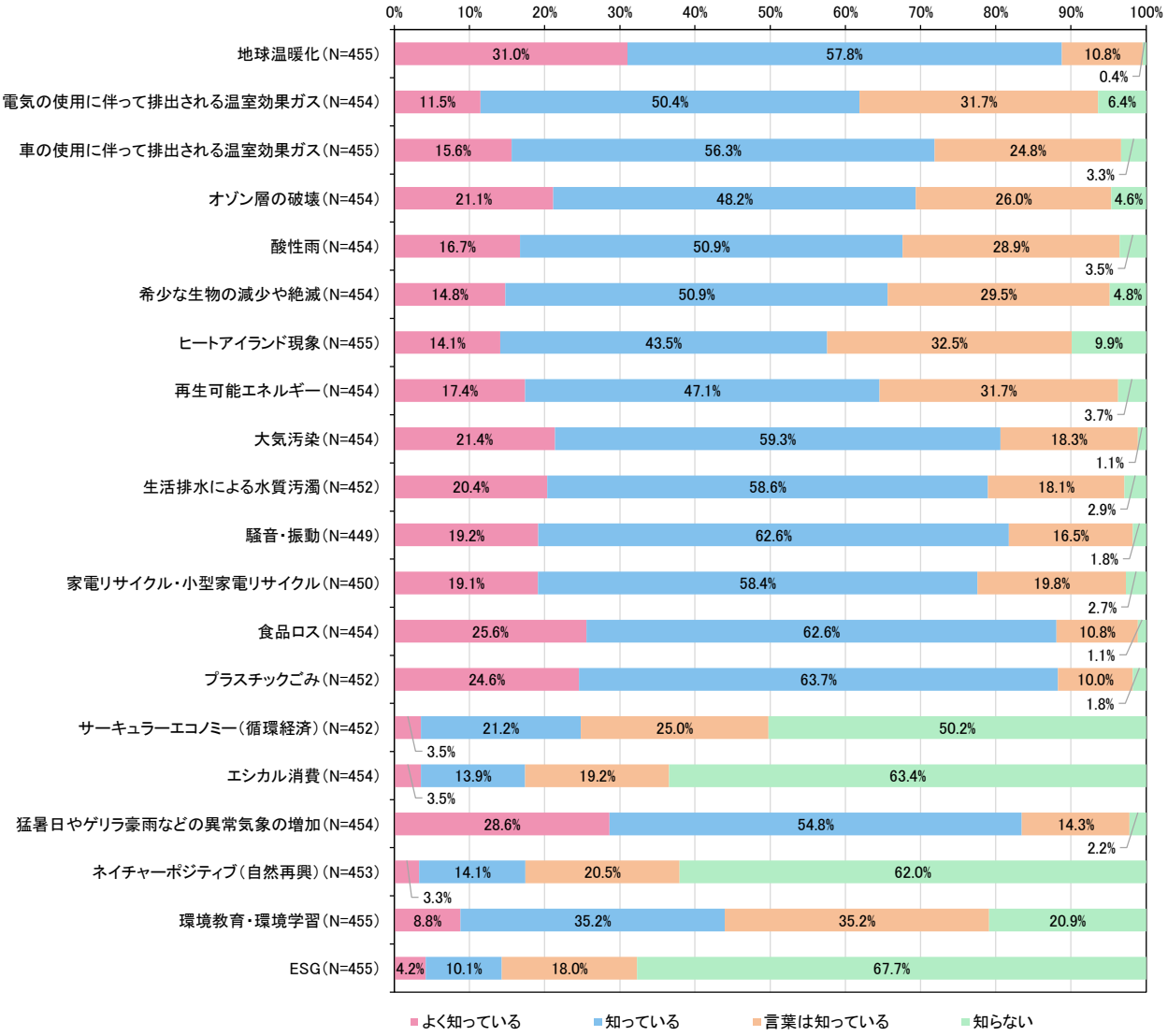




◆ 年代別の重要度について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。ただし、「山や森などの緑の豊かさ」は、年代が高くなるにつれ「重要」と回答した方の割合が高くなる傾向が見られる。一方、「太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入」は年代が低くなるにつれ「重要」と回答した方の割合が高くなる傾向が見られる。

問５　あなたは環境に関する次の項目について、どの程度、知っていますか。また、興味があるものはどれですか。
項目ごとにあてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。

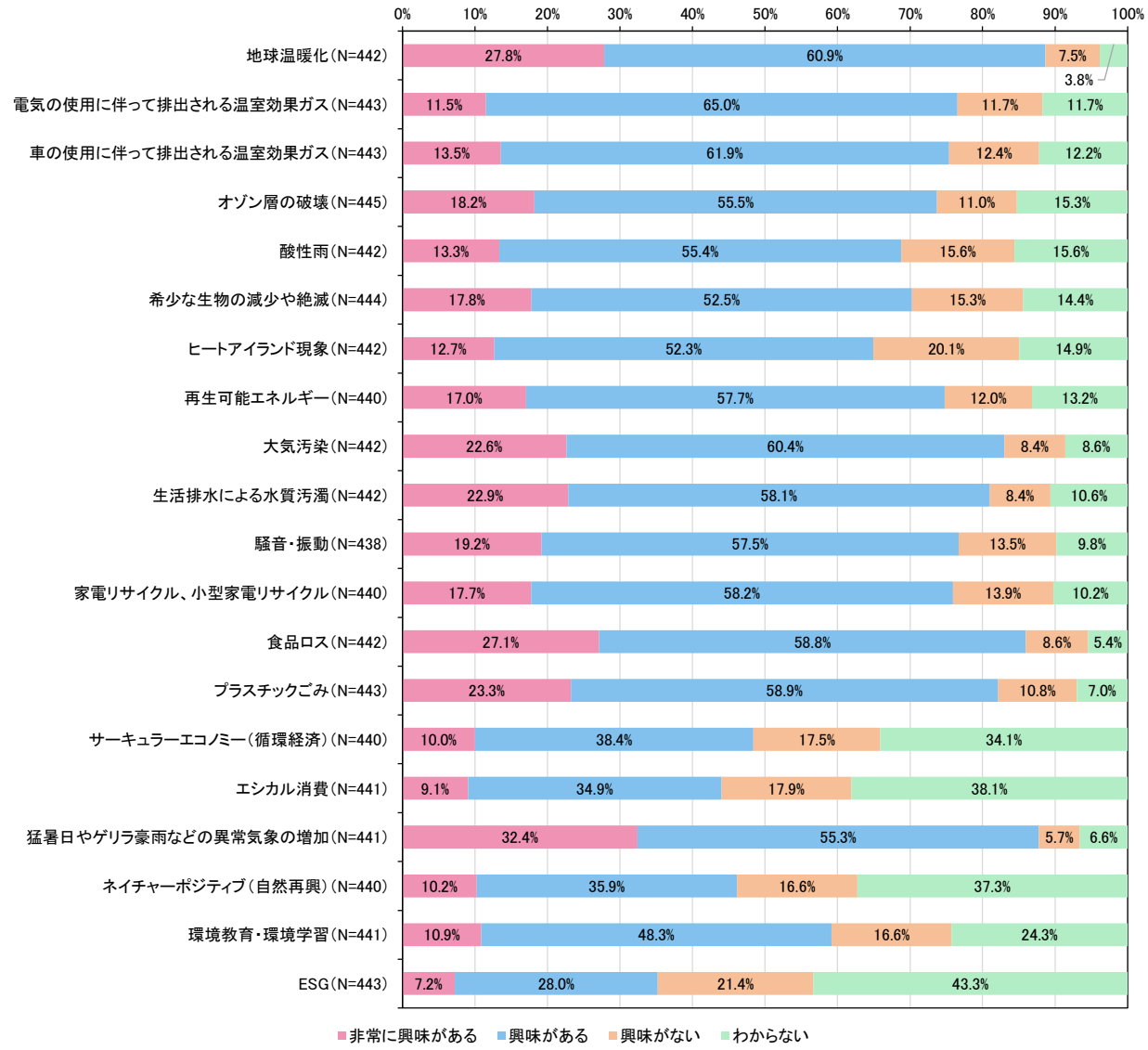
〈環境に対する認知度〉



【全体結果】

- ◆　「ヒートアイランド現象」、「サーキュラーエコノミー」、「エシカル消費」、「ネイチャーポジティブ」、「環境教育・環境学習」、「ESG」を除いたすべての項目について、「よく知っている」または「知っている」と回答した方の割合が６割以上を占めている。
- ◆　「地球温暖化」、「食品ロス」、「プラスチックごみ」は、約９割の方が「よく知っている」または「知っている」と回答している。
- ◆　一方、「サーキュラーエコノミー」、「エシカル消費」、「ネイチャーポジティブ」、「ESG」は、「知らない」と回答した方の割合が５割以上を占めている。

〈環境に対する関心度〉



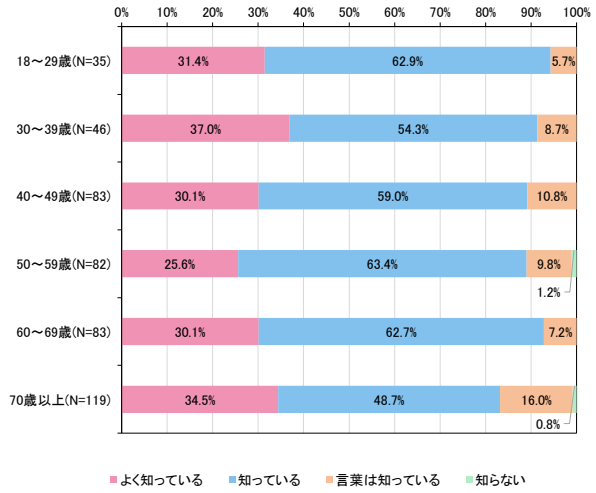
【全体結果】

- 「非常に興味がある」と回答した方の割合が最も高い項目は、「猛暑日やゲリラ豪雨などの異常気象の増加」の 32.4%であり、次いで「地球温暖化」の 27.8%、「食品ロス」の 27.1%である。
- 「サーキュラーエコノミー」、「エシカル消費」、「ネイチャーポジティブ」、「環境教育・環境学習」、「ESG」を除いたすべての項目について、「非常に興味がある」または「興味がある」と回答した方の割合が６割以上を占めている。
- 一方、「サーキュラーエコノミー」、「エシカル消費」、「ネイチャーポジティブ」、「ESG」については、「わからない」と回答した方の割合が３割以上を占めており、そもそもの認知度が低い状況である。

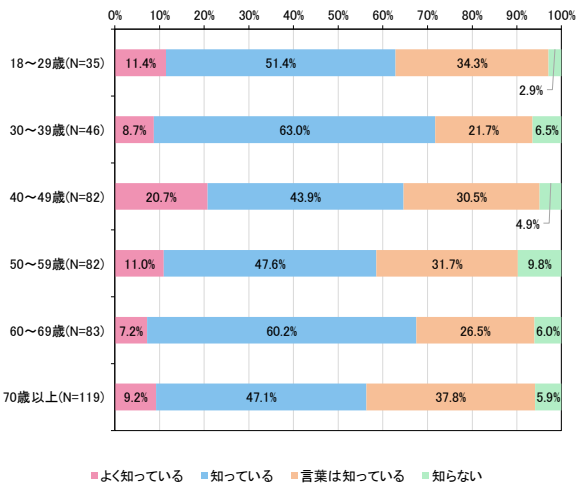
【属性別結果】

問５－１　環境に対する認知度〈年齢別〉

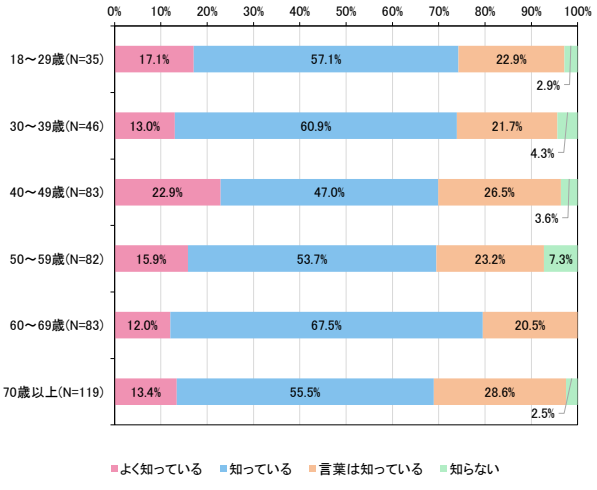
地球温暖化



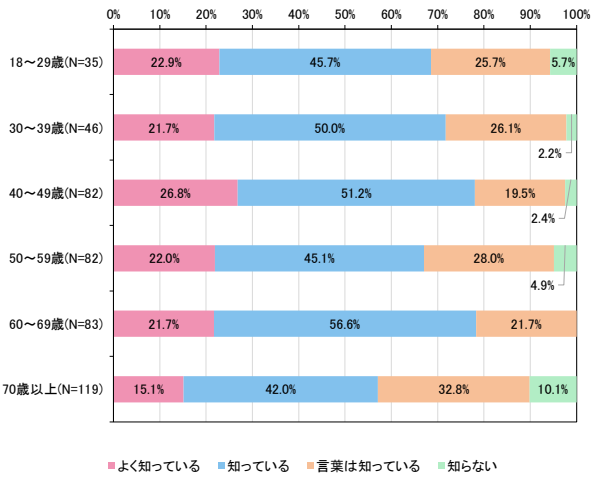
電気の使用に伴って排出される温室効果ガス



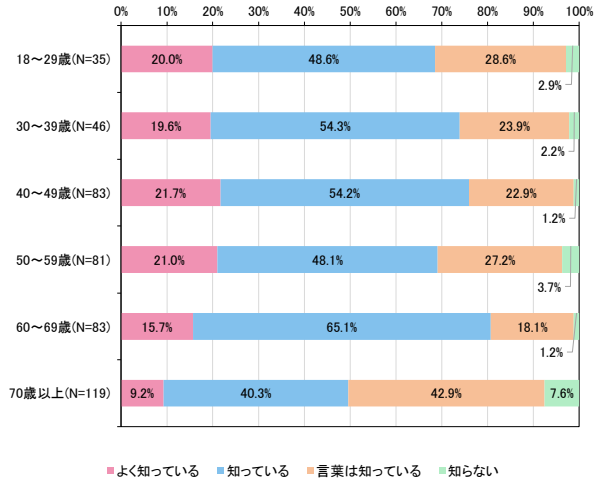
車の使用に伴って排出される温室効果ガス



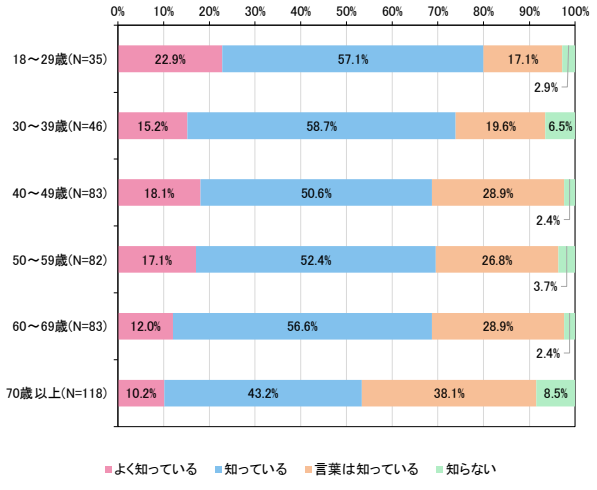
オゾン層の破壊

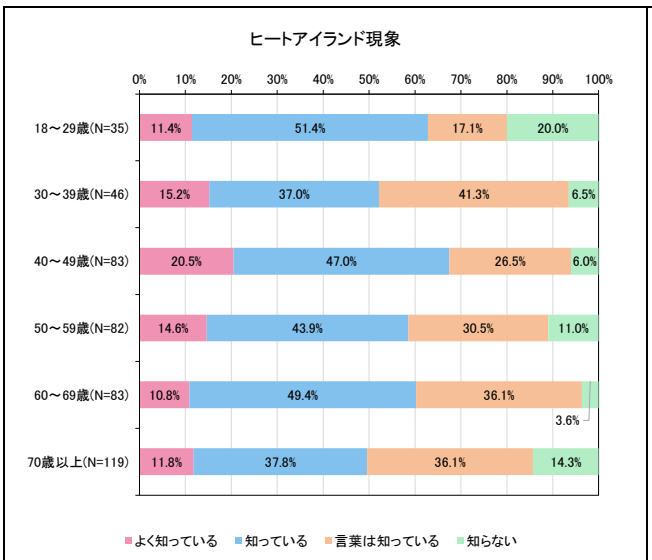


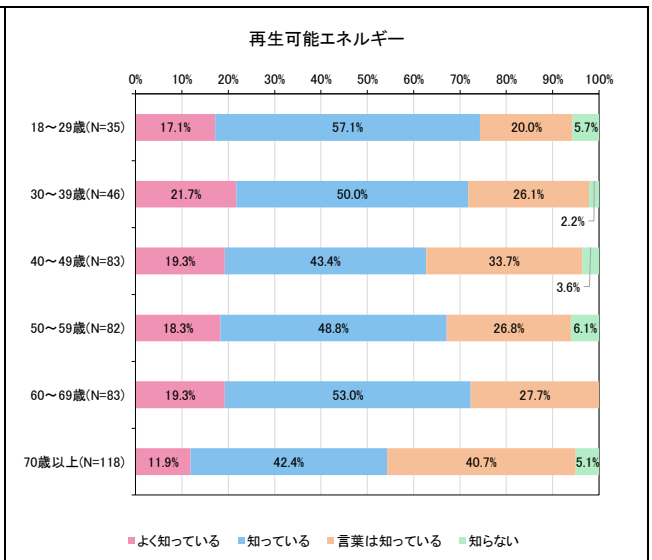
酸性雨

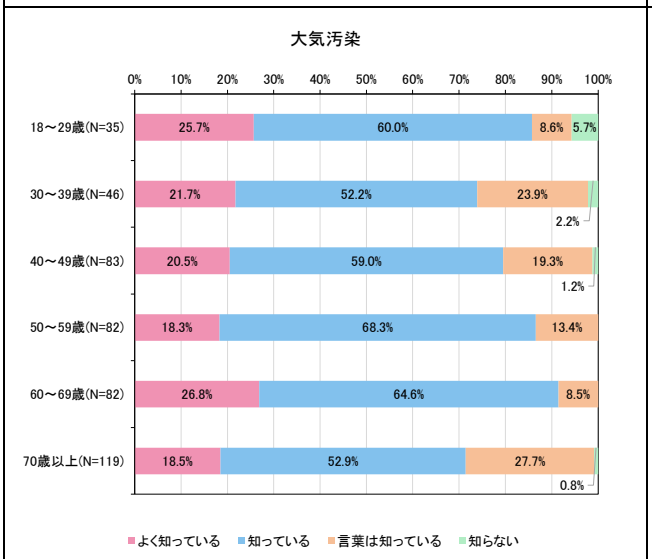


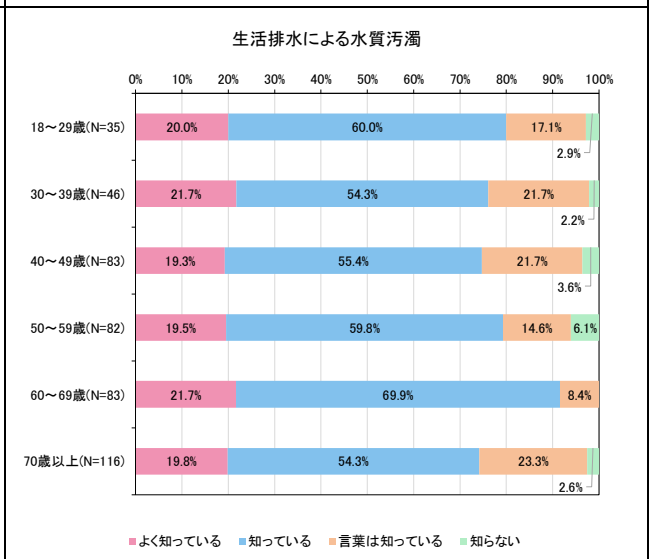
希少な生物の減少や絶滅

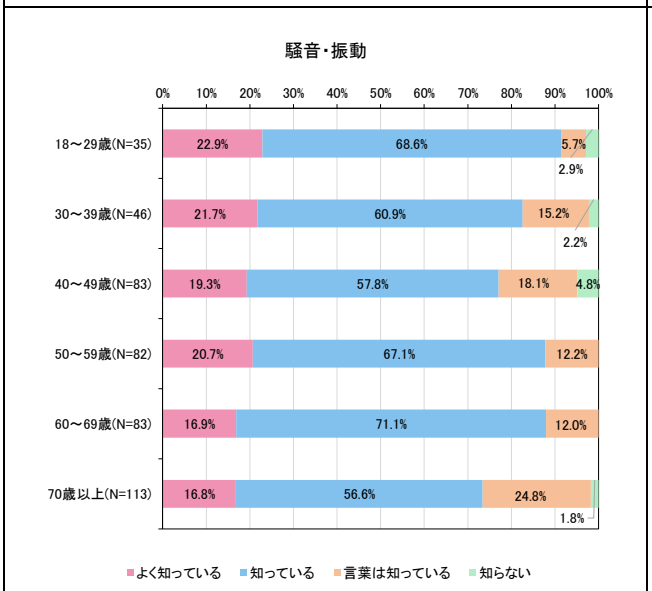


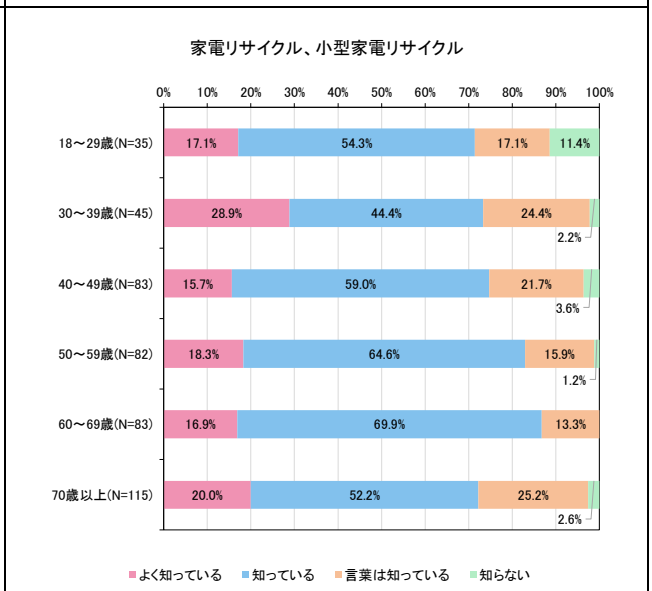

ヒートアイランド現象
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 11.4% 51.4% 17.1% 20.0%
30～39歳(N=46) 15.2% 37.0% 41.3% 6.5%
40～49歳(N=83) 20.5% 47.0% 26.5% 6.0%
50～59歳(N=82) 14.6% 43.9% 30.5% 11.0%
60～69歳(N=83) 10.8% 49.4% 36.1% 3.6%
70歳以上(N=119) 11.8% 37.8% 36.1% 14.3%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない

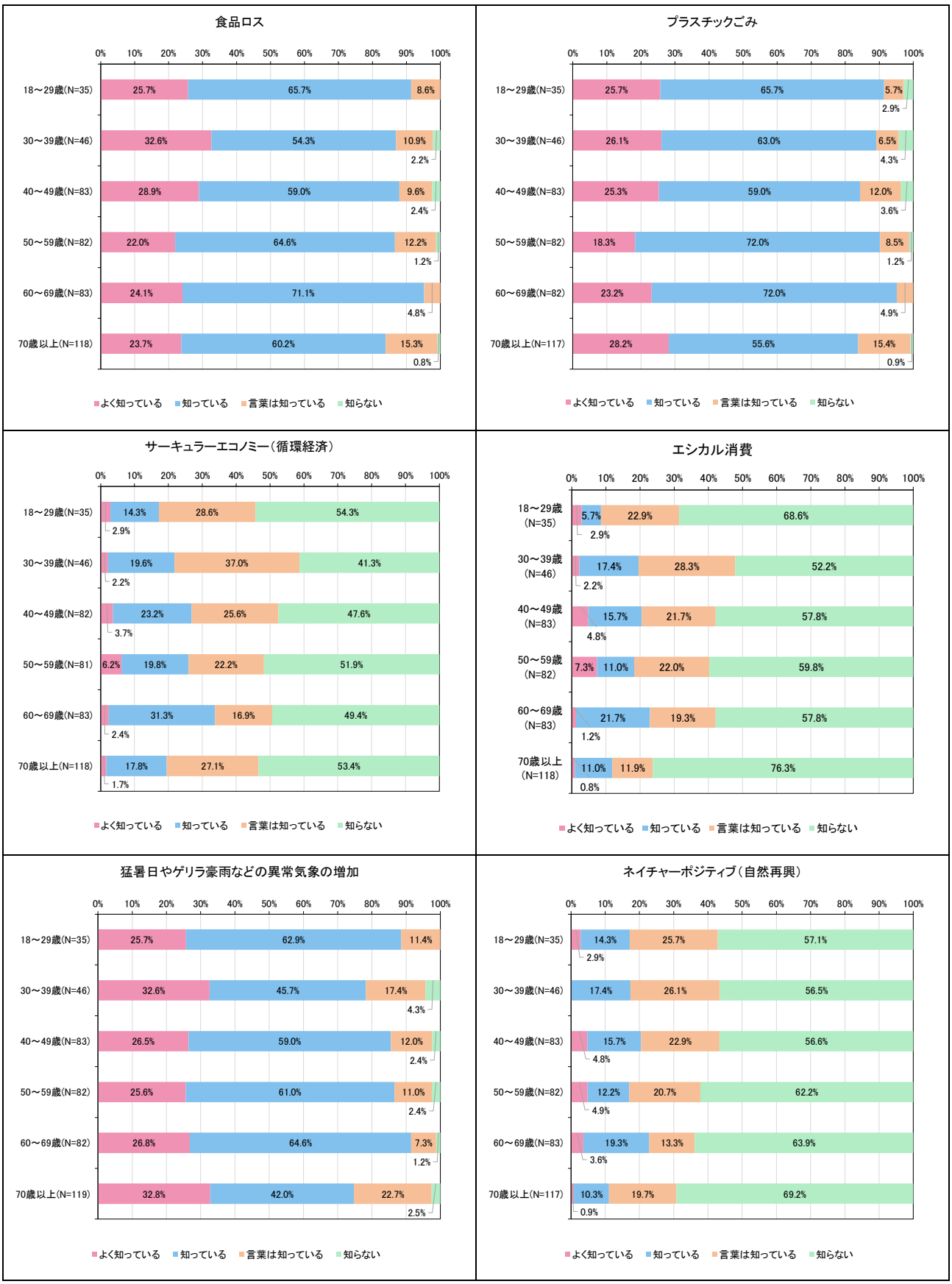

再生可能エネルギー
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 17.1% 57.1% 20.0% 5.7%
30～39歳(N=46) 21.7% 50.0% 26.1% 2.2%
40～49歳(N=83) 19.3% 43.4% 33.7% 3.6%
50～59歳(N=82) 18.3% 48.8% 26.8% 6.1%
60～69歳(N=83) 19.3% 53.0% 27.7%
70歳以上(N=118) 11.9% 42.4% 40.7% 5.1%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない

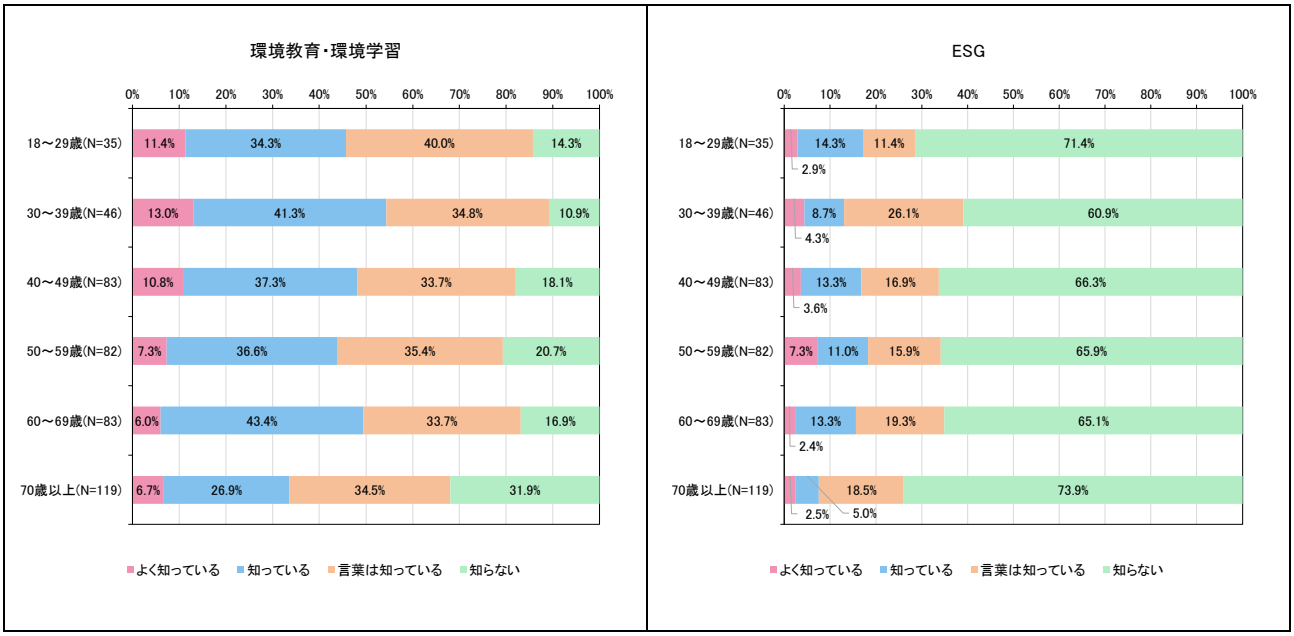

大気汚染
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 25.7% 60.0% 8.6% 5.7%
30～39歳(N=46) 21.7% 52.2% 23.9% 2.2%
40～49歳(N=83) 20.5% 59.0% 19.3% 1.2%
50～59歳(N=82) 18.3% 68.3% 13.4%
60～69歳(N=82) 26.8% 64.6% 8.5%
70歳以上(N=119) 18.5% 52.9% 27.7% 0.8%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない


生活排水による水質汚濁
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 20.0% 60.0% 17.1% 2.9%
30～39歳(N=46) 21.7% 54.3% 21.7% 2.2%
40～49歳(N=83) 19.3% 55.4% 21.7% 3.6%
50～59歳(N=82) 19.5% 59.8% 14.6% 6.1%
60～69歳(N=83) 21.7% 69.9% 8.4%
70歳以上(N=116) 19.8% 54.3% 23.3% 2.6%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない


騒音・振動
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 22.9% 68.6% 5.7% 2.9%
30～39歳(N=46) 21.7% 60.9% 15.2% 2.2%
40～49歳(N=83) 19.3% 57.8% 18.1% 4.8%
50～59歳(N=82) 20.7% 67.1% 12.2%
60～69歳(N=83) 16.9% 71.1% 12.0%
70歳以上(N=113) 16.8% 56.6% 24.8% 1.8%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない


家電リサイクル、小型家電リサイクル
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 17.1% 54.3% 17.1% 11.4%
30～39歳(N=45) 28.9% 44.4% 24.4% 2.2%
40～49歳(N=83) 15.7% 59.0% 21.7% 3.6%
50～59歳(N=82) 18.3% 64.6% 15.9% 1.2%
60～69歳(N=83) 16.9% 69.9% 13.3%
70歳以上(N=115) 20.0% 52.2% 25.2% 2.6%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない

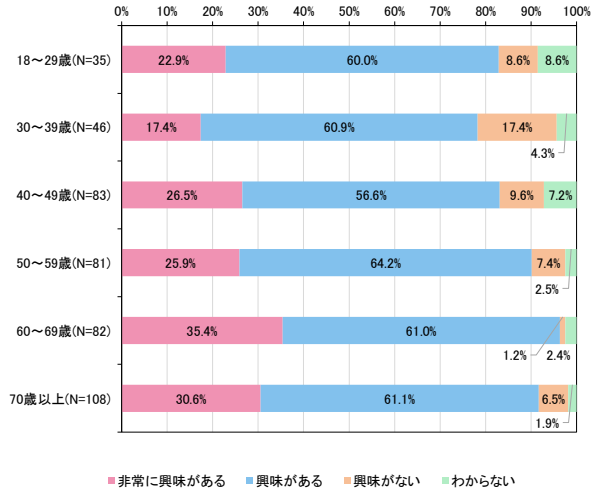

食品ロス
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 25.7% 65.7% 8.6%
30～39歳(N=46) 32.6% 54.3% 10.9% 2.2%
40～49歳(N=83) 28.9% 59.0% 9.6% 2.4%
50～59歳(N=82) 22.0% 64.6% 12.2% 1.2%
60～69歳(N=83) 24.1% 71.1% 4.8%
70歳以上(N=118) 23.7% 60.2% 15.3% 0.8%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない
プラスチックごみ
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 25.7% 65.7% 5.7% 2.9%
30～39歳(N=46) 26.1% 63.0% 6.5% 4.3%
40～49歳(N=83) 25.3% 59.0% 12.0% 3.6%
50～59歳(N=82) 18.3% 72.0% 8.5% 1.2%
60～69歳(N=82) 23.2% 72.0% 4.9%
70歳以上(N=117) 28.2% 55.6% 15.4% 0.9%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない
サーキュラーエコノミー（循環経済）
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 14.3% 28.6% 54.3% 2.9%
30～39歳(N=46) 19.6% 37.0% 41.3% 2.2%
40～49歳(N=82) 23.2% 25.6% 47.6% 3.7%
50～59歳(N=81) 6.2% 19.8% 22.2% 51.9%
60～69歳(N=83) 31.3% 16.9% 49.4% 2.4%
70歳以上(N=118) 17.8% 27.1% 53.4% 1.7%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない
エシカル消費
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳 (N=35) 5.7% 22.9% 68.6% 2.9%
30～39歳 (N=46) 17.4% 28.3% 52.2% 2.2%
40～49歳 (N=83) 15.7% 21.7% 57.8% 4.8%
50～59歳 (N=82) 7.3% 11.0% 22.0% 59.8%
60～69歳 (N=83) 21.7% 19.3% 57.8% 1.2%
70歳以上 (N=118) 11.0% 11.9% 76.3% 0.8%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない
猛暑日やゲリラ豪雨などの異常気象の増加
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 25.7% 62.9% 11.4%
30～39歳(N=46) 32.6% 45.7% 17.4% 4.3%
40～49歳(N=83) 26.5% 59.0% 12.0% 2.4%
50～59歳(N=82) 25.6% 61.0% 11.0% 2.4%
60～69歳(N=82) 26.8% 64.6% 7.3% 1.2%
70歳以上(N=119) 32.8% 42.0% 22.7% 2.5%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない
ネイチャーポジティブ（自然再興）
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 14.3% 25.7% 57.1% 2.9%
30～39歳(N=46) 17.4% 26.1% 56.5%
40～49歳(N=83) 15.7% 22.9% 56.6% 4.8%
50～59歳(N=82) 12.2% 20.7% 62.2% 4.9%
60～69歳(N=83) 19.3% 13.3% 63.9% 3.6%
70歳以上(N=117) 10.3% 19.7% 69.2% 0.9%
よく知っている 知っている 言葉は知っている 知らない



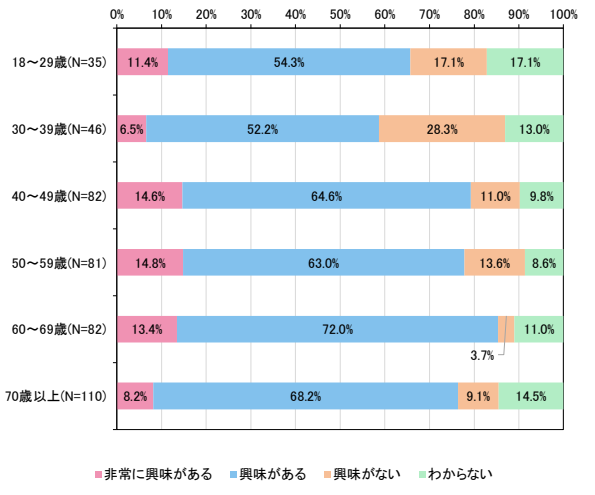
◆ 70 歳以上の方の認知度は、他の年代と比較して概ね低くなっているが、それ以外については概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問５－２　環境に対する関心度〈年齢別〉

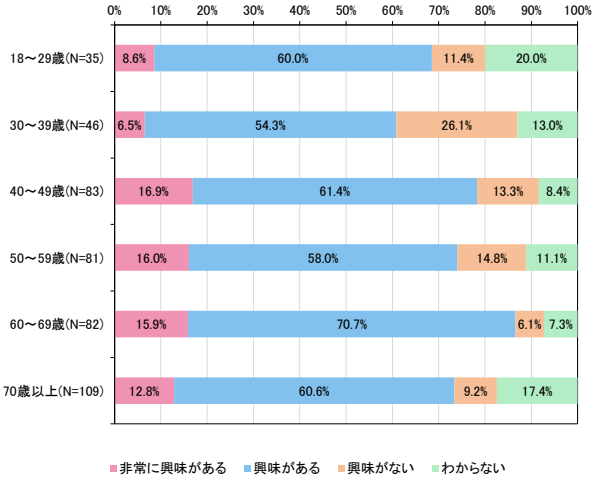
地球温暖化



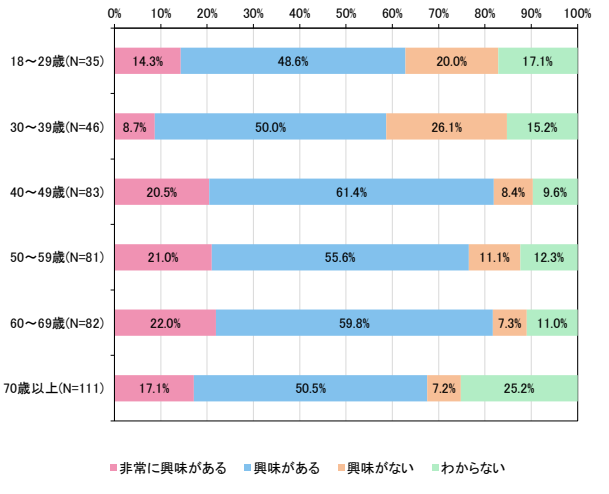
電気の使用に伴って排出される温室効果ガス



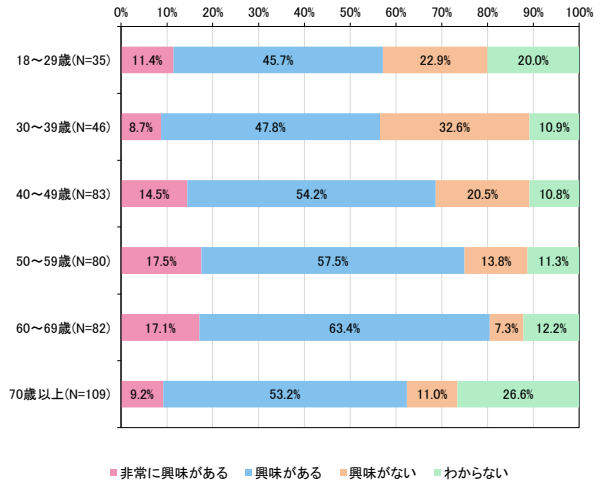
車の使用に伴って排出される温室効果ガス



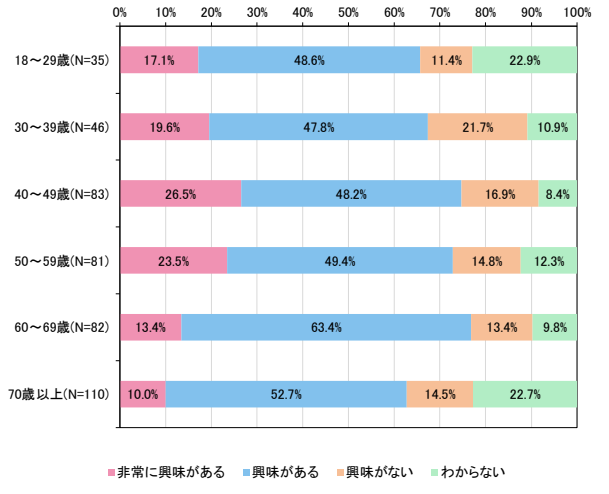
オゾン層の破壊

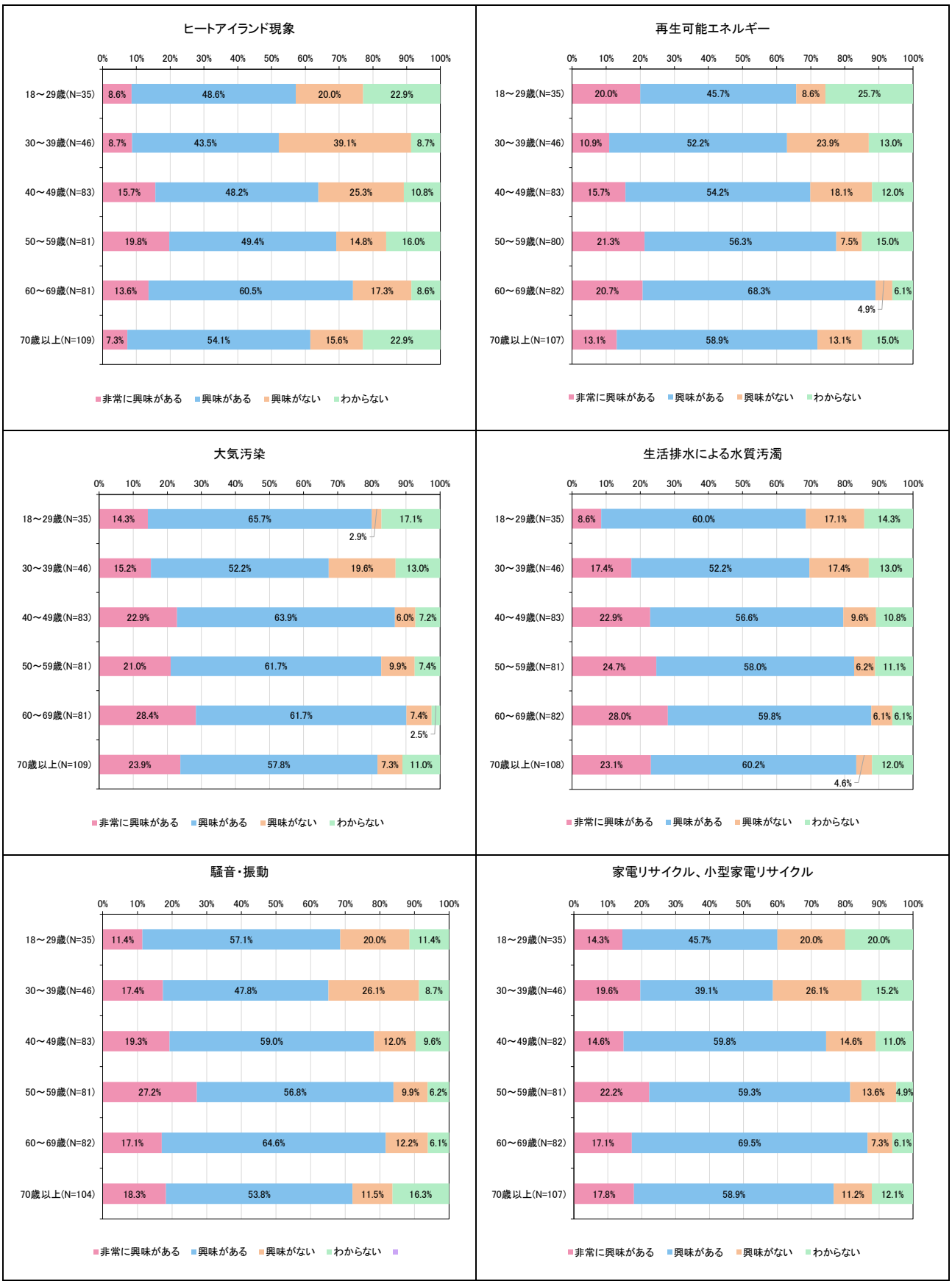


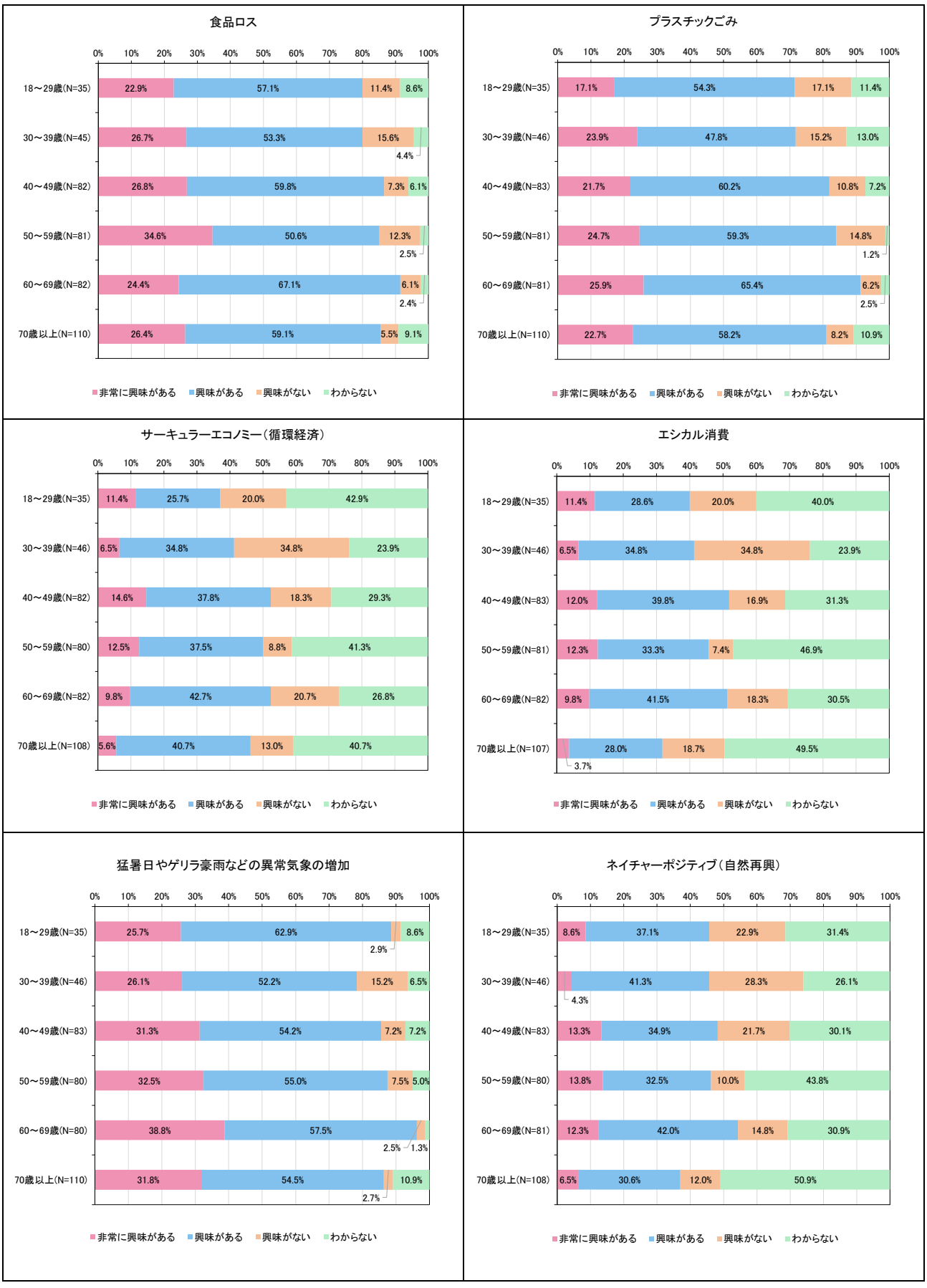
酸性雨

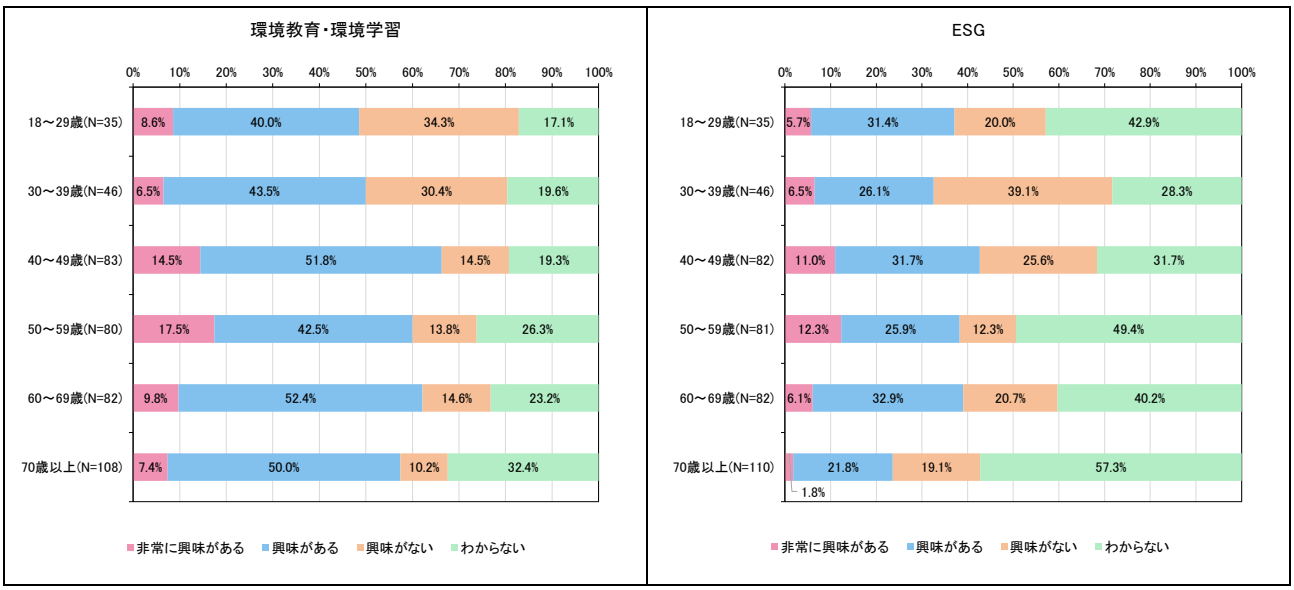


希少な生物の減少や絶滅




ヒートアイランド現象
18～29歳(N=35) 8.6% 48.6% 20.0% 22.9%
30～39歳(N=46) 8.7% 43.5% 39.1% 8.7%
40～49歳(N=83) 15.7% 48.2% 25.3% 10.8%
50～59歳(N=81) 19.8% 49.4% 14.8% 16.0%
60～69歳(N=81) 13.6% 60.5% 17.3% 8.6%
70歳以上(N=109) 7.3% 54.1% 15.6% 22.9%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
再生可能エネルギー
18～29歳(N=35) 20.0% 45.7% 8.6% 25.7%
30～39歳(N=46) 10.9% 52.2% 23.9% 13.0%
40～49歳(N=83) 15.7% 54.2% 18.1% 12.0%
50～59歳(N=80) 21.3% 56.3% 7.5% 15.0%
60～69歳(N=82) 20.7% 68.3% 4.9% 6.1%
70歳以上(N=107) 13.1% 58.9% 13.1% 15.0%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
大気汚染
18～29歳(N=35) 14.3% 65.7% 2.9% 17.1%
30～39歳(N=46) 15.2% 52.2% 19.6% 13.0%
40～49歳(N=83) 22.9% 63.9% 6.0% 7.2%
50～59歳(N=81) 21.0% 61.7% 9.9% 7.4%
60～69歳(N=81) 28.4% 61.7% 7.4% 2.5%
70歳以上(N=109) 23.9% 57.8% 7.3% 11.0%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
生活排水による水質汚濁
18～29歳(N=35) 8.6% 60.0% 17.1% 14.3%
30～39歳(N=46) 17.4% 52.2% 17.4% 13.0%
40～49歳(N=83) 22.9% 56.6% 9.6% 10.8%
50～59歳(N=81) 24.7% 58.0% 6.2% 11.1%
60～69歳(N=82) 28.0% 59.8% 6.1% 6.1%
70歳以上(N=108) 23.1% 60.2% 4.6% 12.0%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
騒音・振動
18～29歳(N=35) 11.4% 57.1% 20.0% 11.4%
30～39歳(N=46) 17.4% 47.8% 26.1% 8.7%
40～49歳(N=83) 19.3% 59.0% 12.0% 9.6%
50～59歳(N=81) 27.2% 56.8% 9.9% 6.2%
60～69歳(N=82) 17.1% 64.6% 12.2% 6.1%
70歳以上(N=104) 18.3% 53.8% 11.5% 16.3%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
家電リサイクル、小型家電リサイクル
18～29歳(N=35) 14.3% 45.7% 20.0% 20.0%
30～39歳(N=46) 19.6% 39.1% 26.1% 15.2%
40～49歳(N=82) 14.6% 59.8% 14.6% 11.0%
50～59歳(N=81) 22.2% 59.3% 13.6% 4.9%
60～69歳(N=82) 17.1% 69.5% 7.3% 6.1%
70歳以上(N=107) 17.8% 58.9% 11.2% 12.1%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない

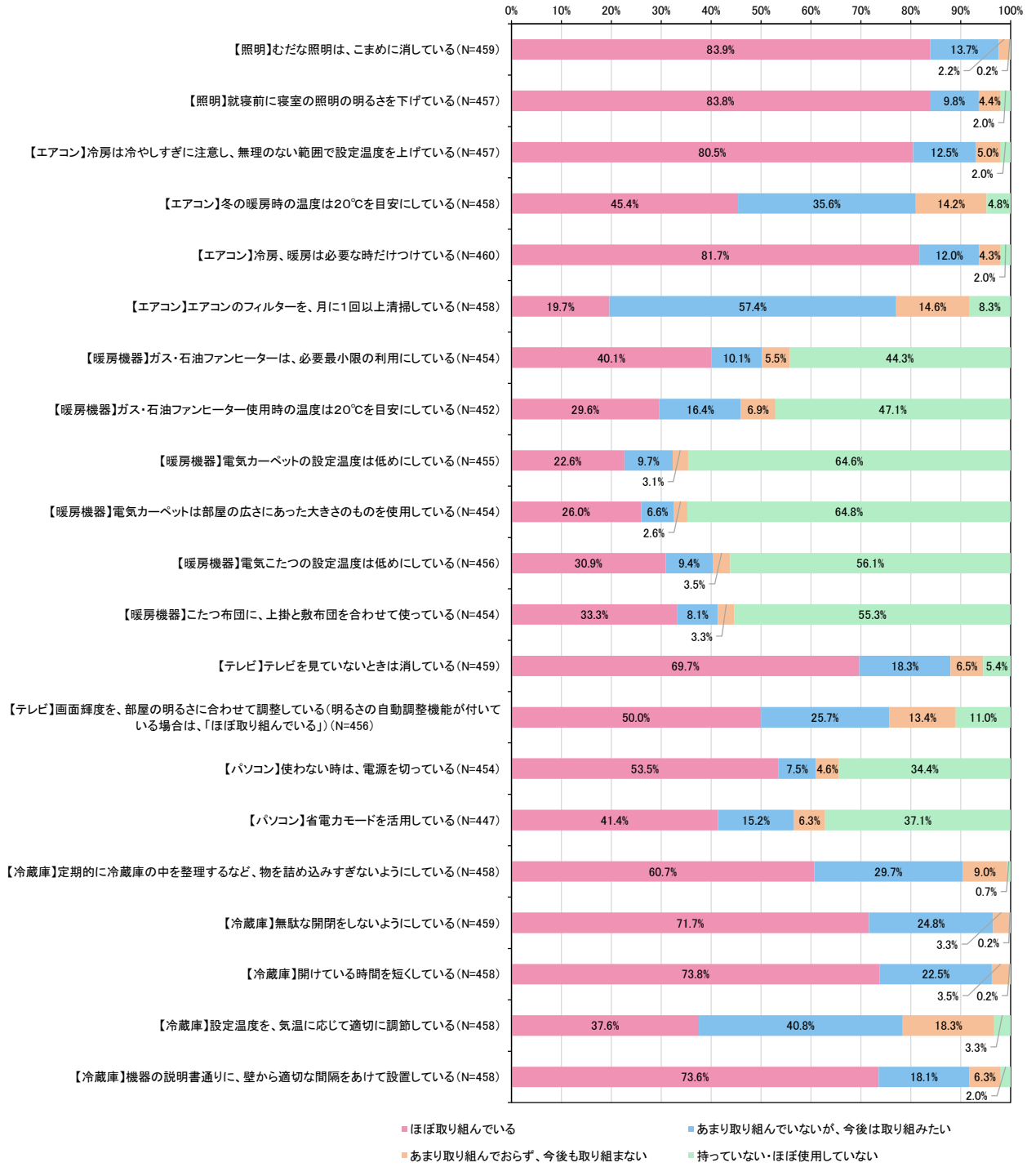

食品ロス
18～29歳(N=35) 22.9% 57.1% 11.4% 8.6%
30～39歳(N=45) 26.7% 53.3% 15.6% 4.4%
40～49歳(N=82) 26.8% 59.8% 7.3% 6.1%
50～59歳(N=81) 34.6% 50.6% 12.3% 2.5%
60～69歳(N=82) 24.4% 67.1% 6.1% 2.4%
70歳以上(N=110) 26.4% 59.1% 5.5% 9.1%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
プラスチックごみ
18～29歳(N=35) 17.1% 54.3% 17.1% 11.4%
30～39歳(N=46) 23.9% 47.8% 15.2% 13.0%
40～49歳(N=83) 21.7% 60.2% 10.8% 7.2%
50～59歳(N=81) 24.7% 59.3% 14.8% 1.2%
60～69歳(N=81) 25.9% 65.4% 6.2% 2.5%
70歳以上(N=110) 22.7% 58.2% 8.2% 10.9%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
サーキュラーエコノミー（循環経済）
18～29歳(N=35) 11.4% 25.7% 20.0% 42.9%
30～39歳(N=46) 6.5% 34.8% 34.8% 23.9%
40～49歳(N=82) 14.6% 37.8% 18.3% 29.3%
50～59歳(N=80) 12.5% 37.5% 8.8% 41.3%
60～69歳(N=82) 9.8% 42.7% 20.7% 26.8%
70歳以上(N=108) 5.6% 40.7% 13.0% 40.7%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
エシカル消費
18～29歳(N=35) 11.4% 28.6% 20.0% 40.0%
30～39歳(N=46) 6.5% 34.8% 34.8% 23.9%
40～49歳(N=83) 12.0% 39.8% 16.9% 31.3%
50～59歳(N=81) 12.3% 33.3% 7.4% 46.9%
60～69歳(N=82) 9.8% 41.5% 18.3% 30.5%
70歳以上(N=107) 3.7% 28.0% 18.7% 49.5%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
猛暑日やゲリラ豪雨などの異常気象の増加
18～29歳(N=35) 25.7% 62.9% 2.9% 8.6%
30～39歳(N=46) 26.1% 52.2% 15.2% 6.5%
40～49歳(N=83) 31.3% 54.2% 7.2% 7.2%
50～59歳(N=80) 32.5% 55.0% 7.5% 5.0%
60～69歳(N=80) 38.8% 57.5% 2.5% 1.3%
70歳以上(N=110) 31.8% 54.5% 2.7% 10.9%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない
ネイチャーポジティブ（自然再興）
18～29歳(N=35) 8.6% 37.1% 22.9% 31.4%
30～39歳(N=46) 4.3% 41.3% 28.3% 26.1%
40～49歳(N=83) 13.3% 34.9% 21.7% 30.1%
50～59歳(N=80) 13.8% 32.5% 10.0% 43.8%
60～69歳(N=81) 12.3% 42.0% 14.8% 30.9%
70歳以上(N=108) 6.5% 30.6% 12.0% 50.9%
非常に興味がある 興味がある 興味がない わからない



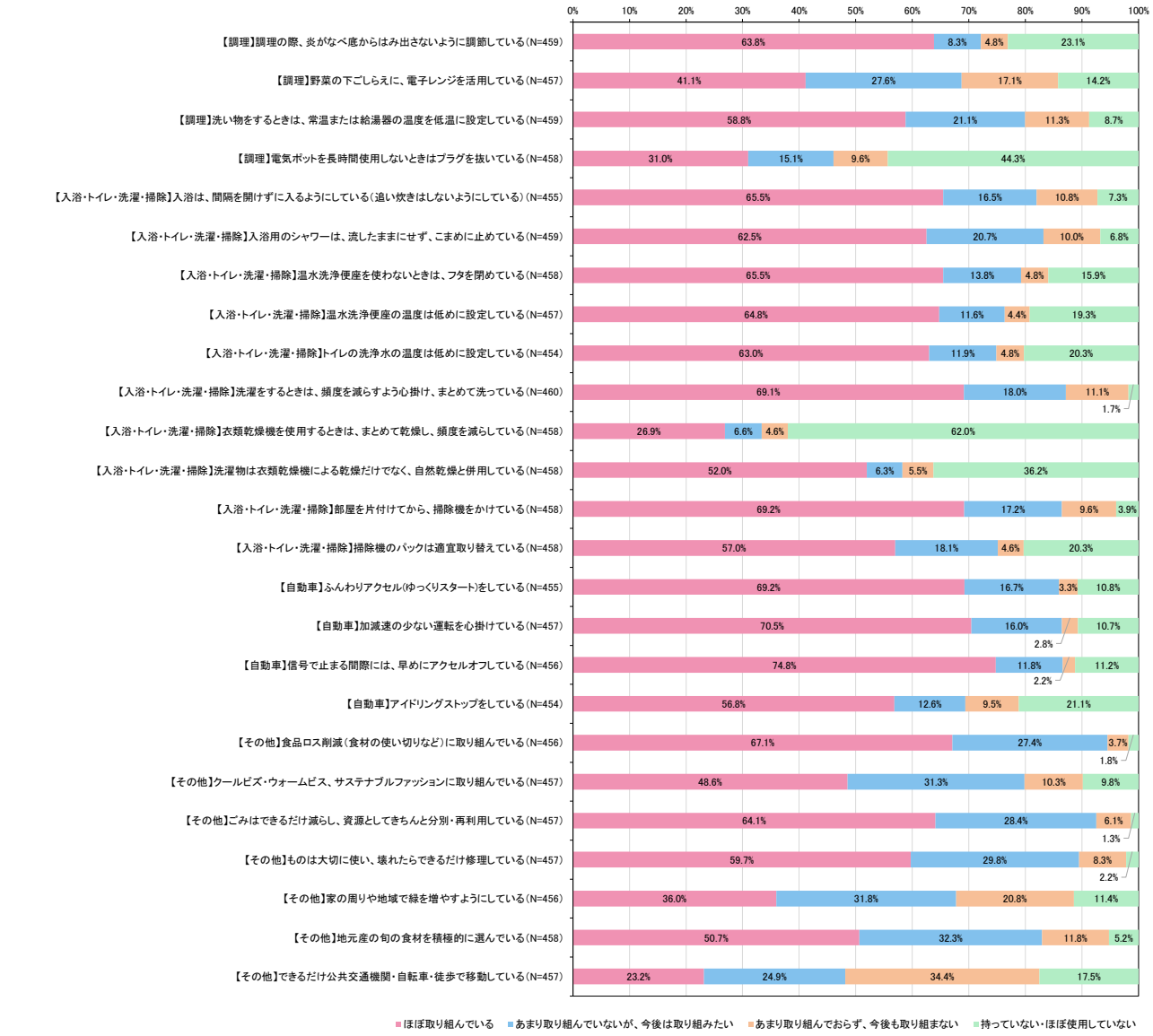
◆ 40 歳未満の方の関心度は、他の年代と比較して概ね低くなっているが、それ以外については概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問６　あなたは日頃、地球温暖化防止のための取組をどの程度行っていますか。
現在の取組状況について、あてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。

【照明】、【エアコン】、【暖房機器】、【テレビ】、【パソコン】、【冷蔵庫】に関する取組状況



【調理】、【入浴・トイレ・洗濯・掃除】、【自動車】、【その他】に関する取組状況



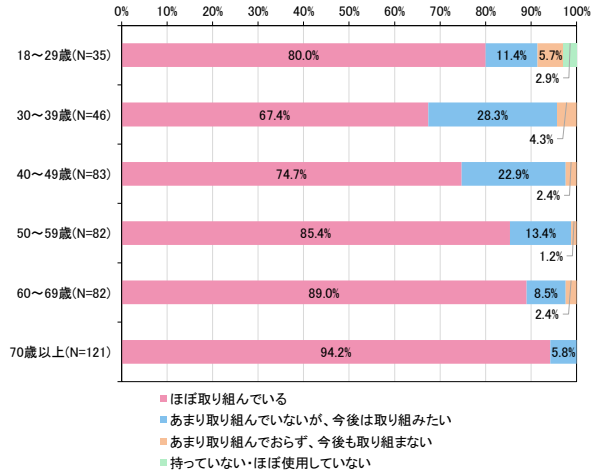
【全体結果】

- ◆ 「持っていない・ほぼ使用していない」を除くと、【照明】、【パソコン】、【入浴・トイレ・洗濯・掃除】及び【自動車】の項目は、「ほぼ取り組んでいる」と回答した方の割合が６割以上を占める。
- ◆ 一方で「エアコンのフィルターを、月に１回以上清掃している」、「できるだけ公共交通機関・自転車・徒歩で移動している」については、「ほぼ取り組んでいる」と回答した方の割合が３割未満となっている（「持っていない・ほぼ使用していない」を除く）。
- ◆ 「持っていない・ほぼ使用していない」を除くと、「家の周りや地域で緑を増やすようにしている」、「できるだけ公共交通機関・自転車・徒歩で移動している」以外については、「ほぼ取り組んでいる」または「あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい」と回答した方の割合が８割以上を占めており、地球温暖化対策への意欲が高いと考えられる。

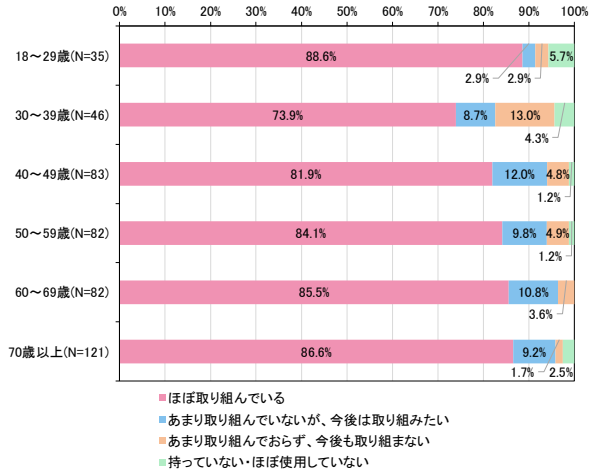
【属性別結果】

問６　地球温暖化防止のための取組〈年齢別〉

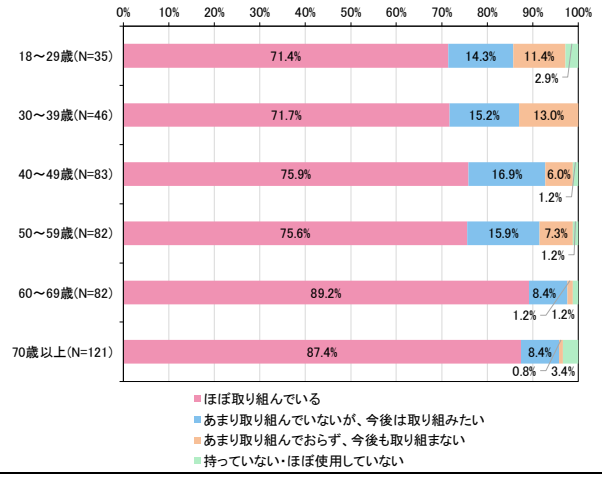
【照明】むだな照明は、こまめに消している



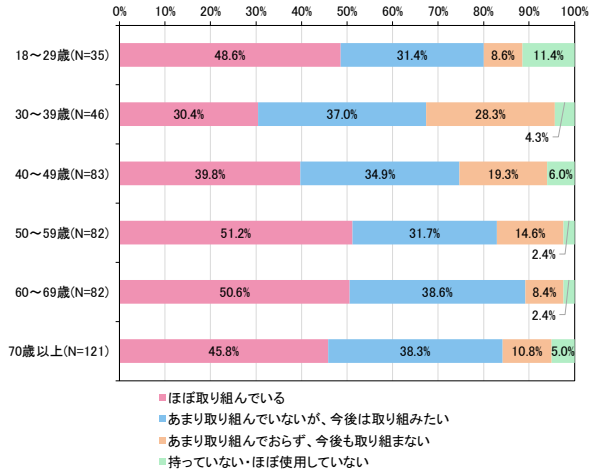
【照明】就寝前に寝室の照明の明るさを下げている



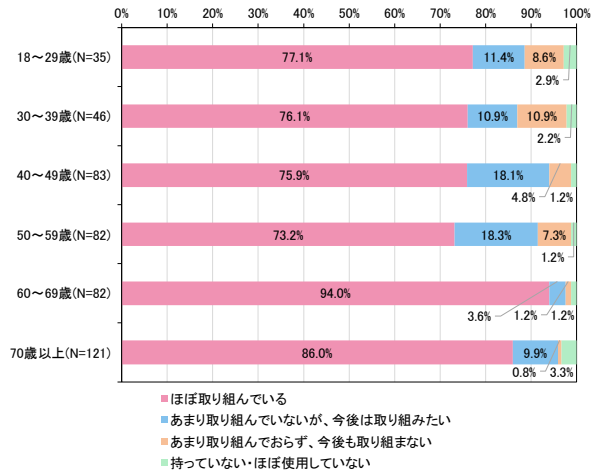
【エアコン】冷房は冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で設定温度を上げている



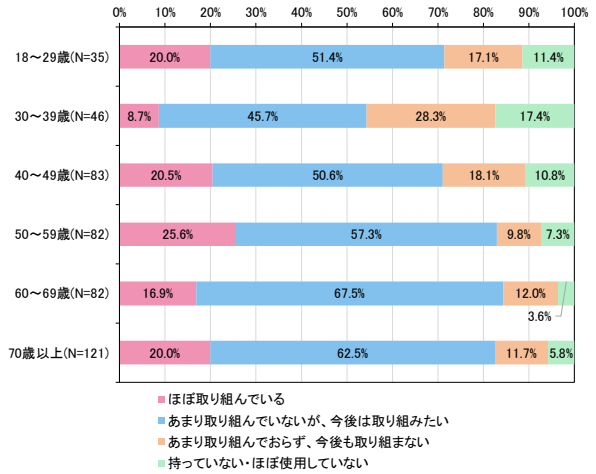
【エアコン】冬の暖房時の温度は20℃を目安にしている



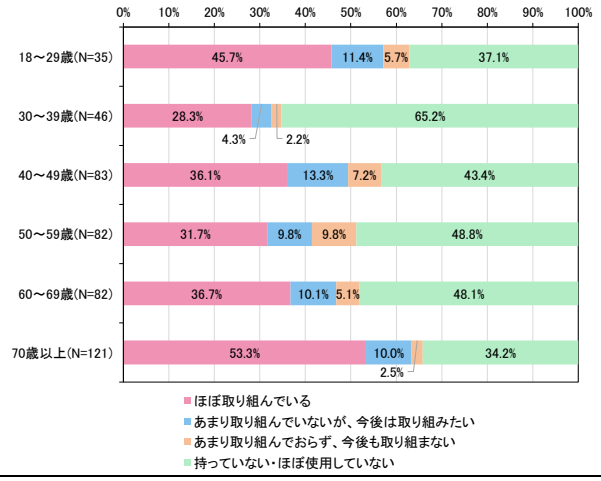
【エアコン】冷房、暖房は必要な時だけつけている



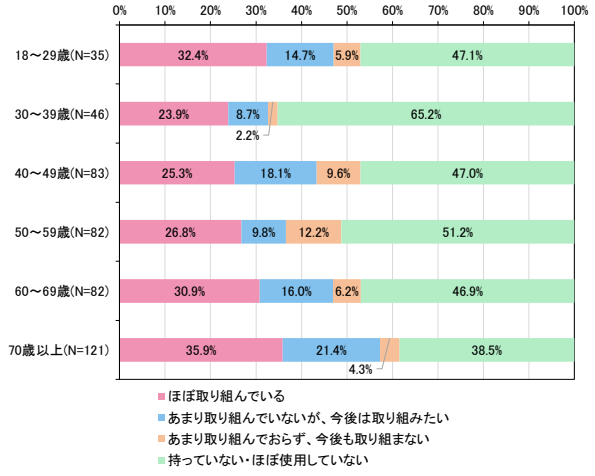
【エアコン】エアコンのフィルターを、月に1回以上清掃している



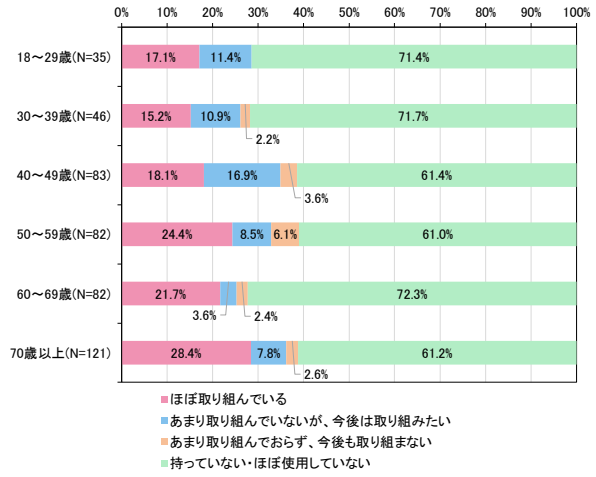
【暖房機器】ガス・石油ファンヒーターは、必要最小限の利用にしている



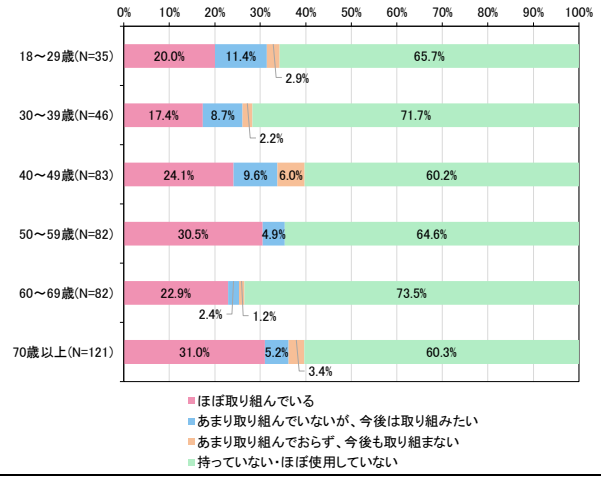
【暖房機器】ガス・石油ファンヒーター使用時の温度は20℃を目安にしている



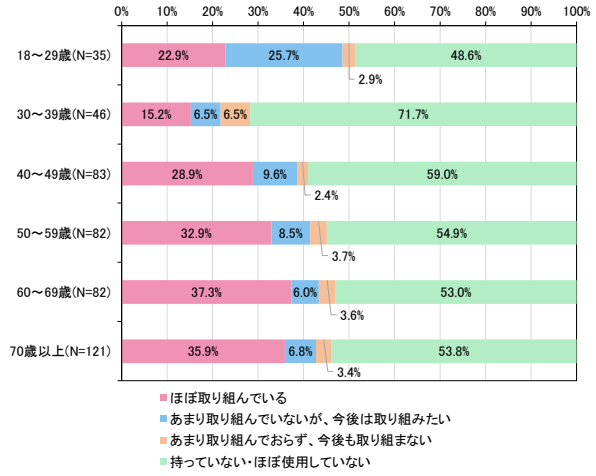
【暖房機器】電気カーペットの設定温度は低めにしている



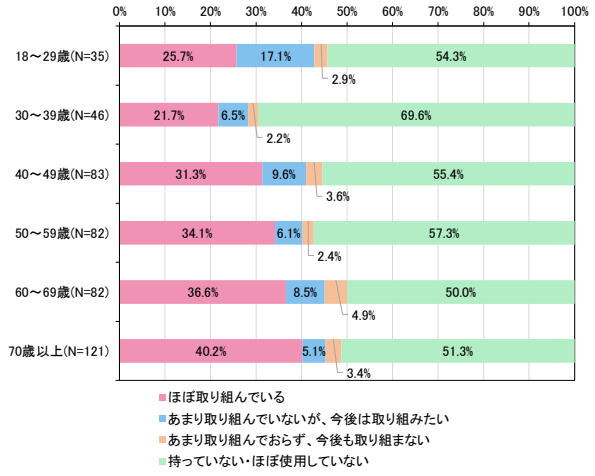
【暖房機器】電気カーペットは部屋の広さにあった大きさのものを使用している

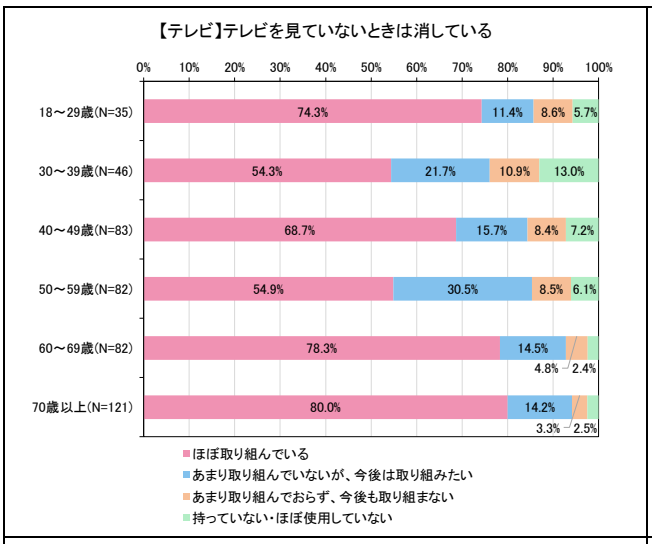


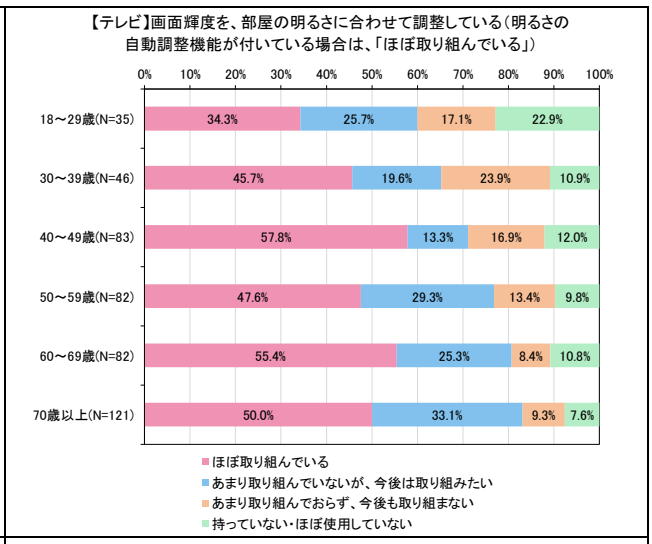
【暖房機器】電気こたつの設定温度は低めにしている

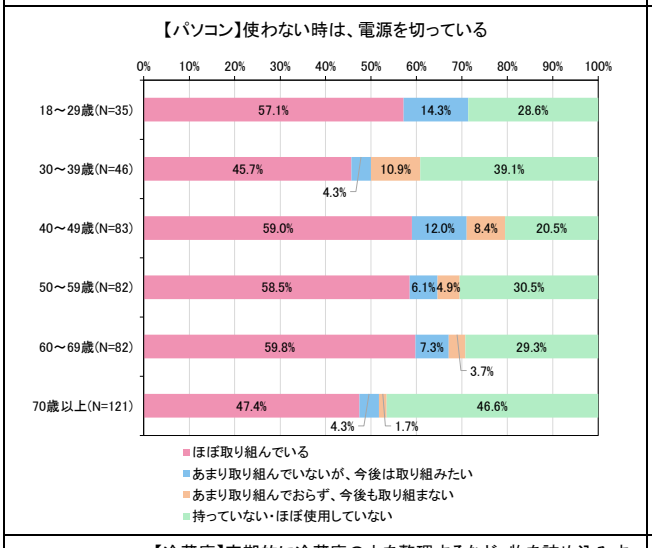


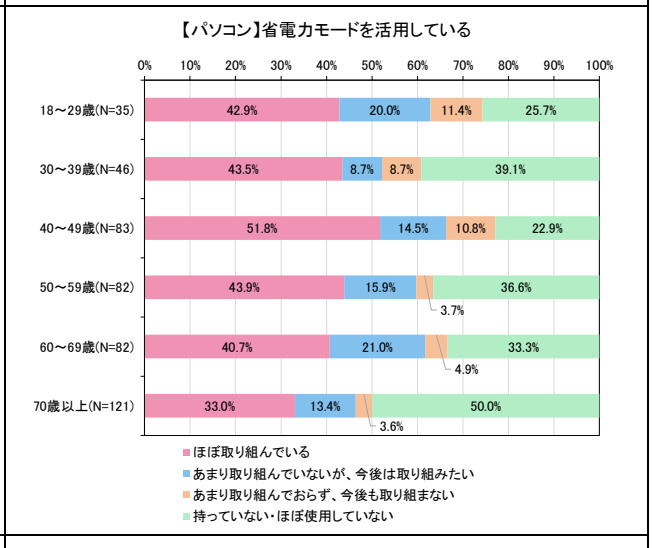
【暖房機器】こたつ布団に、上掛と敷布団を合わせて使っている

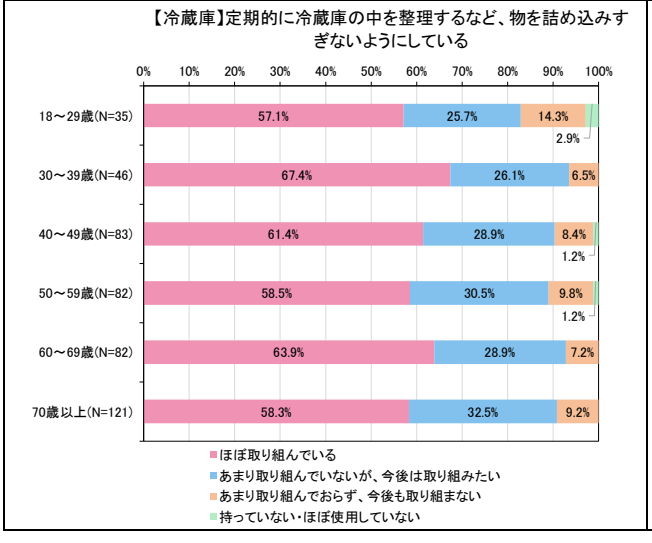


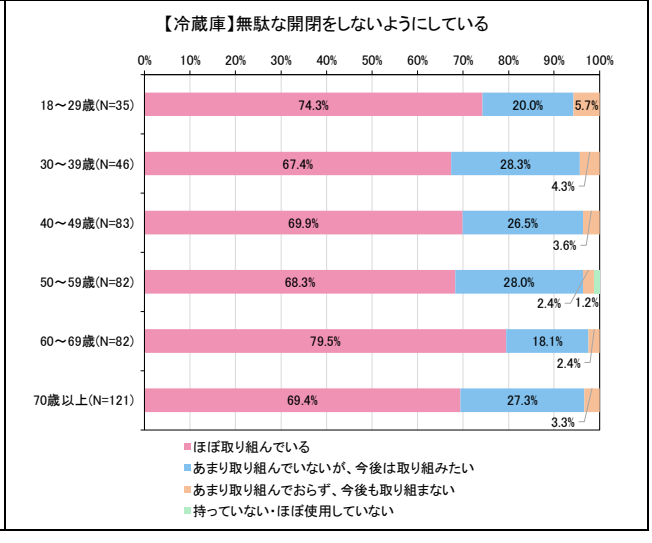

【テレビ】テレビを見ていないときは消している
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 74.3% 11.4% 8.6% 5.7%
30～39歳(N=46) 54.3% 21.7% 10.9% 13.0%
40～49歳(N=83) 68.7% 15.7% 8.4% 7.2%
50～59歳(N=82) 54.9% 30.5% 8.5% 6.1%
60～69歳(N=82) 78.3% 14.5% 4.8% 2.4%
70歳以上(N=121) 80.0% 14.2% 3.3% 2.5%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

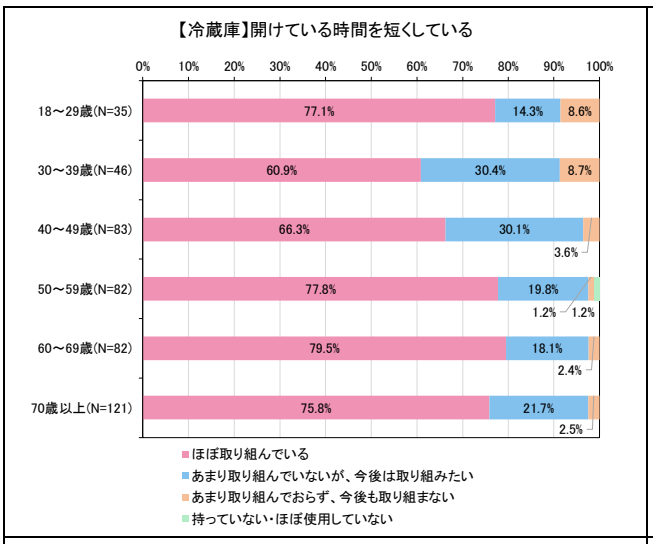

【テレビ】画面輝度を、部屋の明るさに合わせて調整している（明るさの自動調整機能が付いている場合は、「ほぼ取り組んでいる」）
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 34.3% 25.7% 17.1% 22.9%
30～39歳(N=46) 45.7% 19.6% 23.9% 10.9%
40～49歳(N=83) 57.8% 13.3% 16.9% 12.0%
50～59歳(N=82) 47.6% 29.3% 13.4% 9.8%
60～69歳(N=82) 55.4% 25.3% 8.4% 10.8%
70歳以上(N=121) 50.0% 33.1% 9.3% 7.6%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

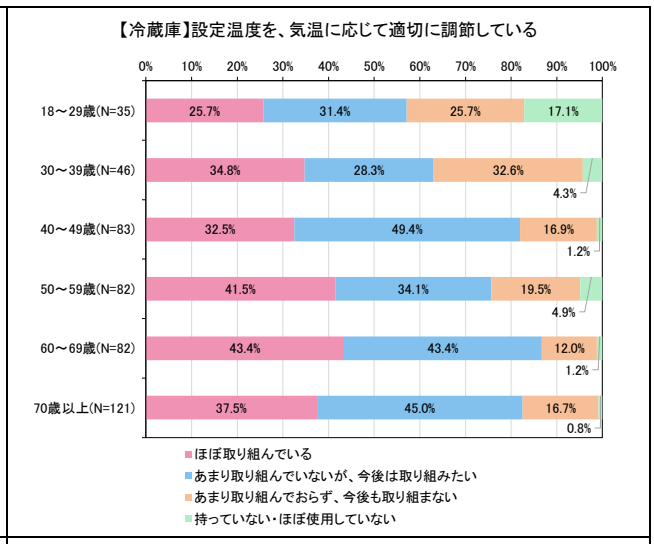

【パソコン】使わない時は、電源を切っている
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 57.1% 14.3% 28.6%
30～39歳(N=46) 45.7% 4.3% 10.9% 39.1%
40～49歳(N=83) 59.0% 12.0% 8.4% 20.5%
50～59歳(N=82) 58.5% 6.1% 4.9% 30.5%
60～69歳(N=82) 59.8% 7.3% 3.7% 29.3%
70歳以上(N=121) 47.4% 4.3% 1.7% 46.6%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

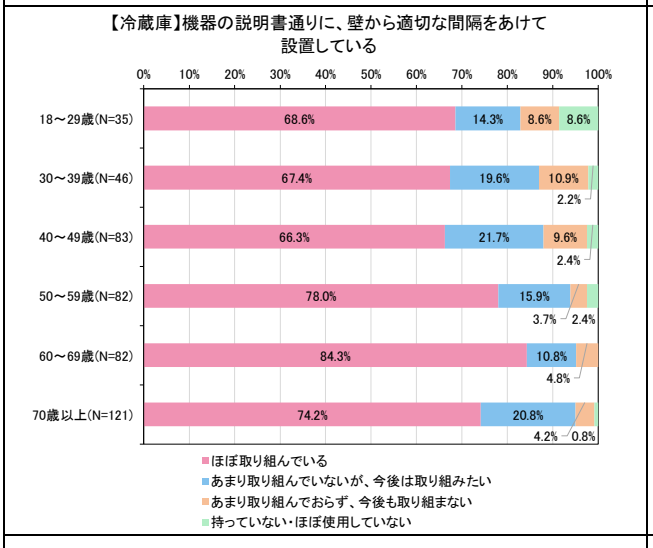

【パソコン】省電力モードを活用している
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 42.9% 20.0% 11.4% 25.7%
30～39歳(N=46) 43.5% 8.7% 8.7% 39.1%
40～49歳(N=83) 51.8% 14.5% 10.8% 22.9%
50～59歳(N=82) 43.9% 15.9% 3.7% 36.6%
60～69歳(N=82) 40.7% 21.0% 4.9% 33.3%
70歳以上(N=121) 33.0% 13.4% 3.6% 50.0%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

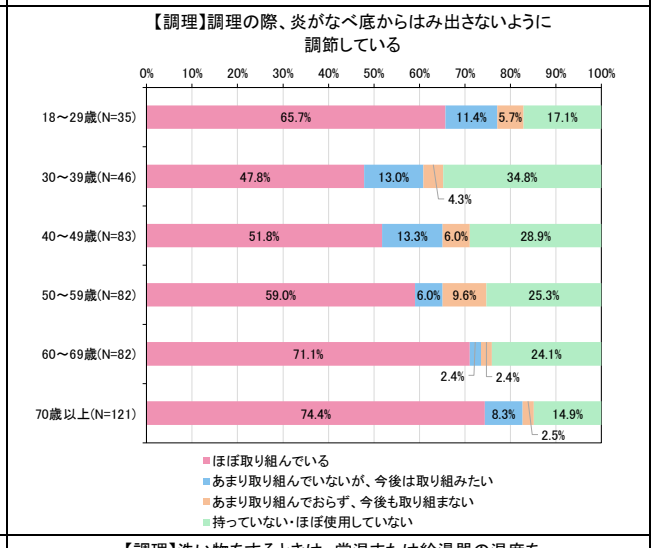

【冷蔵庫】定期的に冷蔵庫の中を整理するなど、物を詰め込みすぎないようにしている
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 57.1% 25.7% 14.3% 2.9%
30～39歳(N=46) 67.4% 26.1% 6.5%
40～49歳(N=83) 61.4% 28.9% 8.4% 1.2%
50～59歳(N=82) 58.5% 30.5% 9.8% 1.2%
60～69歳(N=82) 63.9% 28.9% 7.2%
70歳以上(N=121) 58.3% 32.5% 9.2%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

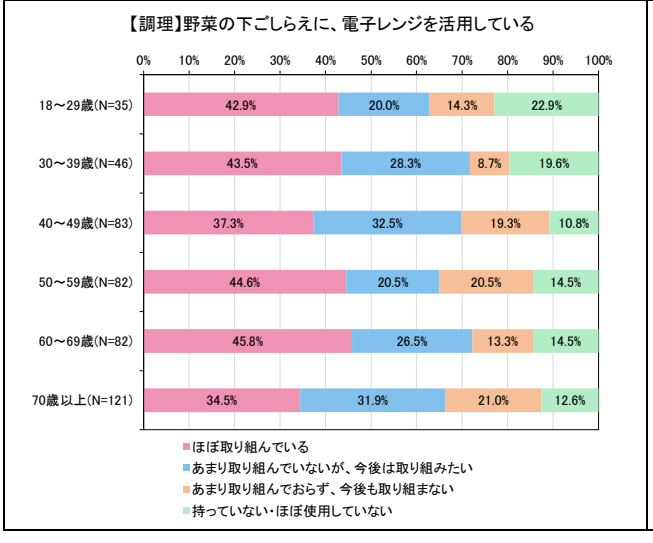

【冷蔵庫】無駄な開閉をしないようにしている
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 74.3% 20.0% 5.7%
30～39歳(N=46) 67.4% 28.3% 4.3%
40～49歳(N=83) 69.9% 26.5% 3.6%
50～59歳(N=82) 68.3% 28.0% 2.4% 1.2%
60～69歳(N=82) 79.5% 18.1% 2.4%
70歳以上(N=121) 69.4% 27.3% 3.3%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

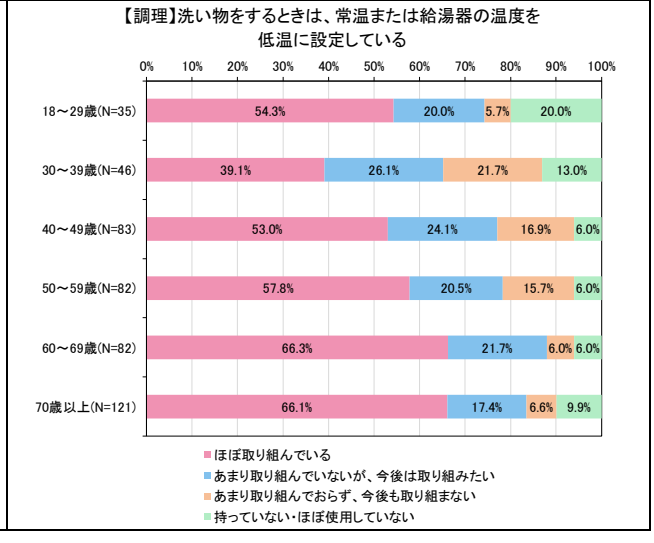

【冷蔵庫】開けている時間を短くしている
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 77.1% 14.3% 8.6%
30～39歳(N=46) 60.9% 30.4% 8.7%
40～49歳(N=83) 66.3% 30.1% 3.6%
50～59歳(N=82) 77.8% 19.8% 1.2% 1.2%
60～69歳(N=82) 79.5% 18.1% 2.4%
70歳以上(N=121) 75.8% 21.7% 2.5%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない


【冷蔵庫】設定温度を、気温に応じて適切に調節している
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 25.7% 31.4% 25.7% 17.1%
30～39歳(N=46) 34.8% 28.3% 32.6% 4.3%
40～49歳(N=83) 32.5% 49.4% 16.9% 1.2%
50～59歳(N=82) 41.5% 34.1% 19.5% 4.9%
60～69歳(N=82) 43.4% 43.4% 12.0% 1.2%
70歳以上(N=121) 37.5% 45.0% 16.7% 0.8%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

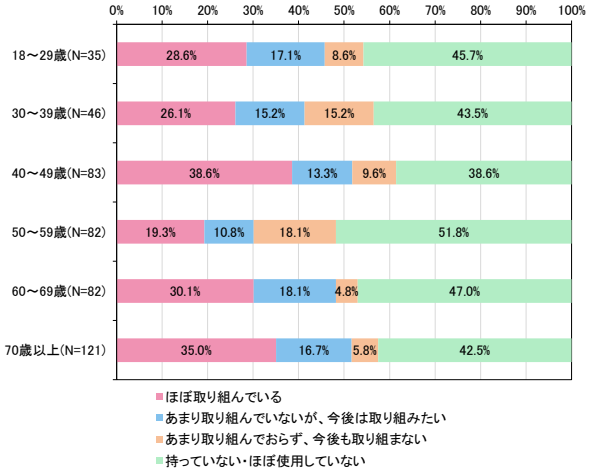

【冷蔵庫】機器の説明書通りに、壁から適切な間隔をあけて設置している
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 68.6% 14.3% 8.6% 8.6%
30～39歳(N=46) 67.4% 19.6% 10.9% 2.2%
40～49歳(N=83) 66.3% 21.7% 9.6% 2.4%
50～59歳(N=82) 78.0% 15.9% 3.7% 2.4%
60～69歳(N=82) 84.3% 10.8% 4.8%
70歳以上(N=121) 74.2% 20.8% 4.2% 0.8%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない


【調理】調理の際、炎がなべ底からはみ出さないように調節している
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 65.7% 11.4% 5.7% 17.1%
30～39歳(N=46) 47.8% 13.0% 4.3% 34.8%
40～49歳(N=83) 51.8% 13.3% 6.0% 28.9%
50～59歳(N=82) 59.0% 6.0% 9.6% 25.3%
60～69歳(N=82) 71.1% 2.4% 2.4% 24.1%
70歳以上(N=121) 74.4% 8.3% 2.5% 14.9%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

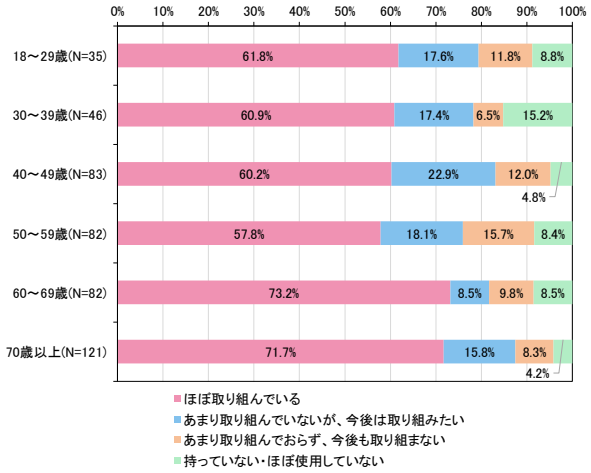

【調理】野菜の下ごしらえに、電子レンジを活用している
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 42.9% 20.0% 14.3% 22.9%
30～39歳(N=46) 43.5% 28.3% 8.7% 19.6%
40～49歳(N=83) 37.3% 32.5% 19.3% 10.8%
50～59歳(N=82) 44.6% 20.5% 20.5% 14.5%
60～69歳(N=82) 45.8% 26.5% 13.3% 14.5%
70歳以上(N=121) 34.5% 31.9% 21.0% 12.6%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない


【調理】洗い物をするときは、常温または給湯器の温度を低温に設定している
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 54.3% 20.0% 5.7% 20.0%
30～39歳(N=46) 39.1% 26.1% 21.7% 13.0%
40～49歳(N=83) 53.0% 24.1% 16.9% 6.0%
50～59歳(N=82) 57.8% 20.5% 15.7% 6.0%
60～69歳(N=82) 66.3% 21.7% 6.0% 6.0%
70歳以上(N=121) 66.1% 17.4% 6.6% 9.9%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

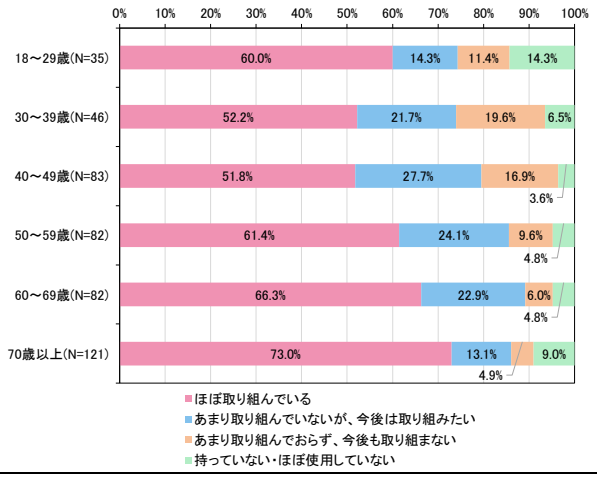
【調理】電気ポットを長時間使用しないときはプラグを抜いている



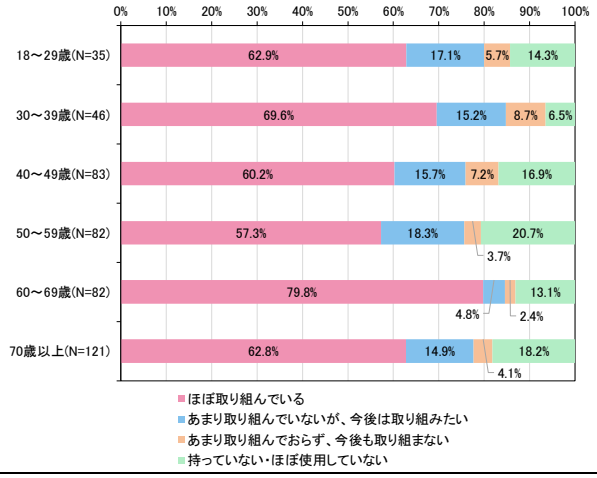
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】入浴は、間隔を開けずに入るようにしている（追い炊きはしないようにしている）



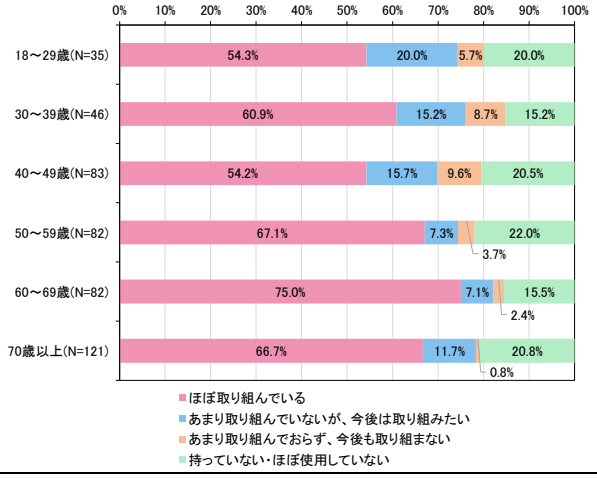
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】入浴用のシャワーは、流したままにせず、こまめに止めている



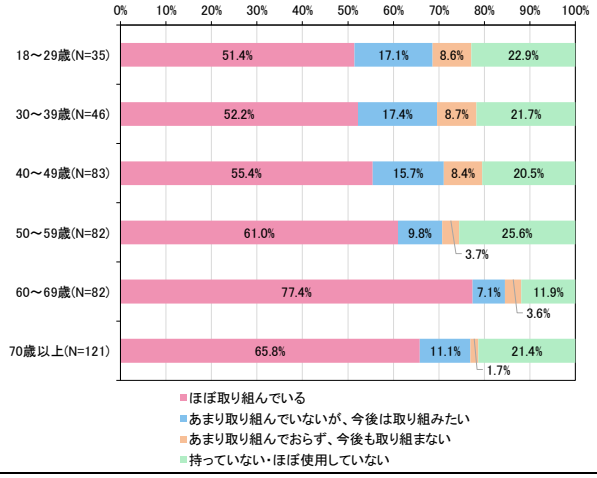
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】温水洗浄便座を使わないときは、フタを閉めている



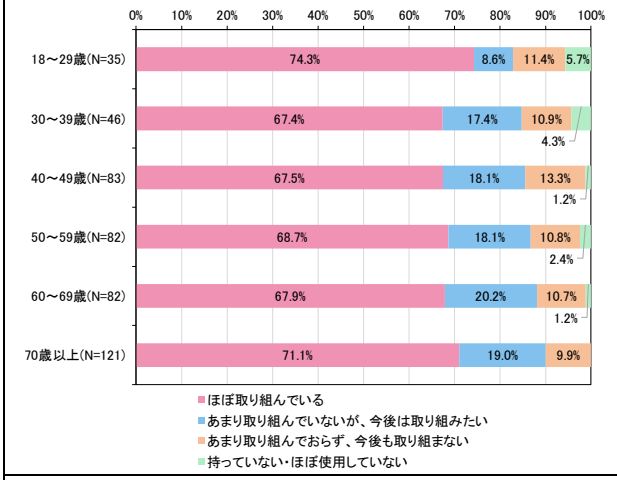
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】温水洗浄便座の温度は低めに設定している



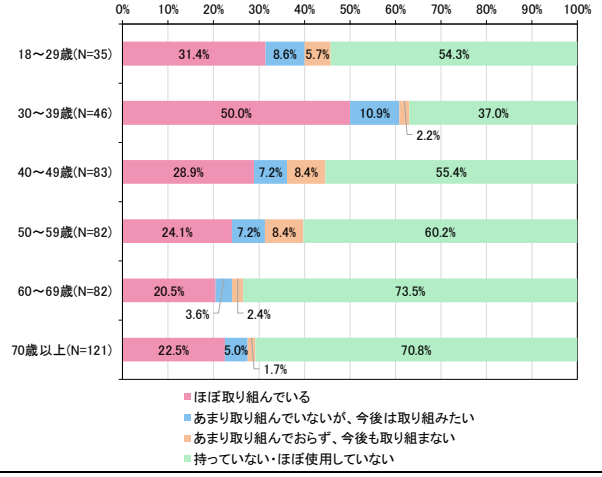
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】トイレの洗浄水の温度は低めに設定している



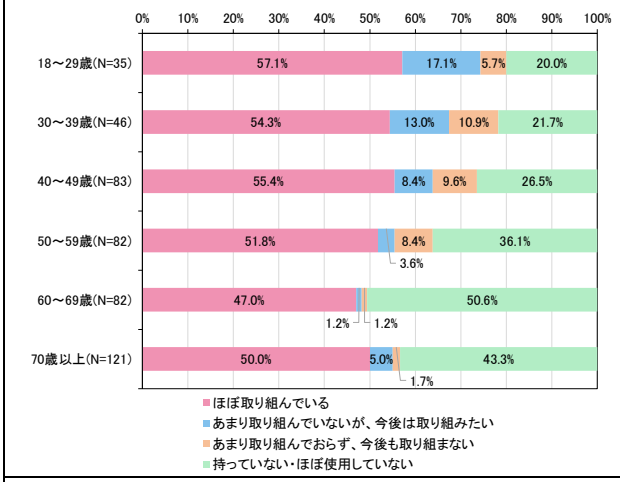
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】洗濯をするときは、頻度を減らすよう心掛け、まとめて洗っている



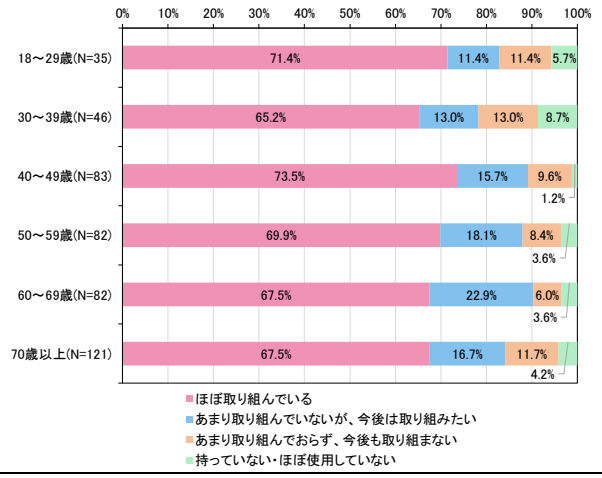
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】衣類乾燥機を使用するときは、まとめて乾燥し、頻度を減らしている



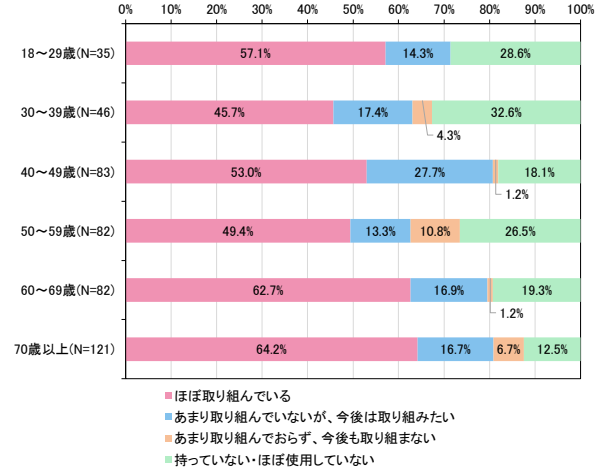
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】洗濯物は衣類乾燥機による乾燥だけでなく、自然乾燥と併用している



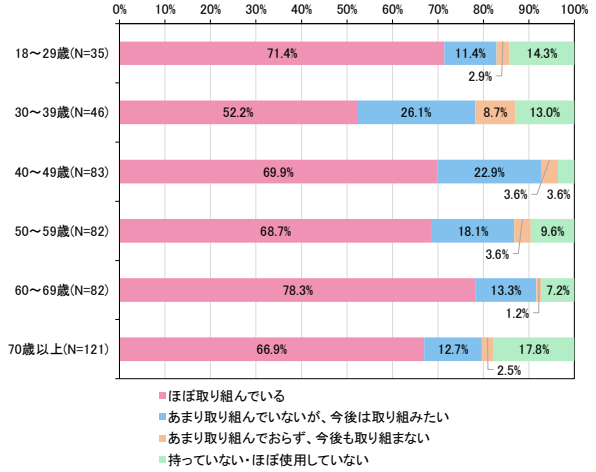
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】部屋を片付けてから、掃除機をかけている

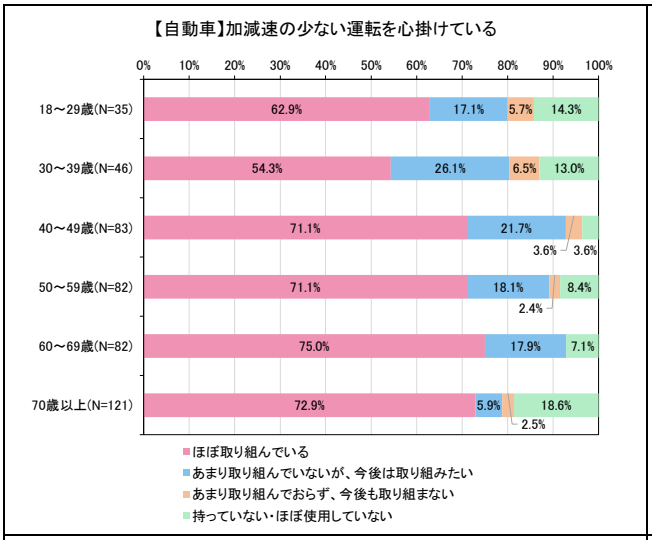


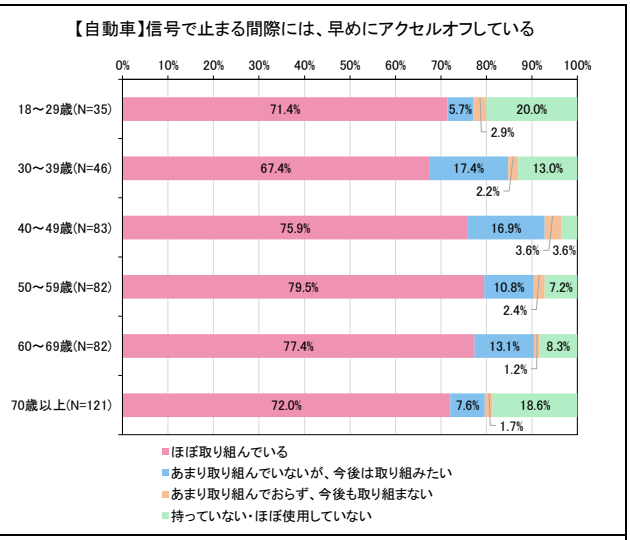
【入浴・トイレ・洗濯・掃除】掃除機のパックは適宜取り替えている

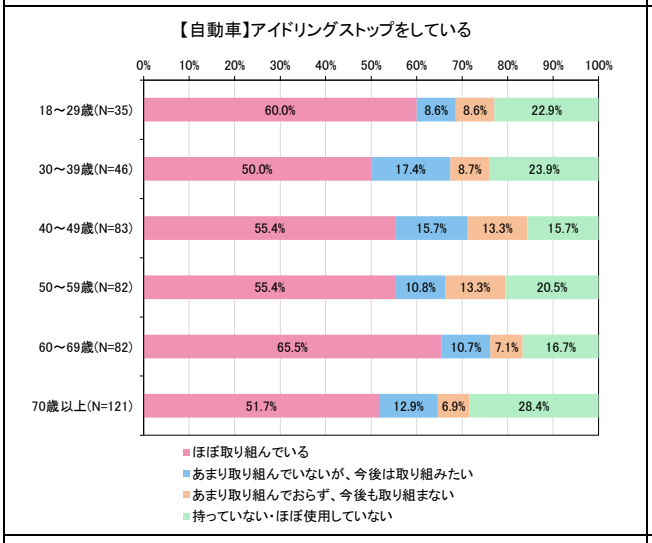


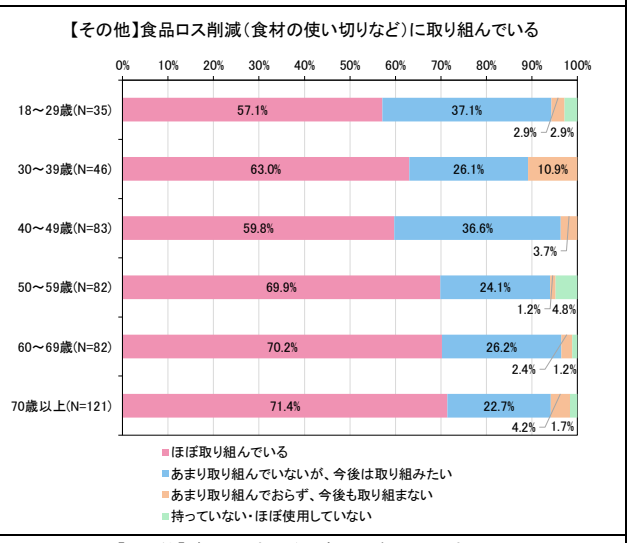
【自動車】ふんわりアクセル(ゆっくりスタート)をしている

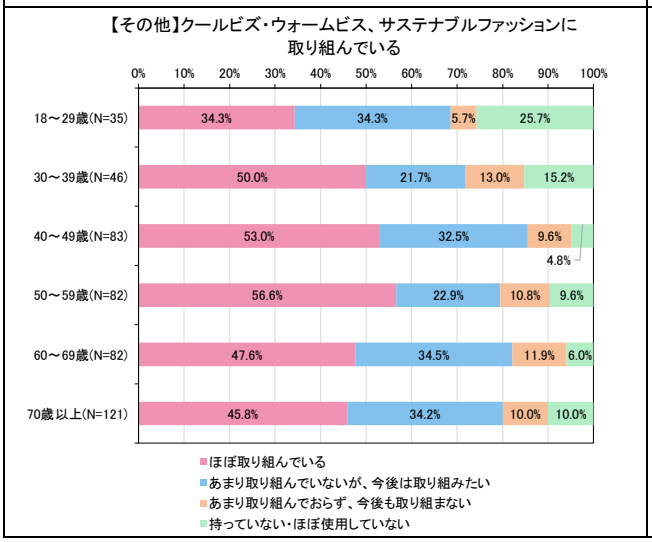


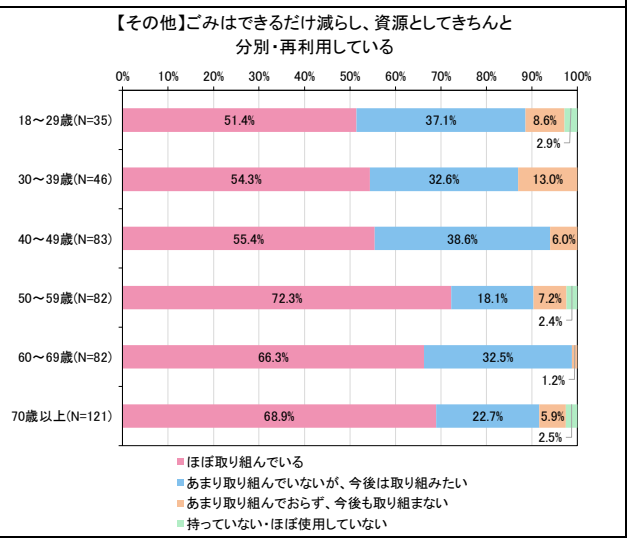

【自動車】加減速の少ない運転を心掛けている
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 62.9% 17.1% 5.7% 14.3%
30～39歳(N=46) 54.3% 26.1% 6.5% 13.0%
40～49歳(N=83) 71.1% 21.7% 3.6% 3.6%
50～59歳(N=82) 71.1% 18.1% 2.4% 8.4%
60～69歳(N=82) 75.0% 17.9% 7.1%
70歳以上(N=121) 72.9% 5.9% 2.5% 18.6%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

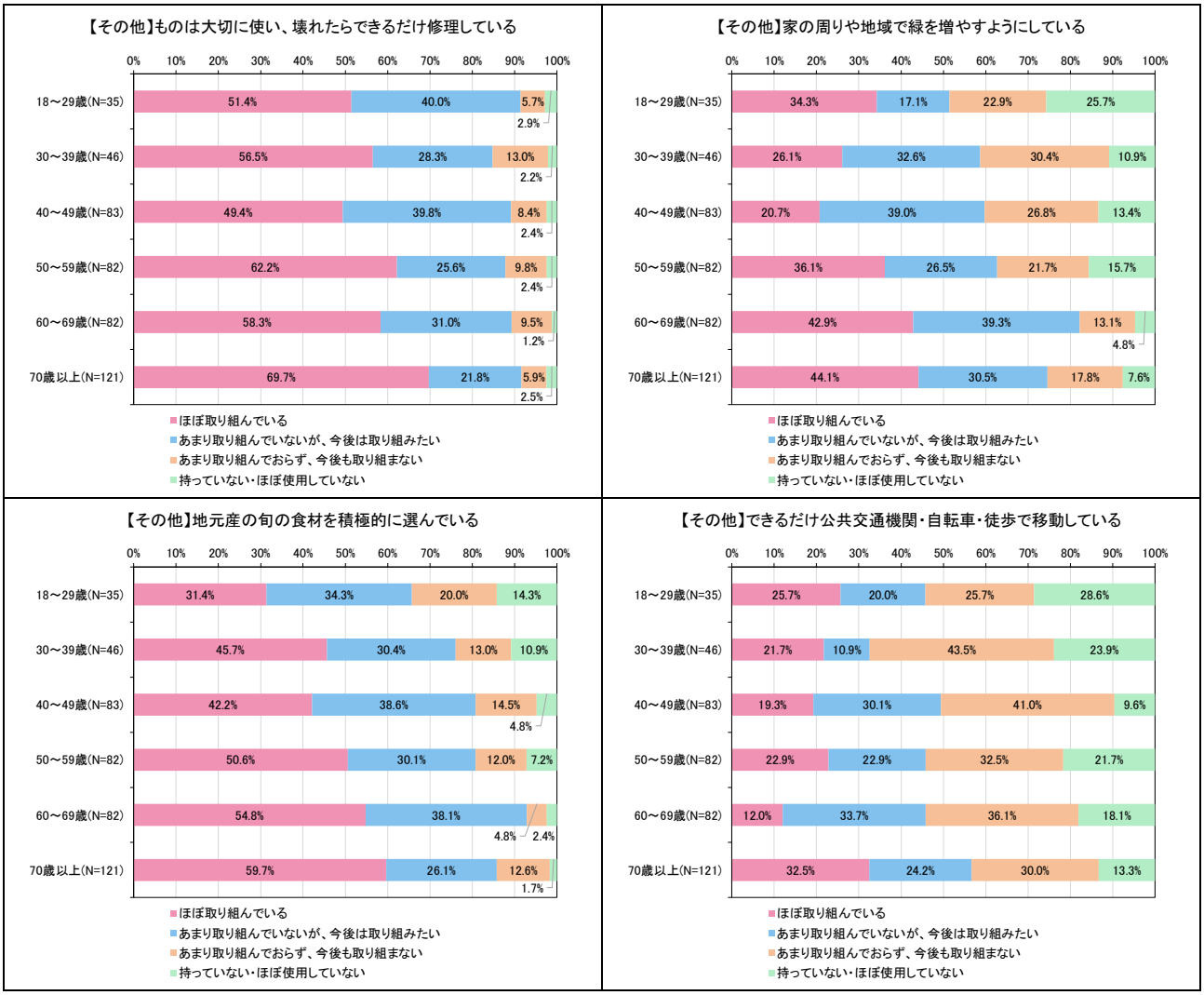

【自動車】信号で止まる間際には、早めにアクセルオフしている
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 71.4% 5.7% 2.9% 20.0%
30～39歳(N=46) 67.4% 17.4% 2.2% 13.0%
40～49歳(N=83) 75.9% 16.9% 3.6% 3.6%
50～59歳(N=82) 79.5% 10.8% 2.4% 7.2%
60～69歳(N=82) 77.4% 13.1% 1.2% 8.3%
70歳以上(N=121) 72.0% 7.6% 1.7% 18.6%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない


【自動車】アイドリングストップをしている
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 60.0% 8.6% 8.6% 22.9%
30～39歳(N=46) 50.0% 17.4% 8.7% 23.9%
40～49歳(N=83) 55.4% 15.7% 13.3% 15.7%
50～59歳(N=82) 55.4% 10.8% 13.3% 20.5%
60～69歳(N=82) 65.5% 10.7% 7.1% 16.7%
70歳以上(N=121) 51.7% 12.9% 6.9% 28.4%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない


【その他】食品ロス削減（食材の使い切りなど）に取り組んでいる
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 57.1% 37.1% 2.9% 2.9%
30～39歳(N=46) 63.0% 26.1% 10.9%
40～49歳(N=83) 59.8% 36.6% 3.7%
50～59歳(N=82) 69.9% 24.1% 1.2% 4.8%
60～69歳(N=82) 70.2% 26.2% 2.4% 1.2%
70歳以上(N=121) 71.4% 22.7% 4.2% 1.7%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない


【その他】クールビズ・ウォームビス、サステナブルファッションに取り組んでいる
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 34.3% 34.3% 5.7% 25.7%
30～39歳(N=46) 50.0% 21.7% 13.0% 15.2%
40～49歳(N=83) 53.0% 32.5% 9.6% 4.8%
50～59歳(N=82) 56.6% 22.9% 10.8% 9.6%
60～69歳(N=82) 47.6% 34.5% 11.9% 6.0%
70歳以上(N=121) 45.8% 34.2% 10.0% 10.0%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない

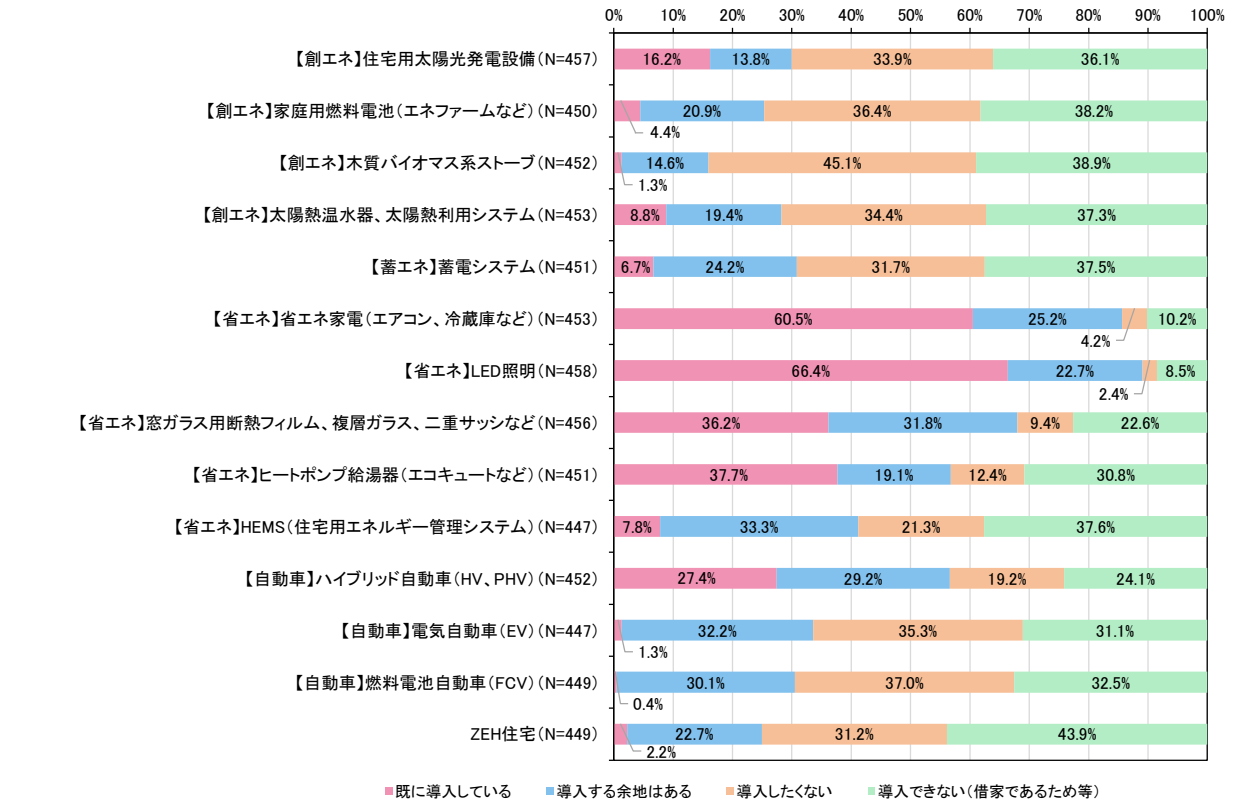

【その他】ごみはできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用している
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
18～29歳(N=35) 51.4% 37.1% 8.6% 2.9%
30～39歳(N=46) 54.3% 32.6% 13.0%
40～49歳(N=83) 55.4% 38.6% 6.0%
50～59歳(N=82) 72.3% 18.1% 7.2% 2.4%
60～69歳(N=82) 66.3% 32.5% 1.2%
70歳以上(N=121) 68.9% 22.7% 5.9% 2.5%
ほぼ取り組んでいる
あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい
あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない
持っていない・ほぼ使用していない



◆ 概ね年代が高くなるにつれ「ほぼ取り組んでいる」と回答した方の割合が高くなっているが、それ以外については概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問７　次の項目は、地球温暖化防止につながる設備の例です。
「現在の導入状況（予定）」にあてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。

地球温暖化防止につながる設備の導入状況



（その他、地球温暖化防止につながる設備（※回答内容を集約・整理している））
●まきストーブ　●床暖房、オール電化　●機密性、断熱性の高い戸建住宅　●マキタの充電式製品

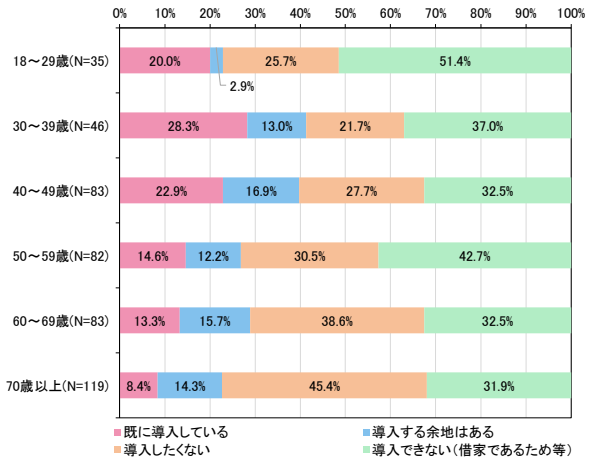
【全体結果】

- 「既に導入している」と回答した方の割合が最も高い項目は、「【省エネ】LED 照明」の 66.4%であり、次いで「【省エネ】省エネ家電（エアコン、冷蔵庫など）」の 60.5%、「ヒートポンプ給湯器（エコキュート）」の 37.7%である。
- 「導入できない」と回答した方を除いて、全省エネ機器と「【自動車】ハイブリッド自動車」は、「既に導入している」または「導入する余地はある」と回答した方の割合が６割以上を占めている。
- 一方、「導入できない」と回答した方を除くと、全創エネ機器及び蓄エネ機器、「【自動車】電気自動車」、「【自動車】燃料電池自動車」、「ZEH 住宅」は、「導入したくない」と回答した方の割合が５割以上を占めている。

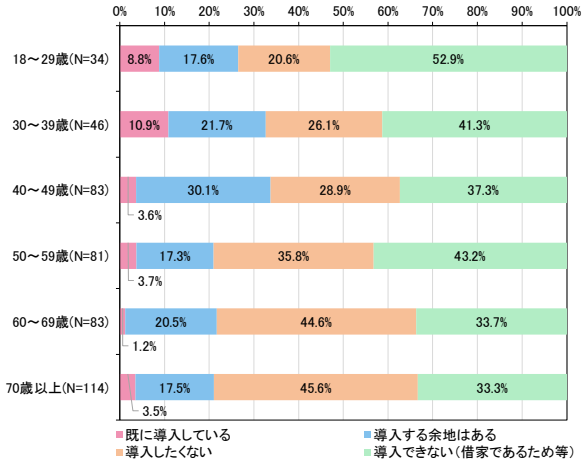
【属性別結果】

問７　地球温暖化防止につながる設備の導入状況〈年齢別〉

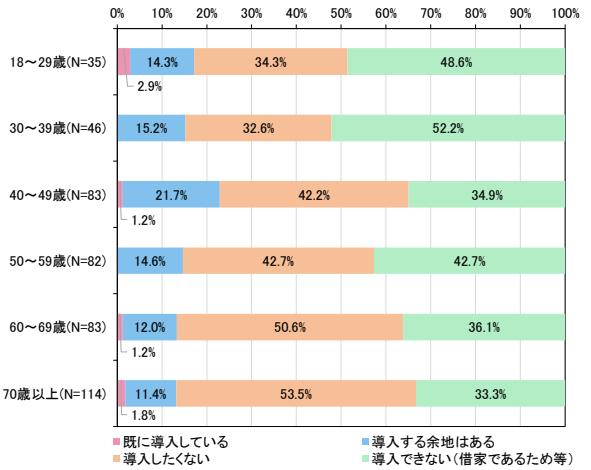
【創エネ】住宅用太陽光発電設備



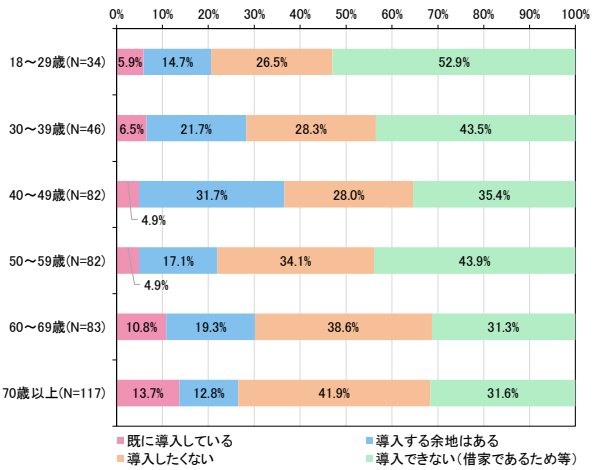
【創エネ】家庭用燃料電池（エネファームなど）



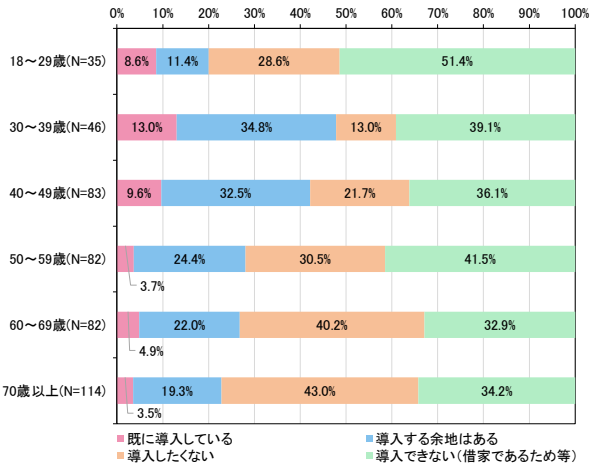
【創エネ】木質バイオマス系ストーブ



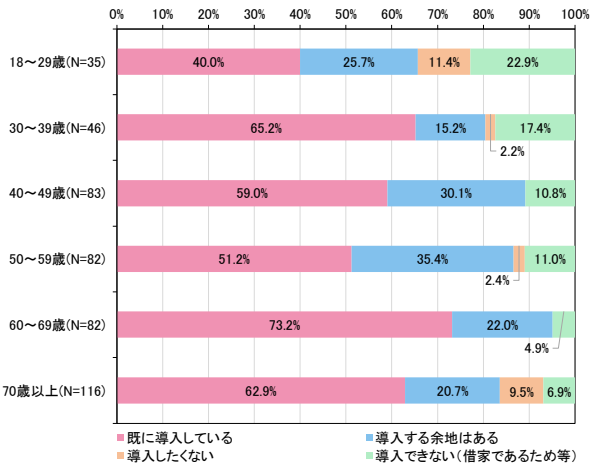
【創エネ】太陽熱温水器、太陽熱利用システム



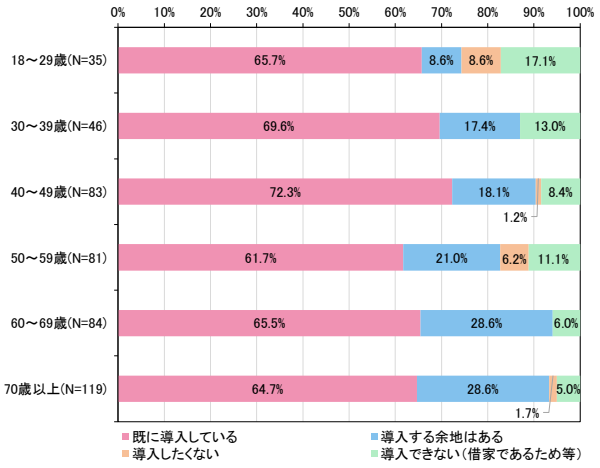
【蓄エネ】蓄電システム



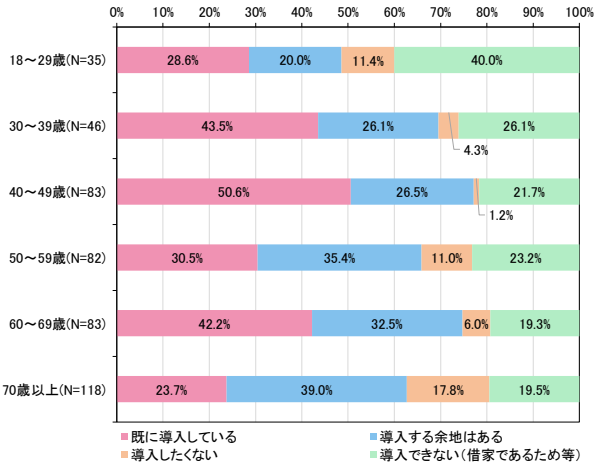
【省エネ】省エネ家電（エアコン、冷蔵庫など）



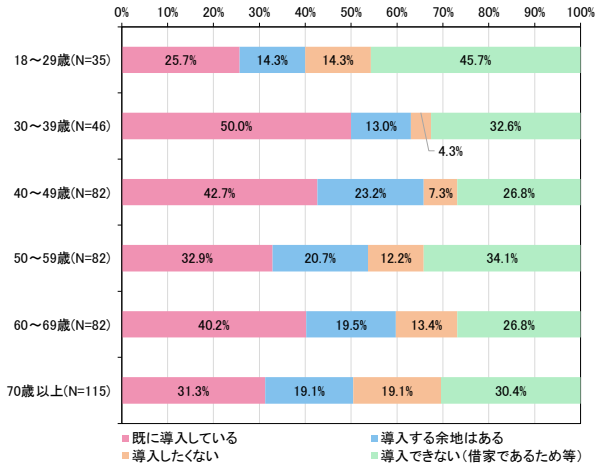
【省エネ】LED照明



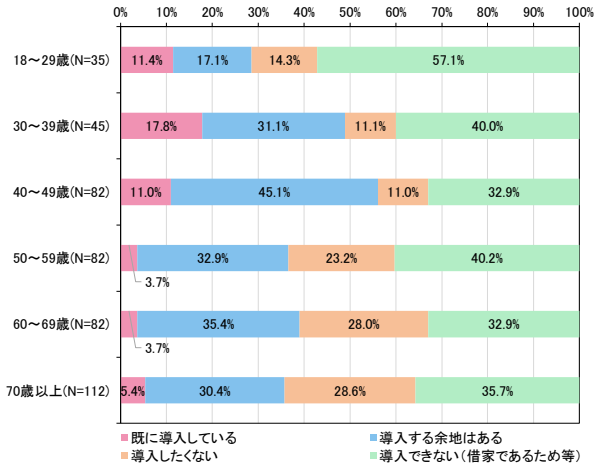
【省エネ】窓ガラス用断熱フィルム、複層ガラス、二重サッシなど



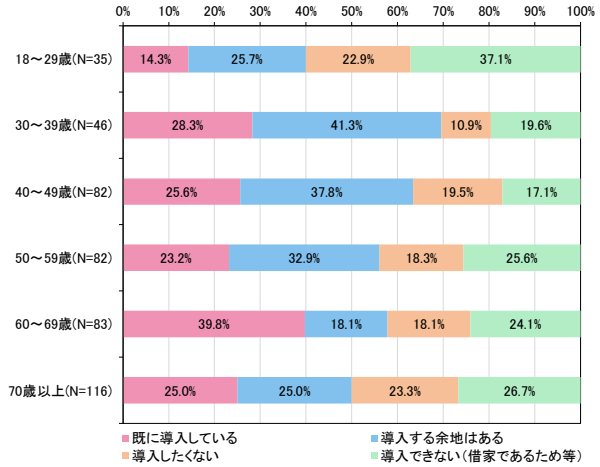
【省エネ】ヒートポンプ給湯器（エコキュートなど）



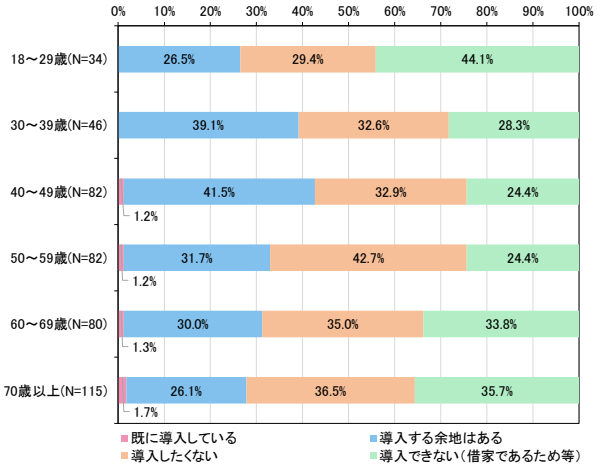
【省エネ】HEMS（住宅用エネルギー管理システム）

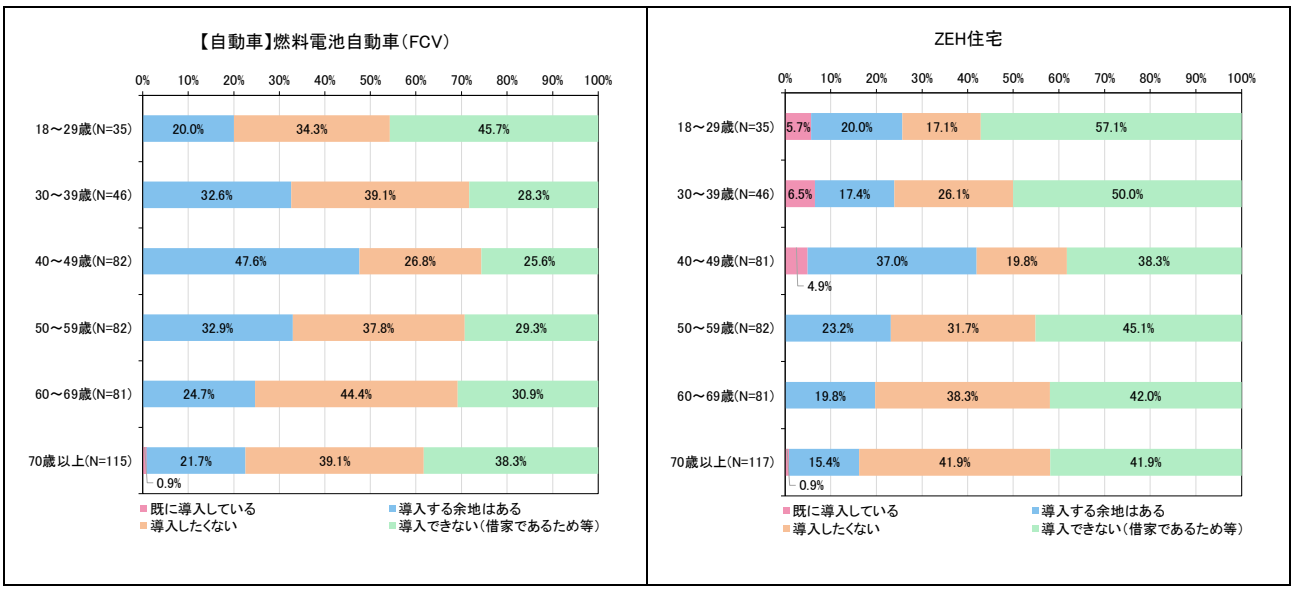


【自動車】ハイブリッド自動車（HV、PHV）



【自動車】電気自動車（EV）



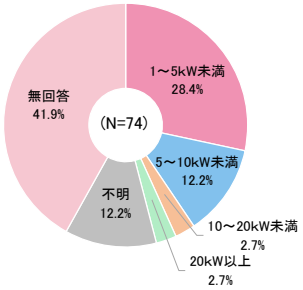


◆ 概ね年代が低いほど、「導入できない」と回答した方の割合が高い傾向が見られる。ただし、自動車に関しては、30 歳未満及び高齢者で「導入できない」と回答した方の割合が高い傾向が見られる。

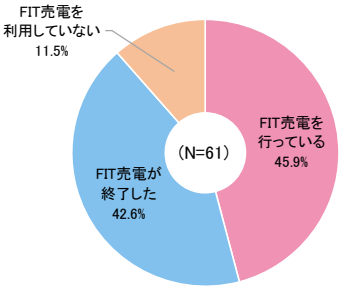
◆ 地球温暖化防止につながる設備は導入コストが必要となるため、概ね年代が高いほど「導入したくない」と回答した方の割合が高い傾向が見られる。

問８　問７で“住宅用太陽光発電設備”を「既に導入している」と回答した方にお聞きします。現在の太陽光発電の設備及び売電状況についてご回答ください。

設備概要（発電能力）



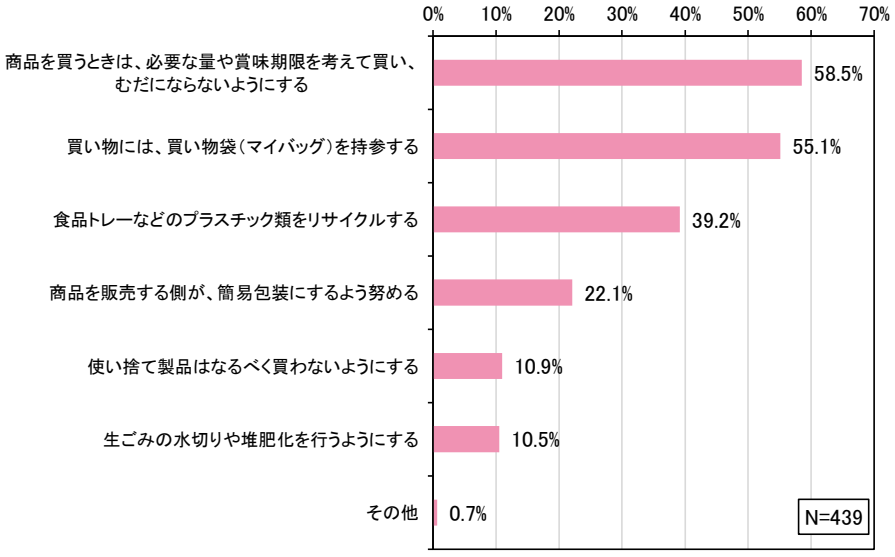
売電状況



【全体結果】

- 発電能力を回答した方の割合は、１～５kW が最も高く 28.4%であり、次いで５～10kW 及び不明の 12.2%である。
- 売電状況について、FIT 売電を行っている方と FIT 売電が終了した方の割合が、ほぼ同程度である。

問９　家庭から出るごみを減らすためには、どのようにすればよいと思いますか。特に力を入れるべきだと思うものを２つ選んで番号に○印をつけてください。



（その他）
●廃品も容易に循環できるような環境づくり（粗大ごみをゴミにしないように）　●外食推奨

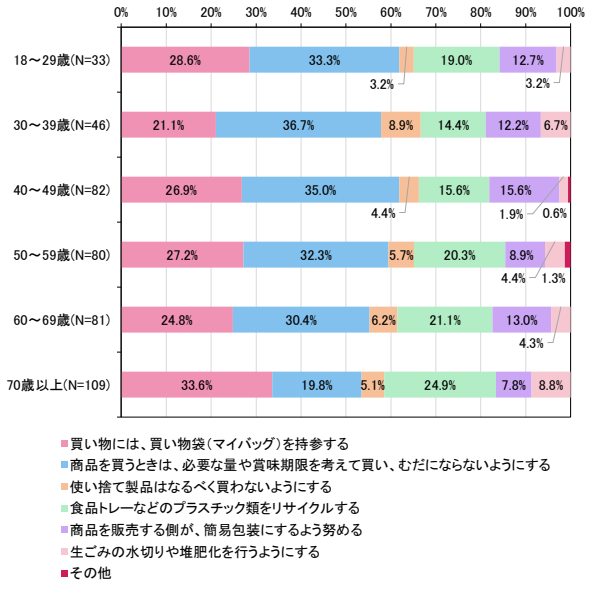
【全体結果】

- 家庭ごみの削減の取組としては、「商品を買うときは、必要な量や賞味期限を考えて買い、むだにならないようにする」と回答した方の割合が最も高く 58.5%であり、次いで「買い物には、買い物袋（マイバッグ）を持参する」が 55.1%、「食品トレーなどのプラスチック類をリサイクルする」が 39.2%である。

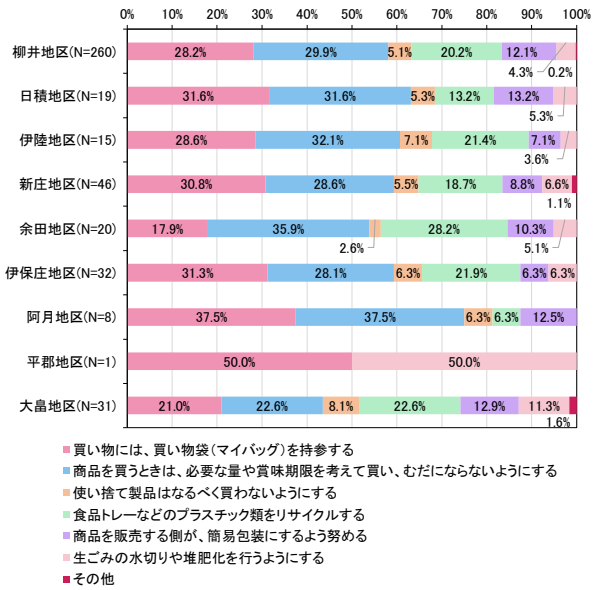
【属性別結果】

問９　家庭ごみ削減のための工夫

〈年齢別〉



〈住所別〉

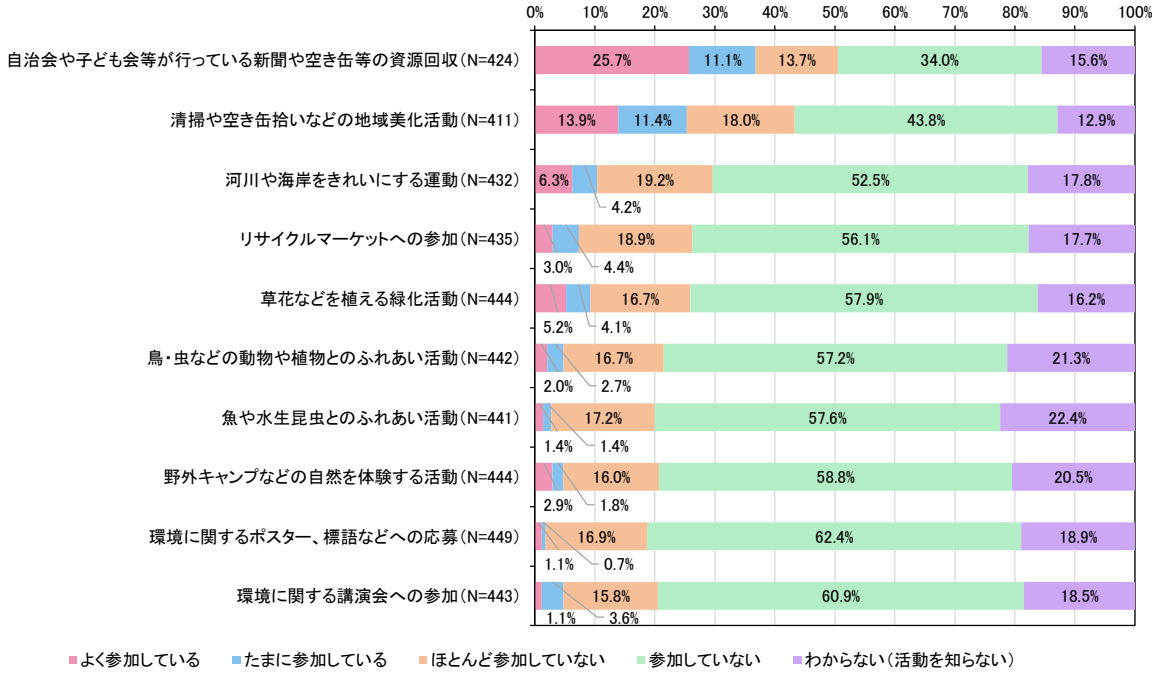


◆　70 歳以上の方を除いて、いずれの年代もほぼ同様の傾向が見られる。70 歳以上では、「買い物には、買い物袋（マイバッグ）を持参する」と回答した方の割合が最も高い傾向であった。

◆　居住地区別の重要度について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問 10　あなたは次のような環境に関する地域や団体での活動に参加していますか。
項目ごとにあてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。

環境に関する地域や団体での活動参加状況



（その他の活動（※回答内容を集約・整理している））
●溝の掃除　●自治会草刈り　●職場での緑化　●一般社団法人の理事として環境保全に関する活動

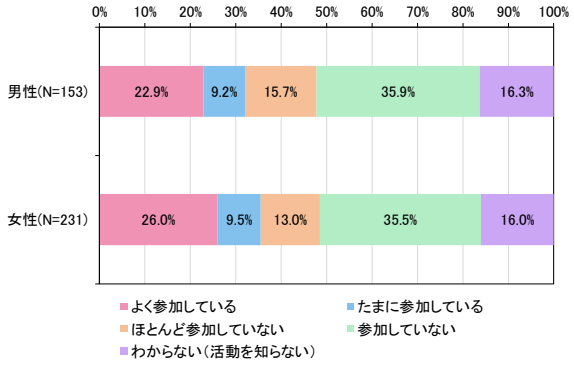
【全体結果】

- 「よく参加している」と回答した方の割合が最も高い活動は、「自治会や子ども会等が行っている新聞や空き缶等の資源回収」の 25.7%であり、次いで「清掃や空き缶拾いなどの地域美化活動」の 13.9%、「河川や海岸をきれいにする運動」の 6.3%である。
- 一方、「参加していない」と回答した方の割合が最も高い活動は、「環境に関するポスター、標語などへの応募」の 62.4%であり、次いで「環境に関する講演会への参加」の 60.9%、「野外キャンプなどの自然を体験する活動」の 58.8%である。
- いずれの活動も「参加していない」と回答した方の割合が最も高い。

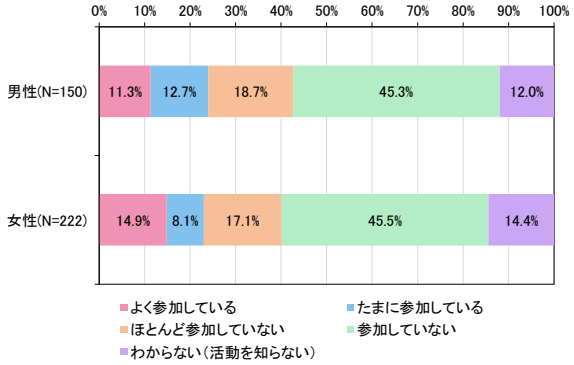
【属性別結果】

問 10　環境に関する地域や団体での活動参加状況〈性別〉

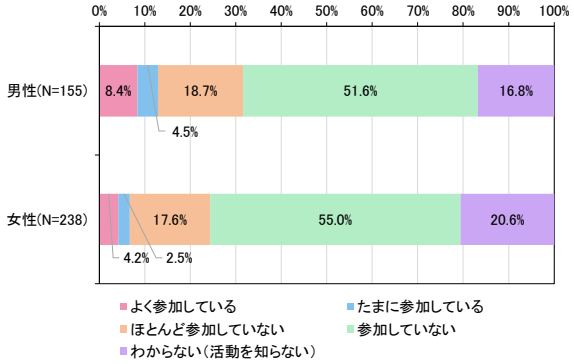
自治会や子ども会等が行っている新聞や空き缶等の資源回収



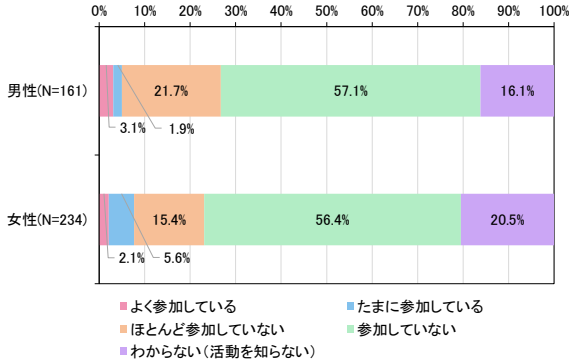
清掃や空き缶拾いなどの地域美化活動



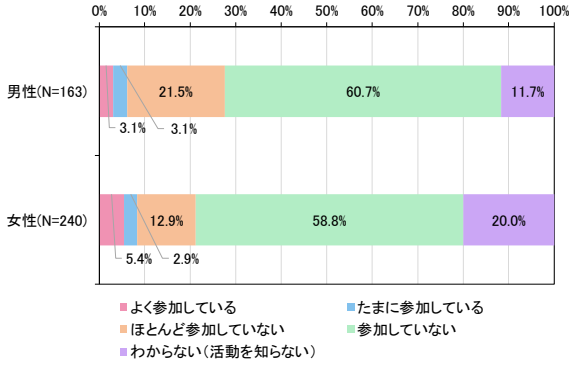
河川や海岸をきれいにする運動



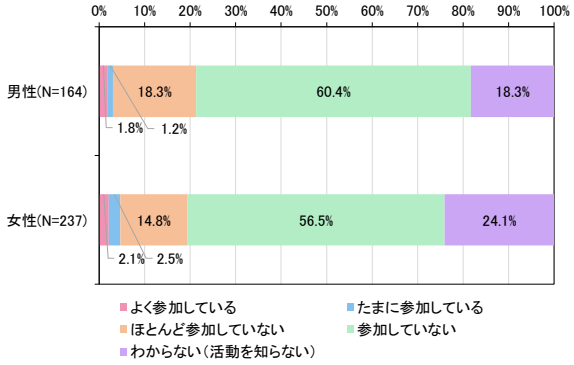
リサイクルマーケットへの参加



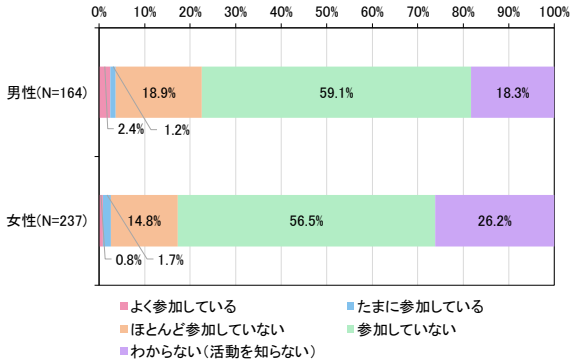
草花などを植える緑化活動



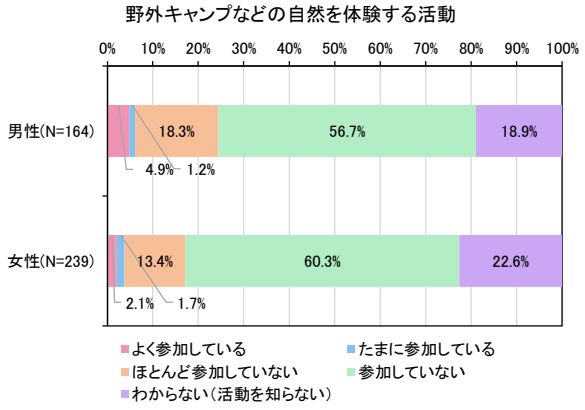
鳥・虫などの動物や植物とのふれあい活動

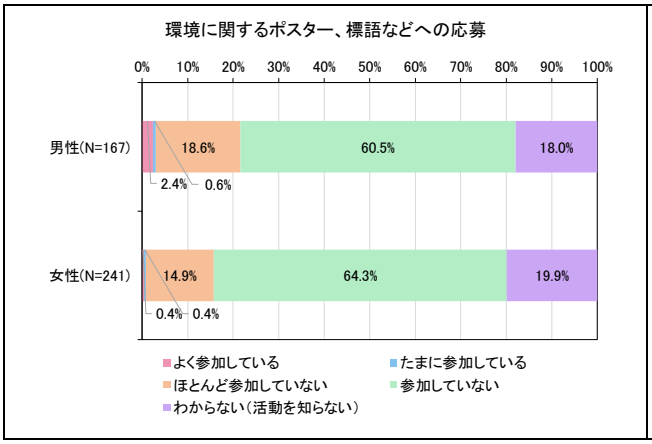


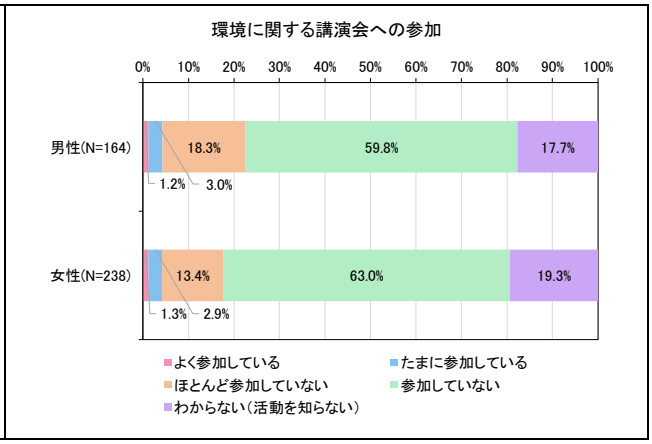
魚や水生昆虫とのふれあい活動



野外キャンプなどの自然を体験する活動

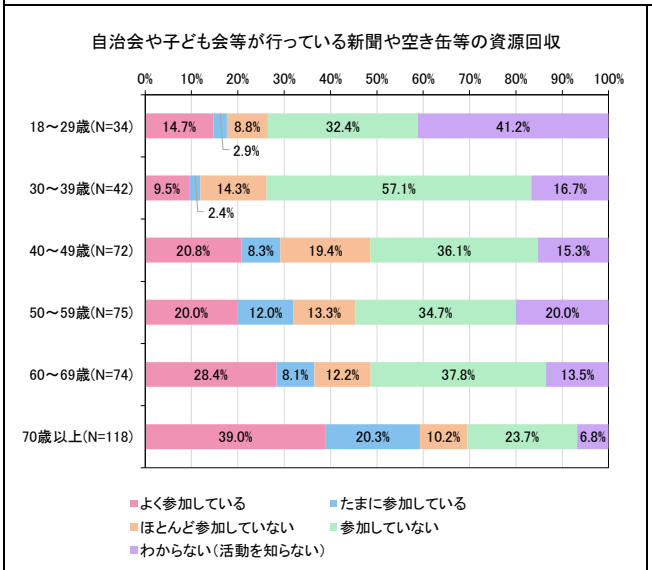


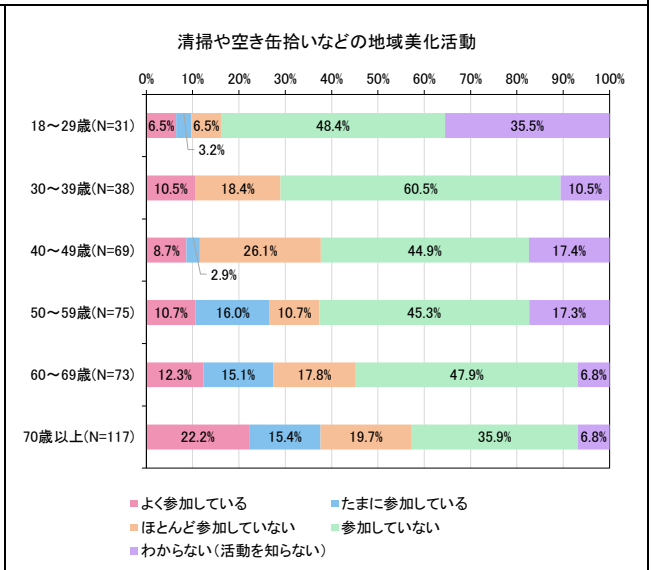


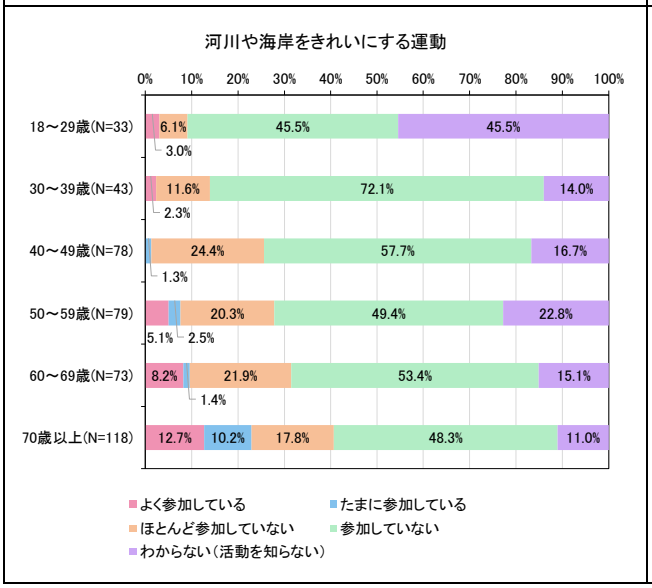


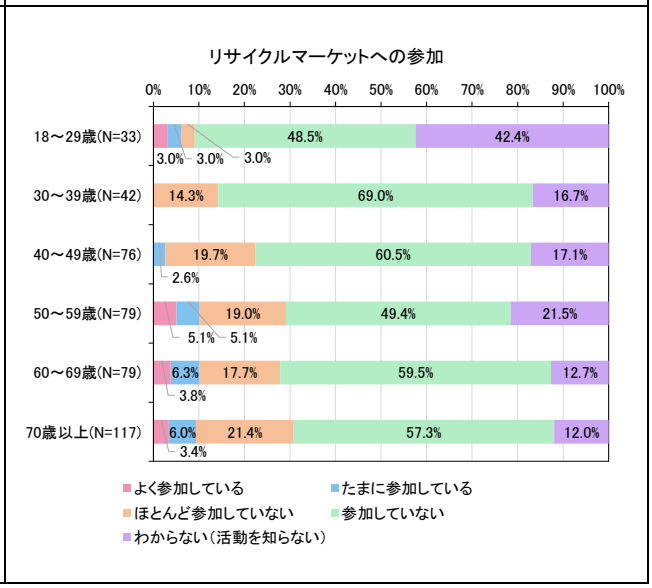
◆ 性別による環境に関する活動への参加状況について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

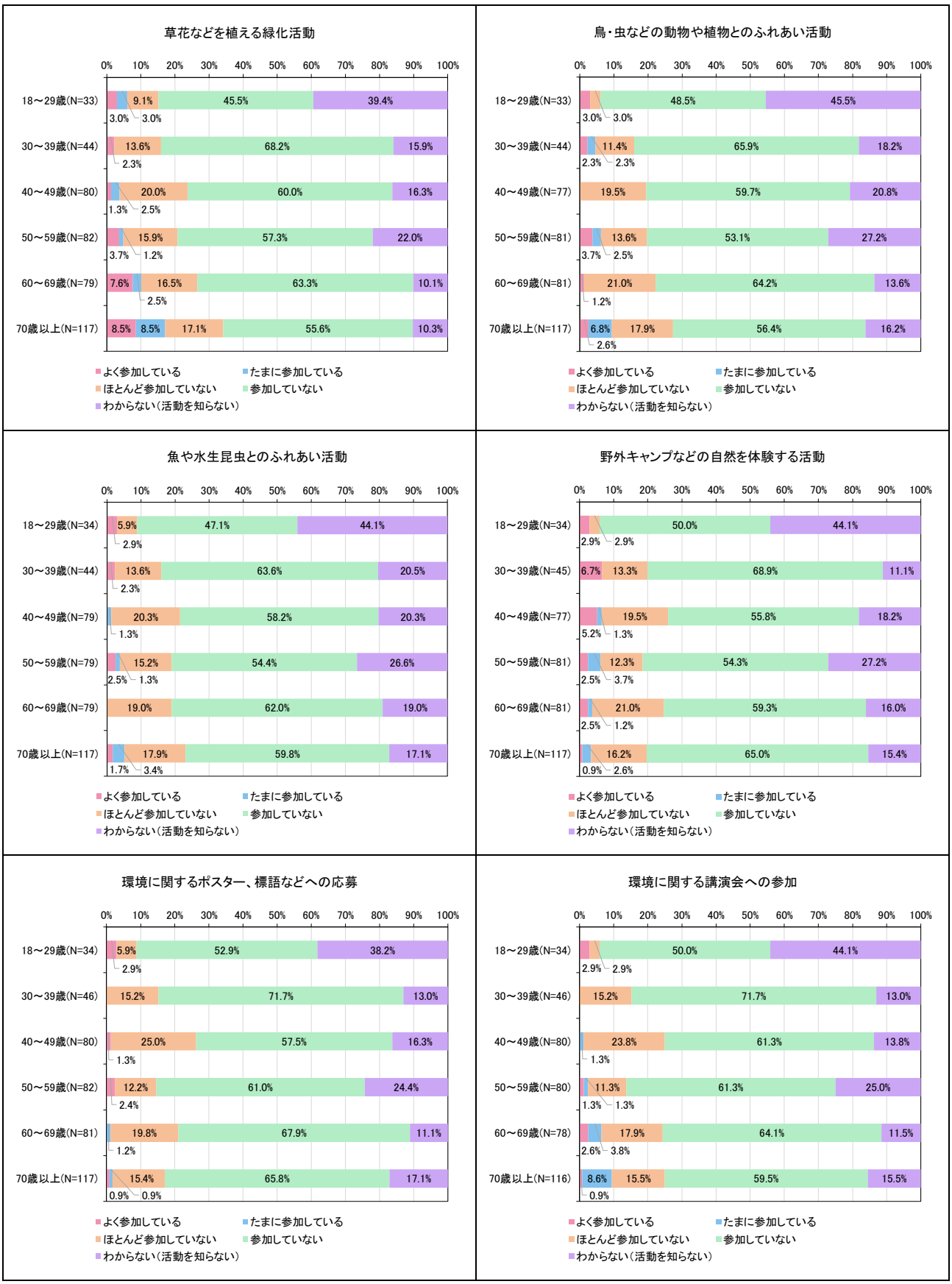
問 10　環境に関する地域や団体での活動参加状況〈年齢別〉







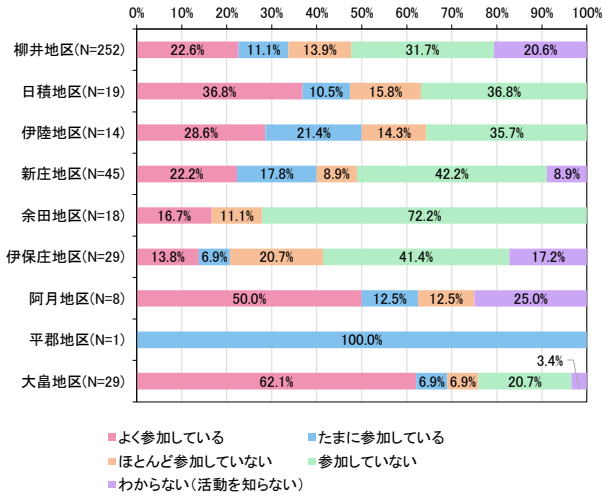




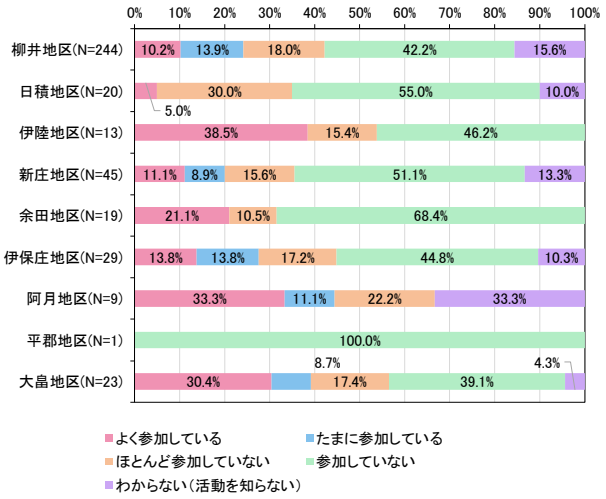
◆ 概ね年代が高いほど、環境に関する活動への参加割合が高い状況である。ただし、「野外キャンプなどの自然を体験する活動」に関しては、30～50 歳代の方の参加割合が高くなっており、子育て世代であるためと考えられる。

問 10　環境に関する地域や団体での活動参加状況〈住所別〉

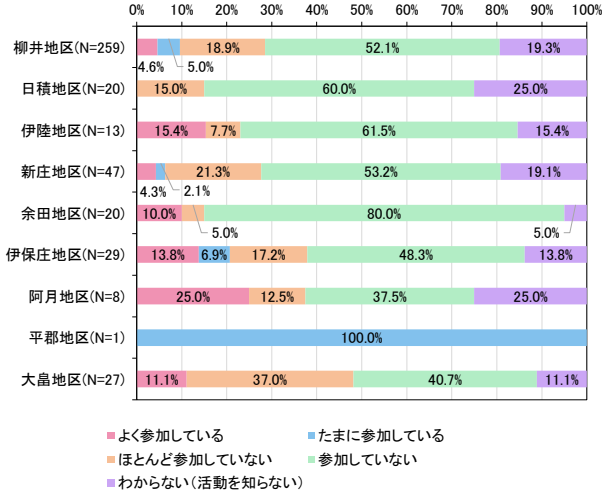
自治会や子ども会等が行っている新聞や空き缶等の資源回収



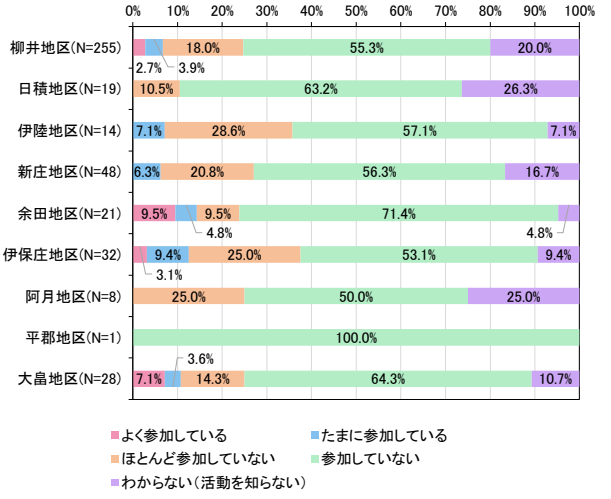
清掃や空き缶拾いなどの地域美化活動



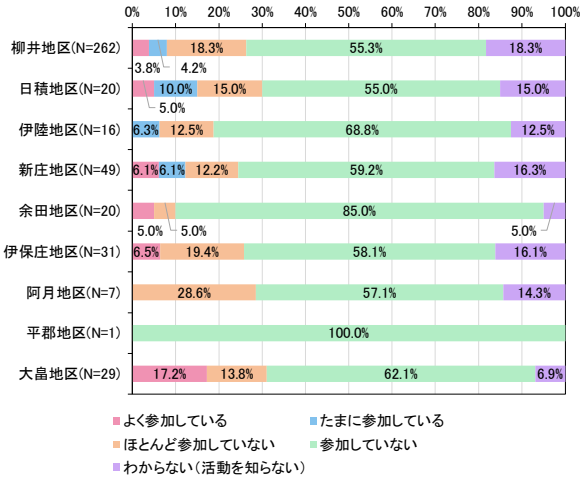
河川や海岸をきれいにする運動



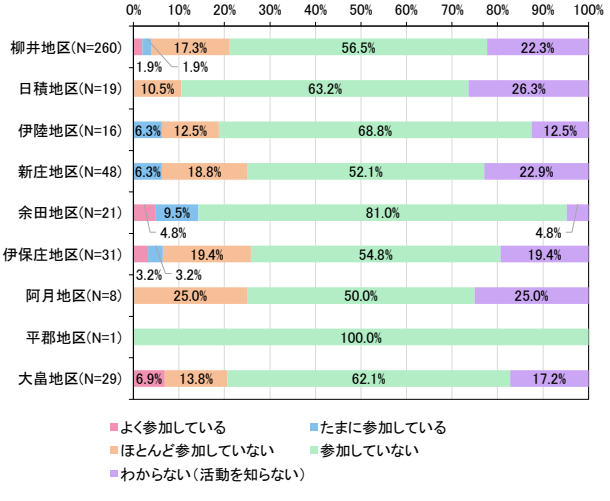
リサイクルマーケットへの参加

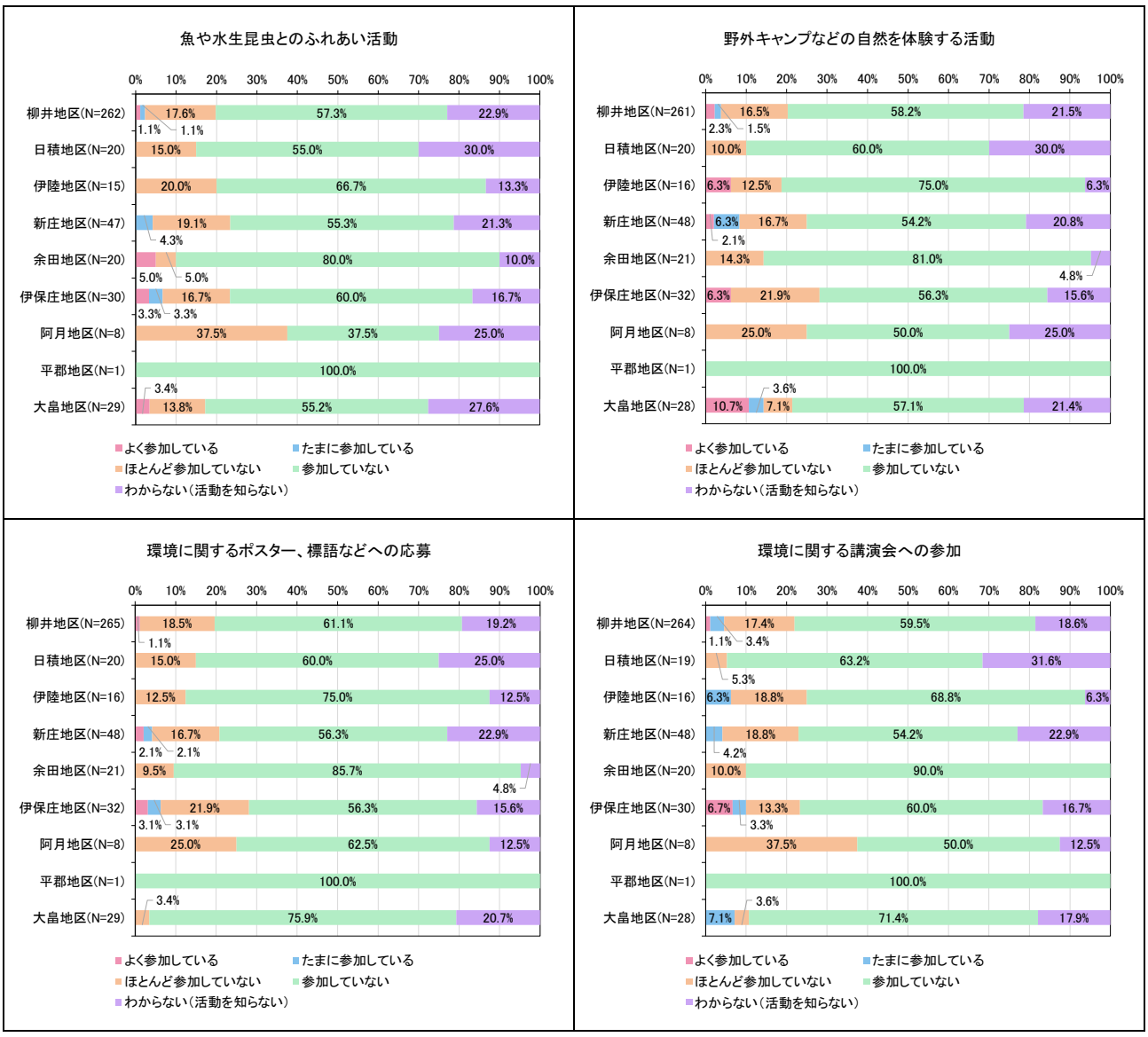


草花などを植える緑化活動



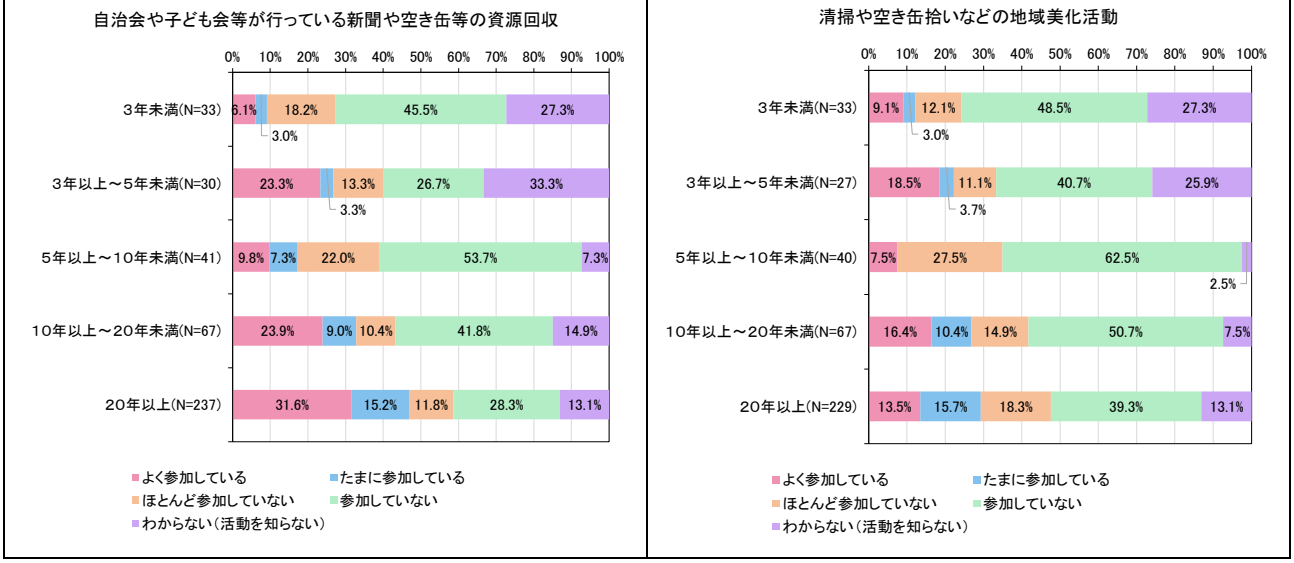
鳥・虫などの動物や植物とのふれあい活動

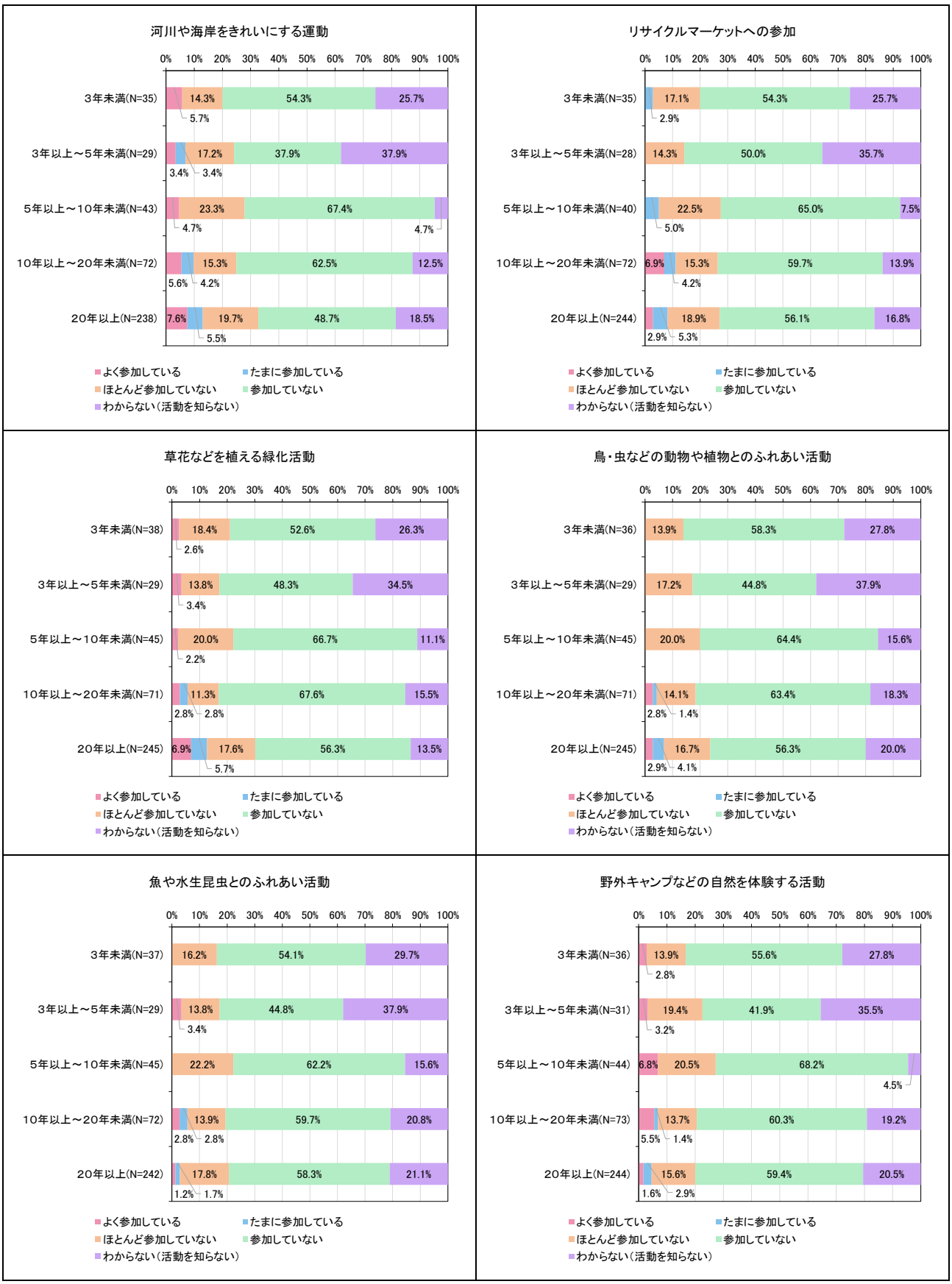


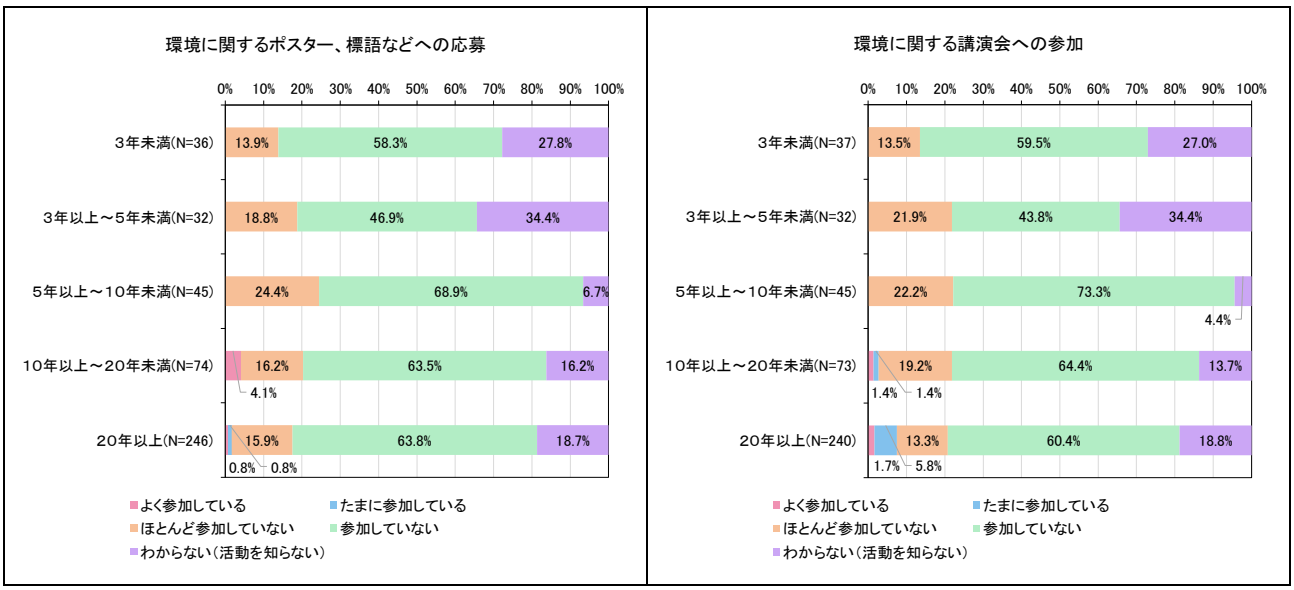


◆ 住所別について、資源回収や地域美化活動では差が見られるが、その他の活動では大きな違いは見られなかった。

問 10　環境に関する地域や団体での活動参加状況〈住居年数別〉



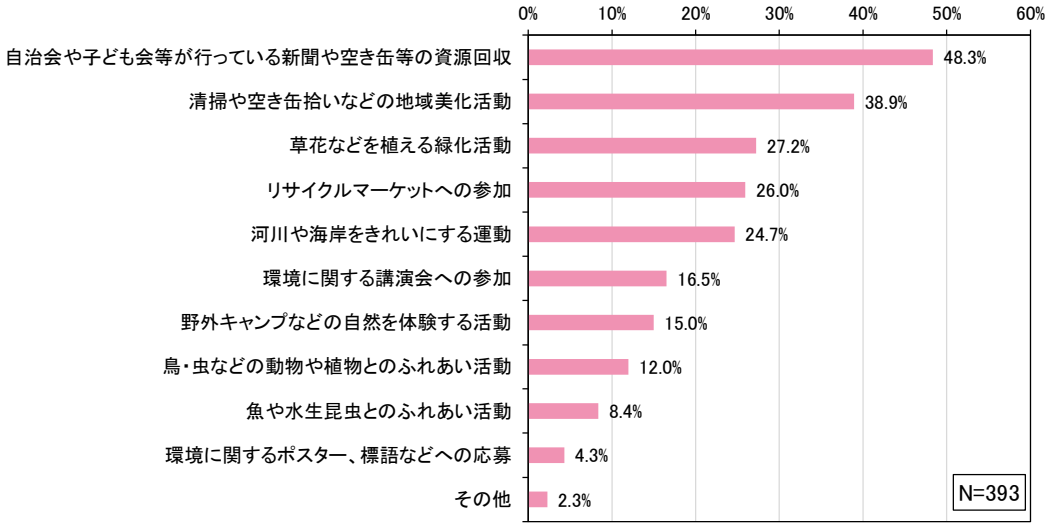

河川や海岸をきれいにする運動
3年未満(N=35) 14.3% 54.3% 25.7% 5.7%
3年以上～5年未満(N=29) 17.2% 37.9% 37.9% 3.4% 3.4%
5年以上～10年未満(N=43) 23.3% 67.4% 4.7% 4.7%
10年以上～20年未満(N=72) 15.3% 62.5% 12.5% 5.6% 4.2%
20年以上(N=238) 7.6% 19.7% 48.7% 18.5% 5.5%
リサイクルマーケットへの参加
3年未満(N=35) 17.1% 54.3% 25.7% 2.9%
3年以上～5年未満(N=28) 14.3% 50.0% 35.7%
5年以上～10年未満(N=40) 22.5% 65.0% 7.5% 5.0%
10年以上～20年未満(N=72) 6.9% 15.3% 59.7% 13.9% 4.2%
20年以上(N=244) 18.9% 56.1% 16.8% 2.9% 5.3%
草花などを植える緑化活動
3年未満(N=38) 18.4% 52.6% 26.3% 2.6%
3年以上～5年未満(N=29) 13.8% 48.3% 34.5% 3.4%
5年以上～10年未満(N=45) 20.0% 66.7% 11.1% 2.2%
10年以上～20年未満(N=71) 11.3% 67.6% 15.5% 2.8% 2.8%
20年以上(N=245) 6.9% 17.6% 56.3% 13.5% 5.7%
鳥・虫などの動物や植物とのふれあい活動
3年未満(N=36) 13.9% 58.3% 27.8%
3年以上～5年未満(N=29) 17.2% 44.8% 37.9%
5年以上～10年未満(N=45) 20.0% 64.4% 15.6%
10年以上～20年未満(N=71) 14.1% 63.4% 18.3% 2.8% 1.4%
20年以上(N=245) 16.7% 56.3% 20.0% 2.9% 4.1%
魚や水生昆虫とのふれあい活動
3年未満(N=37) 16.2% 54.1% 29.7%
3年以上～5年未満(N=29) 13.8% 44.8% 37.9% 3.4%
5年以上～10年未満(N=45) 22.2% 62.2% 15.6%
10年以上～20年未満(N=72) 13.9% 59.7% 20.8% 2.8% 2.8%
20年以上(N=242) 17.8% 58.3% 21.1% 1.2% 1.7%
野外キャンプなどの自然を体験する活動
3年未満(N=36) 13.9% 55.6% 27.8% 2.8%
3年以上～5年未満(N=31) 19.4% 41.9% 35.5% 3.2%
5年以上～10年未満(N=44) 6.8% 20.5% 68.2% 4.5%
10年以上～20年未満(N=73) 13.7% 60.3% 19.2% 5.5% 1.4%
20年以上(N=244) 15.6% 59.4% 20.5% 1.6% 2.9%
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
よく参加している
たまに参加している
ほとんど参加していない
参加していない
わからない（活動を知らない）



◆ 住居年数別について、概ね居住年数が高いほど、環境に関する活動への参加割合が高い状況である。ただし、資源回収や地域美化活動に関しては、居住年数が５年未満の方の参加割合も高い状況である。

◆ 一方、居住年数５年未満の方では「わからない（活動を知らない）」と回答した方の割合が高い傾向が見られる。

問 11　問 10 の環境保全活動の中で、あなたが今後も続けたい、あるいは今後参加してみたいと思うものはどれですか。
あてはまるものを全て選んで番号に○印をつけてください。



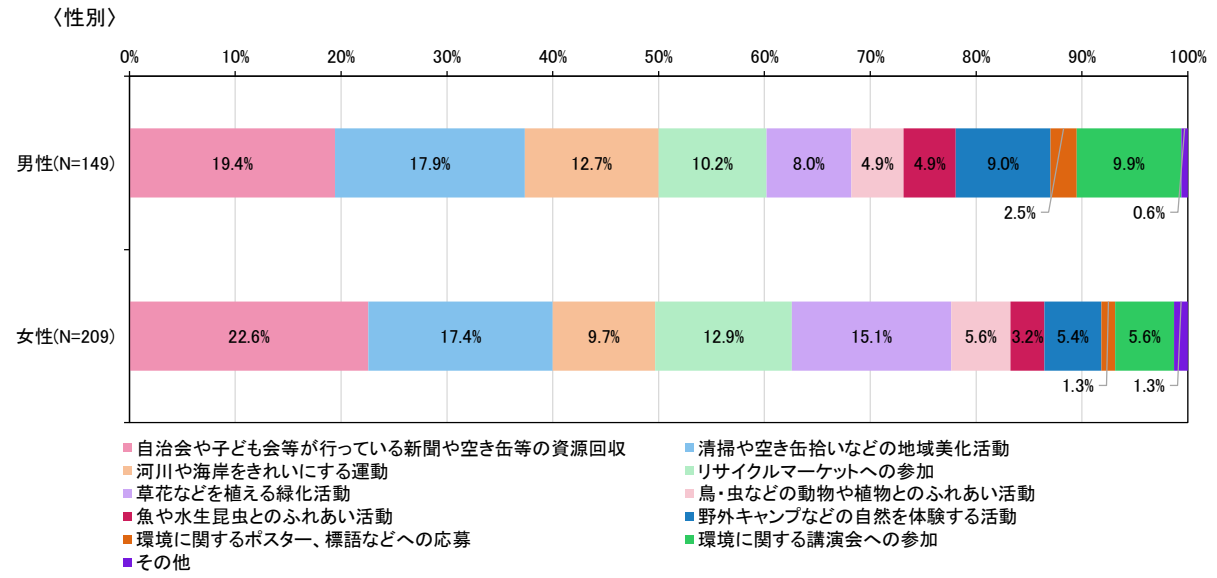
（その他の活動（回答内容を集約・整理している））
●リサイクル回収ボックスの適切な利用　●自治会の清掃　●団体にとらわれず、自主的個人活動
●移民問題、治安維持、外国人による土地売買の斡旋

【全体結果】

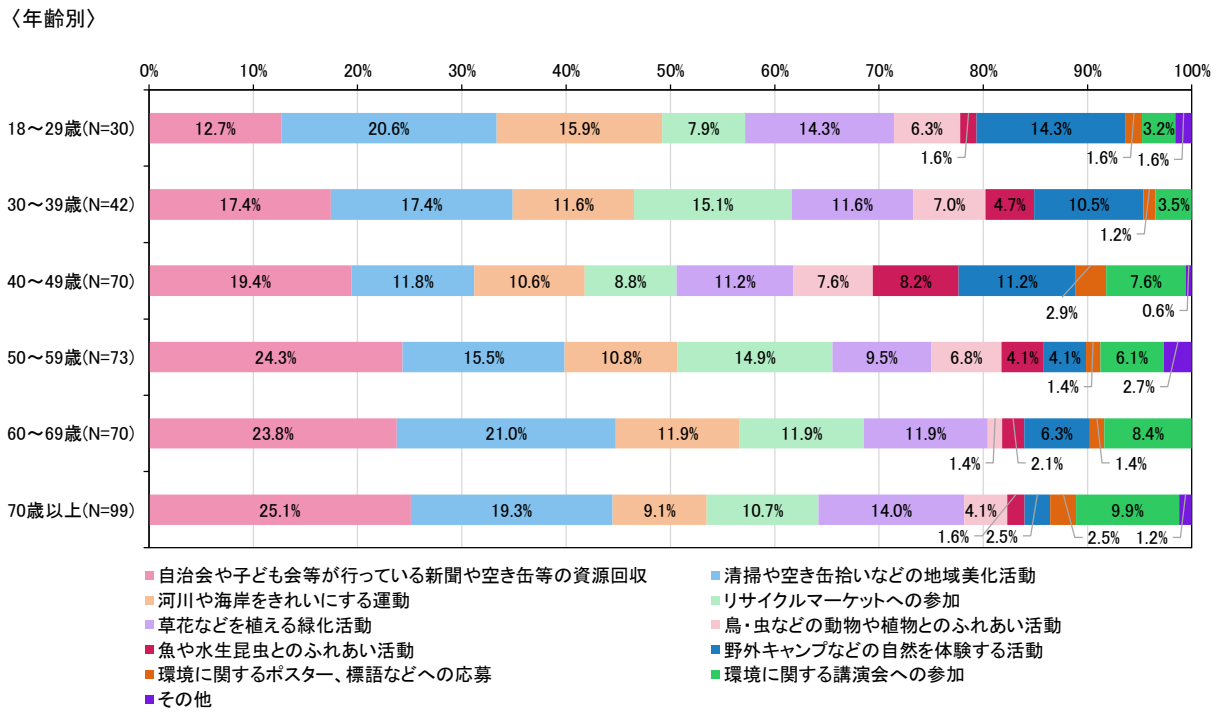
◆ 「自治会や子ども会等が行っている新聞や空き缶等の資源回収」と回答した方の割合が最も高く 48.3%であり、次いで「清掃や空き缶拾いなどの地域美化活動」の 38.9%、「草花などを植える緑化活動」の 27.2%である。

【属性別結果】

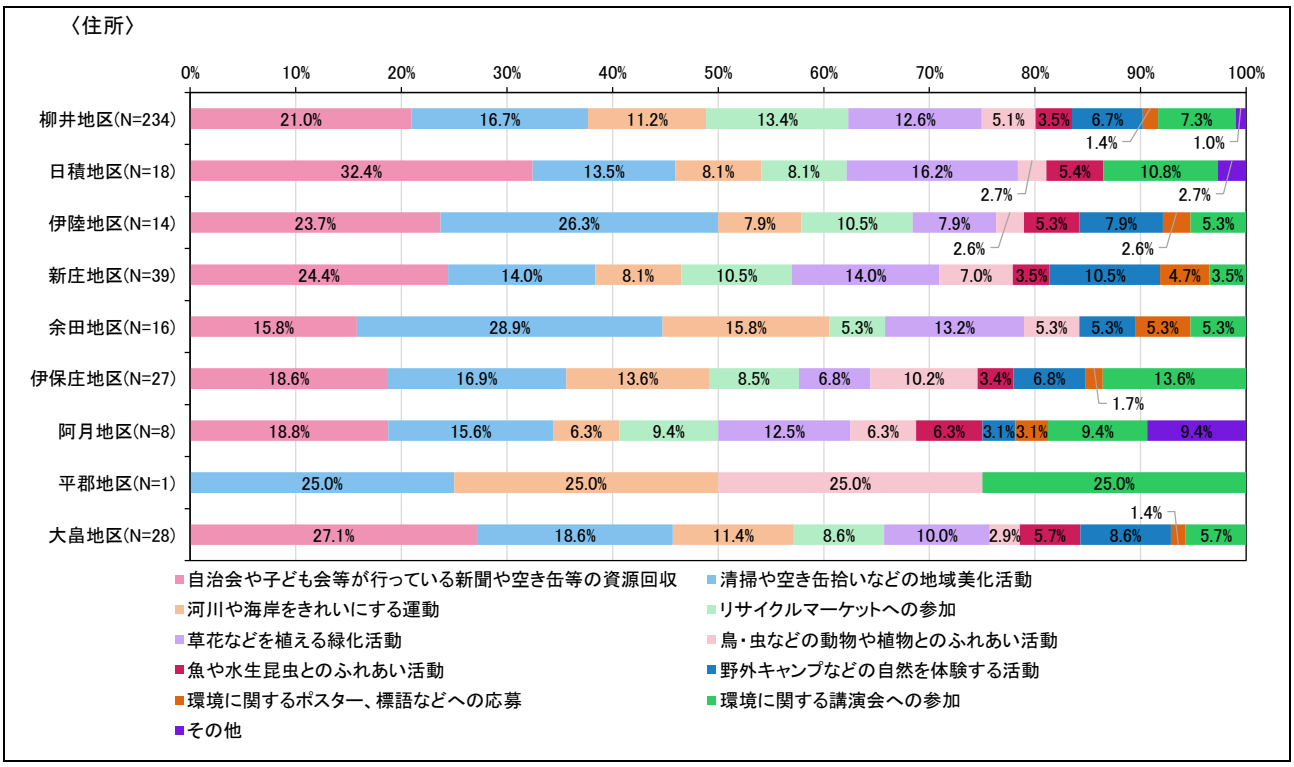
問 11　今後も続けたい、あるいは参加したい活動



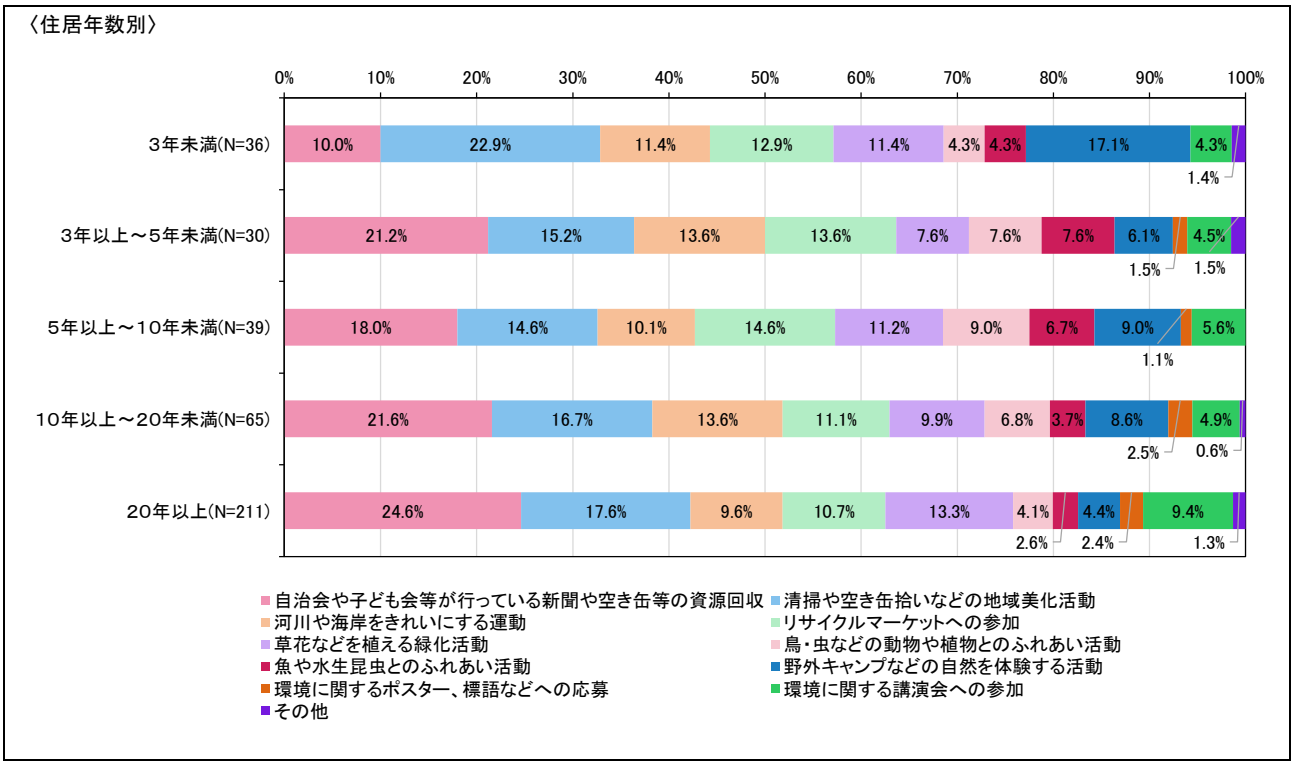
◆　男性は女性より、「野外キャンプなどの自然を体験する活動」、「環境に関する講演会への参加」と回答した方の割合が高くなり、女性は男性より、「草花などを植える緑化活動」と回答した方の割合が高くなる傾向が見られる。



◆　年代が高くなるにつれて、「自治会や子ども会等が行っている新聞や空き缶等の資源回収」、「環境に関する講演会への参加」と回答した方の割合が高くなり、年代が低くなるにつれて、「野外キャンプなどの自然を体験する活動」と回答した方の割合が高くなる傾向が見られる。

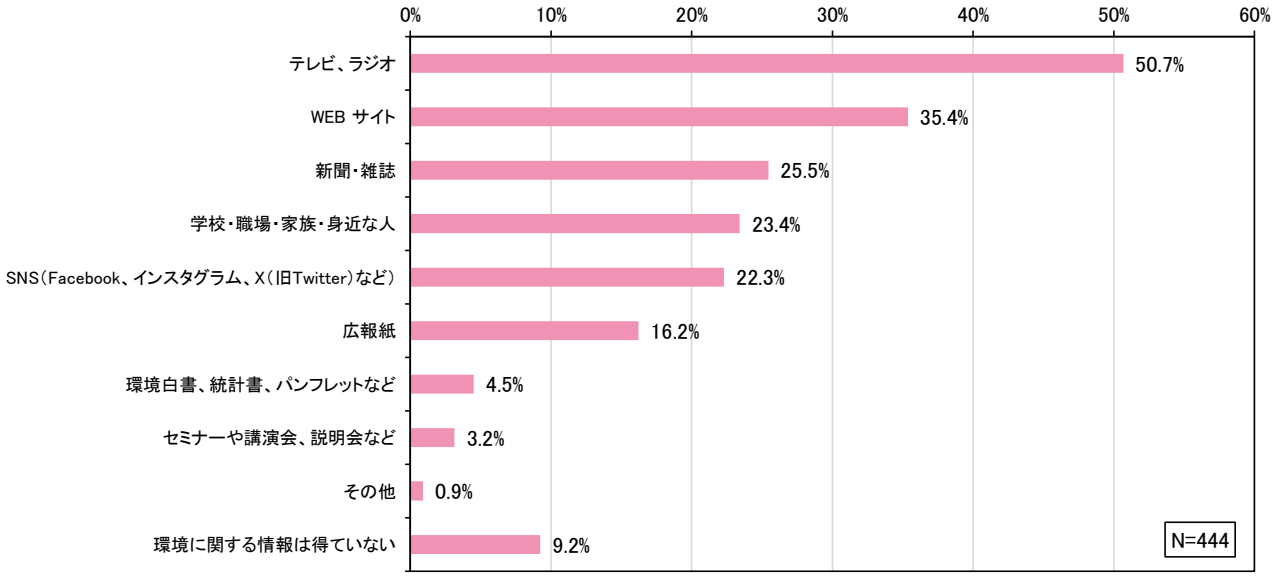


◆ 居住地区別について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。



◆ 住居年数別について、年代別と同様、居住年数が高くなるにつれて、「自治会や子ども会等が行っている新聞や空き缶等の資源回収」、「環境に関する講演会への参加」と回答した方の割合が高くなり、居住年数が短くなるにつれて、「野外キャンプなどの自然を体験する活動」と回答した方の割合が高くなる傾向が見られる。

問 12　あなたは環境に関する情報をどこから得ていますか。
　　あてはまるものを全て選んで番号に〇印をつけてください。



（具体な内容（※回答内容を集約・整理している））
【テレビ、ラジオ】
●CM　●情報番組　●環境に関するテーマをもとに作られた番組
【WEB サイト】
●You Tube　●検索エンジン（Yahoo!、Google）　●web ニュース　●掲示板サイト　●政府機関 HP
【広報誌】
●広報やない　●回覧板　●グリーン・エージ
【環境白書、統計書、パンフレットなど】
●各種パンフレット
【その他】
●あらゆる分野をとりあげた文学作品、エッセイ、詩、俳句、音楽　●日経平均等から算出
●これといった決まった情報源はない　●学術論文、研究成果　●樹木医関連

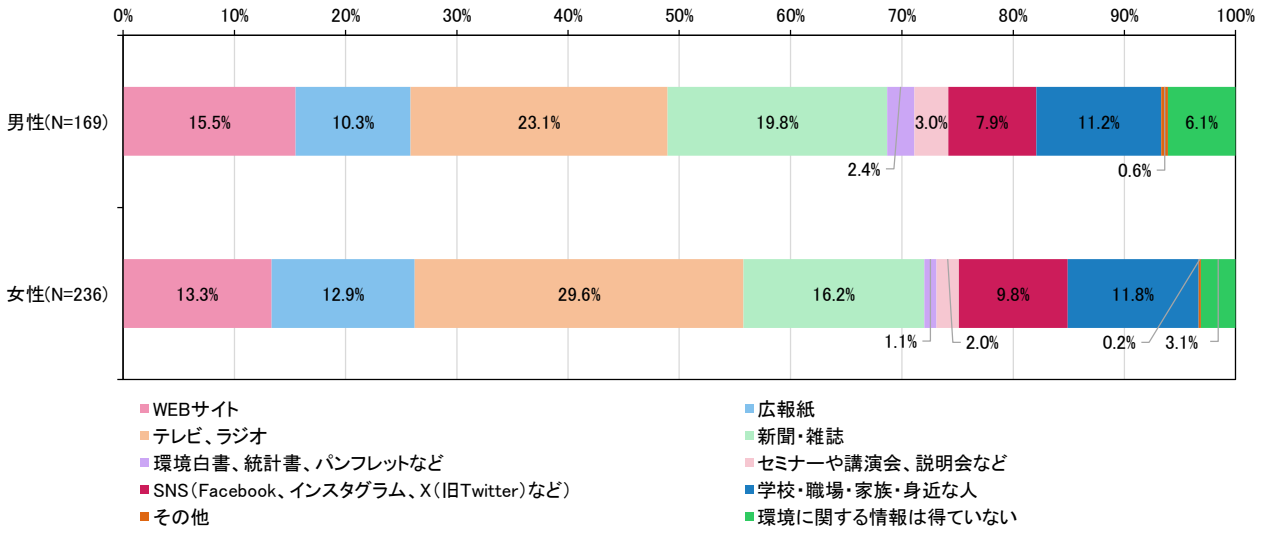
【全体結果】

- 「テレビ・ラジオ」と回答した方の割合が 50.7％と最も高く、次いで「WEB サイト」が 35.4％、「新聞・雑誌」が 25.5％である。
- 一方、「環境に関する情報は得ていない」と回答した方の割合が約１割占めている。

【属性別結果】

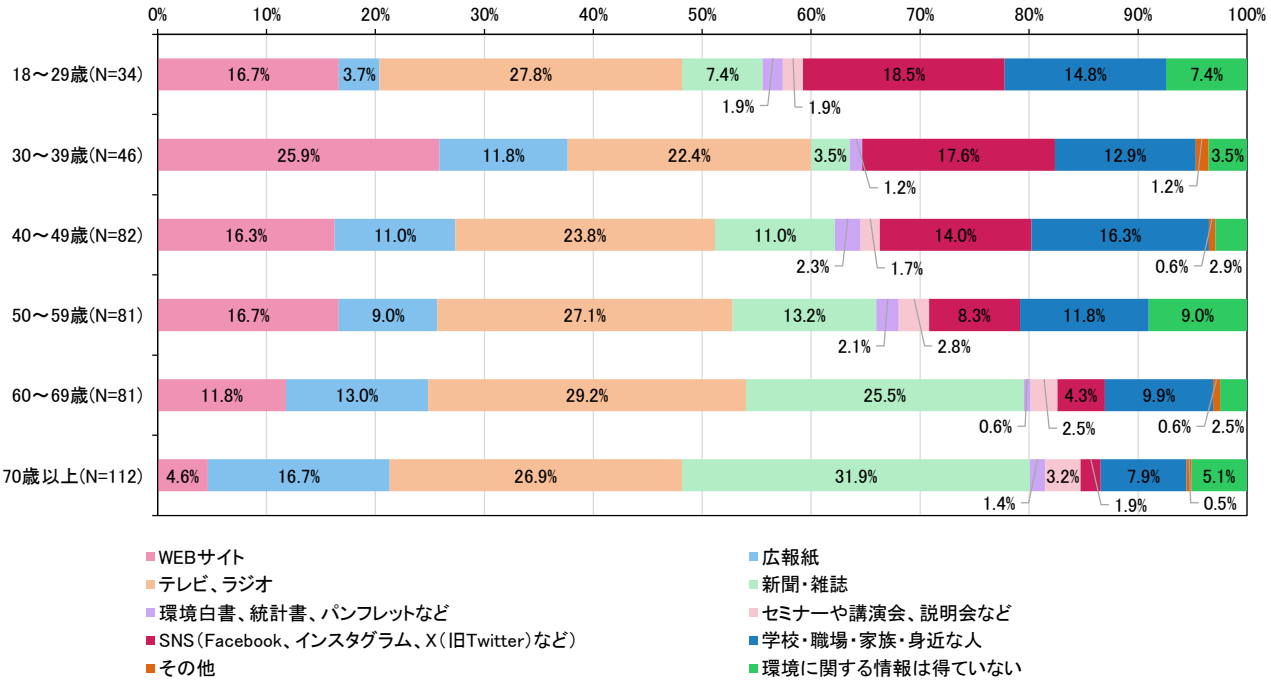
問 12　環境に関する情報の入手先について

〈性別〉



◆　性別について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

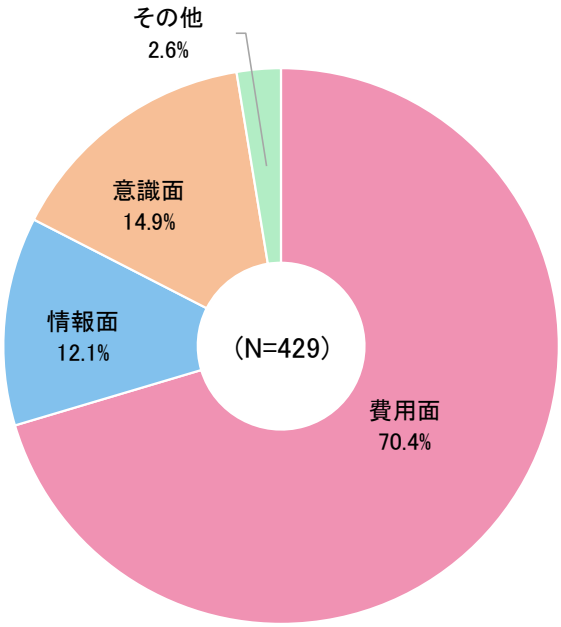
〈年齢別〉



◆　年代が高いほど、「広報紙」及び「テレビ、ラジオ」、「新聞・雑誌」と回答した方の割合が高くなる傾向が見られる。

◆　一方、年代が低いほど、「WEB サイト」及び「SNS」、「学校・職場・家族・身近な人」と回答した方の割合が高くなる傾向が見られる。

問 13　あなたが家庭で環境にやさしい行動を実践する場合、課題となることは何ですか。
最もあてはまるものを１つ選んで番号に○印をつけてください。



（その他（※回答内容を集約・整理している））
●体力面　●草刈り　●野良猫への餌やり　●正確な情報の選択　●時間

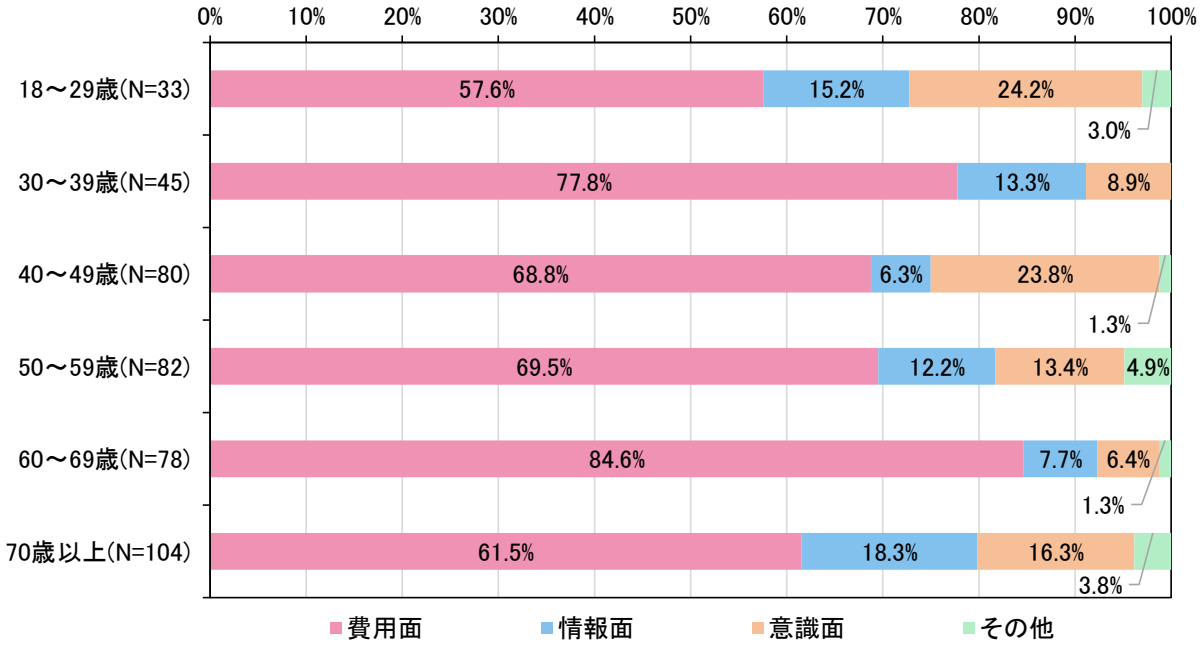
【全体結果】

◆　「費用面」と回答した方の割合が 70.4%と最も高く、次いで「意識面」の 14.9%である。

【属性別結果】

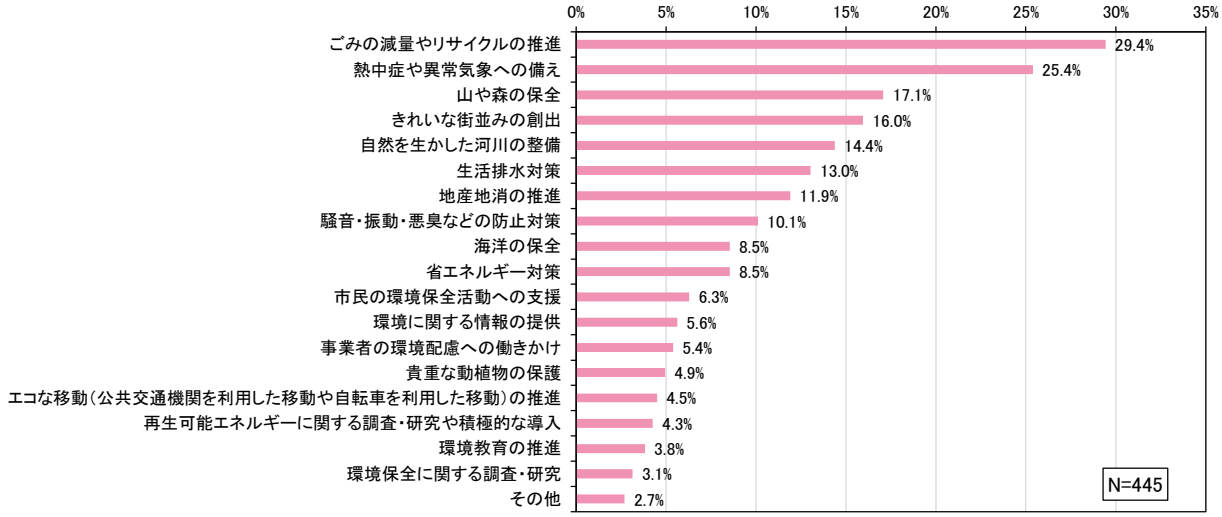
問 13　環境にやさしい行動を実践するための課題

〈年齢別〉



◆　30～39 歳を除く 60 歳未満の方は、「情報面」より「意識面」が課題と考えている方が多い。

問 14　柳井市では、市民・事業者の皆様と環境の保全を推進していくために、必要となる施策を検討しています。
次の施策の中からあなたが特に重要だと思うものを２つ選んで番号に〇印をつけてください。



（その他（※回答内容を集約・整理している））
●空家問題　●ごみのポイすて防止　●脱炭素設備を賃貸物件へ導入　●賑わいのあるまちづくり
●野良猫対策　●上下水道対策　●野焼きの防止　●省エネ家電や電気自動車などの購入補助
●安全な自転車走行ができるよう路肩の雑草除去　●公共交通機関への転換促進

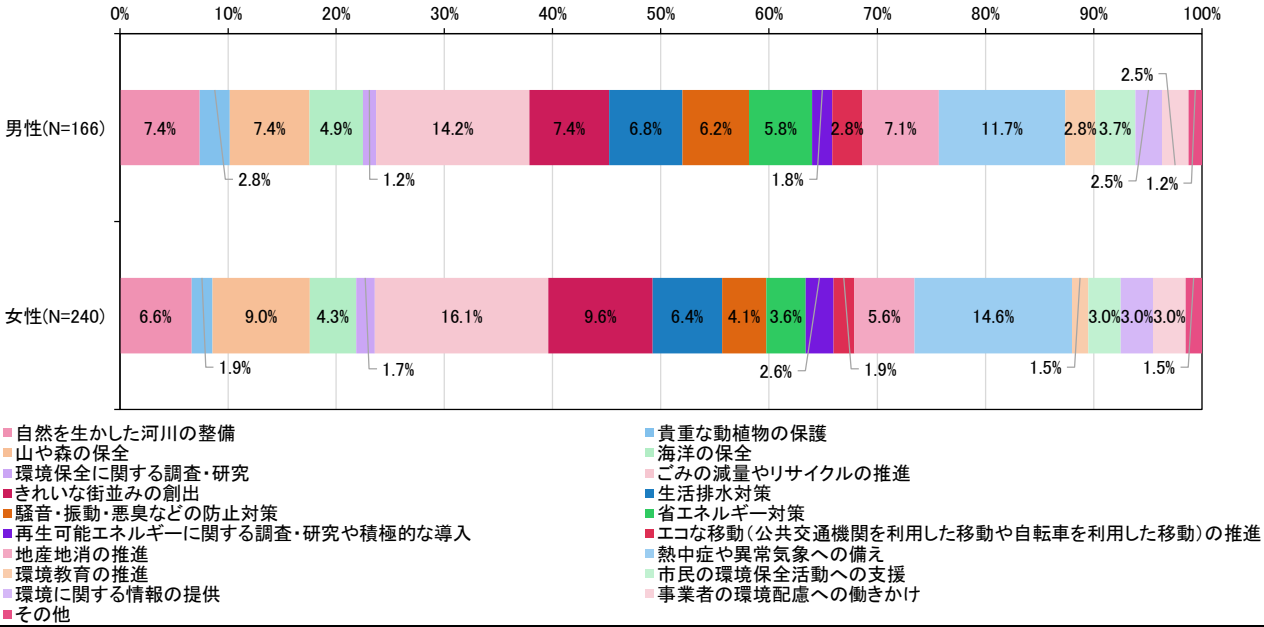
【全体結果】

◆　「ごみの減量やリサイクルの推進」と回答した方の割合が 29.4%と最も高く、次いで「熱中症や異常気象への備え」が 25.4%、「山や森の保全」が 17.1%である。

【属性別結果】

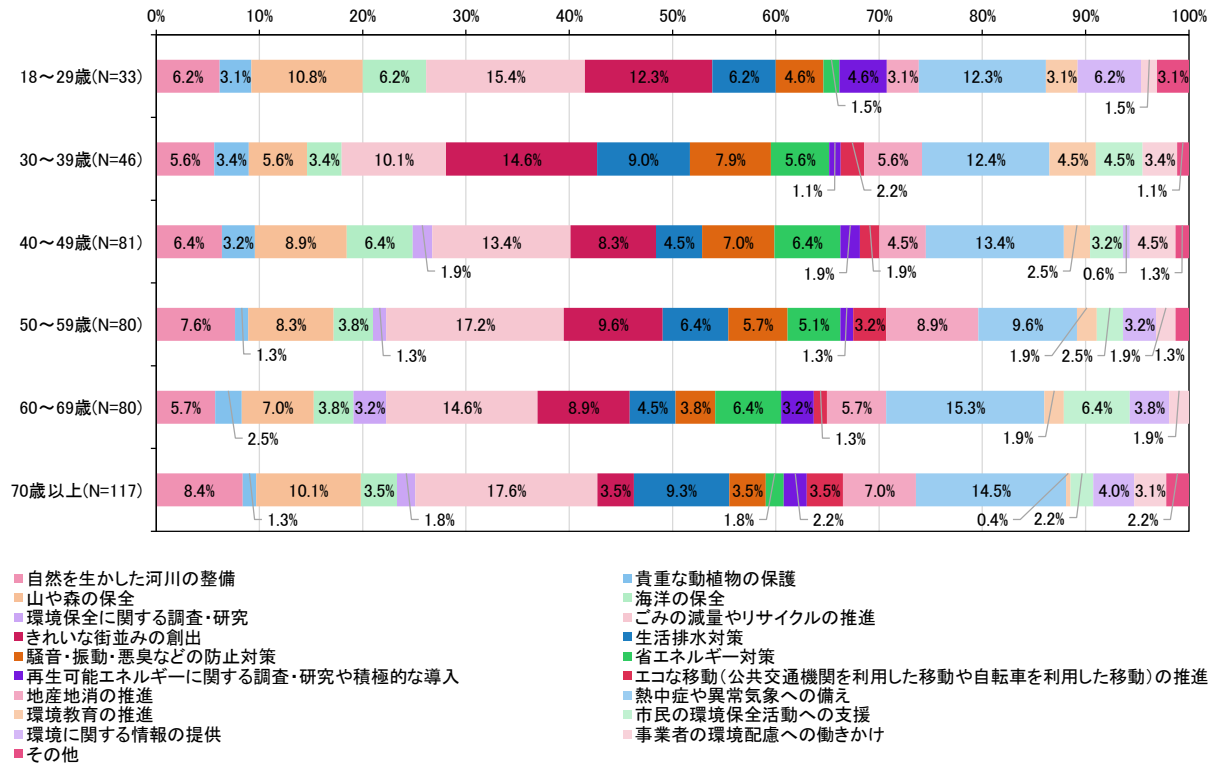
問 14　重要だと思われる施策

〈性別〉



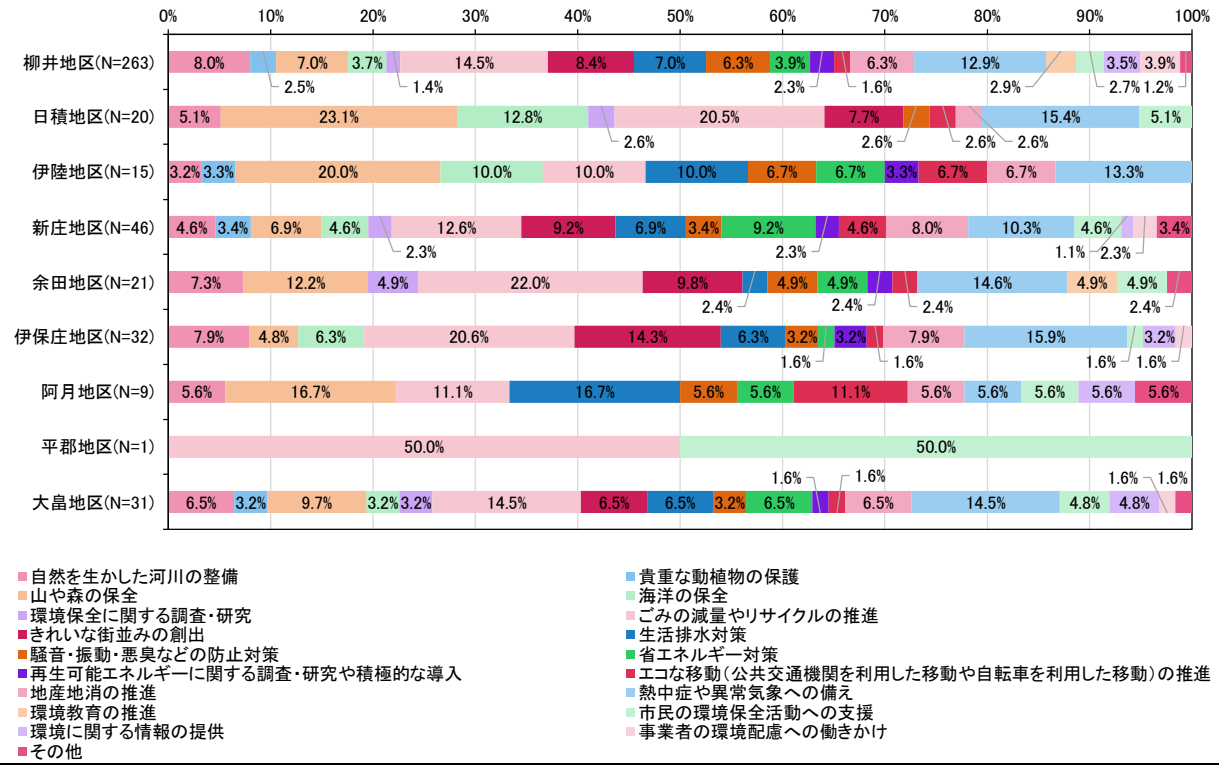
◆　性別について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

〈年齢別〉



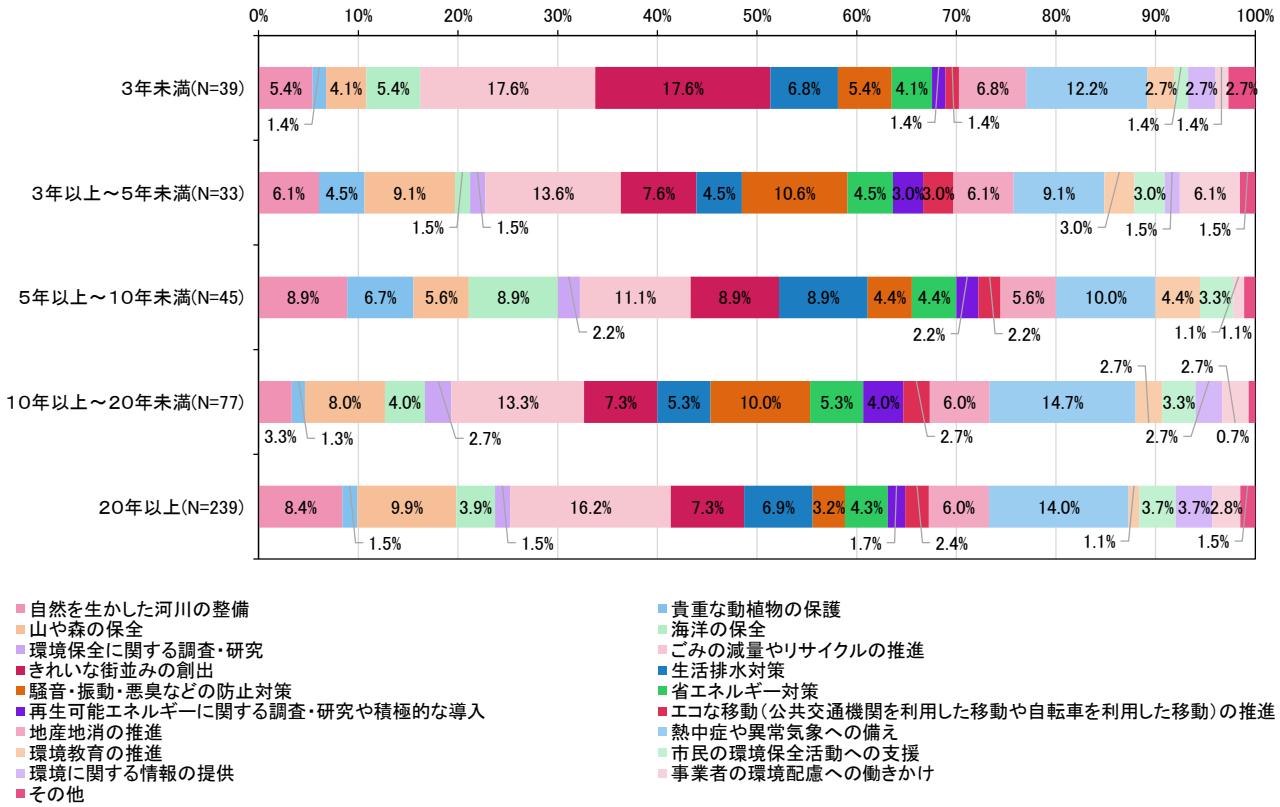
◆ 年代別について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかったが、40 歳未満の方は「きれいな街並みの創出」と回答した方の割合が比較的高い傾向が見られる。

〈住所別〉



◆ 居住地区別について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかったが、日積地区、伊陸地区では「山や森の保全」、「海洋の保全」と回答した方の割合が比較的高い傾向が見られる。

〈住居年数別〉



◆ 居住年数別について、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかったが、住居年数３年未満の方は「きれいな街並みの創出」と回答した方の割合が比較的高い傾向が見られる。

問 15　柳井市の環境や地球環境に関して、ご意見、ご要望等がありましたら、ご記入ください。

◆　「草木の繁茂」や「水辺環境の改善」といった身近な環境に関する意見・要望が最も多く、次いで「太陽光発電」に対する否定的な意見、ごみ問題（ごみの分別、処理方法、マナー）に関する意見・要望が多かった。

No.	記載内容
1	太陽光パネルを無駄に設置しないでほしい。
2	”豊かな生活って何だろう”この年になるとよく思うようになりました。私の住む余田地区は自然の中に人家が点在しているように見えます。柿の実のたわわに稔った木、はせがけされた稲穂、すすきの小道、山々の緑、雁の群れ・・・深呼吸すると、晩秋の香りがスーっと入ってきます。「日本では近年野生動物を敬う習慣が減って邪魔物として排除する傾向がー」山極寿一先生 2025.10.17 オピニオン　豊かさって何でしょう。自然とともにゆったりと生きること？！たったひとつの地球に生命を燃やす限られた時間。アンケートに〇をつけながら、私の日々に四季の色や香りのあるしあわせを思いました。「豊かさとは何か」暉峻淑子著岩波新書ー大切な本です。
3	川の洗浄（悪臭の為、定期的にしてほしい）
4	空き家が増え草木が増え続けている。環境のため空家整理を進めてほしい。
5	ゴミ対策について小学校から教えているのでしょうか？柳井市は自然に恵まれているので、公園等は造らず予算を他に回してください。※アンケート項目多すぎです。
6	警察署の５差路の国道を早く広めてほしい！道路拡張の確保して何十年もなるのに、全然手をつけていない！特にマクドナルドとユメタウンに入る所で、いつも朝の通勤時に、５差路の交差点がこんでいる！早く国道側の道路を広めたらどうなんだ！いつもであのままにしておくつもりか！
7	個人でゴミを焼いたり、野焼きをする人がいるため外に洗たく物が干せない。室内にけむりや悪臭が入り込み生活に支障がでている。住みやすい環境づくりのため徹底して指導していただきたいです。
8	自治会によってはゴミの分別が出来てない。ムダをなくす。
9	今回のアンケートに参加して、環境保全に自分も協力できるし、しなければならないと思った。節約や省エネ等身近な所で環境対策を行いたいので、どうすればよいかを知りたいと思った。今回いただいた資料を読んで、参考にさせていただこうと思います。
10	市営住宅特に国清団地の市営住宅全体が草ぼうぼうで”いのしし”が集団で現れたりで、付近住民は困っています。早急に対策を願う！
11	環境は自然環境もわかるが、柳井市からでていく人たちはそこではない。仕事もない。うわさなどで人を追い込む人ばかり。柳井市から早く出たい。自然の前に市民をどうにか変えるべき。今はいないが、元議員も人として最低だ。アンケートはちがうアンケートをとるべき。
12	市での環境対策は時間、費用の制約がありスピードが鈍ると思います。身近な環境を整えるには、まず個人的に指導や空地、川の環境保全を（草刈り）を田舎では多くの方が行っています。立木伐採の回収等行ってもらえれば助かります。イノシシ等の環境破壊や人への被害も心配です。対策をお願いします。人口減少、高齢化で環境問題は田舎ではますます進行しています。
13	太陽光発電のパネルの増加を増やさない（自然破壊）これから田、畑の荒れるのが高齢により増えるので早めに把握してほしい
14	休耕田対策（地主で対応できていないこと）空き家も同じく
15	無駄な開発はしなくてよいです
16	エネルギー関連は政府の政策によって変化するので市レベルでは地産地消や山や川、海の保全を主にするべきです。
17	人口減少、農家の後継ぎがいない等色々とあるのだと思うが３０年前までは田、畑、山はきれいだったなーと思う。小さな川のまわりもきれいだったが今は草で川の水の流れもみえない。どうしたらいいのか。
18	費用対効果を考えてやってほしい。
19	自動車の運転に関して、センターラインや横断歩道が消えかかっている場所がある。ふんわりアクセルや加速減の少ない運転のためには、道路環境の整備も要ると思う。（ゆめタウン近くの交差点のところの横断歩道はひどい。ここに横断歩道があった、ということを知っている人しか渡れない。何も線が見えないのに渡っていて危険）
20	地球上の気候変動や温暖化は止まらないでしょう。むしろ加速度的に進んでいくでしょうね。あまりに課題が山積みしていて、どうしたことやら何から考え行動していけば良いかがわからなくなってきました。
21	バス（公共交通機関）や大きな車から出る黒い煙が嫌です。
22	下水道の普及率が悪いように感じられる。家の周りの川等が、きれいな状態である為にも、柳井市全体に、下水道が普及される事を望みます。

No.	記載内容
23	特定外来生物のオオキンケイギク増殖しており、行政による積極的な啓発と地域ぐるみの駆除対策が必要と思う。本来の生息地でない柳井市周辺でツキノワグマが出没している。安全に暮らすために、駆除する必要があると思う。
24	下水道が導入できたら、街中の臭いは改善すると思います。
25	住民一人一人の環境問題や生活実態への意識が大切。
26	安全な地産地消を消費したい。気になる温暖かがあります。
27	不燃物を出す時のゴミ処理をきちんとしてほしいです。
28	柳井市は税金のムダヅカイが多すぎる
29	田んぼ作ってますが道路の下にあるので通る人が車から家庭ゴミを捨てていくので困ります。特にカンビンは割れると困るので・・・
30	・既存住宅にはなりますが、生活雑排水等をそのまま海に流さない対策を希望します。 ・美ゅーろーど周辺の適度な森林（竹）伐採で山を守ってほしい。 ・海でゴミ拾いをした際、ゴミ箱があれば良い・・・誰でもいつでも海岸のゴミ拾いが気軽にできる為。
31	低所得者故節電は実行しています。希少な生物がたくさんいる瀬戸内海上関界隈。未来の子供達に中間貯蔵施設や原発、負の遺産ではなくきれいな海、豊かな自然を残していきたい。近隣の柳井市も考えるべきです。
32	環境の保全を推進してどのような発展を目指すかが課題となる。環境保全だけでは柳井市の衰退は止まらないと思う。
33	中国電力火力発電所からの音、においに注視してほしい。川の中の草、周辺竹・木は放棄されている。何とかしてほしい。田に洗濯水がいまだに流れている。
34	私達の世代は、学校などで地球環境なんかあまり教育はなかったので、これから先は、今の子供達にはきちんと学校で教えることかな。３０年先は、地球はどうなっているかなあ。
35	気候変動に地域一体となり、対策をしないといけない時代に入ってると思います。”柳井”を環境都市として先進都市にすることもありだと言えます。コンパクトであるがゆえ、瀬戸内の自然豊かな地域ゆえできることもあると考えるので、ぜひ、県、国と力を合わせて市民も一緒に環境問題に取り組みたいですね。日本熱帯化がスタンダードになるのは、日本文化のすい退です。残念になる前にくいとめたいです。
36	森林破壊によるメガソーラーの建設はやめていただきたい。メガソーラーによる電力産生で電気代は安くならず、問題の方が増えている。風力発電も人体への影響が指摘されている割に、電力生産能力は低いためやめてほしい。
37	あちらこちらに空家が見られ、草ののび放題が街の景観をそこねている。美しい柳井の景色を希みます。
38	10/31（金）夜、水路に見た事もない生物が２匹。写メ撮って調べてみたらヌートリアだった。今までは自治会で溝掃除が５月頃あったが、それもなくなって草が茂ってきたので、ここまでやって来たのかなと思いました。
39	高齢者、子供向けの公共交通機関があまりにも少ない（市内移動）。エコナ移動ができるのは動ける世代のみ。
40	柳井市だけでなく、大島郡、熊毛郡と一体となって活動してほしい。特に大島は、全国ネットTVやBSなどで放送され、100万人近い人々が、橋を渡たっている。ドライブしていてもいつも多い。柳井も室津半島の東を持っているので自然を残しながらもっとアピールしてほしい。環境的にも東部山口で海岸線が残っているのは、由宇から柳井～室積まで、残っている。後は、工場ばかりです。
41	働く場所が少ない。飲食店が少ない、デリバリーが出来ない（阿月）、インフラが雑、病院及び医療施設が少ない、電波悪い5Gすら出ない。柳井警察署に緊急連絡した事がありますが、「場所がわからない、初めて来た！」と言われ、あ然としました。それより先に外国人による土地売買や、太陽光パネルの増設？意見がわかりません！せっかくの余生として購入したお家ですが、問題ありすぎてビックリしてます。
42	下水道設置対象地区であって水路がきれいになると思っていたが知らない間に計画が中止にされ今までどおり水路がよごれ下水の悪息を伴うヘドロがたまり本川もいつまでも改善されず残念でならない。これから一生このままの状態であると思うと合併処理槽では悪息の改善にはならない
43	道がきれい
44	身体の調子が良くない為地域美化活動に参加できず残念です。
45	柳井に来て、初めて上関の海を見た時、すごく透明で感動した事を思い出します。柳井と上関は近いのに、柳井の海との違いはなにかなと思いました。
46	白潟地区の山のがけくずれがずっと放置されており危険。阿月の上海電力ソーラー問題で不安に感じている、太陽光は日本製かどうかわからないし外国製品は使いたくない。田んぼに設置してある太陽光パネルを見るとイヤな気持ちになる。メガソーラーは行政でもしっかり監視してほしい。
47	放置されたみかん畑、田んぼ、法面。40年以上も家の側の法面の草刈りをしているが、主人も亡く

No.	記載内容
	なり女の身では、することが困難となりどうしようもなくなってります。
48	現在、熊の問題が多く生じており、柳井も山、道の草が生いしげっており、心配しております。山を整備され、身のなる木々を植えられるなど、素人ながら感じております。
49	河川の草木が生え、土砂がたまってみえるのが、たいへん気になっています。市民で可能な事、予算を組んで除く工事をしてもらえたらと思います。市民の方が自主的にゴミを拾う姿を見慣って行動しようと思います。
50	以前は、太陽光発電など導入も考えましたが費用の面であきらめました。現在、太陽光発電設備などは、中国製品が多く、今まで使用した家電品、くつなどの日用品の中国製品は、ことごとく、すぐダメになったので、導入しなくて良かったと思っています。あっちこちで、太陽光発電設備がふえていますが、後にこわれた事を考えると、これ以上導入しない方が良いです。壊れた太陽光発電設備は、粗大ゴミになります！！かえって環境には悪いです。
51	ゴミ問題です。生ゴミもプラスチック、紙類全て、燃えるゴミとして処理されています。10 年程？前に市役所になぜ、すべて分別せずに１つにして燃やすのか、分別してもっとリサイクルを推進しては、、、と意見を申しました。すると、係の方が「当市の消却施設の設備能力は非常に高いので、全て燃やせるのです。」と返ってきました。問題点はそこではなく、「再生できるものは分別して、リサイクルが必要である」と伝えたかったのです。「環境資源を有効に」を子供の頃から市民にも高い意識を持ってもらうため、一刻も早く分別ゴミの収集を始めてほしいと思います。
52	原発、中間貯蔵施設等、これらはまだまだ人間の手には負えないと、本で読んだ事があります。未来永劫美しい柳井であってほしいと思います。国は、福島を忘れたふりをしているのね！！
53	選択肢の中に環境に良いと立証されたのか怪しい事柄が散見され気になった。環境に対する取組は高度に複雑かつ多大な知識を要する故に市井の人間の意見を聴いてそれを資料とするのはなじまないように思う。責任ある立場の人が広く専門家の意見を集めて決めていくのが本筋では？
54	環境美化にも少し力を入れて欲しい。自治会に入ってない人のゴミ出しのルールなど指導をしっかりとして欲しい。回収不加の紙を貼るだけではダメだと思います。
55	エネルギーの地産地消、豊かな国土を利用した（商ビジネス化されている太陽光を外した）様々な発電。完璧な安全運転する原子力発電。小規模な水力発電、風力発電、太陽光温水器の推進。瀬戸内の豊かな潮干を利用した発電。
56	阿月～相ノ浦道路草刈りの回数をふやし道路の木を切ってください。車で通る人が運転しにくい。海岸や山へよその人が来てゴミを持ち帰らずすてている。
57	柳井川は草や木がしげり川がきたない。長谷川さんが県議の時はいつもきれいだった。どうか川だけでもきれいで魚のすめるようにお願いします。
58	個人で山林の手入れをされる方が少なくなり、山林があれていると聞きます。子供のころに裏山で遊んだ楽しさを思い出します。人の暮らしと自然が調和できるような活動が多くなれば良いと思いました。環境負荷の少ない洗剤を手軽に使用できる制度があれば良いと思います。
59	周辺で自由に田畑付近で火をつける人が多すぎる。洗濯物を干しても煙でにおいが付着する。申請して火をつけることを徹底させてほしい。守れない人には、定期巡回して注意・指導してほしい。近所の人からはトラブルの原因となるので、市役所の方から働きかけてほしい。火事も気になるので、守れない人には厳重注意して更生してもらいたい。
60	沿岸沿い道路のゴミのポイ捨てが増えている。学校の閉校等で、道路を歩行することが減少したためか、道路沿いの木々や草が、道をふさいでいる。荒れていることが、私たちの学生時代より目立っていると思う。
61	これ以上ソーラーパネルを設置して環境破壊するのはやめて下さい。あっちこっちにむやみやたらと設置しすぎです。
62	大規模太陽光発電は中国のソーラーパネルの押し売り事業で環境破壊でしかない
63	休耕田や空き家、空き地が増えていることで人と里山の動物たちの境界が曖昧になってきているように感じる。
64	原子力発電と中間貯蔵は、柳井には必要ない。
65	所有者不明の空き地からの雑草が電線にかかりどうしていいか分からない
66	大量の雑草に危険を感じる。ガタガタの道が増え転倒したこともある。図書館の周りをバスが走っているけれど、誰も乗っていないことが多く、通り過ぎたあとの空気は臭いし、エネルギーも無駄にしていると感じる。通行していて導線が危ない道が多いと感じる。
67	柳井市は海あり山あり川あり全国的に見ても自然豊かな市であると思う。
68	柳井市のカーボンニュートラル宣言にまったく触れていない質問項目に違和感を感じた。火力発電所がある中で宣言をしている、ある種の矛盾解消はしていくべきだと思っている。
69	ゴミ回収が悪すぎる。可燃ゴミは各箇所に回収に来るのに、ペットボトルと古紙回収はしてくれない。周南市から柳井に来て初めて衝撃を受けました。いちいち回収場所に持っていくとか、可燃と同じで回って欲しいし。周南市みたいにプラごみの回収がないんだから、それくらいしてほしい。結構困る。あと、ゴミ袋が高すぎる。大で 100 円が当たり前かと思っていたら、下松市、光も安い。

No.	記載内容
	柳井市だけ 300 円。広げたら破れる袋の時もあるし、ほんとに困ります。高すぎる。あと、猛暑対策について言うなら、市内の中学生に変な反射剤のベストを着せないで欲しい。朝、昼の着用を見てイラッとします。暑いのにあれを着せるとかおかしい。ファンベストを貸し出す県や都もあるのに。薄暗い時間に着せるならまだわかるけど、県内で柳井市しか着てない。過去に事故があったからズルズル着せてると思いますが、あれは変です。朝と昼に着せることによって、事故が軽減されることは立証出来ないと思います。法律で考えるとこれは義務に値しません。市内の中学生だけ、あんな思い物を市外が着てないないことを知らないことにつけこんで、思春期に着せて、可哀想。暑さ対策をしてあげてほしい。本当に可哀想だし、うちの子も市内の中学校に行きたがりません。ベスト配るなら、街灯を増やして。
70	避難所でのプライバシーを守れる備品を整備してもらえたら嬉しいです
71	太陽光より原発を導入した方がエコであると考える。工場や企業を誘致するためには莫大な電力が必要であり、太陽光で賄おうと思うと、パネルを作るのにかなりの CO2 を排出し、結局エコではない。原発のように大きな電力を賄える設備に税金を使って欲しい。
72	柳井川周辺はもっと整備して草刈りすると、散歩道としてより素敵な空間になるかと！
73	生ゴミの処理機導入の費用給付をしてほしい。
74	生ごみの分別回収と専門業者による堆肥化で、協力自治会に対して収入を分配すること
75	分からない事やるより、公衆便座の掃除を何故徹底出来ない、市長にメールしたけど、水かけて掃除だと思っている業者は指定からはずすべき。市役所は頼んだら頼みっぱなし。
76	ごみの分別を品目で分かるようにして欲しい。公式 LINE があるので、そちらで検索できるようになれば助かる。市役所でもらえる分別表はアップデートされてるのか
77	新庄に住んでいますが、余田や新庄地区は野焼きをされる方が多く、野焼きで風の向きによっては窓も開けられず、洗濯物にも匂いがつくので困ります。
78	３R の意識の向上及び実施。
79	広報活動が少なすぎる
80	市内全体についての環境は良いほうであると感じるが、時折、不法投棄などの問題が発生している。頻度が高い場所には監視カメラや警察との協力も必要ではないか？
81	カラス等によるゴミ袋（可燃ごみ）荒し防止でゴミステーション設置義務化。月１回の収集日にビン出しすれば良いが、店頭回収にビンがない？
82	家周りの生活環境についてです。夜、子供の習い事に歩いて送迎する事がよくあります。街灯やお店が少ない為、暗くて歩きづらいのと不気味です。自治会で民家の電柱に街灯をつけるのではなく、県や市が道路に街灯を設置してほしいです。
83	古紙回収を全てのクリーンステーションで実施してほしい(回収場所が自宅から遠いので)
84	焼却ゴミを細かい分別なくプラスチックなども燃やしているのは大丈夫ですか？また、不燃ゴミを掘った穴に埋めているが、土や海への汚染も心配(蛍光管を埋めてるのも見ました)街路樹や公園など、草が伸び放題のまま放置されていて、観光客にも悪いイメージを与えています。個人では限界があるので、市でも積極的に管理して美しい町並みを取り戻してほしいっす。
85	子供達が道路で野球やサッカーの練習をしている事があり、家の壁や車などにボールが当たったりしている。ボールの音なども響き、騒音だと感じる事がある。空き地の活用などができないだろうか？
86	公共機関使用促進方法を検討。
87	多くの人に興味を持ってもらい、美しい環境を維持してほしい
88	畑などでされてる野焼きをもっと厳しく取り締まってほしい。運転中煙で前が見えなかったり、洗濯物に匂いがついて本当に困っています。登下校中になどに子どもたちがあの空気を吸うことも気になります。
89	時間ランダムで軍用機が空を飛ぶ音が大きく苦痛を感じる。道の周りのゴミのポイ捨てが目立つ所がある。また、草が伸び邪魔で車の運転に支障を感じている。道路の修理が追いついておらず、ガタガタで走りにくい場所が多い。
90	高齢化などによって放置されている森や林が増え、近隣の道路に枝や雑草が伸びたり樹木や竹が倒れる事で通行に影響する、またはしそうになっているのを近年よく見かけるようになっています。また、景観の良さから植えられた街路樹や植栽が管理しきれなくなって邪魔になったり、明らかに見た目が悪くなっていることも気になります。個人的な意見ですが、ウエルネスパーク下の道路に植えられた桜の木が年々傷んでいること、フラワーランド北の交差点付近の桜の葉が夏に信号を見づらくさせていること、気になります。かつては管理出来る前提で植えたのかもしれませんが、歳月がたち、小出しに伐採や草刈りなどして下さっていますが、景気も環境も変化した今、安定した維持が出来ないものはここで一度無くすしかないのでは…と思います。
91	柳井市にずっと住まわせて頂いておりますが、今では人口も減りつつありますがもっとこれからも柳井市を今以上に環境が良くなるように住みやすいようにすれば人口も増えるし、観光客なども増え柳井市自体が活性化されてもっともっと良くなると思いますので是非ともよろしくお願いします

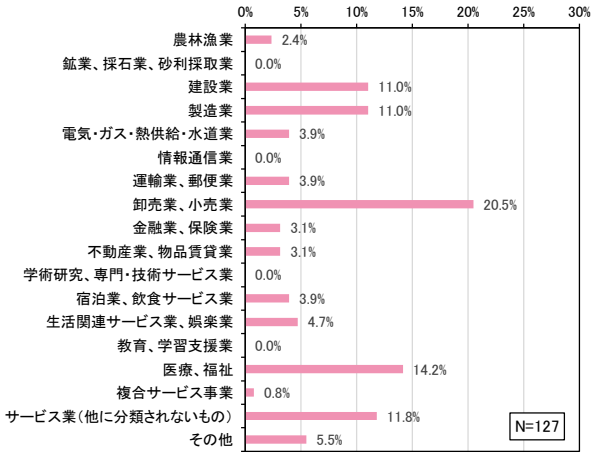
No.	記載内容
92	本来の街路樹の意味を知られていない。クレームにならぬ樹種を選ぶなどの配慮(道路、公園など)、危険街路樹、緑化樹木の撤去。樹木を安易に扱われるのは、悲しい現実。お金を使って植栽したのならば、植栽するのならば、もっと大切に扱って頂きたい。大切な財産となるような樹木となって欲しい。
93	柳井駅を改築、新設して欲しい。休憩場所や待ち合わせの場所も少なくトイレの環境も悪いと思います。
94	人が少なくなっていので手が廻らないのは仕方ないと思います。特に山間地区などは、その地区の方が何とかしなければ役所の方はいろいろ相手してくれないのが現状というところです。半分、あきらめてます。（仕方ないことです）

3. 事業者アンケート調査結果

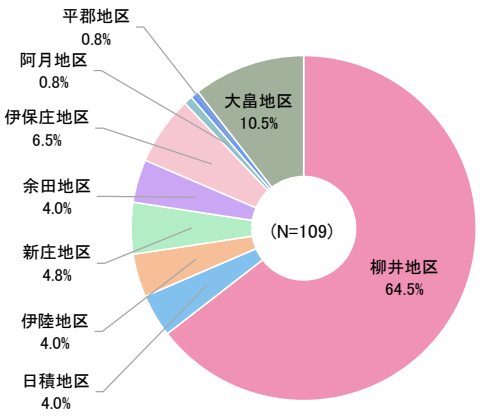
問１　貴事業所についてお聞かせください。
あてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。

回答事業所の情報

(1) 業種



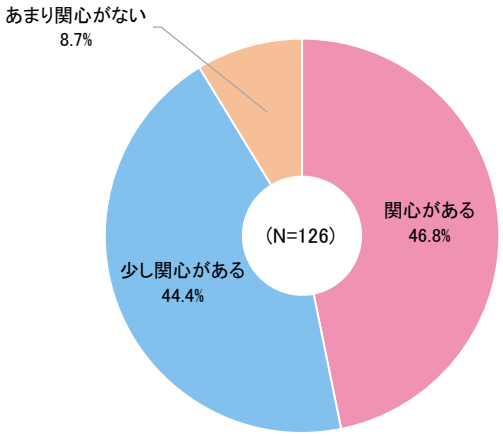
(2) 所在地



（その他）
●協同組合　●法律事務所　●士業（社会保険労務士事務所）　●公的

- ◆ 回答事業所の業種は、「卸売業・小売業」の 20.5%が最も多く、次いで「医療、福祉」の 14.2%、「サービス業（他に分類されないもの）」の 11.8%である。
- ◆ 回答事業所の所在地は、「柳井地区」の 64.5%が最も多く、次いで「大畠地区」の 10.5%、「伊保庄地区」の 6.5%である。

問２　貴事業所は環境問題に関心がありますか。
あてはまるものを１つ選んで番号に○印をつけてください。



【全体結果】

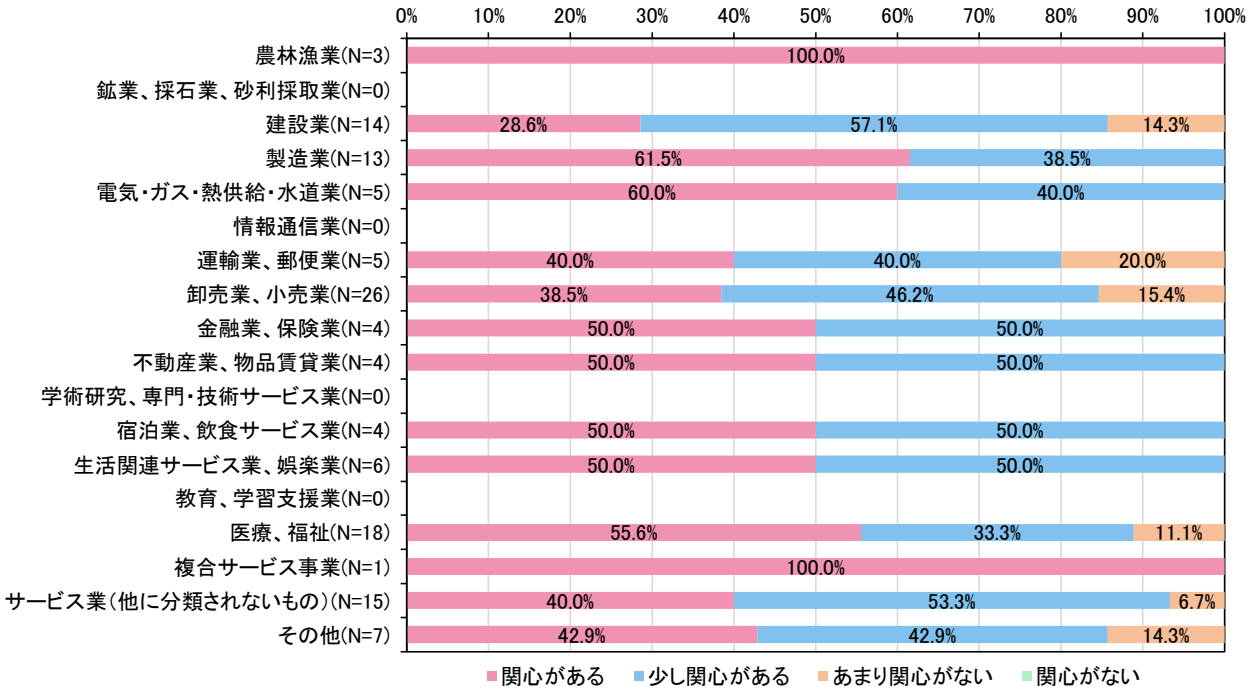
◆　環境問題に「関心がある」と回答した事業者の割合が 46.8%と最も高く、「関心がある」または「少し関心がある」と回答した事業者の割合が９割以上を占めている。そのため、環境問題に対する関心は高いと考えられる。

◆　「関心がない」と回答した事業者はいなかった。

【属性別結果】

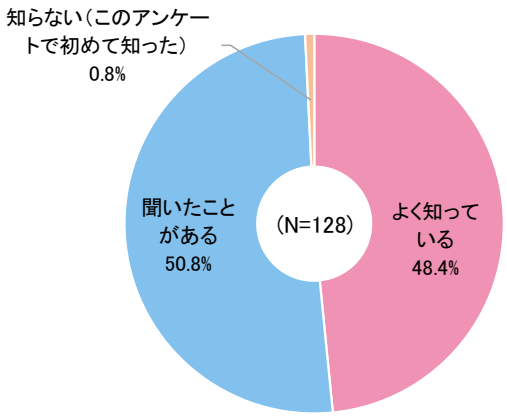
問２　環境問題への関心度

〈業種別〉



◆　いずれの業種においても「関心がある」または「少し関心がある」と回答した事業者の割合が８割以上を占めている。

問３　貴事業所は、『カーボンニュートラル』という言葉をご存知でしたか。
あてはまるものを１つ選んで番号に○印をつけてください。



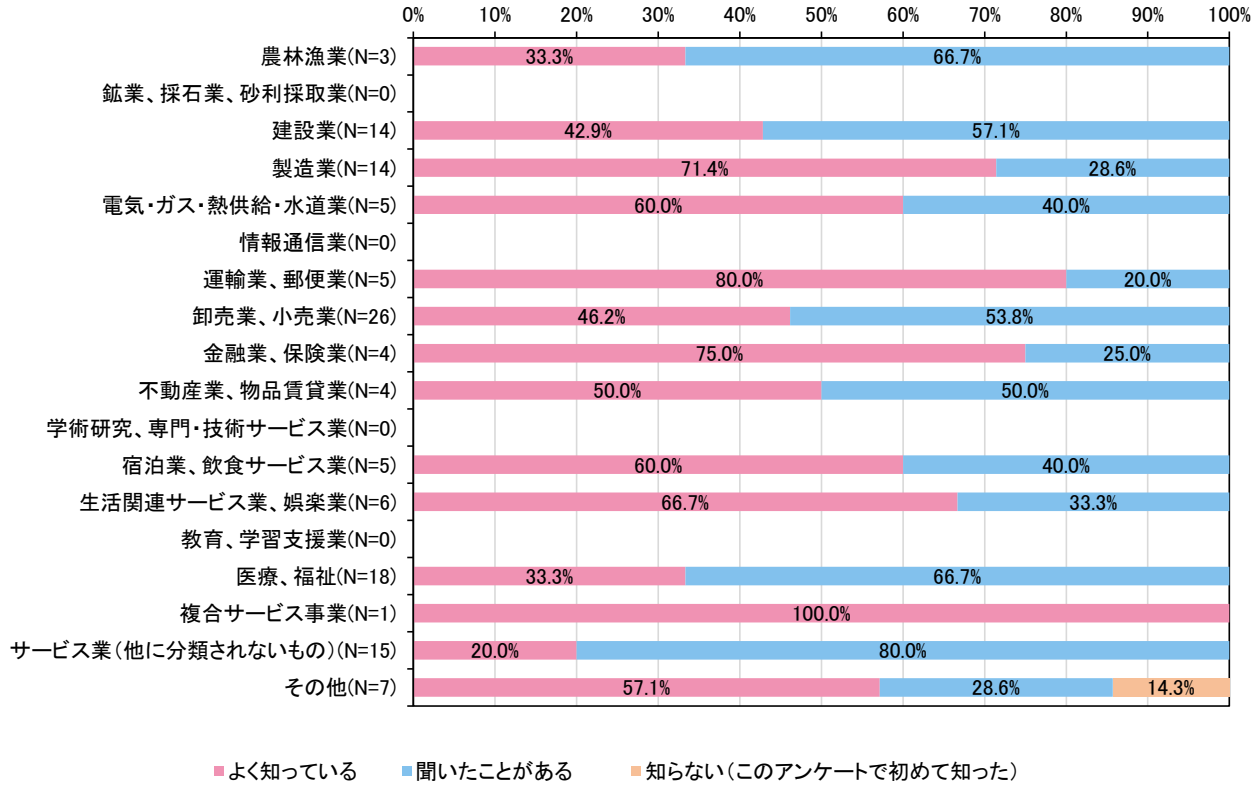
【全体結果】

◆　ほぼすべての事業者が「カーボンニュートラル」を「よく知っている」または「聞いたことがある」と回答した。

【属性別結果】

問３　「カーボンニュートラル」の認知度

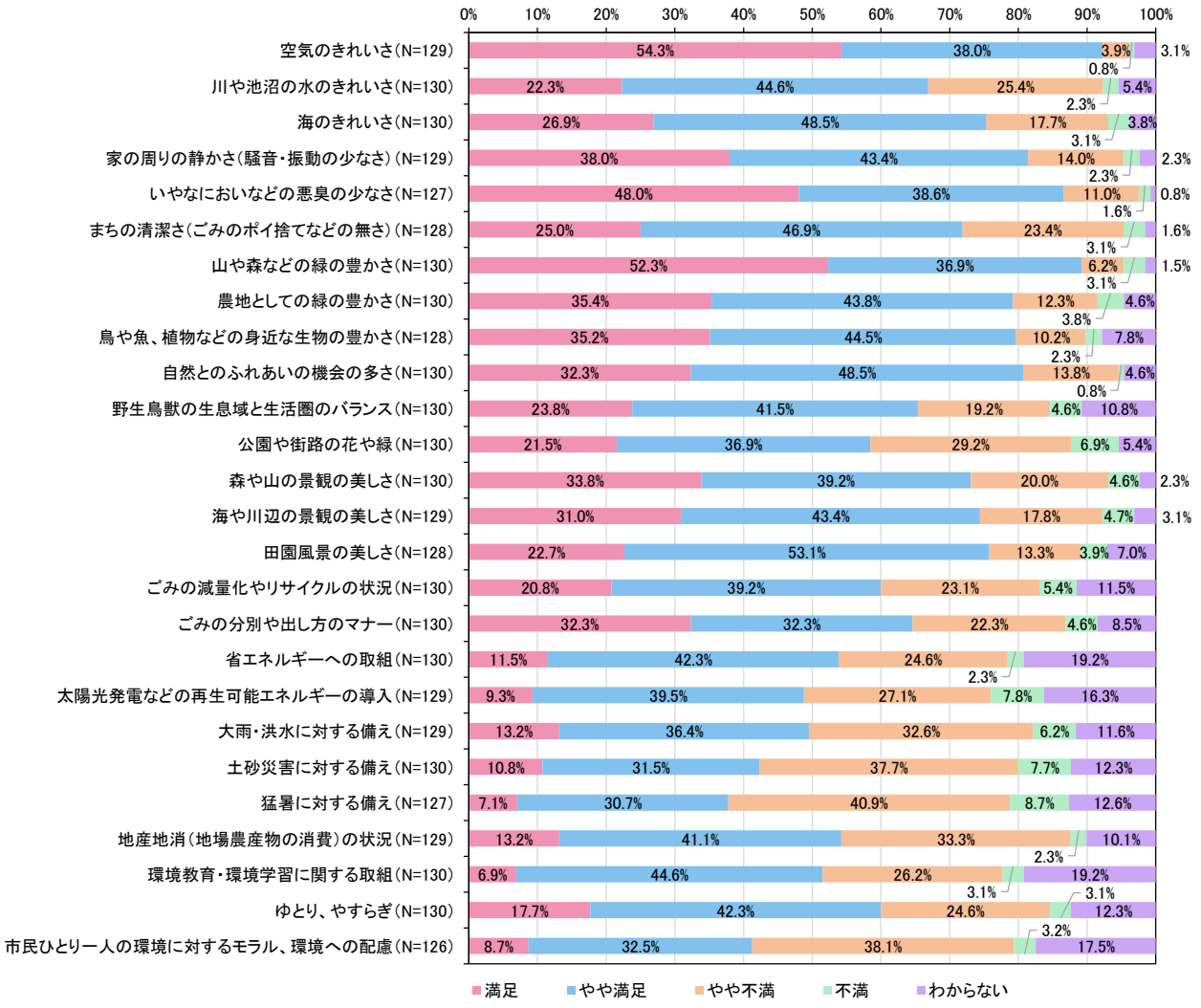
〈業種別〉



◆　「農林漁業」及び「建設業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「サービス業（他に分類されないもの）」では、「聞いたことがある」と回答した事業者の割合が最も高い。

問４　貴事業所は柳井市の環境についてどの程度満足されていますか。また、柳井市の将来の望ましい環境にとってどの程度重要だと思いますか。
項目ごとにあてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。

〈満足度〉



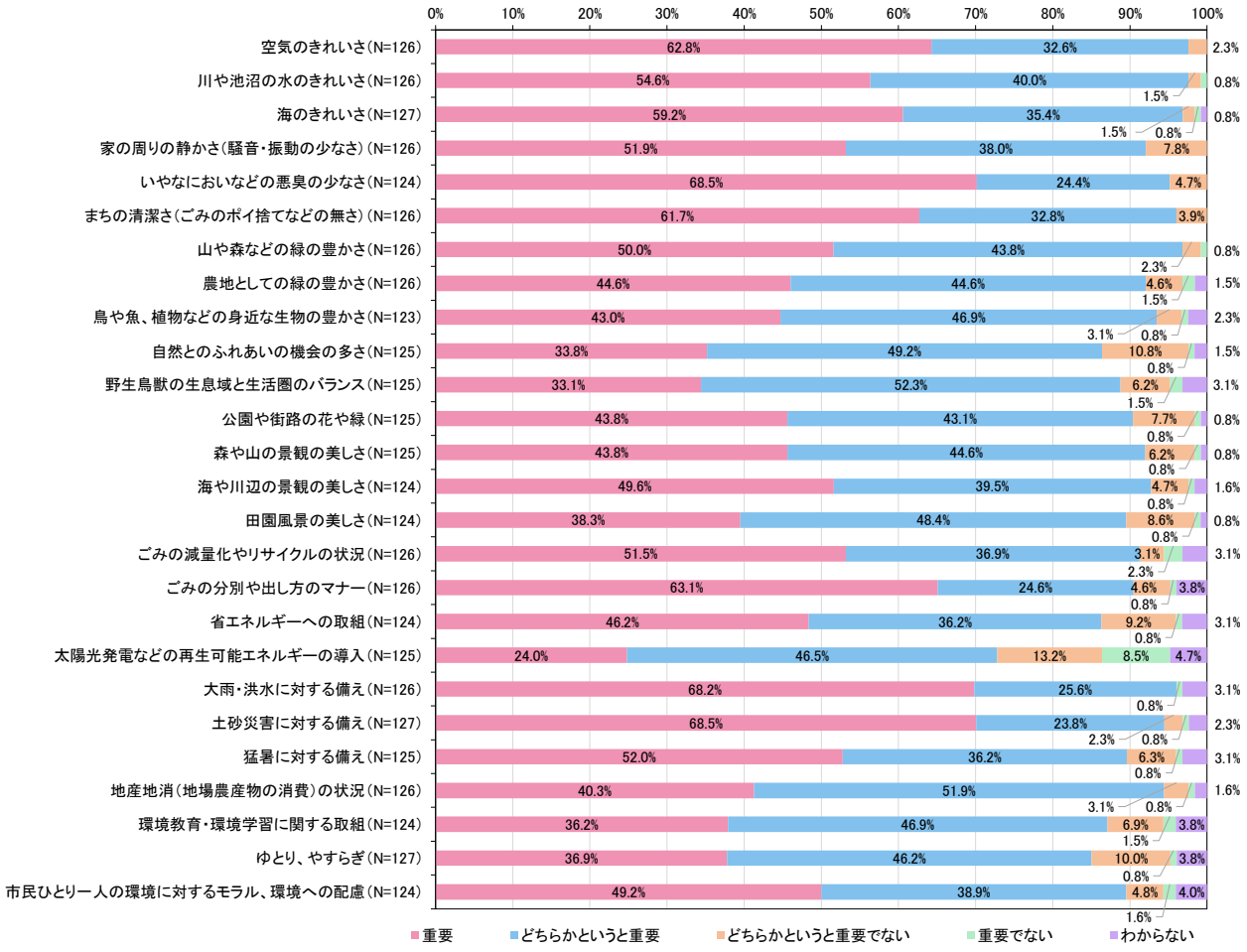
【全体結果】

◆　「満足」と回答した事業者の割合が最も高い項目は、「空気のきれいさ」の 54.3%であり、次いで「山や森などの緑の豊かさ」の 52.3%、「いやなにおいなどの悪臭の少なさ」の 48.0%である。

◆　一方、「やや不満」または「不満」と回答した事業者の割合が最も高い項目は、「猛暑に対する備え」の 49.6%であり、次いで「土砂災害に対する備え」の 45.4%、「市民ひとり一人の環境に対するモラル、環境への配慮」の 41.3%である。

◆　市民同様、気候変動対策（緩和・適応）や環境教育、環境への配慮に関する項目は、「満足」または「やや満足」と回答した事業者の割合が５割程度もしくは５割未満である。

〈重要度〉



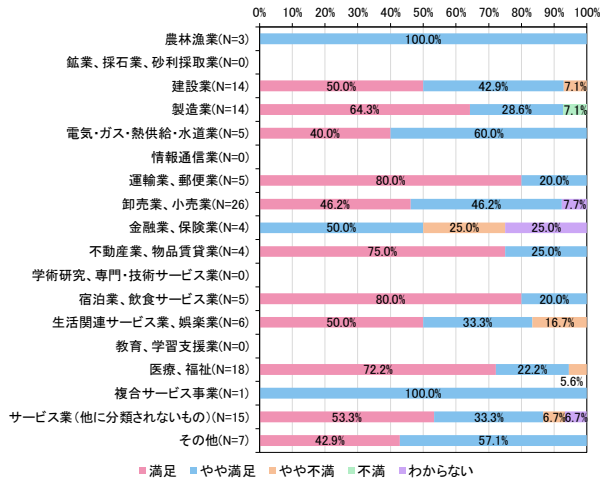
【全体結果】

- ◆ 「重要」と回答した事業者の割合が最も高い項目は、「土砂災害に対する備え」及び「いやなにおいなどの悪臭の少なさ」の 68.5%であり、次いで「大雨・洪水に対する備え」が 68.2%である。
- ◆ いずれの項目も「重要」または「どちらかというと重要」と回答した事業者の割合が、7割以上を占めている。
- ◆ 市民同様、生活環境や気候変動対策（適応）に関する項目は、比較的「重要」と回答した事業者の割合が高かった。

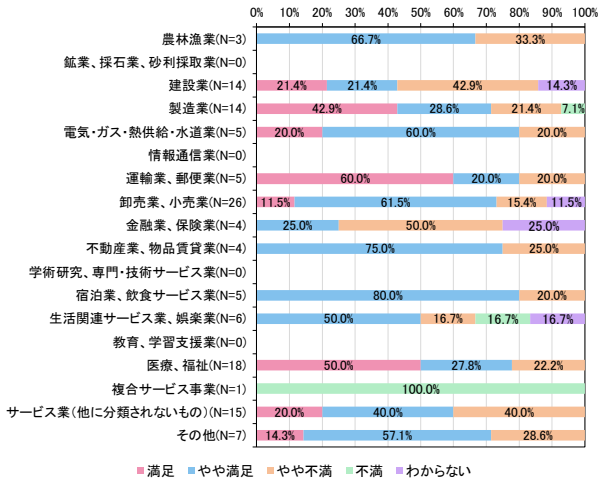
【属性別結果】

問４　満足度〈業種別〉

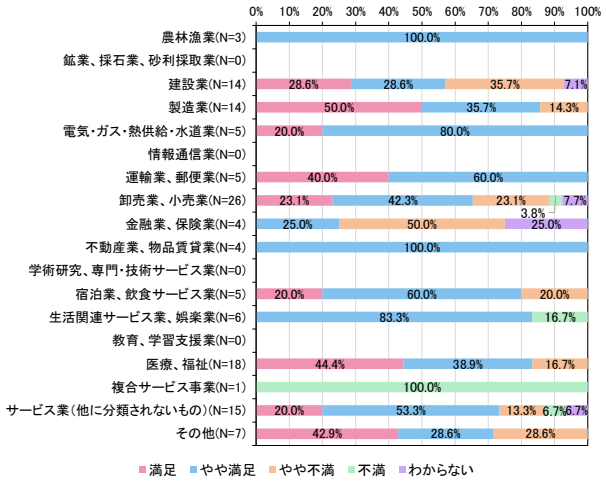
空気のきれいさ



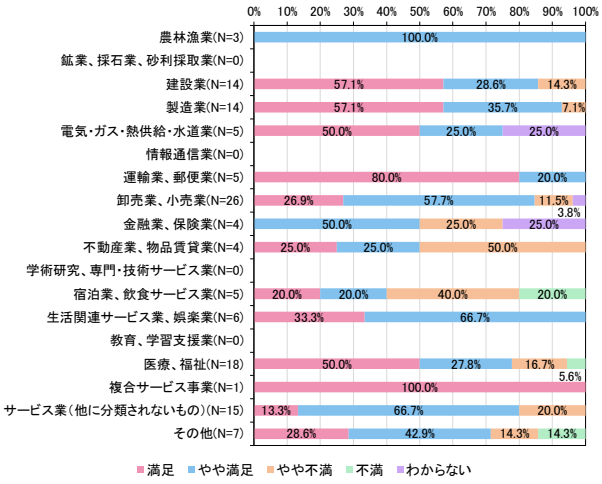
川や池沼の水のきれいさ



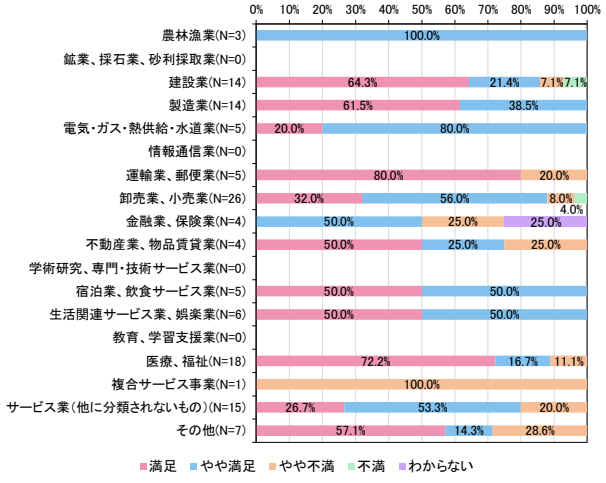
海のきれいさ



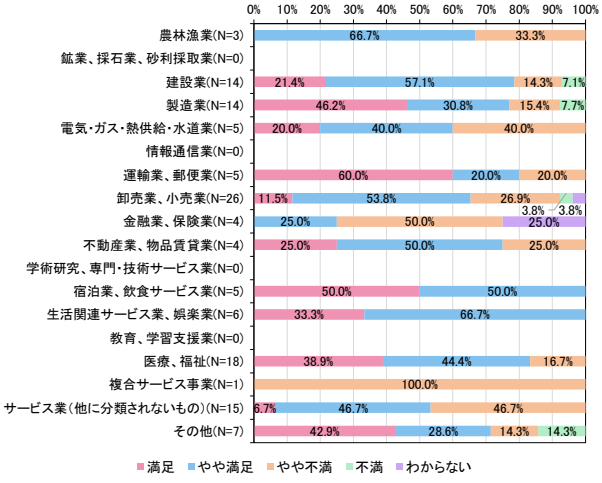
家の周りの静かさ(騒音・振動の少なさ)

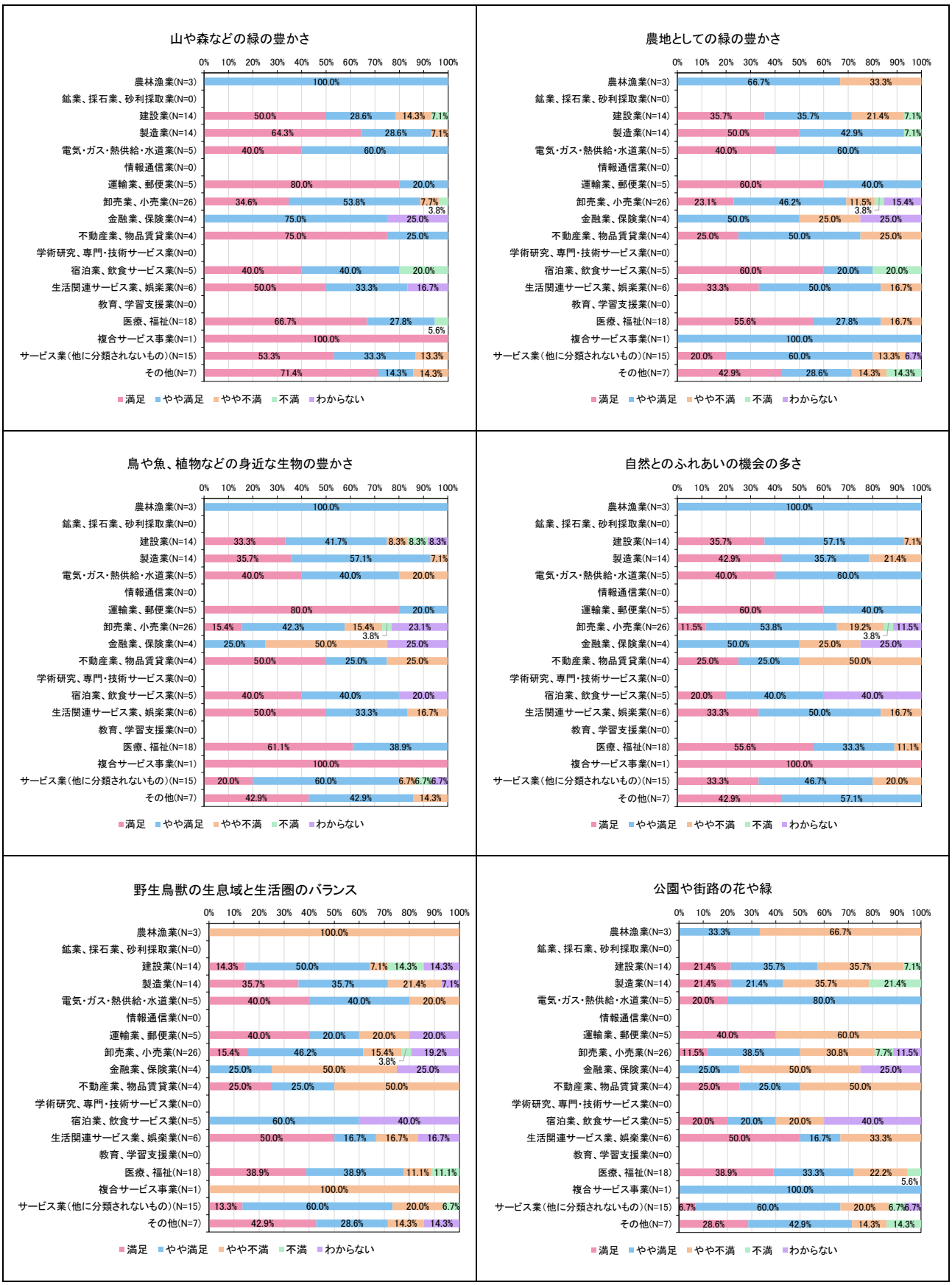


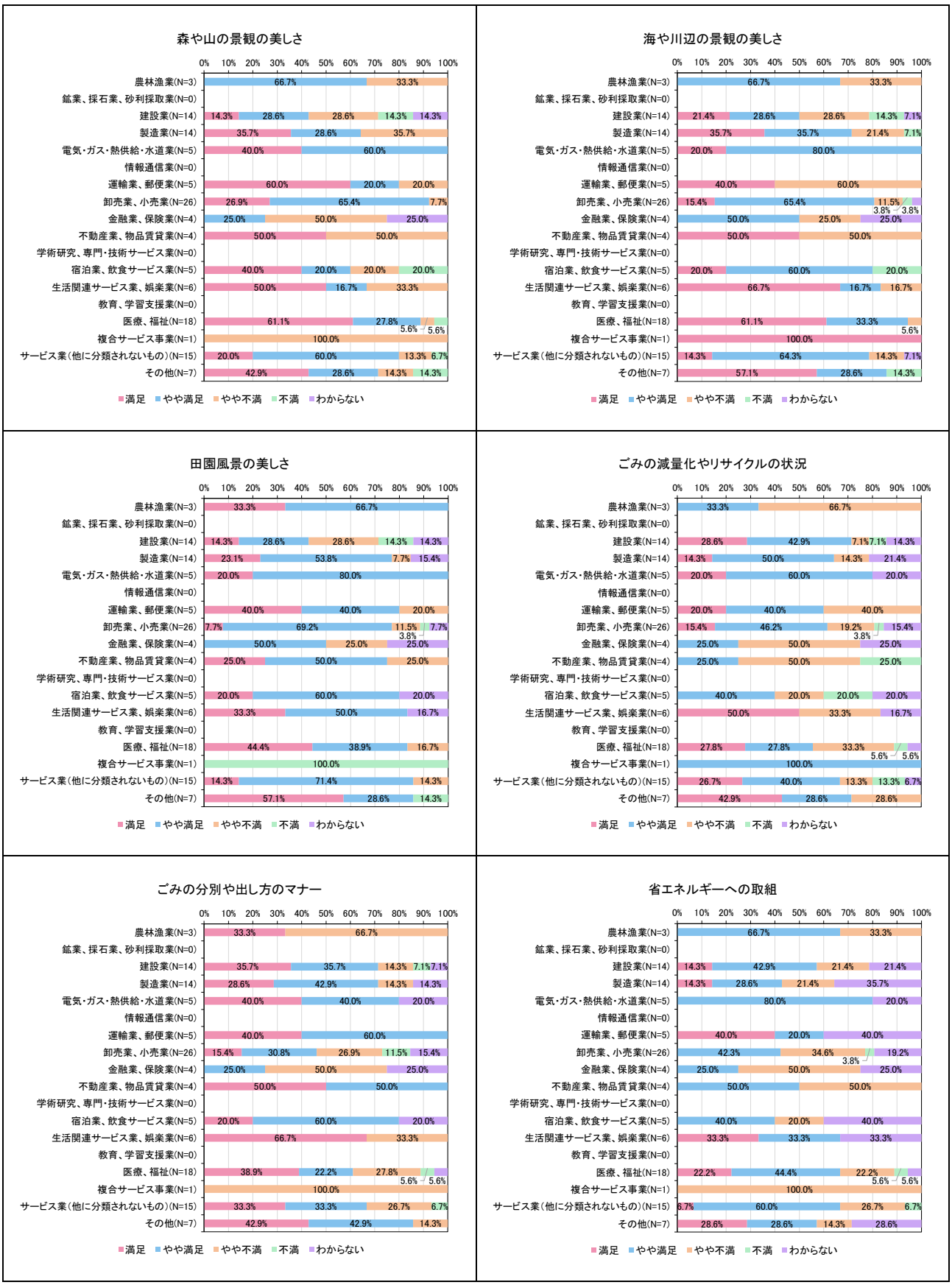
いやなにおいなどの悪臭の少なさ



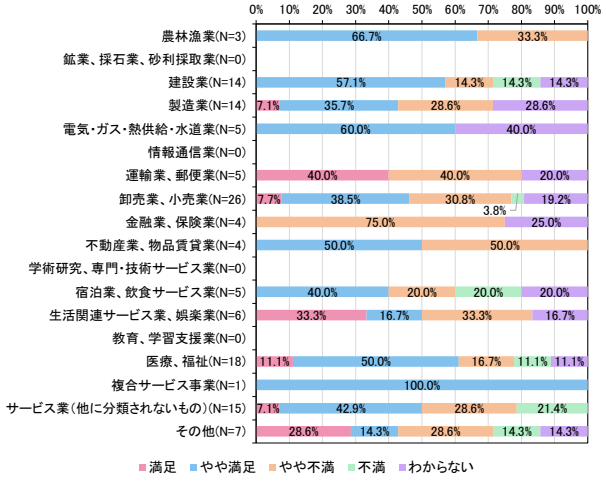
まちの清潔さ(ごみのポイ捨てなどの無さ)



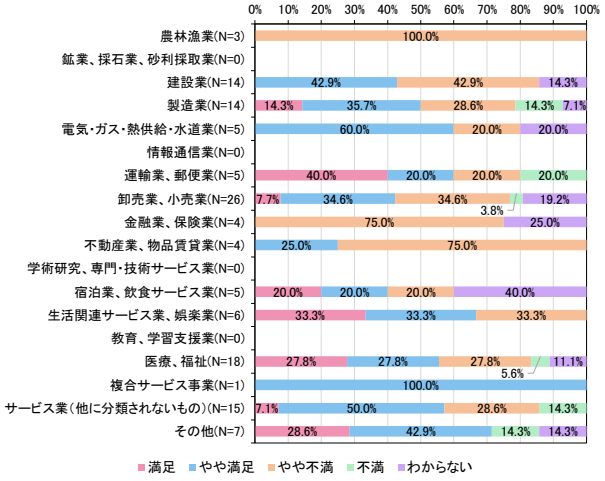

山や森などの緑の豊かさ
農地としての緑の豊かさ
鳥や魚、植物などの身近な生物の豊かさ
自然とのふれあいの機会の多さ
野生鳥獣の生息域と生活圏のバランス
公園や街路の花や緑
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3)
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=14)
製造業(N=14)
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5)
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5)
卸売業、小売業(N=26)
金融業、保険業(N=4)
不動産業、物品賃貸業(N=4)
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5)
生活関連サービス業、娯楽業(N=6)
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18)
複合サービス事業(N=1)
サービス業(他に分類されないもの)(N=15)
その他(N=7)
満足
やや満足
やや不満
不満
わからない


森や山の景観の美しさ
海や川辺の景観の美しさ
田園風景の美しさ
ごみの減量化やリサイクルの状況
ごみの分別や出し方のマナー
省エネルギーへの取組
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3)
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=14)
製造業(N=14)
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5)
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5)
卸売業、小売業(N=26)
金融業、保険業(N=4)
不動産業、物品賃貸業(N=4)
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5)
生活関連サービス業、娯楽業(N=6)
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18)
複合サービス事業(N=1)
サービス業(他に分類されないもの)(N=15)
その他(N=7)
満足
やや満足
やや不満
不満
わからない

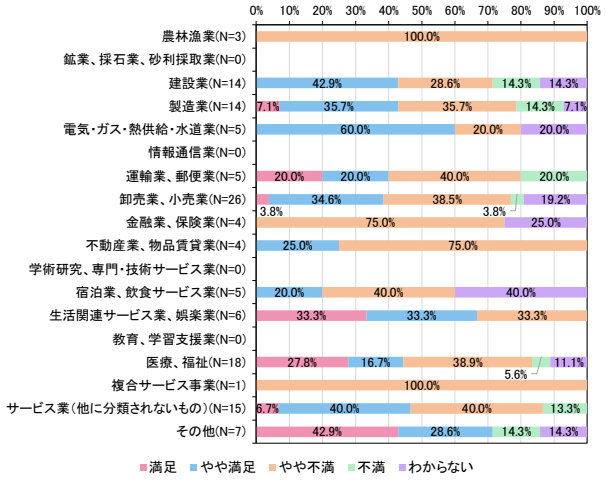
太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入



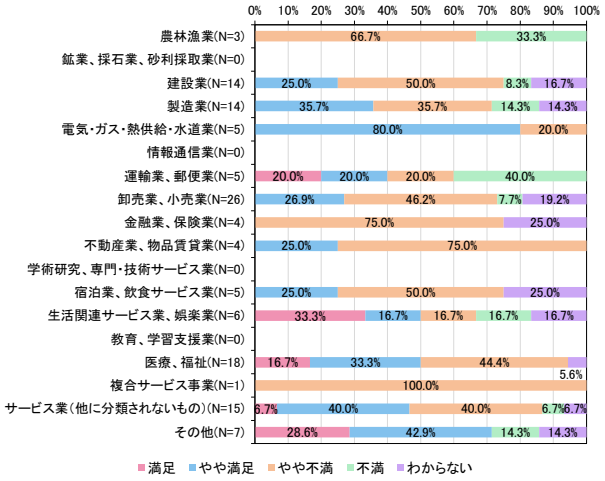
大雨・洪水に対する備え



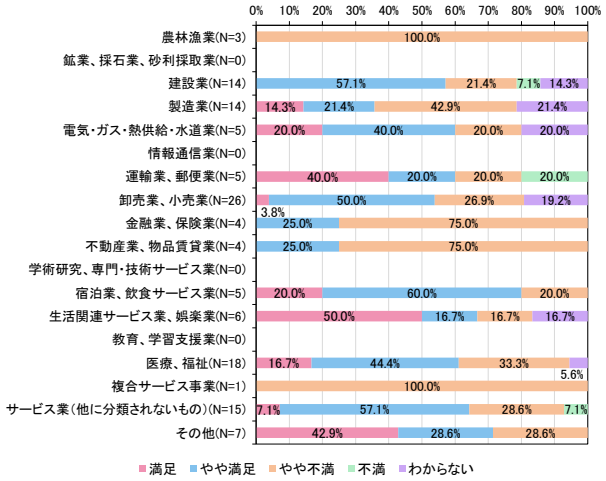
土砂災害に対する備え



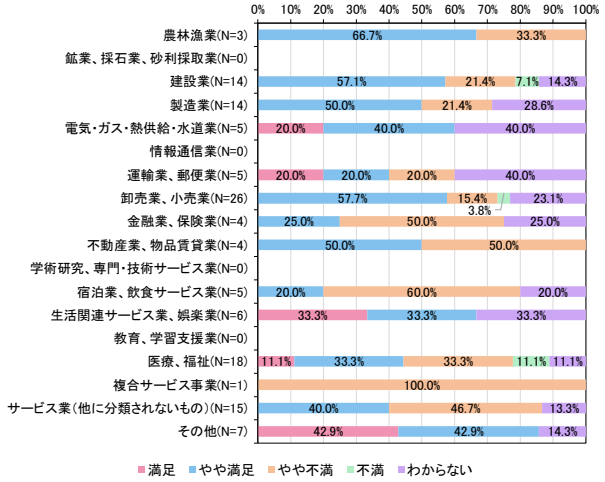
猛暑に対する備え

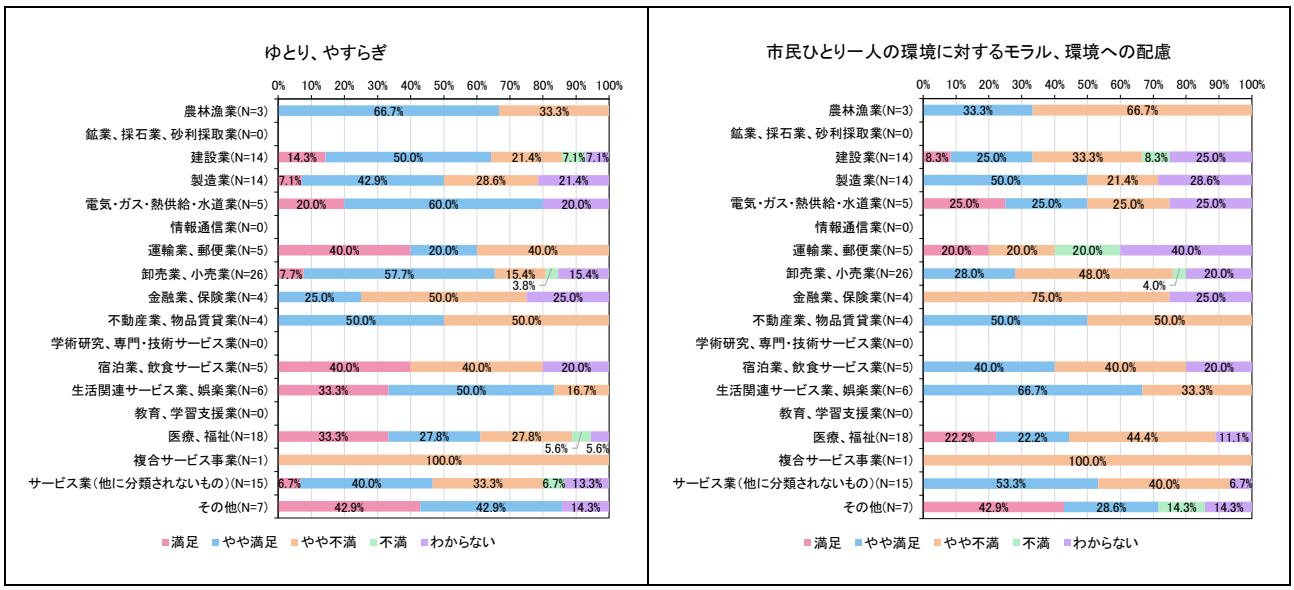


地産地消(地場農産物の消費)の状況



環境教育・環境学習に関する取組



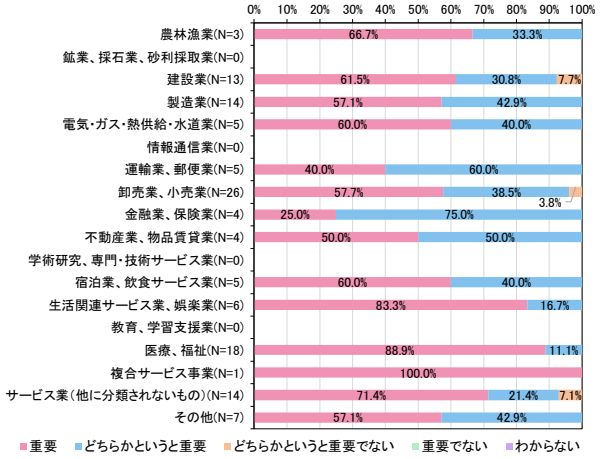


◆ 回答数の少ない業種もあるため一概にはいえないものの、全体としては、「空気のきれいさ」及び「山や森のなどの緑の豊かさ」、「自然とのふれあいの機会の多さ」について、満足している事業者の割合が比較的高い傾向が見られる。一方で、「大雨・洪水に対する備え」及び「土砂災害に対する備え」、「猛暑に対する備え」、「市民ひとり一人の環境に対するモラル、環境への配慮」について、不満に感じている事業者の割合が比較的高い傾向が見られる。

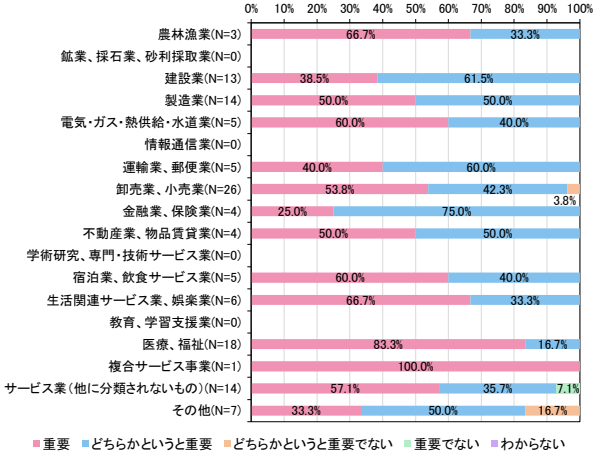
◆ 最も回答数の多い卸売業・小売業においても、「土砂災害に対する備え」及び「猛暑に対する備え」、「市民ひとり一人の環境に対するモラル、環境への配慮」については、半数以上が不満に感じていると回答している。

問４　重要度〈業種別〉

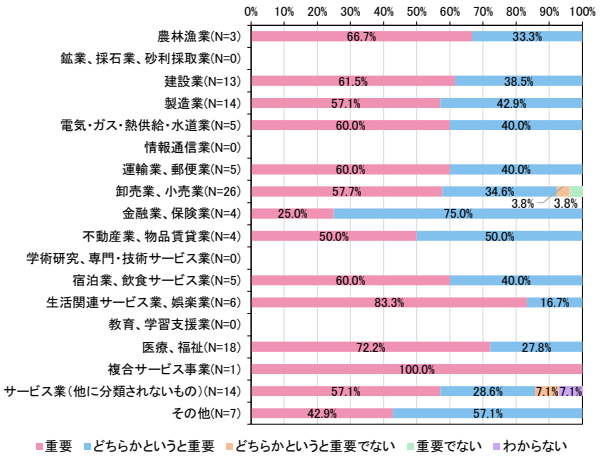
空気のきれいさ



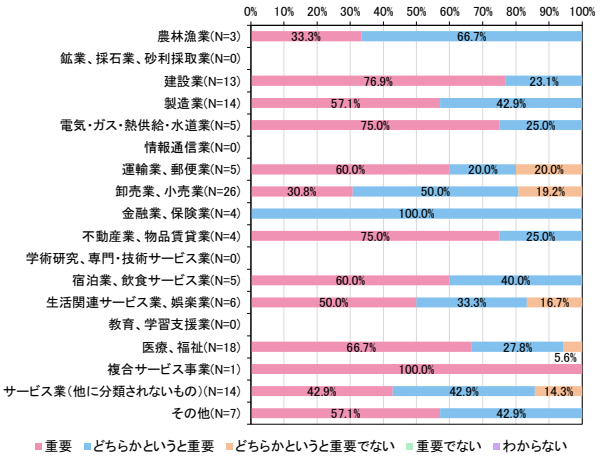
川や池沼の水のきれいさ



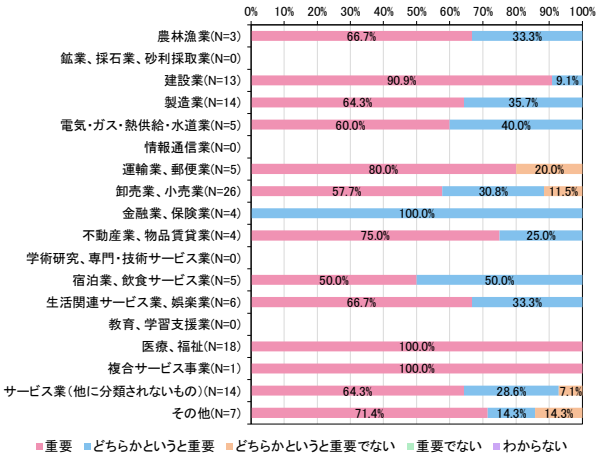
海のきれいさ



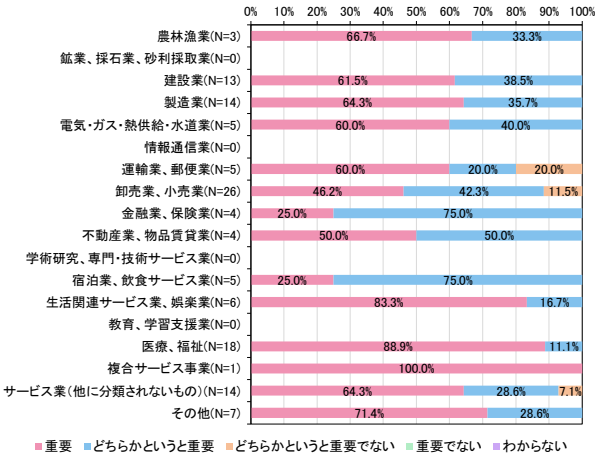
家の周りの静かさ(騒音・振動の少なさ)

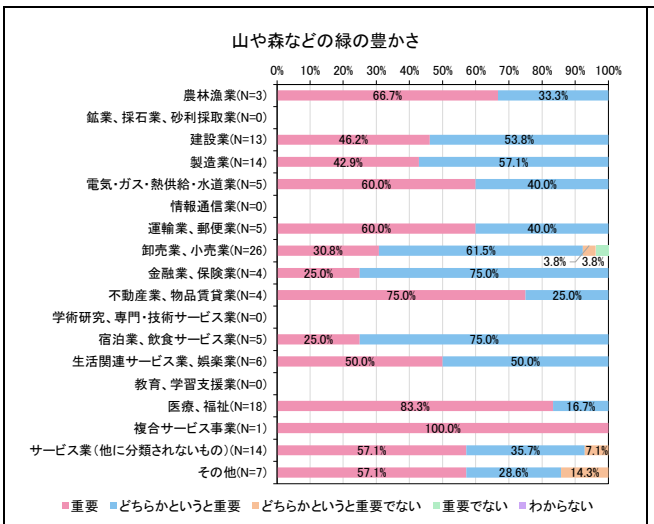


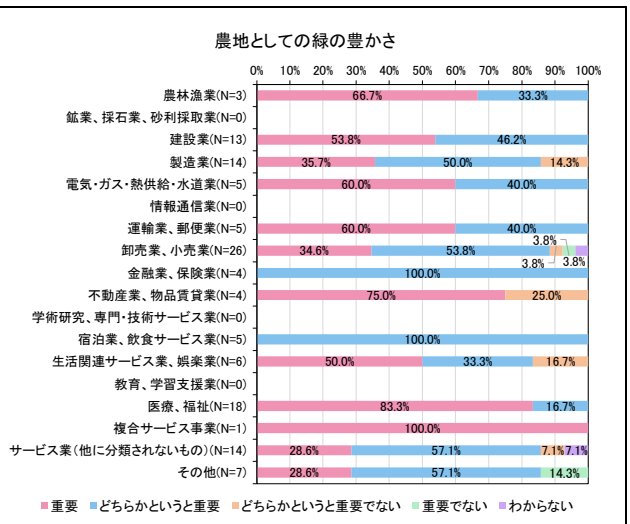
いやなにおいなどの悪臭の少なさ

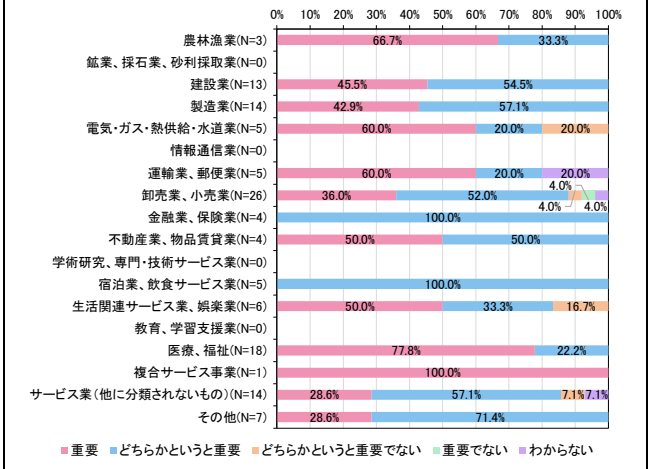


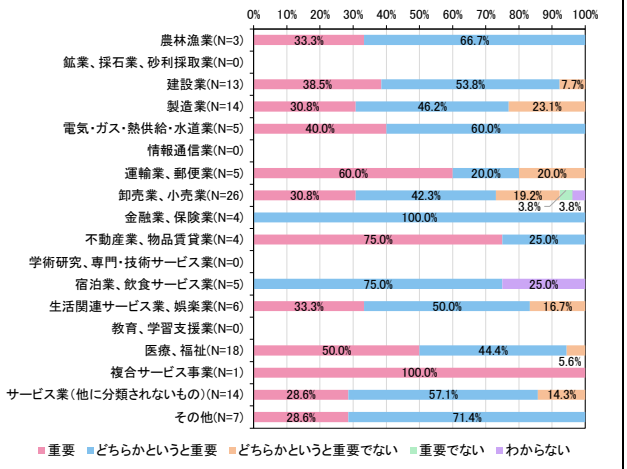
まちの清潔さ(ごみのポイ捨てなどの無さ)

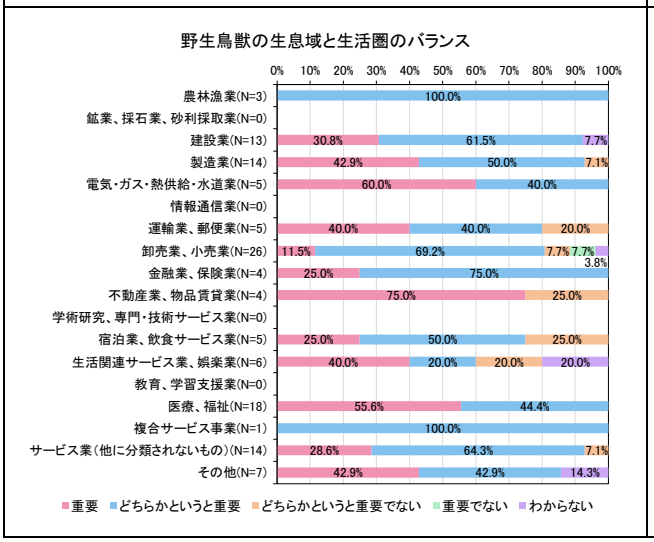


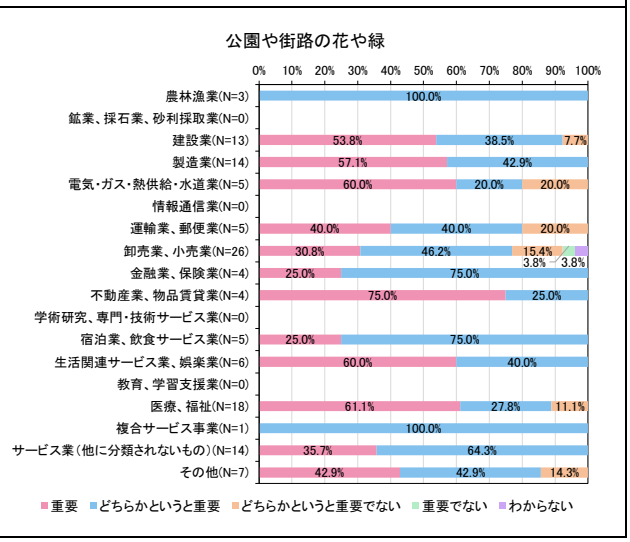

山や森などの緑の豊かさ
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3) 66.7% 33.3%
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=13) 46.2% 53.8%
製造業(N=14) 42.9% 57.1%
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5) 60.0% 40.0%
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5) 60.0% 40.0%
卸売業、小売業(N=26) 30.8% 61.5% 3.8% 3.8%
金融業、保険業(N=4) 25.0% 75.0%
不動産業、物品賃貸業(N=4) 75.0% 25.0%
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5) 25.0% 75.0%
生活関連サービス業、娯楽業(N=6) 50.0% 50.0%
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18) 83.3% 16.7%
複合サービス事業(N=1) 100.0%
サービス業(他に分類されないもの)(N=14) 57.1% 35.7% 7.1%
その他(N=7) 57.1% 28.6% 14.3%
重要 どちらかというと重要 どちらかというと重要でない 重要でない わからない

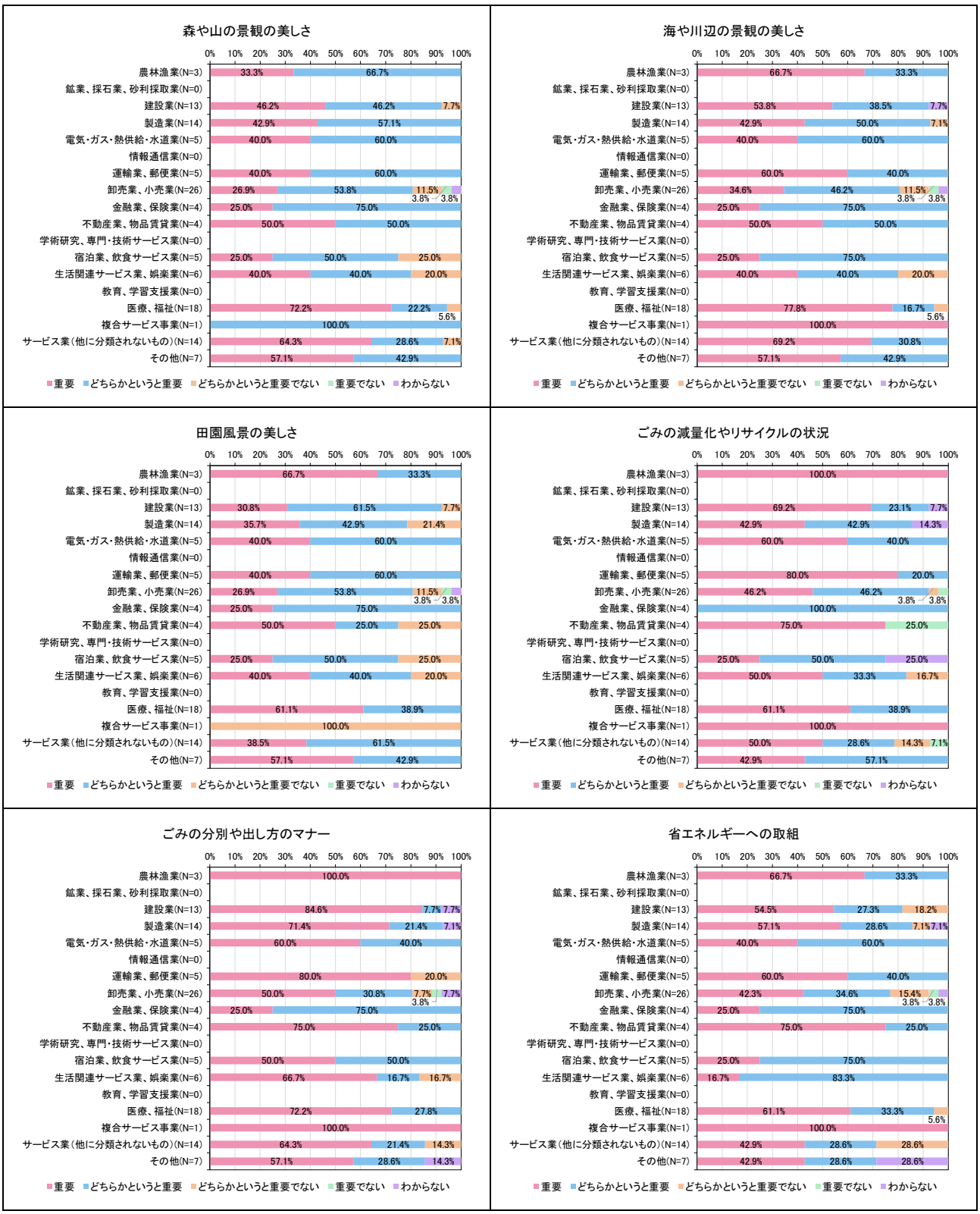

農地としての緑の豊かさ
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3) 66.7% 33.3%
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=13) 53.8% 46.2%
製造業(N=14) 35.7% 50.0% 14.3%
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5) 60.0% 40.0%
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5) 60.0% 40.0%
卸売業、小売業(N=26) 34.6% 53.8% 3.8% 3.8% 3.8%
金融業、保険業(N=4) 100.0%
不動産業、物品賃貸業(N=4) 75.0% 25.0%
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5) 100.0%
生活関連サービス業、娯楽業(N=6) 50.0% 33.3% 16.7%
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18) 83.3% 16.7%
複合サービス事業(N=1) 100.0%
サービス業(他に分類されないもの)(N=14) 28.6% 57.1% 7.1% 7.1%
その他(N=7) 28.6% 57.1% 14.3%
重要 どちらかというと重要 どちらかというと重要でない 重要でない わからない


鳥や魚、植物などの身近な生物の豊かさ
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3) 66.7% 33.3%
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=13) 45.5% 54.5%
製造業(N=14) 42.9% 57.1%
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5) 60.0% 20.0% 20.0%
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5) 60.0% 20.0% 20.0%
卸売業、小売業(N=26) 36.0% 52.0% 4.0% 4.0% 4.0%
金融業、保険業(N=4) 100.0%
不動産業、物品賃貸業(N=4) 50.0% 50.0%
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5) 100.0%
生活関連サービス業、娯楽業(N=6) 50.0% 33.3% 16.7%
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18) 77.8% 22.2%
複合サービス事業(N=1) 100.0%
サービス業(他に分類されないもの)(N=14) 28.6% 57.1% 7.1% 7.1%
その他(N=7) 28.6% 71.4%
重要 どちらかというと重要 どちらかというと重要でない 重要でない わからない

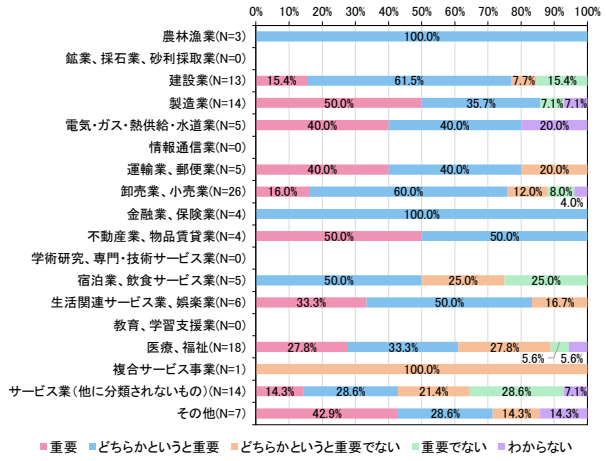

自然とのふれあいの機会の多さ
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3) 33.3% 66.7%
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=13) 38.5% 53.8% 7.7%
製造業(N=14) 30.8% 46.2% 23.1%
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5) 40.0% 60.0%
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5) 60.0% 20.0% 20.0%
卸売業、小売業(N=26) 30.8% 42.3% 19.2% 3.8% 3.8%
金融業、保険業(N=4) 100.0%
不動産業、物品賃貸業(N=4) 75.0% 25.0%
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5) 75.0% 25.0%
生活関連サービス業、娯楽業(N=6) 33.3% 50.0% 16.7%
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18) 50.0% 44.4% 5.6%
複合サービス事業(N=1) 100.0%
サービス業(他に分類されないもの)(N=14) 28.6% 57.1% 14.3%
その他(N=7) 28.6% 71.4%
重要 どちらかというと重要 どちらかというと重要でない 重要でない わからない


野生鳥獣の生息域と生活圏のバランス
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3) 100.0%
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=13) 30.8% 61.5% 7.7%
製造業(N=14) 42.9% 50.0% 7.1%
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5) 60.0% 40.0%
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5) 40.0% 40.0% 20.0%
卸売業、小売業(N=26) 11.5% 69.2% 7.7% 7.7% 3.8%
金融業、保険業(N=4) 25.0% 75.0%
不動産業、物品賃貸業(N=4) 75.0% 25.0%
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5) 25.0% 50.0% 25.0%
生活関連サービス業、娯楽業(N=6) 40.0% 20.0% 20.0% 20.0%
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18) 55.6% 44.4%
複合サービス事業(N=1) 100.0%
サービス業(他に分類されないもの)(N=14) 28.6% 64.3% 7.1%
その他(N=7) 42.9% 42.9% 14.3%
重要 どちらかというと重要 どちらかというと重要でない 重要でない わからない

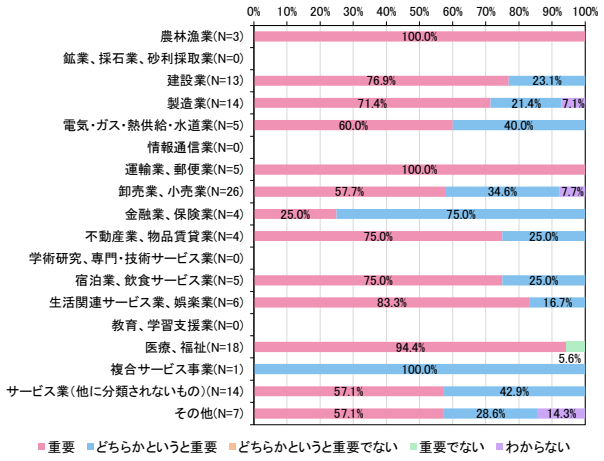

公園や街路の花や緑
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3) 100.0%
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=13) 53.8% 38.5% 7.7%
製造業(N=14) 57.1% 42.9%
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5) 60.0% 20.0% 20.0%
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5) 40.0% 40.0% 20.0%
卸売業、小売業(N=26) 30.8% 46.2% 15.4% 3.8% 3.8%
金融業、保険業(N=4) 25.0% 75.0%
不動産業、物品賃貸業(N=4) 75.0% 25.0%
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5) 25.0% 75.0%
生活関連サービス業、娯楽業(N=6) 60.0% 40.0%
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18) 61.1% 27.8% 11.1%
複合サービス事業(N=1) 100.0%
サービス業(他に分類されないもの)(N=14) 35.7% 64.3%
その他(N=7) 42.9% 42.9% 14.3%
重要 どちらかというと重要 どちらかというと重要でない 重要でない わからない


森や山の景観の美しさ
海や川辺の景観の美しさ
田園風景の美しさ
ごみの減量化やリサイクルの状況
ごみの分別や出し方のマナー
省エネルギーへの取組
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
農林漁業(N=3)
鉱業、採石業、砂利採取業(N=0)
建設業(N=13)
製造業(N=14)
電気・ガス・熱供給・水道業(N=5)
情報通信業(N=0)
運輸業、郵便業(N=5)
卸売業、小売業(N=26)
金融業、保険業(N=4)
不動産業、物品賃貸業(N=4)
学術研究、専門・技術サービス業(N=0)
宿泊業、飲食サービス業(N=5)
生活関連サービス業、娯楽業(N=6)
教育、学習支援業(N=0)
医療、福祉(N=18)
複合サービス事業(N=1)
サービス業(他に分類されないもの)(N=14)
その他(N=7)
重要
どちらかというと重要
どちらかというと重要でない
重要でない
わからない

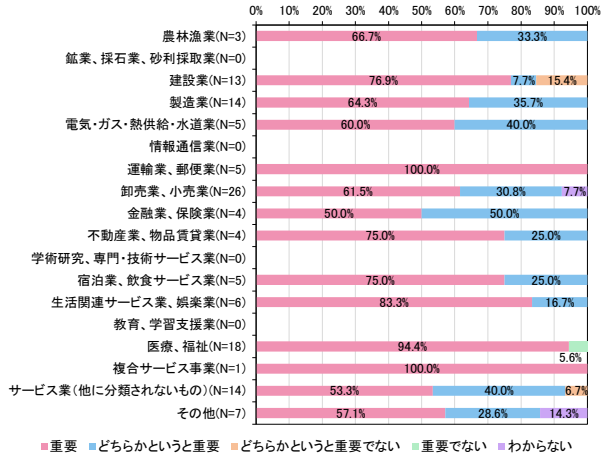
太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入



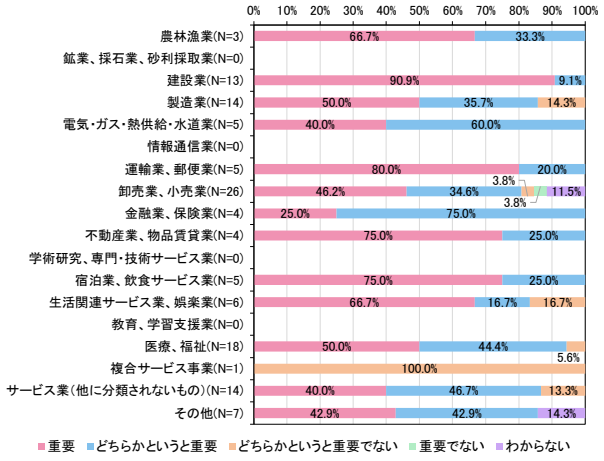
大雨・洪水に対する備え



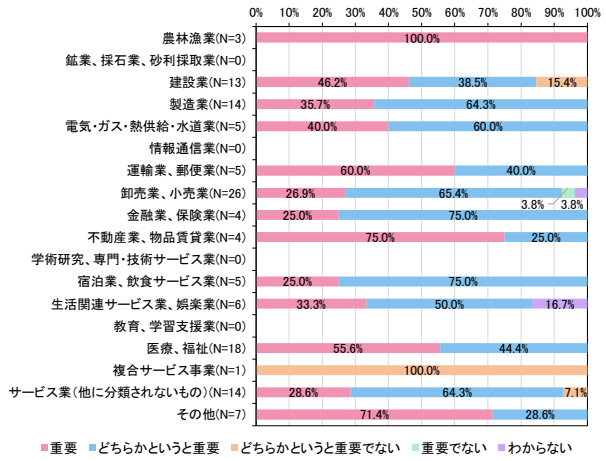
土砂災害に対する備え



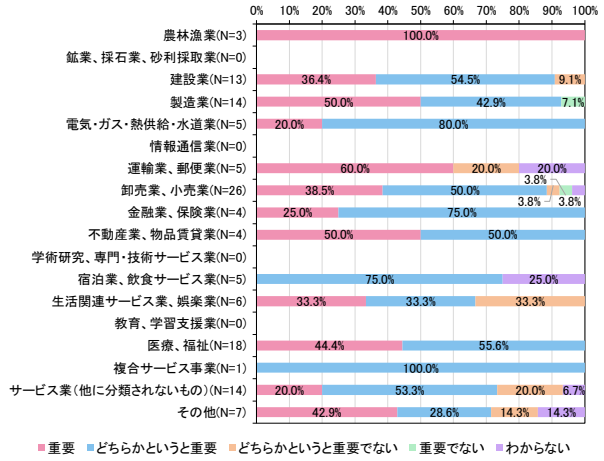
猛暑に対する備え

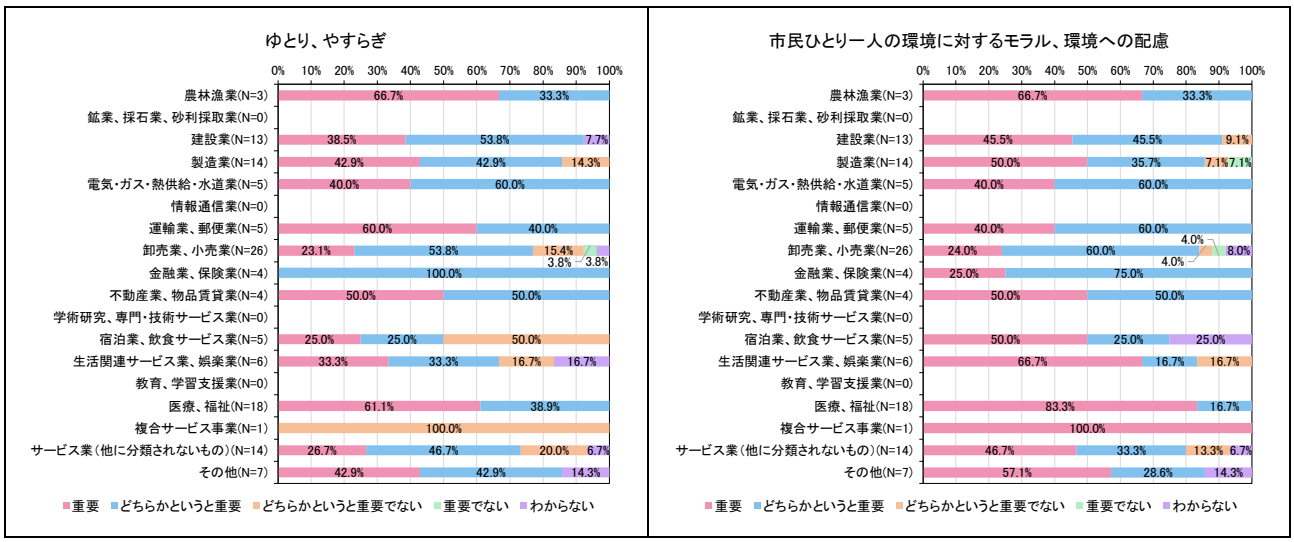


地産地消(地場農産物の消費)の状況



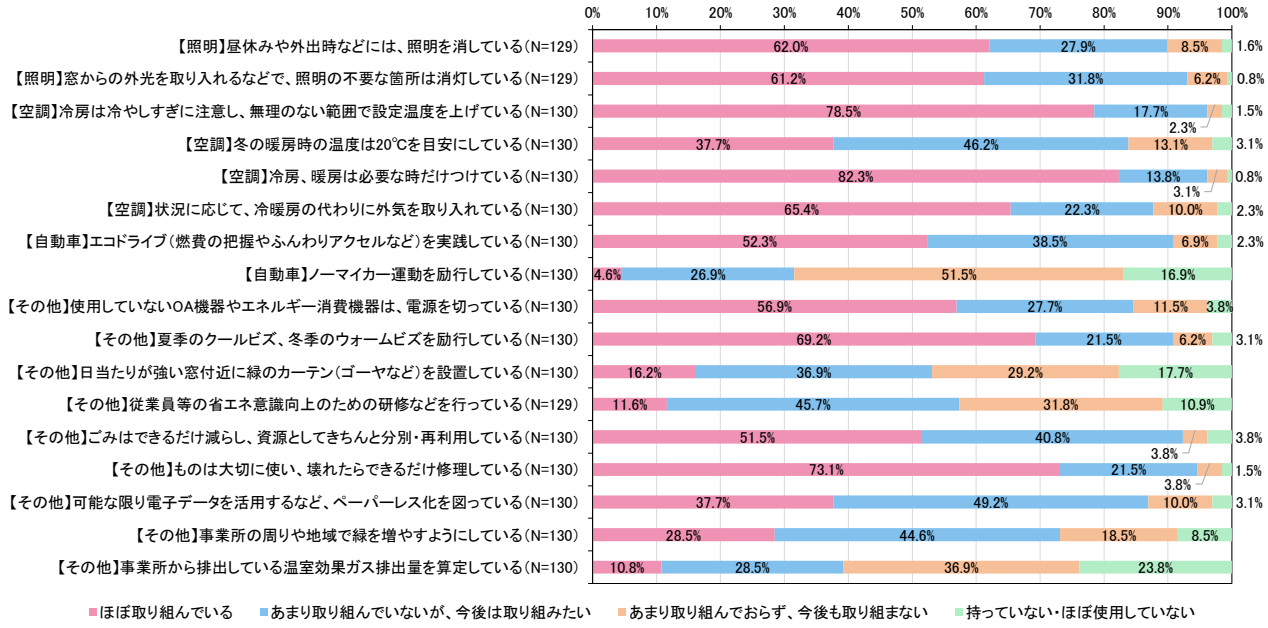
環境教育・環境学習に関する取組





◆ いずれの項目においても、概ね「重要」または「どちらかというと重要」と回答した事業者の割合が高いため、業種を問わず、環境項目を重要と考えている事業者が多いと考えられる。特に、「大雨・洪水に対する備え」及び「土砂災害に対する備え」については、「重要」と回答した事業者が多く、気候変動への関心が高いと考えられる。

問５　貴事業所は日頃、地球温暖化防止のための取組をどの程度行っていますか。
現在の取組状況について、あてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。



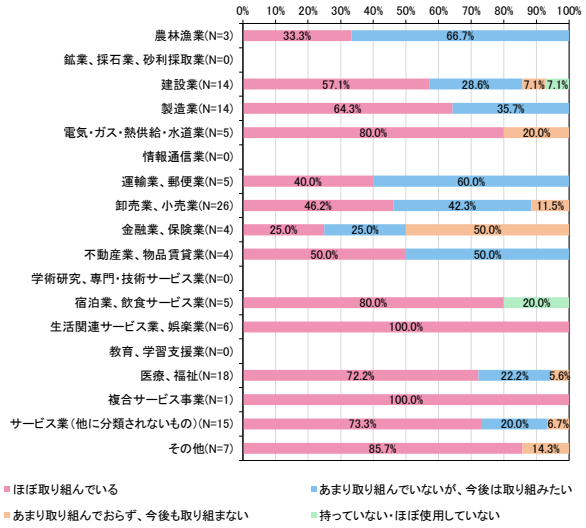
【全体結果】

- ◆　「ほぼ取り組んでいる」と回答した事業者の割合が最も高い取組は、「【空調】冷房、暖房は必要な時だけつけている」の 82.3%であり、次いで「【空調】冷房は冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で設定温度を上げている」78.5%、「【その他】ものは大切に使い、壊れたらできるだけ修理している」の 73.1%である。
- ◆　【照明】及び【空調】に関する取組は、「ほぼ取り組んでいる」または「あまり取り組んでいないが、今後は取り組みたい」と回答した事業者の割合が８割以上を占めている。
- ◆　一方、「あまり取り組んでおらず、今後も取り組まない」と回答した事業者の割合が最も高い取組は、「【自動車】ノーマイカー運動を励行している」の 51.5%であり、次いで「【その他】事業所から排出している温室効果ガス排出量を算定している」の 36.9%、「【その他】従業員等の省エネ意識向上のための研修などを行っている」の 31.8%である。

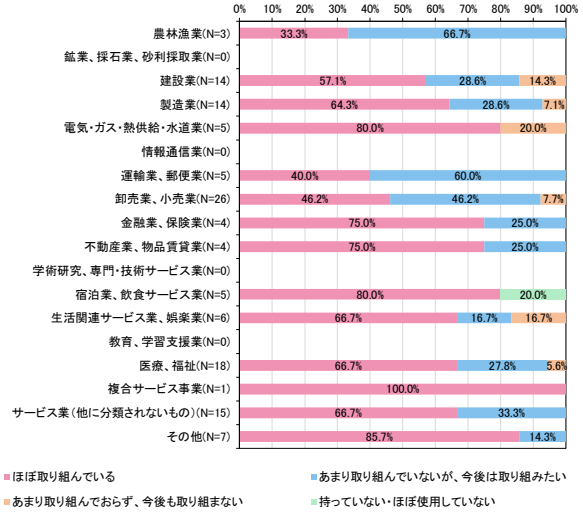
【属性別結果】

問５　地球温暖化防止のための取組の程度〈業種別〉

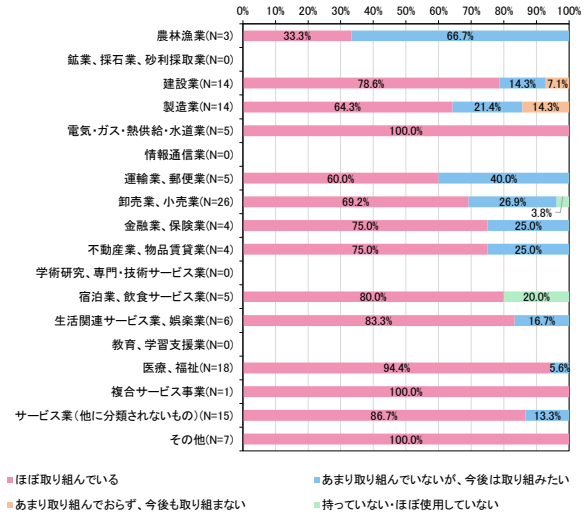
【照明】昼休みや外出時などには、照明を消している



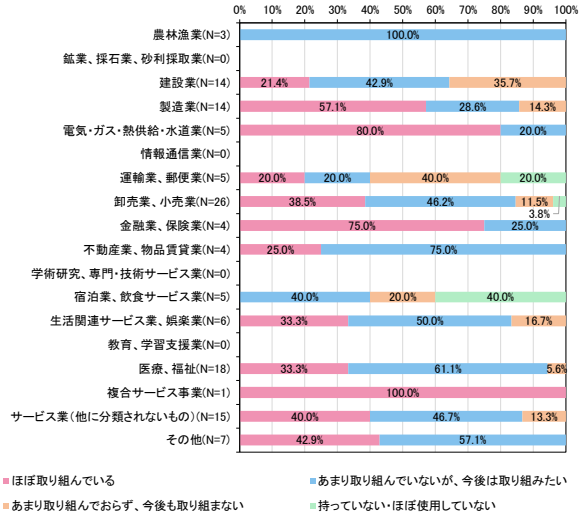
【照明】窓からの外光を取り入れるなどで、照明の不要な箇所は消灯している



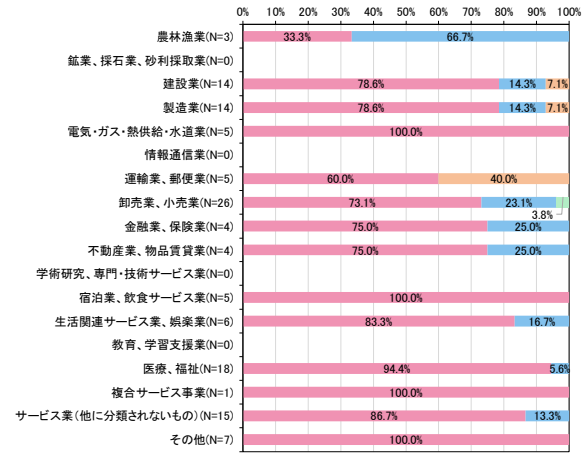
【空調】冷房は冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で設定温度を上げている



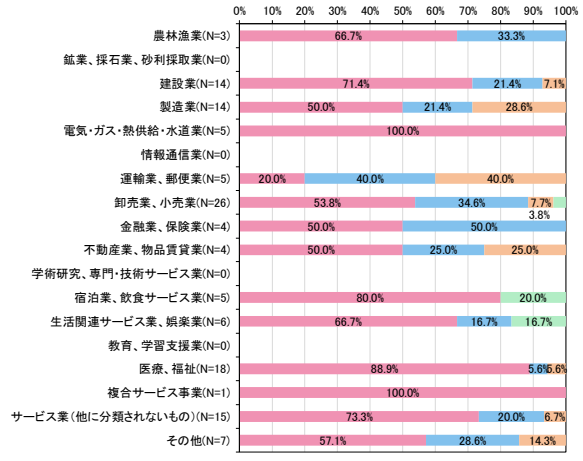
【空調】冬の暖房時の温度は20℃を目安にしている



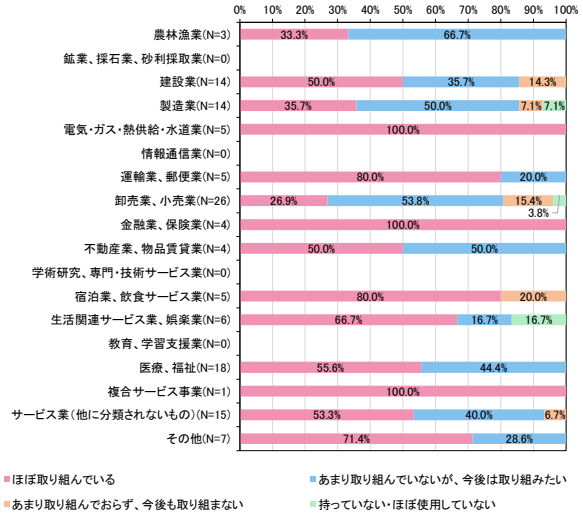
【空調】冷房、暖房は必要な時だけつけている



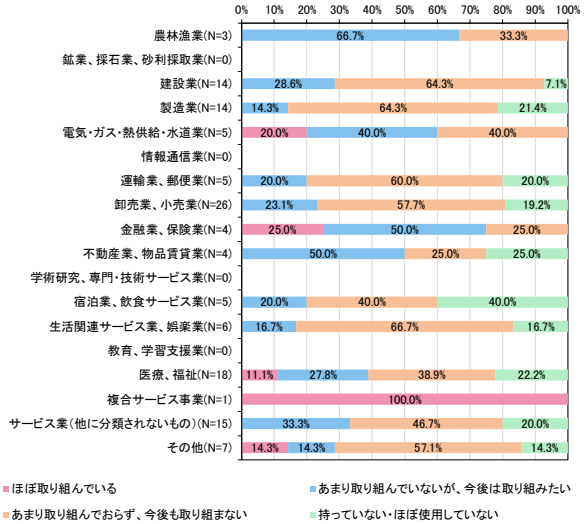
【空調】状況に応じて、冷暖房の代わりに外気を取り入れている



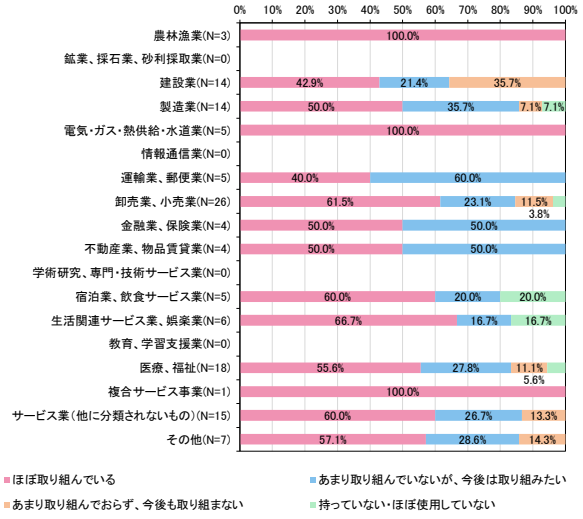
【自動車】エコドライブ（燃費の把握やふんわりアクセルなど）を実践している



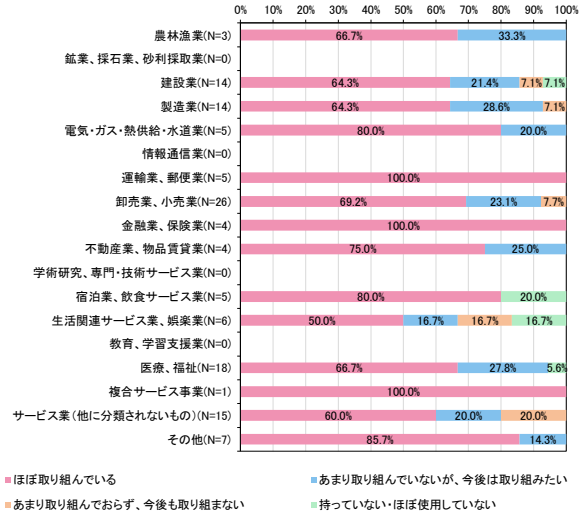
【自動車】ノーマイカー運動を励行している



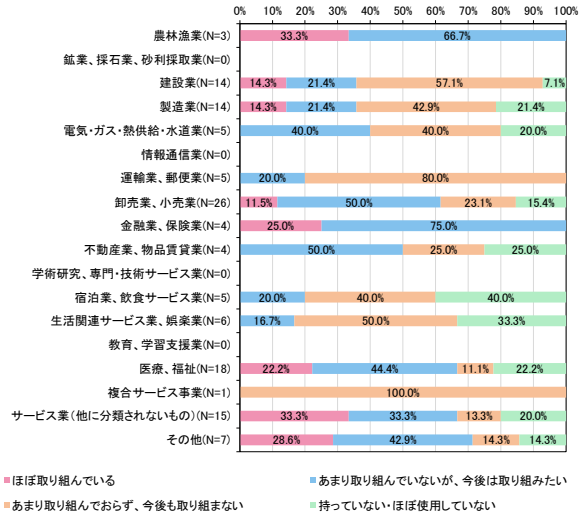
【その他】使用していないOA機器やエネルギー消費機器は、電源を切っている



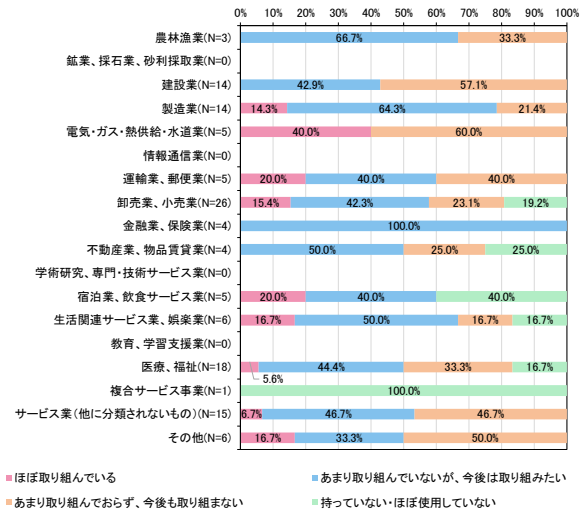
【その他】夏季のクールビズ、冬季のウォームビズを励行している



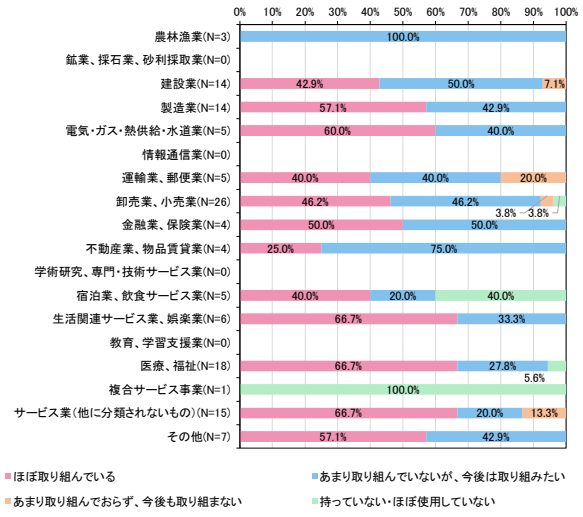
【その他】日当たりが強い窓付近に緑のカーテン（ゴーヤなど）を設置している



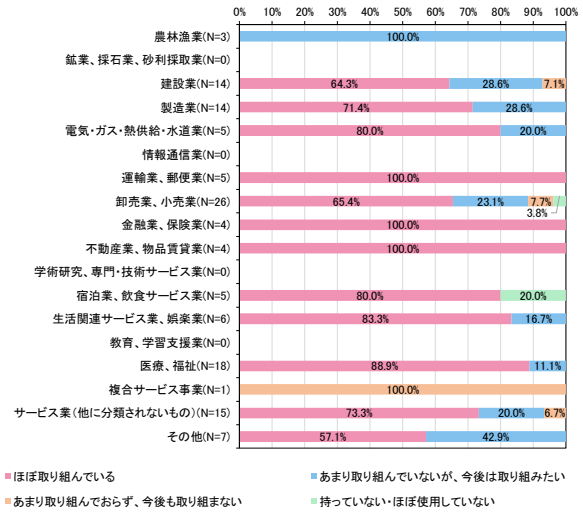
【その他】従業員等の省エネ意識向上のための研修などを行っている



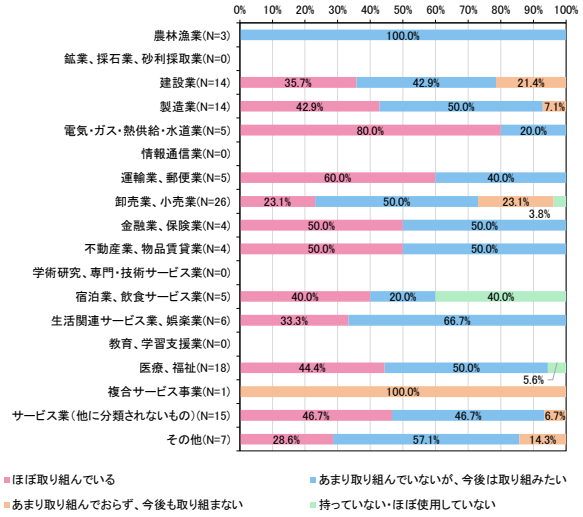
【その他】ごみはできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用している



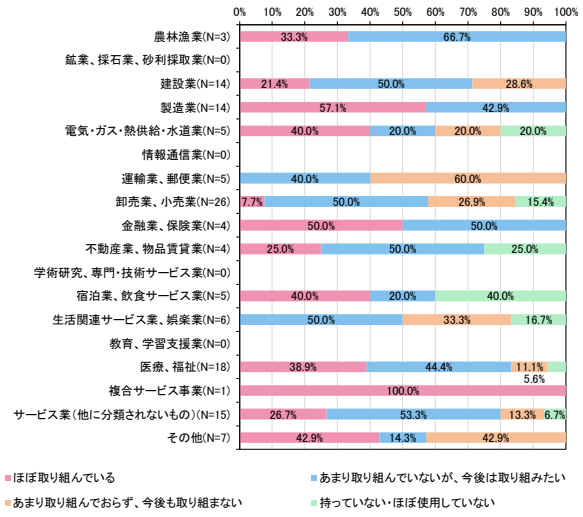
【その他】ものは大切に使い、壊れたらできるだけ修理している



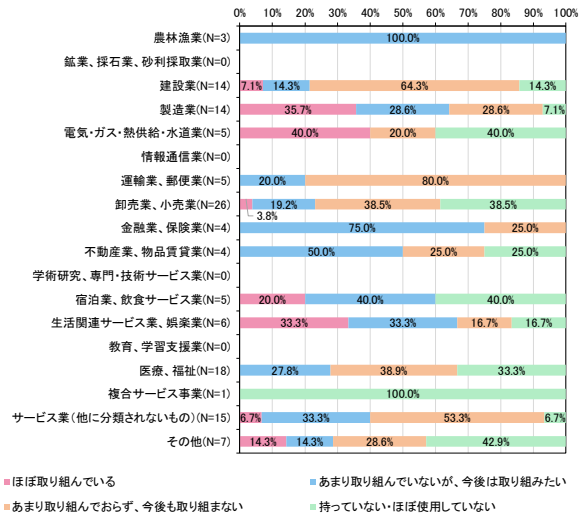
【その他】可能な限り電子データを活用するなど、ペーパーレス化を図っている



【その他】事業所の周りや地域で緑を増やすようにしている

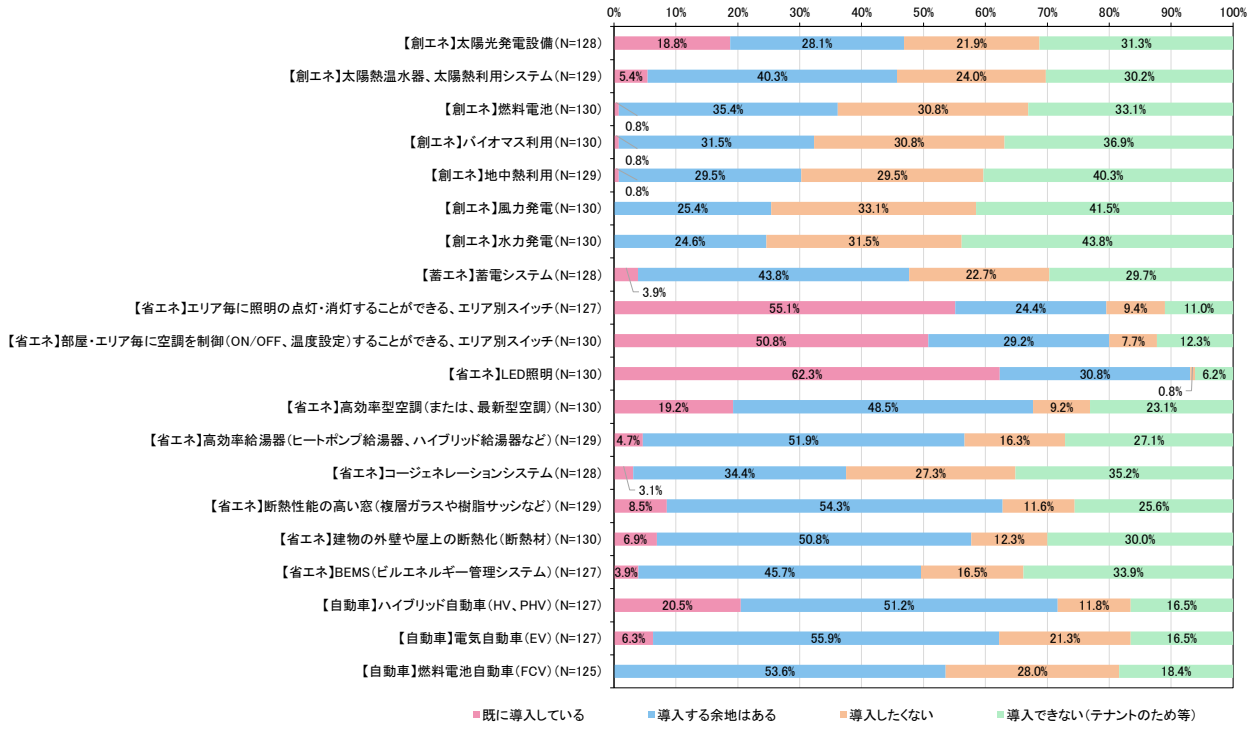


【その他】事業所から排出している温室効果ガス排出量を算定している



◆ 業種別の回答数が少なく、一概には言えないが、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問６　次の項目は、地球温暖化防止につながる設備の例です。
「現在の導入状況（予定）」にあてはまるものをそれぞれ１つ選んで番号に○印をつけてください。



（その他、地球温暖化防止につながる設備（※回答内容を集約・整理している））
●雨水の利用　●一部の屋根に遮熱塗料　●高効率機器

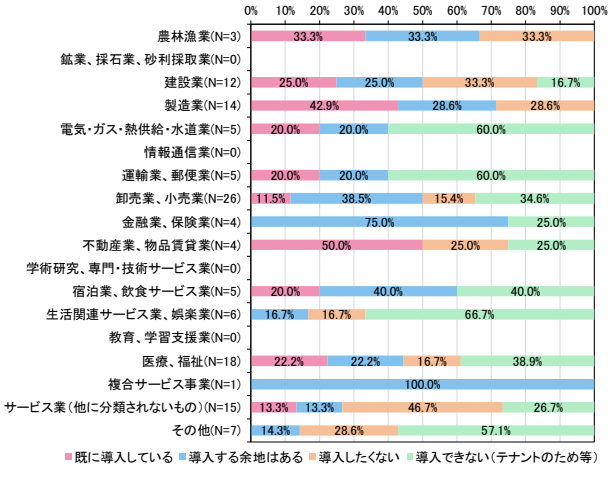
【全体結果】

- ◆ 「既に導入している」と回答した事業者の割合が最も高い項目は、「【省エネ】LED 照明」の 62.3%であり、次いで「【省エネ】エリア毎に照明の点灯・消灯することができる、エリア別スイッチ」の 55.1%、「【省エネ】部屋・エリア毎に空調を制御（ON/OFF、温度設定）することができる、エリア別スイッチ」の 50.8%である。
- ◆ 「導入できない」と回答した事業者を除くと、太陽光・太陽熱以外の創エネ機器及び「【省エネ】コージェネレーションシステム」以外は、「既に導入している」または「導入する余地はある」と回答した事業者の割合が６割以上を占めている。
- ◆ 「導入できない」と回答した事業者を除くと、全体的に「導入する余地はある」と回答した事業者の割合が多い。

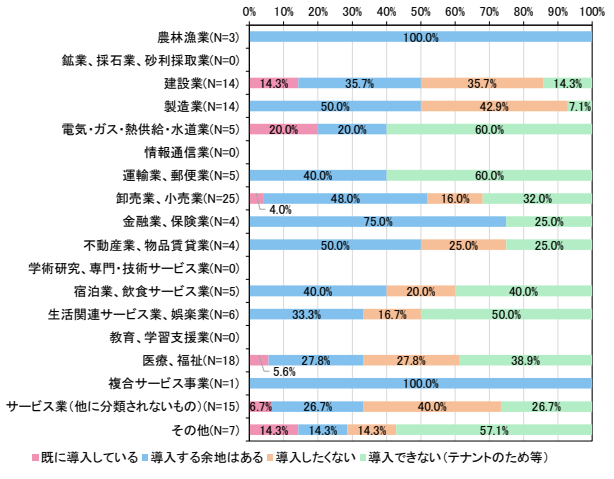
【属性別結果】

問６　地球温暖化防止につながる設備の導入状況〈業種別〉

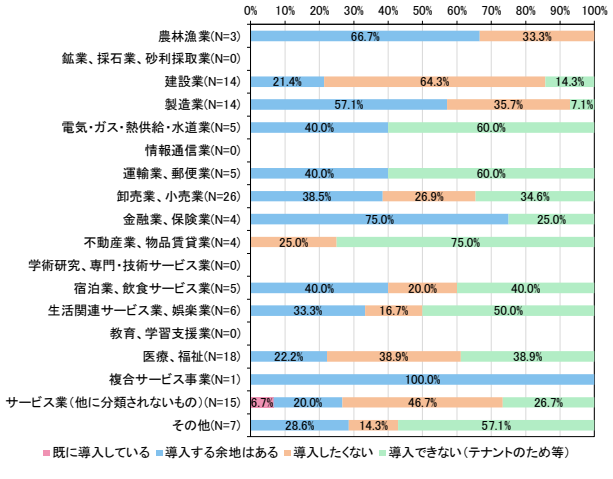
【創エネ】太陽光発電設備



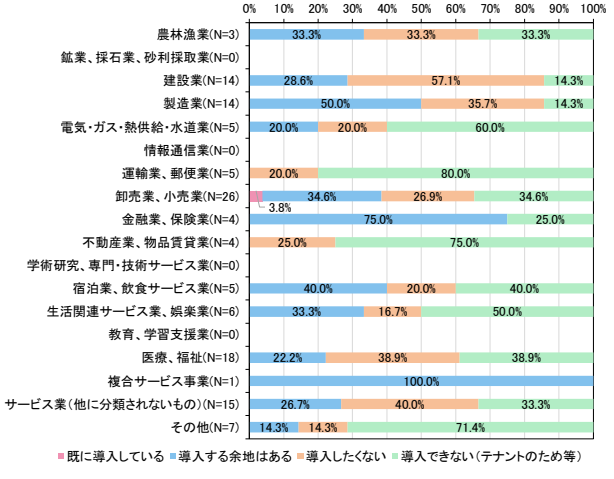
【創エネ】太陽熱温水器、太陽熱利用システム



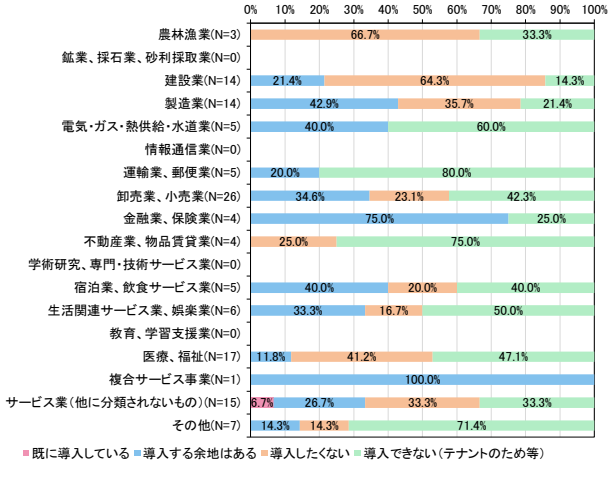
【創エネ】燃料電池



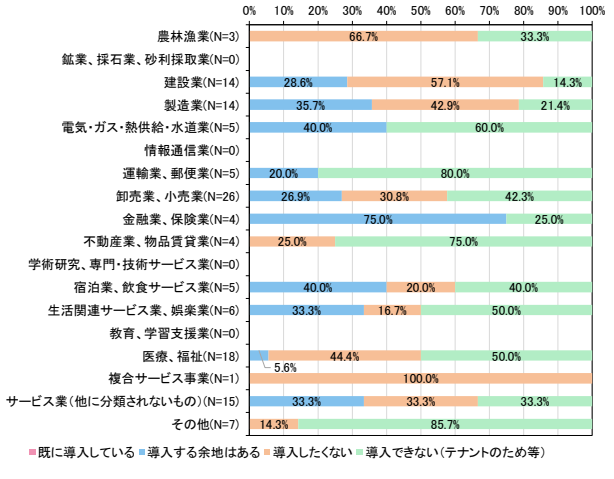
【創エネ】バイオマス利用



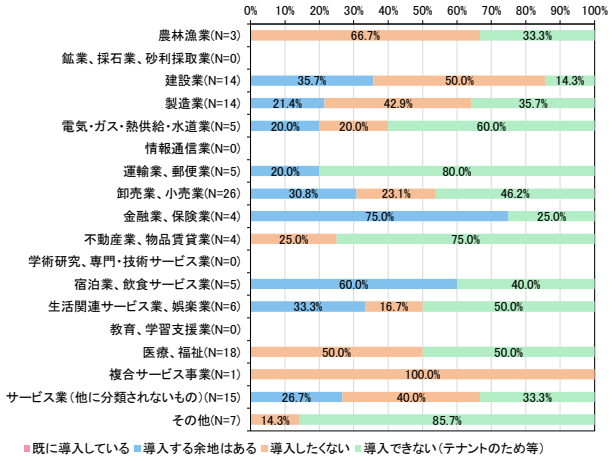
【創エネ】地中熱利用



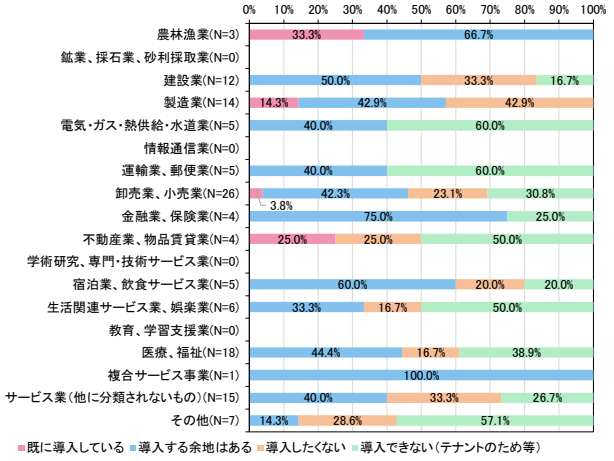
【創エネ】風力発電



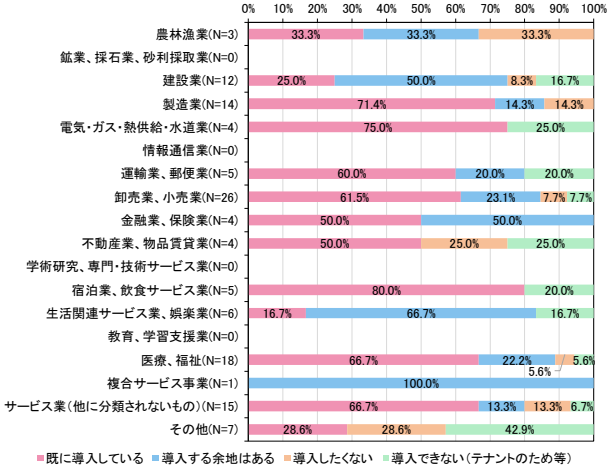
【創エネ】水力発電



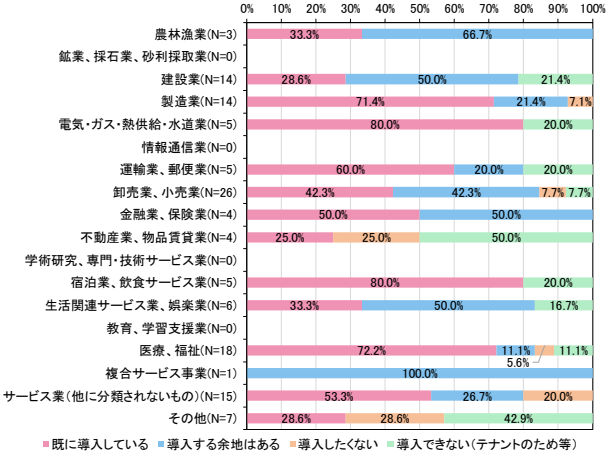
【蓄エネ】蓄電システム



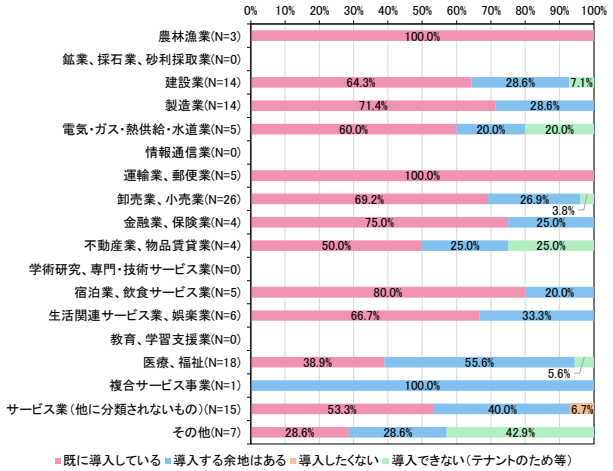
【省エネ】エリア毎に照明の点灯・消灯することができる、エリア別スイッチ



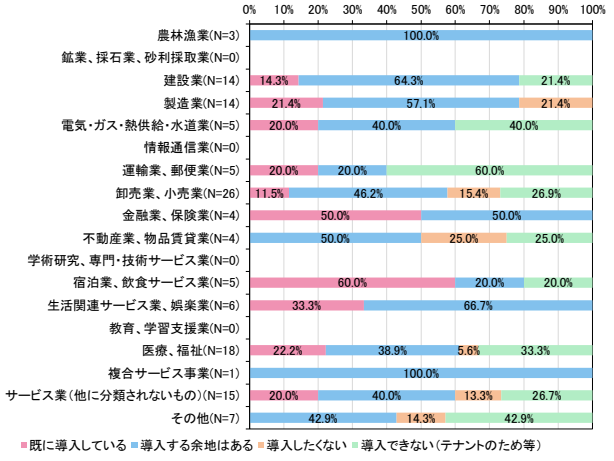
【省エネ】部屋・エリア毎に空調を制御(ON/OFF、温度設定)することができる、エリア別スイッチ



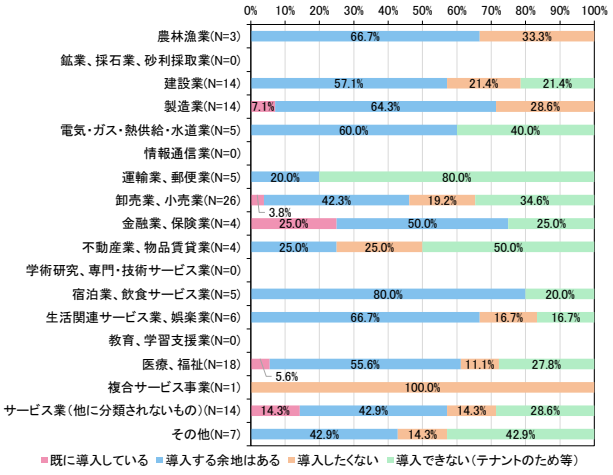
【省エネ】LED照明



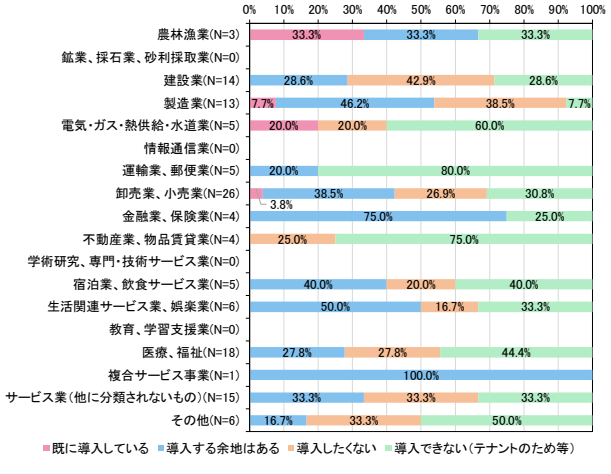
【省エネ】高効率型空調(または、最新型空調)



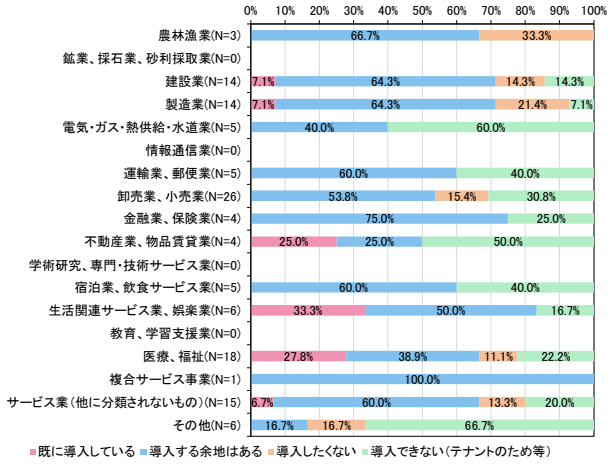
【省エネ】高効率給湯器（ヒートポンプ給湯器、ハイブリッド給湯器など）



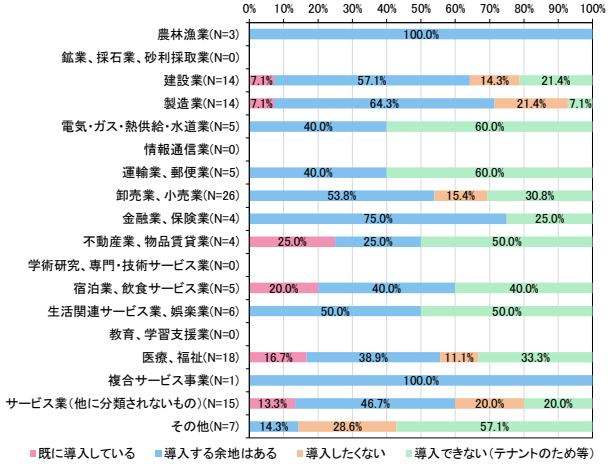
【省エネ】コージェネレーションシステム



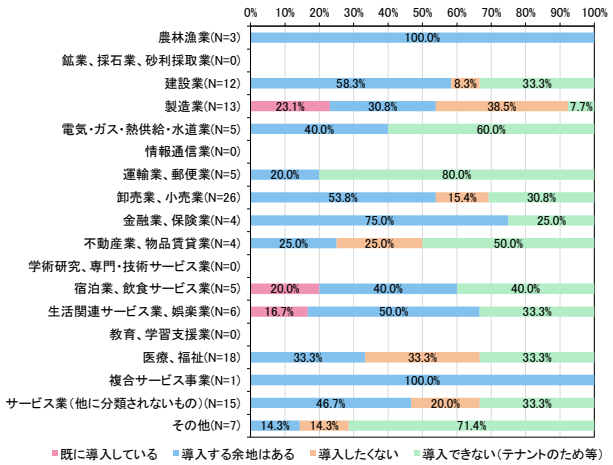
【省エネ】断熱性能の高い窓（複層ガラスや樹脂サッシなど）



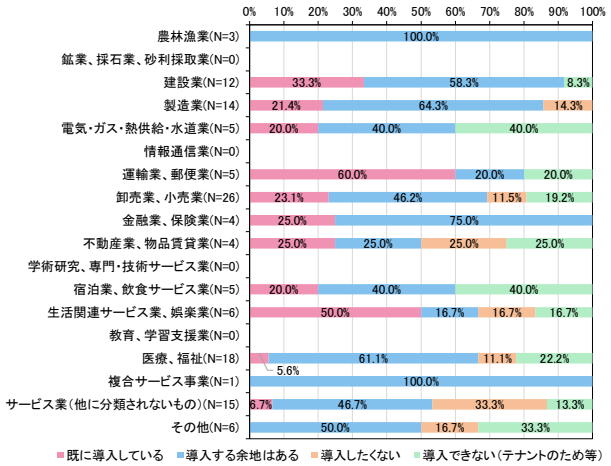
【省エネ】建物の外壁や屋上の断熱化（断熱材）

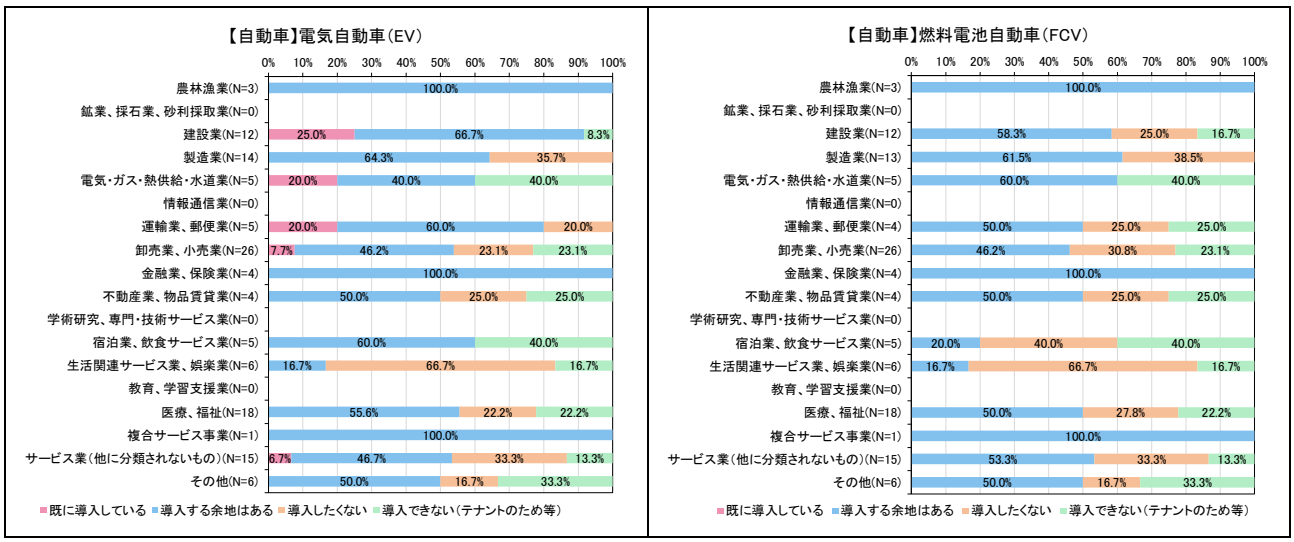


【省エネ】BEMS（ビルエネルギー管理システム）



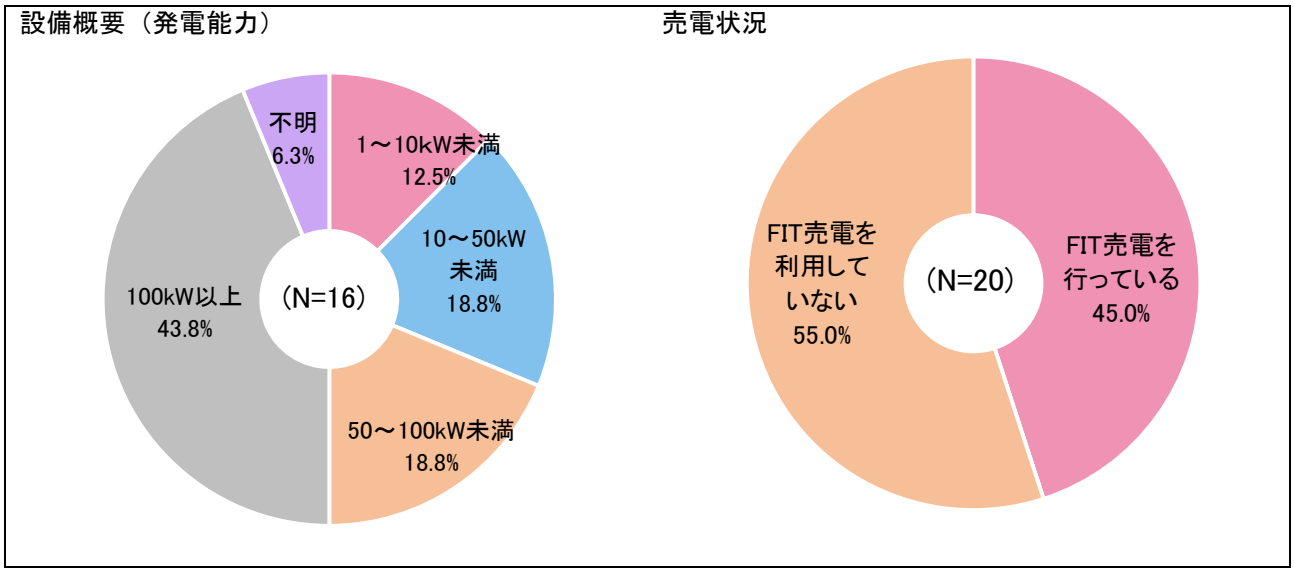
【自動車】ハイブリッド自動車（HV、PHV）





- ◆ 業種別の回答数が少なく、一概には言えないが、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。
- ◆ いずれの業種においても、創エネ設備の導入は限定的でとなっている。

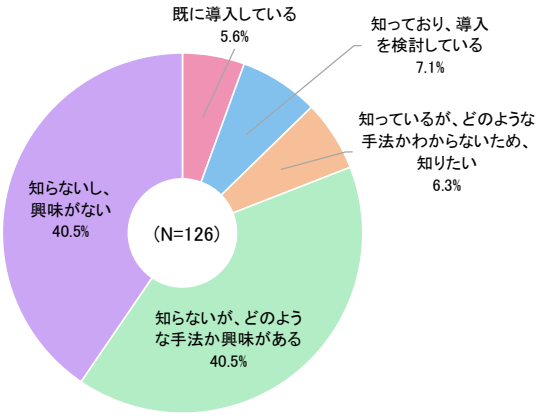
問７　問６で“太陽光発電設備”を「既に導入している」と回答した事業所にお聞きします。現在の太陽光発電の設備及び売電状況についてご回答ください。



【全体結果】

- ◆ 設備の発電能力は、100kW 以上が最も高く 43.8%である。
- ◆ 売電状況について、FIT 売電を行っている事業者と FIT 売電を利用していない事業者の割合が、ほぼ同程度である。

問８　貴事業所は、太陽光発電設備を初期投資の負担がなく設置できる手法として PPA モデルやリースモデルがあることをご存知ですか。
あてはまるものを１つ選んで番号に○印をつけてください。



【全体結果】

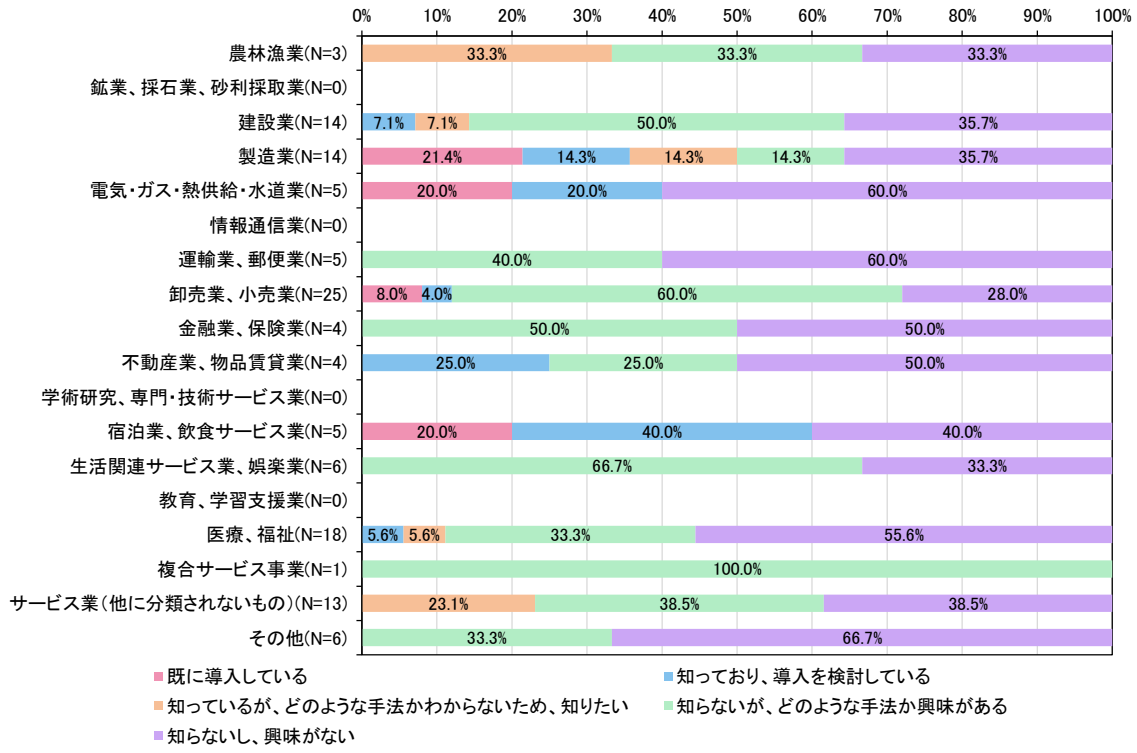
◆　PPA モデルやリースモデルに興味を持っている事業者は約５割を占めている。

◆　一方、PPA モデルやリースモデルに興味がない事業者は約４割を占めている。

【属性別結果】

問８　PPA モデルやリースの認知度

〈業種別〉



◆　PPA モデルやリースモデルを活用して太陽光発電設備を導入した事業者は、「製造業」及び「電気・ガス・熱供給・水道業」、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」の４業種に限られている。

◆　「電気・ガス・熱供給・水道業」及び「運輸業、郵便業」、「医療、福祉」、「その他」以外の業種は、PPA モデルやリースモデルに興味を持っている事業者が５割以上を占めている。

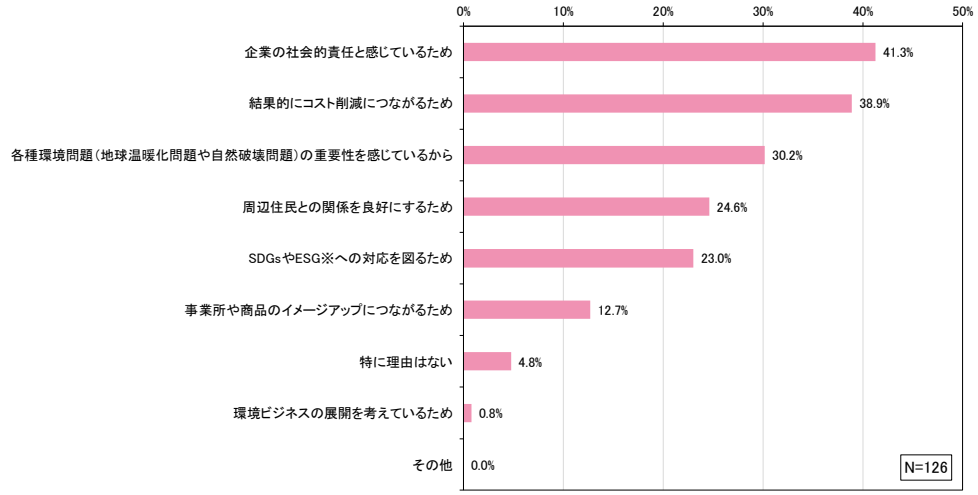
問９　貴事業所で実施されている環境保全に関する取組があればご記入ください。≪自由記入≫
例：地球温暖化防止につながる取組、ごみの減量につながる取組、生態系保全につながる取組など

1	ゴミの分別、節電
2	周辺でできる畑や花だん等の整備
3	全てにおいてエコを心掛けている。
4	LED 化を進めている。節電の努力をしている。
5	再利用可能なものは利用しています
6	どぶさらい、周辺の草刈り
7	クールビズ
8	ゴミの分別、ペーパーレス化は法人で取り組み
9	ごみの分別、ペットボトルなどリサイクル
10	他事業所にて、リサイクル事業を行っているため当事業所も進めている
11	特に意識して行っていません
12	全施設の LED 照明への移行を順次おこなっている。
13	ペットボトルの蓋の回収、定休日を設ける
14	CO2 フリー電力を採用している
15	オフィス内の電気・水使用状況、事務用紙削減の管理。オフィスおよび各現場に設置されている照明を LED 照明に取替。マイルドハイブリッド車の購入を検討。等
16	既回答済の取組以外には、地域美化活動への積極的な参加
17	事業所周辺の清掃活動
18	できるだけ社用車のハイブリッド車の起用やペーパーレスに取り組んでいる。
19	電灯 LED 化、ペーパーレス化、高効率機器への更新、非化石燃料の使用

【全体結果】

◆　日々実践することができる以下に示す取組を行っている事業者が多い。
資源循環に関する取組：ゴミの分別、リサイクル、ペーパーレス化
地球温暖化対策に関する取組：省エネ化や次世代自動車の導入
地域美化活動

問 10　貴事業所が環境保全活動に取り組む場合、その主な理由は何ですか。
貴事業所が最も重視していることを最大２つ選んで番号に〇印をつけてください。



※その他に関する記載は無かった

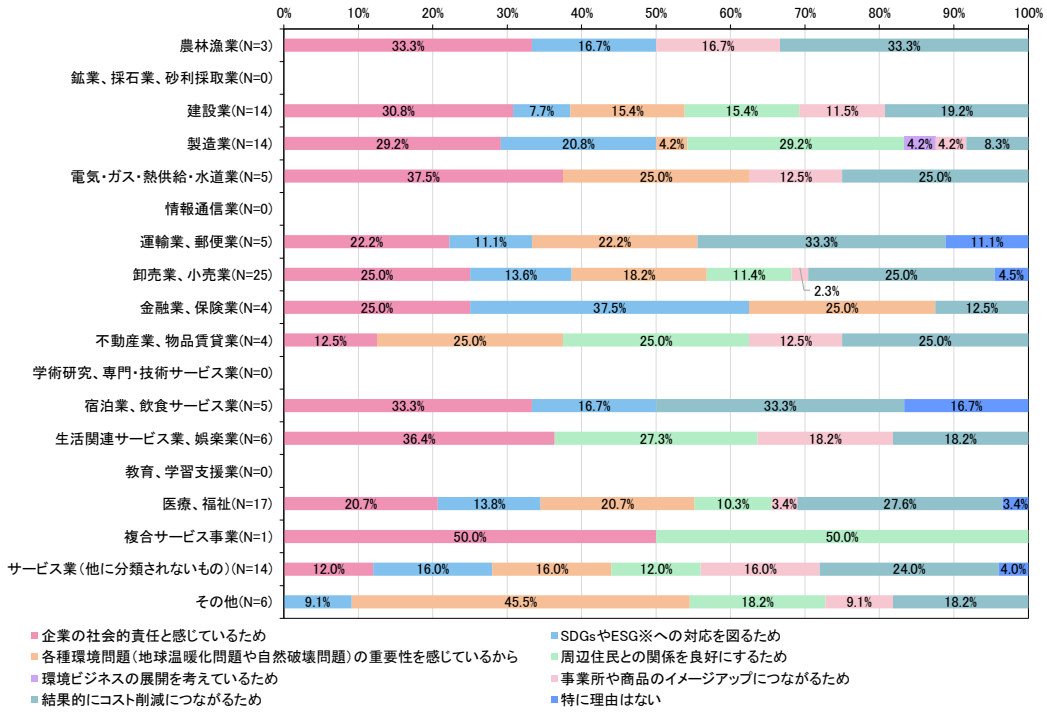
【全体結果】

◆　環境保全活動に取り組む理由は、「企業の社会的責任と感じているため」と回答した事業者の割合が 41.3%最も高く、次いで「結果的にコスト削減につながるため」の 38.9%、「各種環境問題（地球温暖化問題や自然破壊問題）の重要性を感じているから」の 30.2%であった。

【属性別結果】

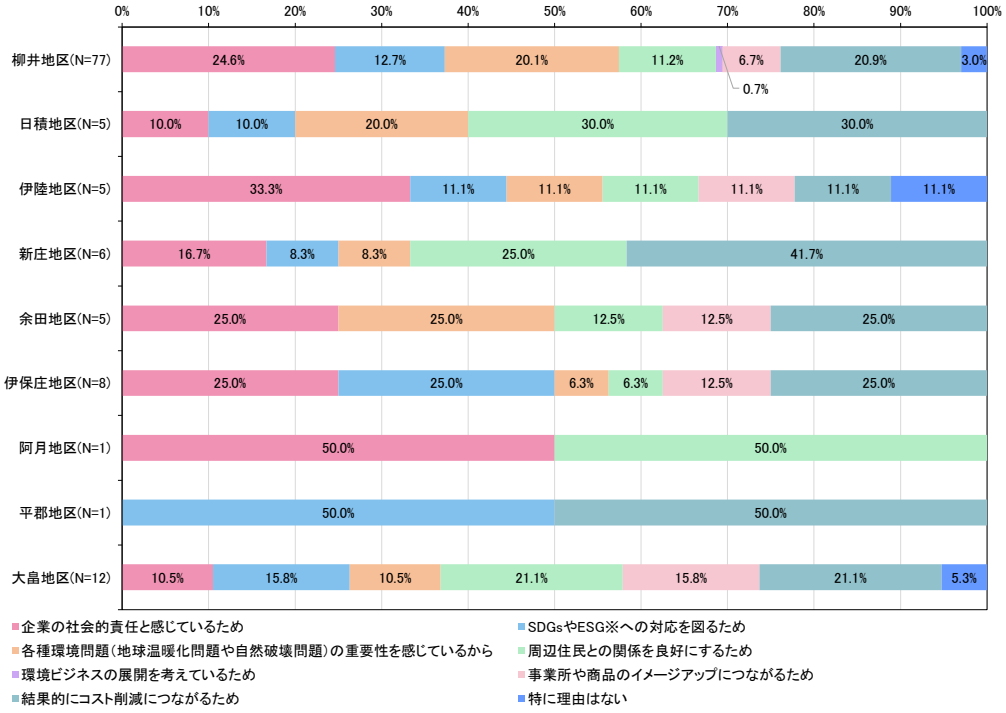
問 10　環境活動に取り組む理由

〈業種別〉



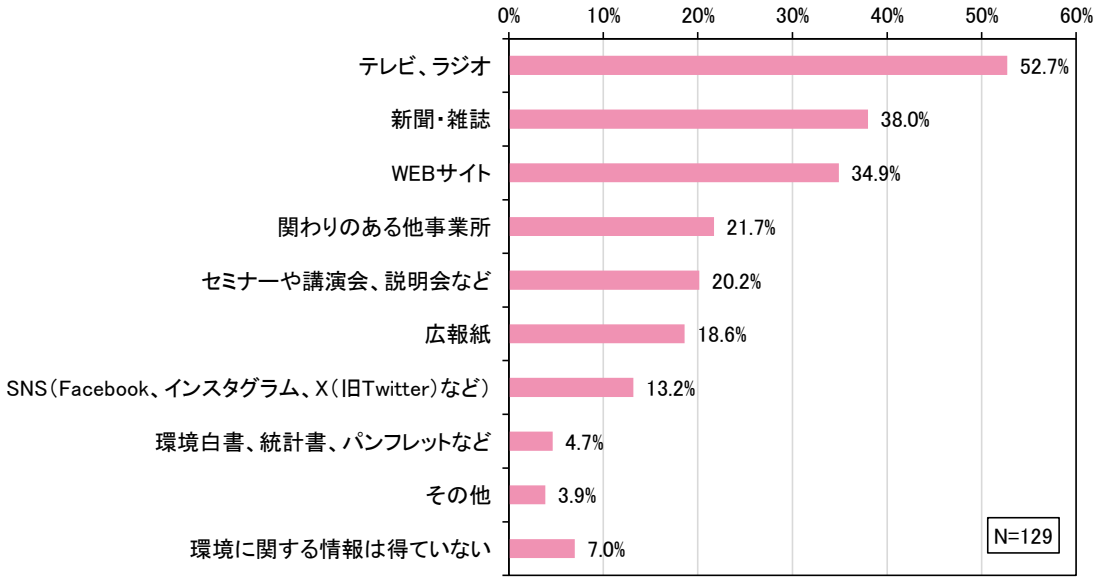
◆　業種別の回答数が少なく、一概には言えないが、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

〈住所別〉



◆ 地域別の回答数が少なく、一概には言えないが、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問 11　貴事業所は環境に関する情報をどこから得ていますか。あてはまるものを全て選んで番号に○印をつけてください。



(その他)
●youtube 等　●ニュース等　●ヤフー　●武田邦彦　●市の広報誌　●市報　●東京本社より発信あり
●取引先、業界団体　●総務課からの発信　●週刊「エネルギーと環境」、エネルギーフォーラム等

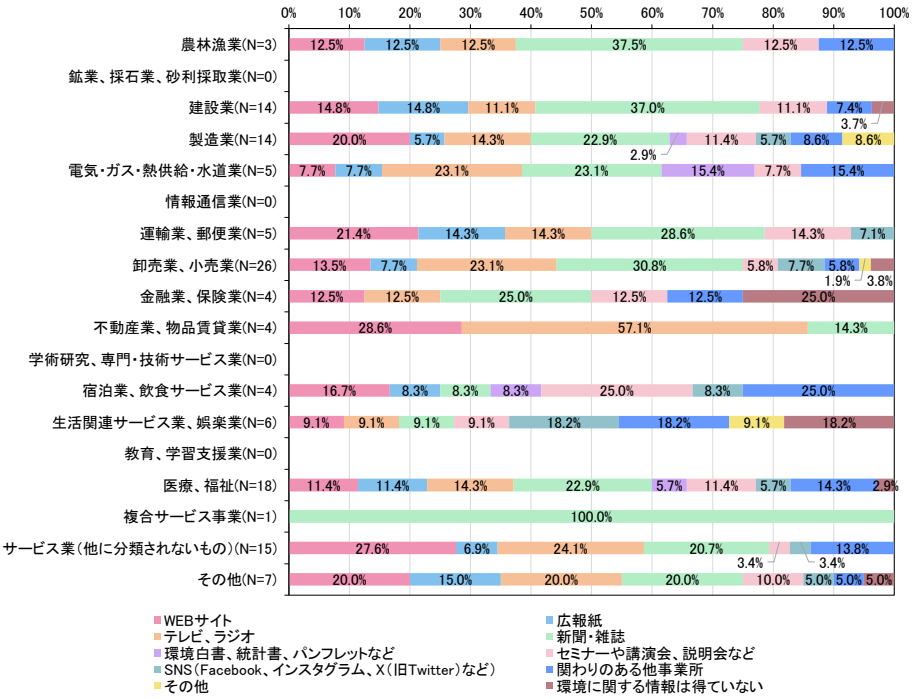
【全体結果】

◆ 「テレビ・ラジオ」と回答した事業者の割合が 52.7%と最も高く、次いで「新聞・雑誌」の 38.0%、「ＷＥＢサイト」の 34.9%である。

【属性別結果】

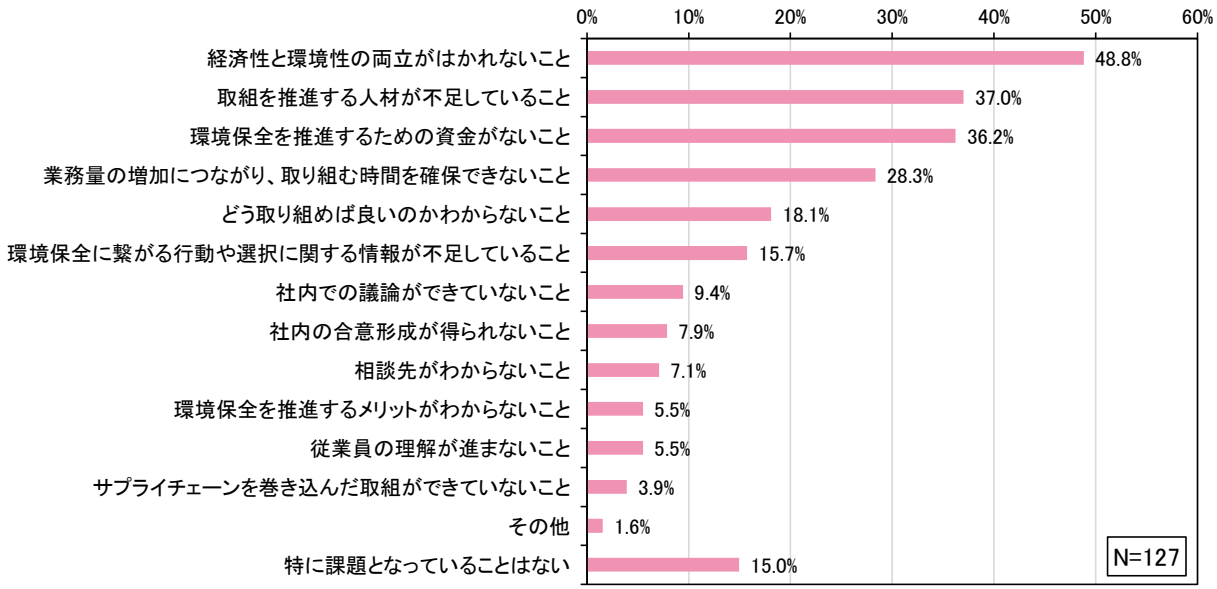
問 11　環境に関する情報の入手先について

〈業種別〉



◆　業種別の回答数が少なく、一概には言えないが、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問 12　貴事業所が環境保全を推進する上で課題となっていることは何ですか。
あてはまるものを全て選んで番号に〇印をつけてください。



（その他（※回答内容を集約・整理している））
●国全体、世界中で方向を決めること　●本部主導で実施しているため、意思決定権がないこと

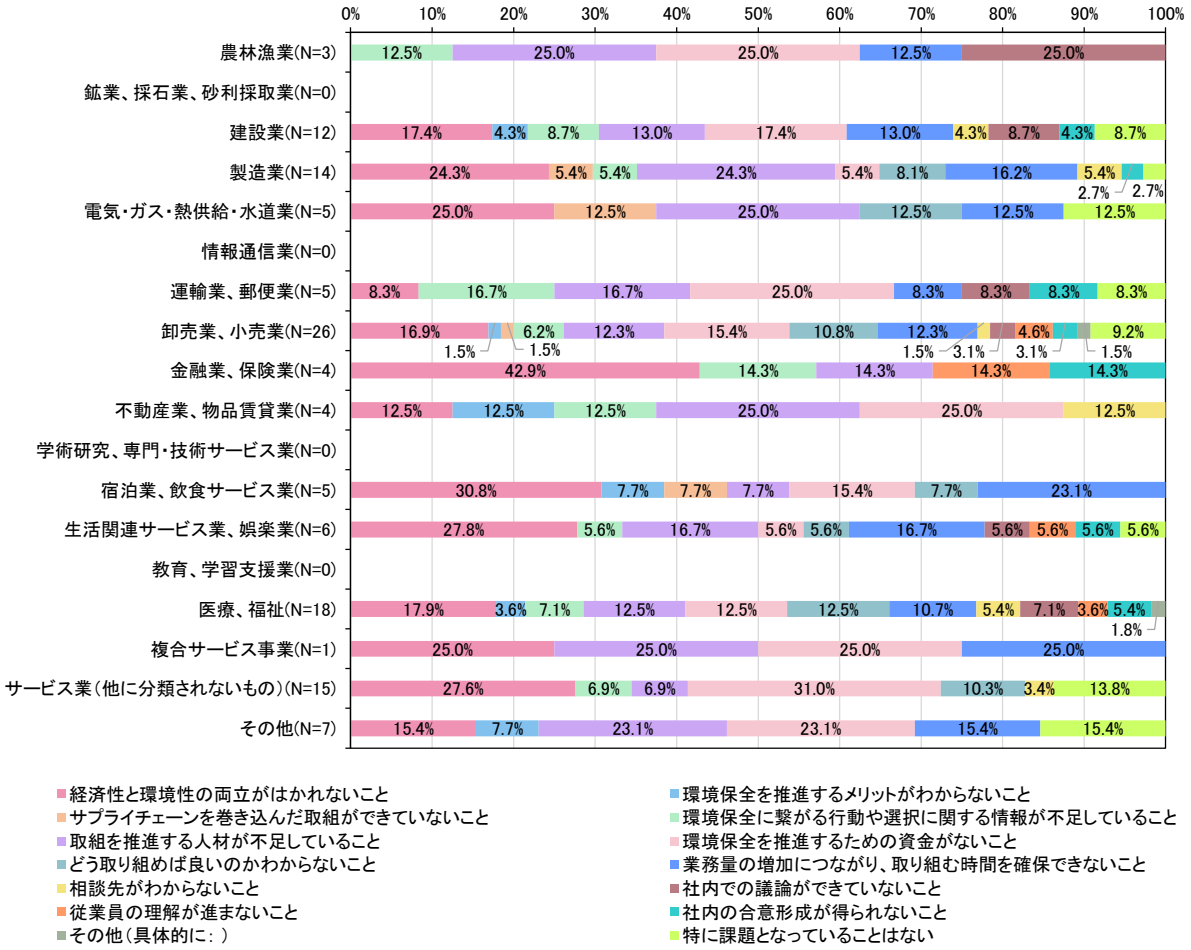
【全体結果】

- 「経済性と環境性の両立がはかれないこと」と回答した事業者の割合が 48.8%と最も高く、次いで「取組を推進する人材が不足していること」の 37.0%、「環境保全を推進するための資金がないこと」の 36.2%である。
- 一方、「特に課題となっていることはない」と回答した事業者の割合が 15.0%と比較的高い傾向が見られる。

【属性別結果】

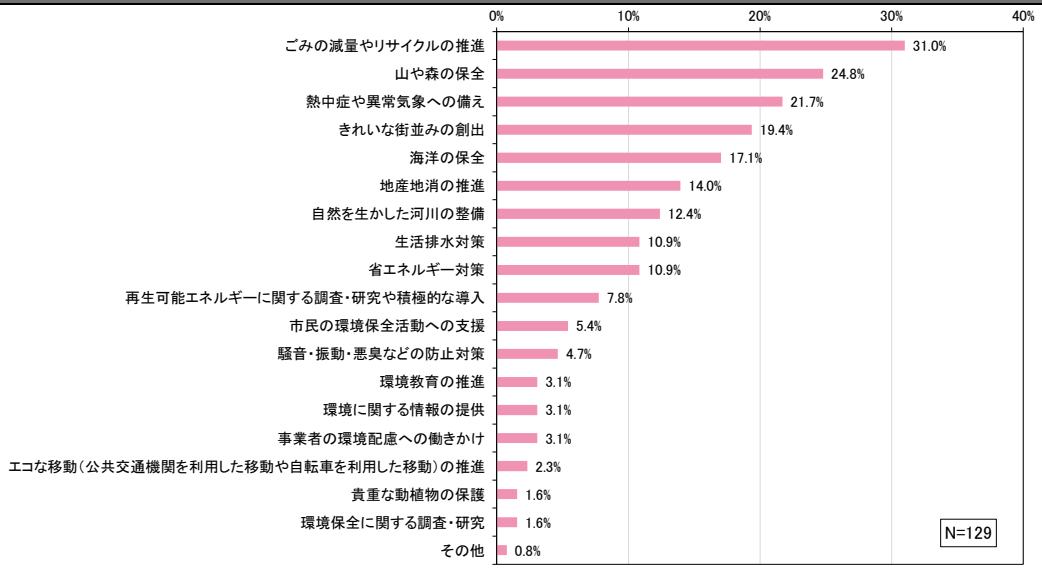
問 12　環境保全を推進する上での課題

〈業種別〉



◆　業種別の回答数が少なく、一概には言えないが、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問 13　柳井市では、市民・事業者の皆様と環境の保全を推進していくために、必要となる施策を検討しています。
次の施策の中から貴事業所が特に重要だと思うものを２つ選んで番号に○印をつけてください。



※その他に関する記載は無かった

【全体結果】

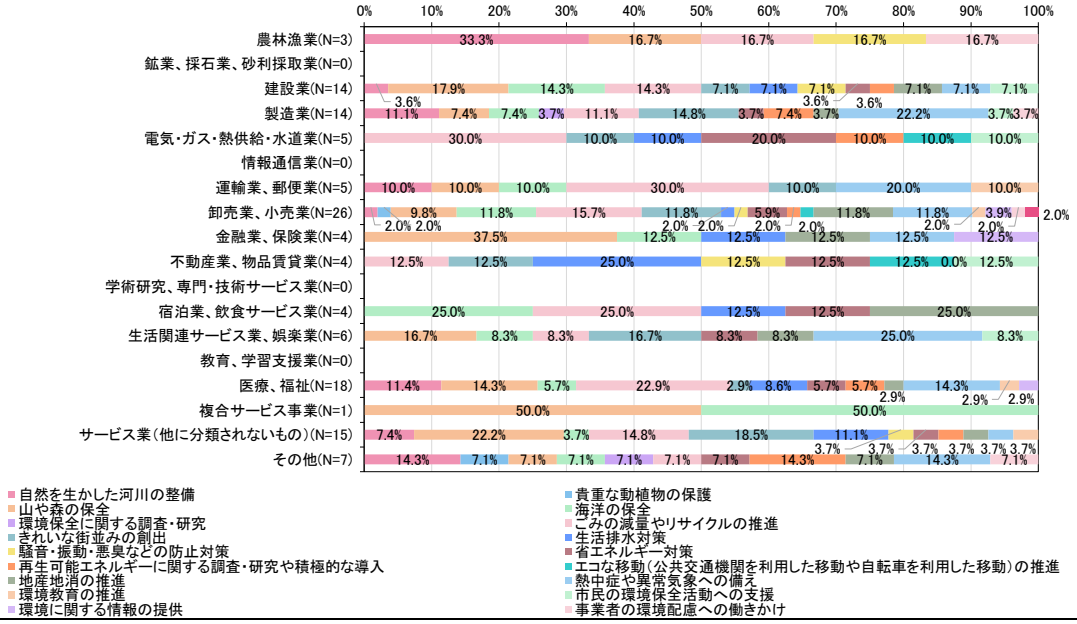
◆　「ごみの減量やリサイクルの推進」と回答した事業者の割合が 31.0%と最も高く、次いで「山や森の保全」の 24.8%、「熱中症や異常気象への備え」の 21.7%である。

◆　重要だと思う施策について、概ね市民同様の結果となった。

【属性別結果】

問 13　環境保全を推進するために必要な施策

〈業種別〉



◆　業種別の回答数が少なく、一概には言えないが、概ね同様の傾向であり、大きな違いは見られなかった。

問 14　柳井市の環境や地球環境に関して、ご意見、ご要望等がありましたら、ご記入ください。

◆　「道路・草木の管理」に関する意見・要望が最も多く、次いで「行政のリーダーシップ」に関する意見・要望が多かった。

No.	記載内容
1	事業所の取組への資金的助成
2	太陽光パネル増による森林や景観破壊に伴うクマ増問題。海洋プランクトンのエサとなる CO2 減による漁獲量減など、さまざまな事象からの環境問題の再考も必要なのではないでしょうか。
3	毎朝６時に自治体が音楽を鳴らすのは電気代のムダだと思うし、必要ないと思います。迷惑でしかない。これだけで住みたくなくなる。
4	耕作放棄の田畑が増えているため、農業に興味のある人へ体験できる場を提供して身近なものにしてほしい。山林も草木が育ちすぎて、道路の見通しが悪くなったり歩道がふさがれたりして危険を感じることがある。空家が増えて、その周辺の草木が茂ることで、日当たりにも問題がある場所など住んでいる人達が環境整備をするには限界を感じる。
5	環境保全やエネルギー問題について、正しい知識の無い方がいたずらに騒ぎ立てるのを止めてほしい。柳井市民として恥ずかしい。
6	歩道の整備、道路の雑草の草刈り
7	海に面して、温暖な気候、周防大島への移住など観光業、企業誘致。釣りをするので他県からの釣り師が漁港を汚して帰るのは誠に遺憾。マナーを守って楽しい良い漁場が多い柳井市を守って行きましょう
8	せっかくの綺麗な海を守りたい。釣り客が海やその付近にゴミ・釣り針等を投げ捨てて帰っていて汚れるし針は危ないので、できれば立て看板など増やして欲しい。警察側かもしれませんが、昼夜問わず国道を走り屋が走っており騒音がひどい。
9	昔は国道、県道沿いの草などよく手入れされてあったが野放しになっている箇所など景観面で気になります。
10	川が汚い。土砂が堆積して木が生えている。道路脇の雑草が多い。危険です。
11	柳井市は日照時間が長く、中国電力柳井事業所様が貴重な LNG 火力発電のため、県内の以東の LNG 供給拠点でもあり、環境面で大きなアドバンテージがある。企業同士の検討では、経済合理性が大きなハードルとなり、水素利活用などが進みにくい面があるため、旗振り役を市にお願いしたい。
12	柳井市は自然に恵まれ公害も少ない環境。これを財産として活かした町造りができれば良いと思う。
13	地球温暖化対策は一地域の努力では改善できません。世界に発信できる柳井方式を作りたいですね。
14	公的建造物への太陽光パネルの設置、道路周辺の雑木草の伐採を率先して勧め、市民へアピールし意識を深めて欲しい
15	行政が音頭を取る場合はリーダの哲学が必要と思える。

4. 環境に対する満足度・重要度

4.1 集計方法

アンケート調査から得られた全 26 の環境項目に対する満足度･重要度について､設問項目ごとに､下表に示すとおり､選択肢に点数を付け､回答数と点数から加重平均を求め､散布図として整理した。

点数	満足度の選択肢	重要度の選択肢
+2	満足	重要
+1	やや満足	どちらかというと重要
0	わからない	
-1	やや不満	どちらかというと重要でない
-2	不満	重要でない

散布図は満足度・重要度の平均値を境界として、以下に示す４分類に分けられる。

特にＡ分類に該当する環境項目は、満足度が低く、重要度が高い項目に該当するため、ニーズが高い項目とみなすことができる。

Ａ分類：重要度が高く、満足度が低い（重点改善領域）	
	重要度は高いが満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的見直しなども含め満足度を高める必要のある領域
Ｂ分類：重要度、満足度共に高い（現状維持領域）	
	重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域。
Ｃ分類：重要度が低く、満足度が高い（検討領域）	
	重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策の在り方を含めて検討する必要のある領域。
Ｄ分類：重要度、満足度共に低い（改善・見直し領域）	
	重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策の在り方や進め方そのものを改めて検討する必要のある領域。

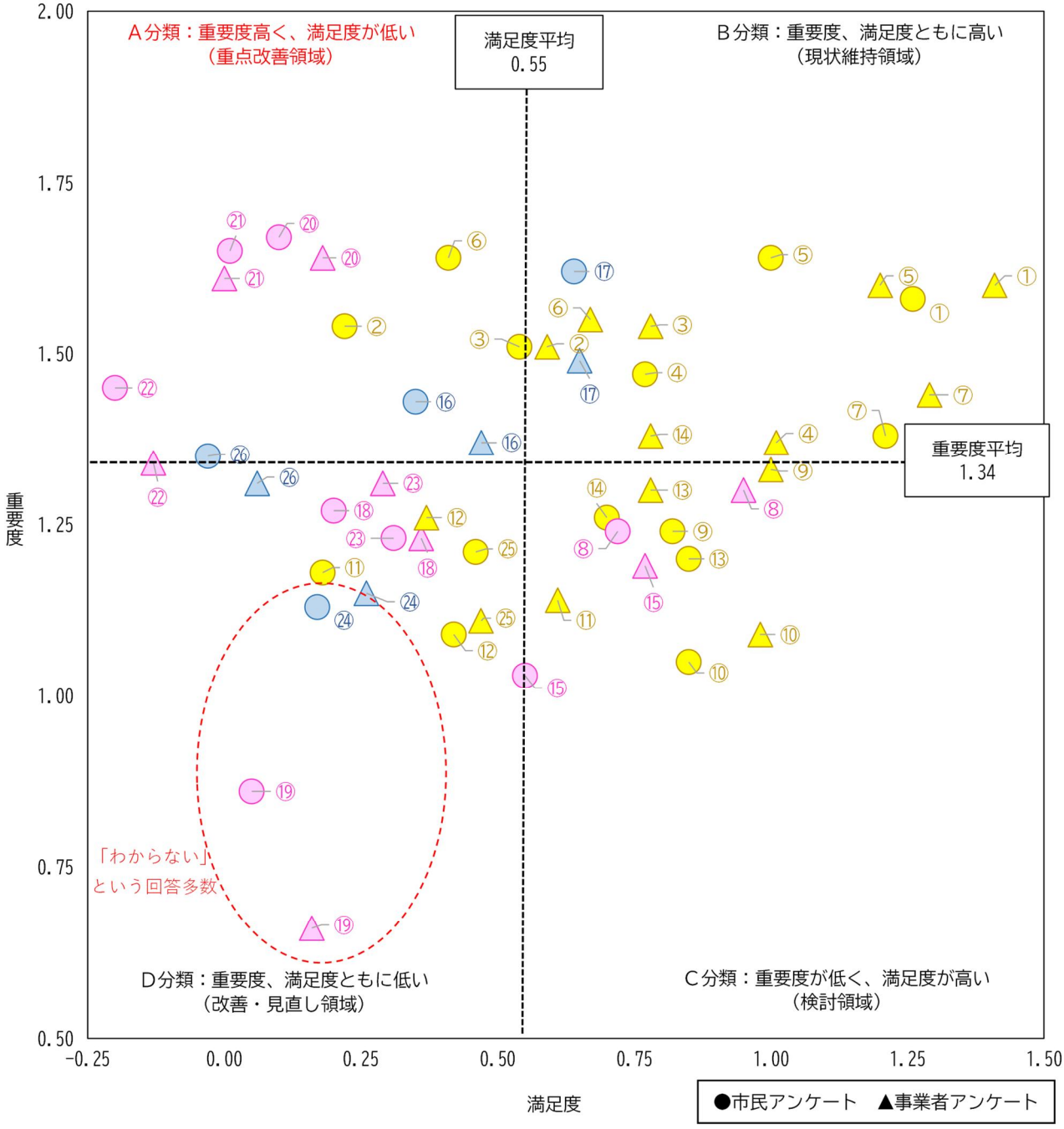
4.2 集計結果

市民及び事業者における満足度・重要度の散布図は、以下に示すとおりであり、以下に示す特徴が見られる。

●市民・事業者ともに、「ごみの減量化やリサイクルの状況」・「大雨・洪水に対する備え」・「土砂災害に対する備え」がA分類（重点改善領域）となっており、資源循環や気候変動対策（適応策）に関するニーズが高くなっている。
●市民は、水環境のきれいさやまちの清潔さといった生活環境項目や環境に対するモラル・配慮に関するニーズも高くなっている。
●事業者は、市民と比較して、全体的にB分類（現状維持領域）が多くなっている。
●市民・事業者ともに「太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入」の満足度・重要度が極端に低くなっているが、これは「わからない」の回答が多かったためである。なお、「環境教育・環境学習に関する取組」についても、同様の傾向が見られる。そのため、再エネや環境教育の重要性を改めて伝えていく必要がある。
●地球温暖化に関する関心は高いものの、気候変動対策（緩和）はD領域（改善・見直し領域）となっているため、施策の進め方を改めて検討する必要がある。

項　　目	市民アンケート			事業者アンケート		
	満足度	重要度	分類	満足度	重要度	分類
①空気のきれいさ	1.26	1.58	B	1.41	1.60	B
②川や池沼の水のきれいさ	0.22	1.54	A	0.59	1.51	B
③海のきれいさ	0.54	1.51	A	0.78	1.54	B
④家の周りの静かさ（騒音・振動の少なさ）	0.77	1.47	B	1.01	1.37	B
⑤いやなにおいなどの悪臭の少なさ	1.00	1.64	B	1.20	1.60	B
⑥まちの清潔さ（ごみのポイ捨てなどの無さ）	0.41	1.64	A	0.67	1.55	B
⑦山や森などの緑の豊かさ	1.21	1.38	B	1.29	1.44	B
⑧農地としての緑の豊かさ	0.72	1.24	C	0.95	1.30	C
⑨鳥や魚、植物などの身近な生物の豊かさ	0.82	1.24	C	1.00	1.33	C
⑩自然とのふれあいの機会の多さ	0.85	1.05	C	0.98	1.09	C
⑪野生鳥獣の生息域と生活圏のバランス	0.18	1.18	D	0.61	1.14	C
⑫公園や街路の花や緑	0.42	1.09	D	0.37	1.26	D
⑬森や山の景観の美しさ	0.85	1.20	C	0.78	1.30	C
⑭海や川の景観の美しさ	0.70	1.26	C	0.78	1.38	B
⑮田園風景の美しさ	0.55	1.03	C	0.77	1.19	C
⑯ごみの減量化やリサイクルの状況	0.35	1.43	A	0.47	1.37	A
⑰ごみの分別や出し方のマナー	0.64	1.62	B	0.65	1.49	B
⑱省エネルギーへの取組	0.20	1.27	D	0.36	1.23	D
⑲太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入	0.05	0.86	D	0.16	0.66	D
⑳大雨・洪水に対する備え	0.10	1.67	A	0.18	1.64	A
㉑土砂災害に対する備え	0.01	1.65	A	0.00	1.61	A
㉒猛暑に対する備え	-0.20	1.45	A	-0.13	1.34	D
㉓地産地消（地場農産物の消費）の状況	0.31	1.23	D	0.29	1.31	D
㉔環境教育・環境学習に関する取組	0.17	1.13	D	0.26	1.15	D
㉕ゆとり、やすらぎ	0.46	1.21	D	0.47	1.11	D
㉖市民ひとり一人の環境に対するモラル、環境への配慮	-0.03	1.35	A	0.06	1.31	D

※着色は「第２次柳井市環境基本計画」で掲げられた各基本的な方向との整合を示している。
黄色着色：「現在ある自然環境を大切にするために」に該当する項目
赤色着色：「未来に向かうために」に該当する項目
青色着色：「現在ある自然環境を大切にして未来に向かうために」に該当する項目


A分類：重要度高く、満足度が低い
（重点改善領域）
満足度平均
0.55
B分類：重要度、満足度ともに高い
（現状維持領域）
重要度平均
1.34
「わからない」
という回答多数
D分類：重要度、満足度ともに低い
（改善・見直し領域）
C分類：重要度が低く、満足度が高い
（検討領域）
重要度
満足度
2.00
1.75
1.50
1.25
1.00
0.75
0.50
-0.25
0.00
0.25
0.50
0.75
1.00
1.25
1.50
●市民アンケート　▲事業者アンケート

5. 過年度調査との比較（市民アンケート）

5.1 概要

市民の意識の変遷を把握することを目的に、過去のアンケート調査と今回のアンケート調査結果を比較する。

これまで実施したアンケート調査の調査概要は、以下に示すとおりである。

項目	今回のアンケート調査（令和 7 年度調査）概要
調査対象	市内に在住している方の中から 1,000 人を無作為に抽出
調査方法	郵送により調査票を配布し、郵送、web にて調査票を回収
調査期間	2025（令和 7）年 10 月 23 日（木）～2025（令和 7）年 12 月 31 日（水）
回収率	発送数：1,000 票　未着数：８票　回収数：464 票（郵送：277 票、web：187 票） 回収率：46.8%

※回収率は有効回答数（発送数から未着数を除外した数量）に対する割合を示す。

項目	前回のアンケート調査（平成 28 年度調査）概要
調査対象	市内に在住している方の中から 1,000 人を無作為に抽出
調査方法	郵送により調査票を配布し、郵送にて調査票を回収
調査期間	2016（平成 28）年 10 月５日（水）～2016（平成 28）年 10 月 31 日（月）
回収率	発送数：1,000 票　回収数：459 票　回収率：45.9%

項目	前々回のアンケート調査（平成 13 年度調査）概要
調査対象	市内に在住している方の中から 1,000 人を無作為に抽出
調査方法	郵送により調査票を配布し、郵送にて調査票を回収
調査期間	2001（平成 13）年 10 月 17 日（水）～2001（平成 13）年 11 月６日（火）
回収率	発送数：1,000 票　回収数：489 票　回収率：48.9%

5.2 比較項目

今回のアンケート調査及び過去のアンケート調査において、比較する項目は以下に示すとおりである。ただし、設問内容を変更している部分もあるため、全ての比較ができないことに留意する必要がある。

比較する項目	令和 7 年度調査 設問番号	平成 28 年度調査 設問番号	平成 13 年度調査 設問番号
環境に対する満足度・重要度	問４	問６	問２
環境項目に関する認知度・関心度	問５	問８	問４
家庭ごみの減量化に向けて必要な項目	問９	問 11	問８
環境に関する活動の参加状況	問 10	問９	問５
環境に関する活動の参加意欲	問 11	問 10	問６
環境に関する情報を得るための媒体	問 12	問 12	問９
重要だと思う環境施策	問 14	問 13	問 10

5.3 比較結果

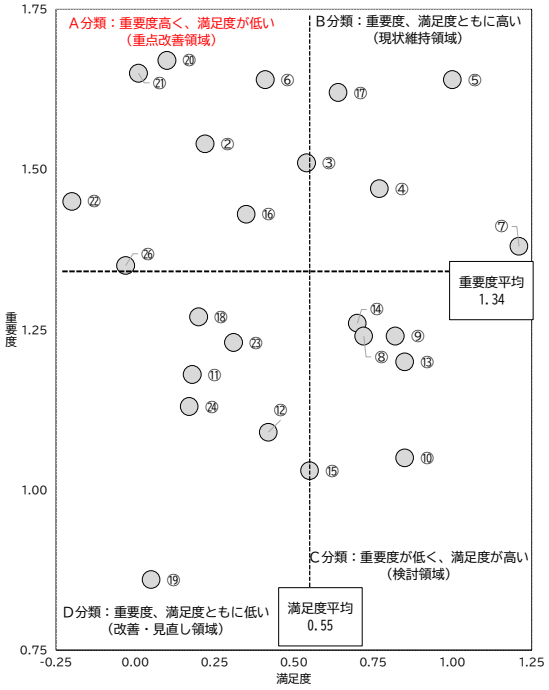
(1) 環境に対する満足度・重要度

環境に対する満足度・重要度は、過年度調査を踏まえ、以下に示す特徴が見られる。

●過年度調査では、「ゆとり、やすらぎ」や「憩いの場や公園」といった生活の質や快適性に関する項目が重要視されていたが、今回の調査では、新たに加わった気候変動に伴う災害への備えが重要視されている。
●「水環境のきれいさ」及び「市民の環境に対するモラル・配慮」は、引き続き重要な課題であり、改善を図っていくことが必要である。
●「空気のきれいさ」や「静かさ」、「山や森などの緑の豊かさ」は、満足度及び重要度ともに高く、今後も維持していくが必要であるとともに、本市の強みとなっている。

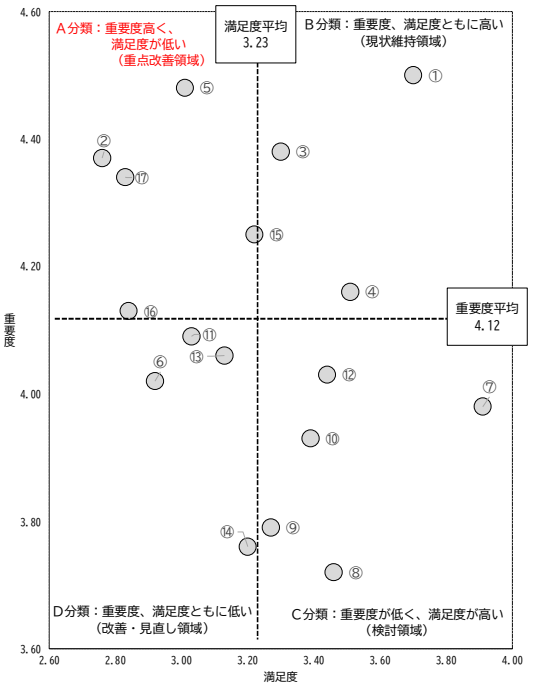
【今回のアンケート調査結果】

項　　目	満足度	重要度	分類
①空気のきれいさ	1.26	1.58	B
②川や池沼の水のきれいさ	0.22	1.54	A
③海のきれいさ	0.54	1.51	A
④家の周りの静かさ(騒音・振動の少なさ)	0.77	1.47	B
⑤いやなにおいなどの悪臭の少なさ	1.00	1.64	B
⑥まちの清潔さ（ごみのポイ捨てなどの無さ）	0.41	1.64	A
⑦山や森などの緑の豊かさ	1.21	1.38	B
⑧農地としての緑の豊かさ	0.72	1.24	C
⑨鳥や魚、植物などの身近な生物の豊かさ	0.82	1.24	C
⑩自然とのふれあいの機会の多さ	0.85	1.05	C
⑪野生鳥獣の生息域と生活圏のバランス	0.18	1.18	D
⑫公園や街路の花や緑	0.42	1.09	D
⑬森や山の景観の美しさ	0.85	1.20	C
⑭海や川の景観の美しさ	0.70	1.26	C
⑮田園風景の美しさ	0.55	1.03	C
⑯ごみの減量化やリサイクルの状況	0.35	1.43	A
⑰ごみの分別や出し方のマナー	0.64	1.62	B
⑱省エネルギーへの取組	0.20	1.27	D
⑲太陽光発電などの再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰの導入	0.05	0.86	D
⑳大雨・洪水に対する備え	0.10	1.67	A
㉑土砂災害に対する備え	0.01	1.65	A
㉒猛暑に対する備え	-0.20	1.45	A
㉓地産地消（地場農産物の消費）の状況	0.31	1.23	D
㉔環境教育・環境学習に関する取組	0.17	1.13	D
㉕ゆとり、やすらぎ	0.46	1.21	D
㉖市民ひとり一人の環境に対するモラル、環境への配慮	-0.03	1.35	A



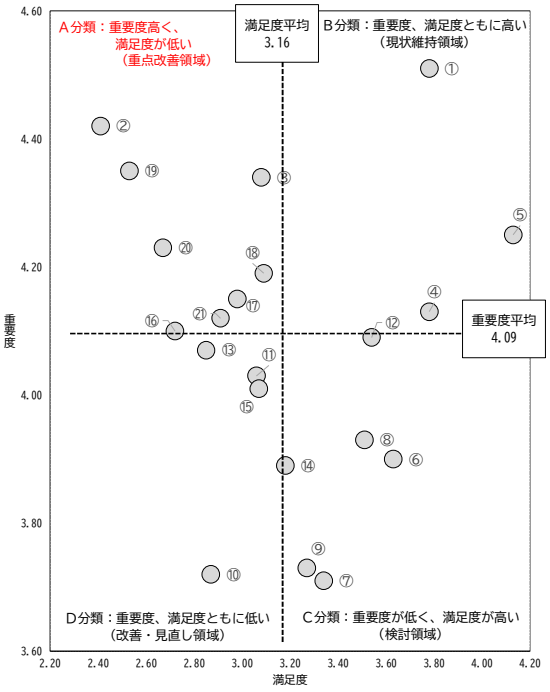
【前回のアンケート調査結果】

項　　目	満足度	重要度	分類
①空気のきれいさ	3.70	4.50	B
②川のきれいさ	2.76	4.37	A
③海のきれいさ	3.30	4.38	B
④静けさ	3.51	4.16	B
⑤まちの清潔さ（ごみや犬のふんなどがあまりないこと）	3.01	4.48	A
⑥街並みの美しさ	2.92	4.02	D
⑦山や森などの緑の多さ	3.91	3.98	C
⑧農地としての緑の多さ	3.46	3.72	C
⑨動物や植物、魚、昆虫などの豊かさ	3.27	3.79	C
⑩自然とのふれあいの機会の多さ	3.39	3.93	C
⑪公園や街路の花や緑	3.03	4.09	D
⑫森や山の景観の美しさ	3.44	4.03	C
⑬水の景観の美しさ	3.13	4.06	D
⑭田園風景の美しさ	3.20	3.76	D
⑮ゆとり、やすらぎ	3.22	4.25	A
⑯憩いの場や公園	2.84	4.13	A
⑰市民ひとり一人の環境に対するモラル、環境への配慮	2.83	4.34	A



【前々回のアンケート調査結果】

項　　目	満足度	重要度	分類
①空気のきれいさ	3.78	4.51	B
②川のきれいさ	2.41	4.42	A
③海のきれいさ	3.08	4.34	A
④静かさ	3.78	4.13	B
⑤山や森などの緑の多さ	4.13	4.25	B
⑥農地としての緑の多さ	3.63	3.90	C
⑦動物や植物、魚、昆虫などの多さ	3.34	3.71	C
⑧樹木や草花とのふれあい	3.51	3.93	C
⑨野鳥や昆虫などとのふれあい	3.27	3.73	C
⑩水辺の生き物とのふれあい	2.87	3.72	D
⑪公園や街路の花や緑	3.06	4.03	D
⑫森や山の景観の美しさ	3.54	4.09	B
⑬水の景観の美しさ	2.85	4.07	D
⑭田園風景の美しさ	3.18	3.89	C
⑮街並みの美しさ	3.07	4.01	D
⑯憩いの場や公園	2.72	4.10	A
⑰道路のきれいさ	2.98	4.15	A
⑱ゆとり、やすらぎ	3.09	4.19	A
⑲市民ひとり一人の環境に対するモラル、環境への配慮	2.53	4.35	A
⑳事業者の環境配慮	2.67	4.23	A
㉑利便性、快適性	2.91	4.12	A

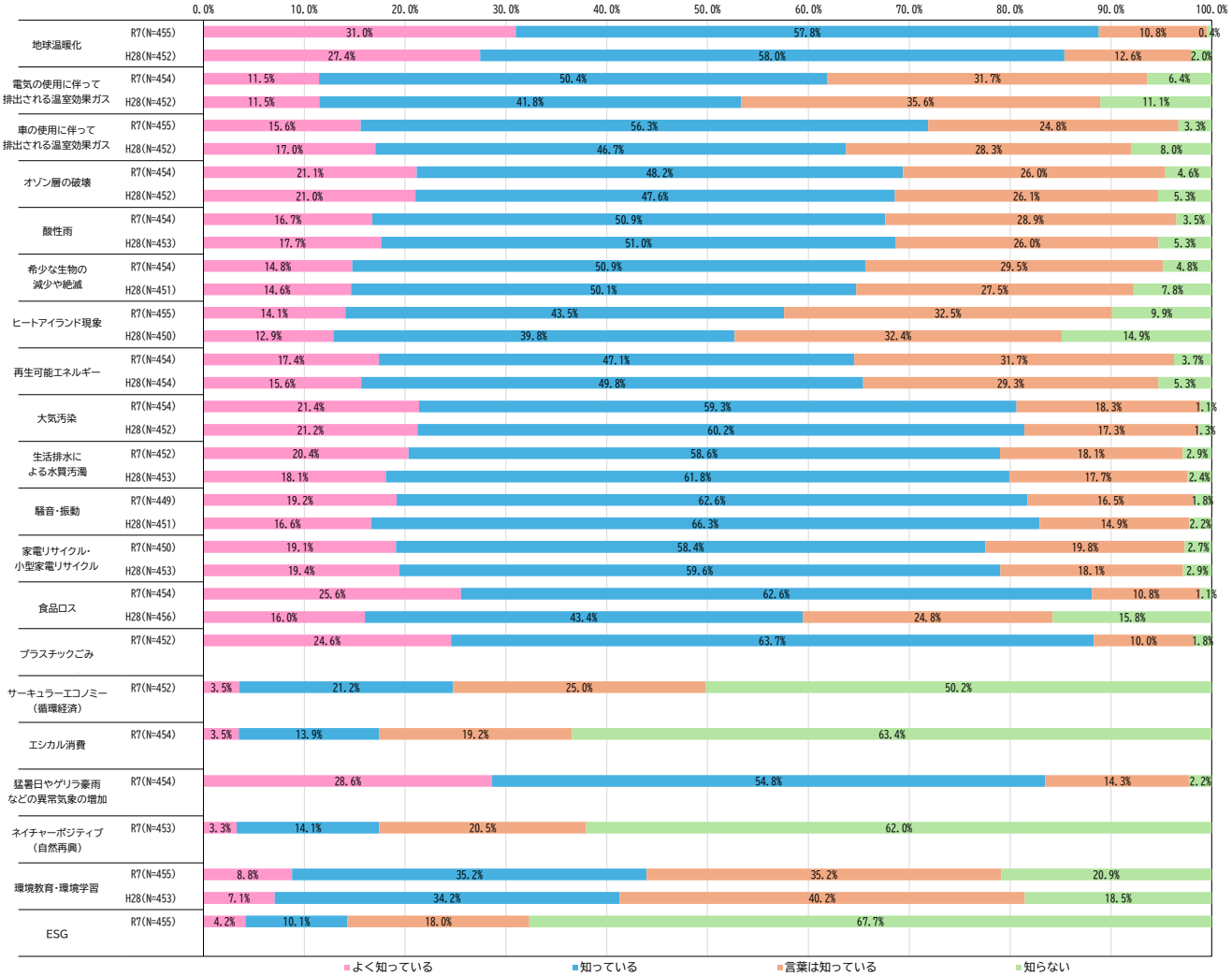


(2) 環境項目に関する認知度・関心度

環境項目に関する認知度は、過年度調査を踏まえ、以下に示す特徴が見られる。

- ●「地球温暖化」に関連する環境項目の認知度は、概ね増加傾向で推移しており、気候変動に関する関心が高い。一方、「生活環境」に関連する項目（公害等）の認知度はわずかに減少傾向で推移しているが、依然として関心が高い。
- ●「知らない」と回答した方の割合は、概ね減少傾向で推移しており、環境項目を目にする機会自体は増えていると考えられる。
- ●「サーキュラーエコノミー」、「エシカル消費」、「ネイチャーポジティブ」、「ESG」といった新たな概念に関する認知度は低い。

【各アンケート調査の比較（認知度）】

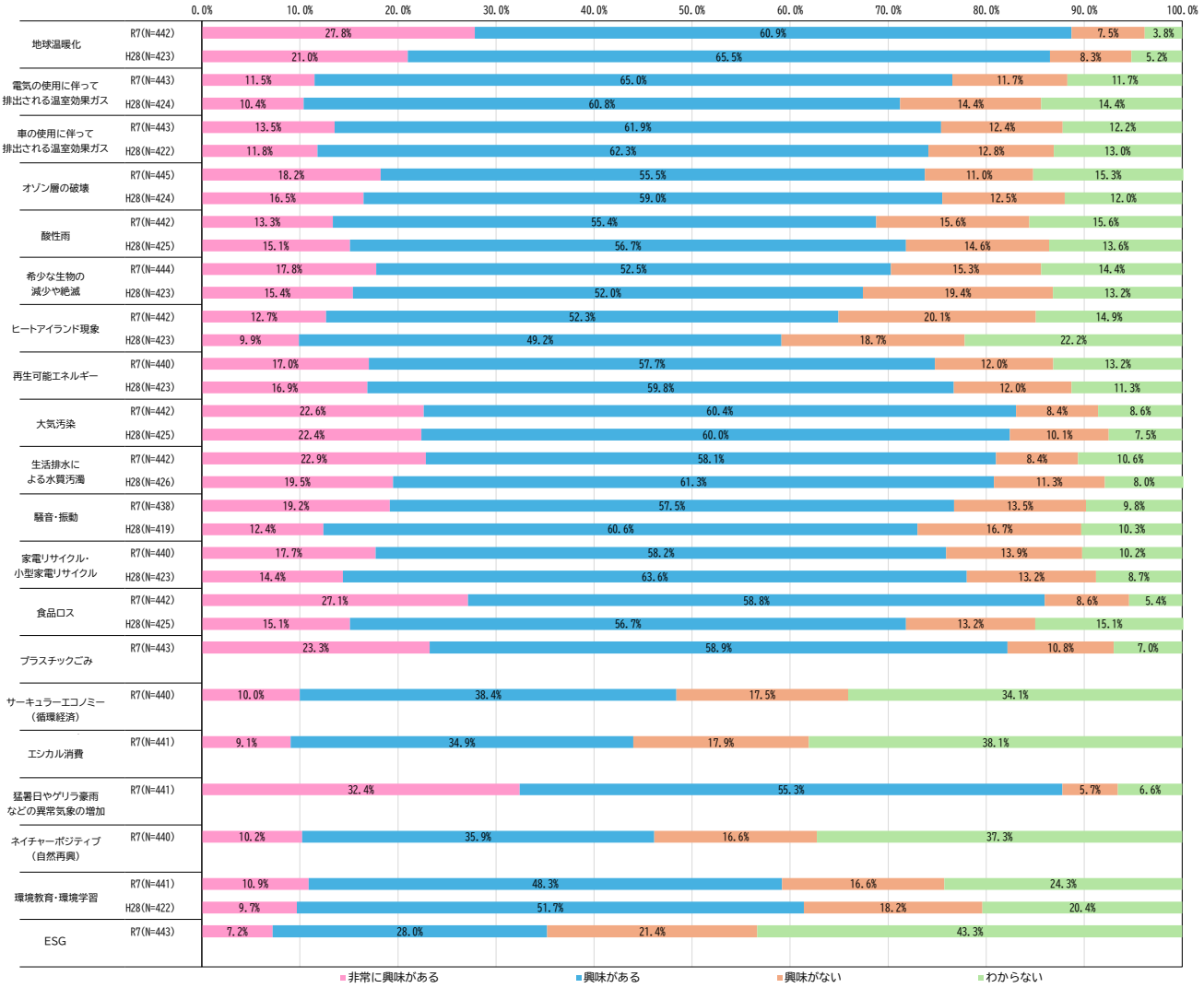


【平成 13 年度調査（認知度上位）】
●地球温暖化、●生活排水による水質汚濁、●大気汚染、●家電リサイクル、●ダイオキシン、●容器包装リサイクル、●オゾン層の破壊、●騒音・振動、●酸性雨

環境項目に関する関心度は、過年度調査を踏まえ、以下に示す特徴が見られる。

●環境項目に対する関心度は、概ね増加傾向で推移しており、環境に対する関心は高い。特に、地球温暖化や気候変動に対する関心は非常に高くなっている。
●「サーキュラーエコノミー」、「エシカル消費」、「ネイチャーポジティブ」、「ESG」といった新たな概念は、「わからない」と回答した方が多く、認知度自体を上げていく必要がある。

【各アンケート調査の比較（関心度）】



【平成 13 年度調査（関心度上位）】
●生活排水による水質汚濁、●地球温暖化、●大気汚染、●ダイオキシン、
●オゾン層の破壊、●酸性雨、●ごみ処分地の不足、●容器包装リサイクル

(3) 家庭ごみの減量化に向けて必要な項目

家庭ごみ減量化に向けて必要な項目は、過年度調査を踏まえ、以下に示す特徴が見られる。

- ●「必要な量や賞味期限を考えて購入」が最も多くなった。これは、食品ロス削減や物価高騰などが要因と考えられる。
- ●「マイバッグ持参」は、平成 28 年度調査から横ばい傾向となっており、2020（令和２）年に実施されたレジ袋有料化に関係なく、「マイバッグ持参」に対する関心が高いと考えられる。
- ●「プラスチック類のリサイクル」は、全ての調査において、一定数（４割程度）の市民が必要と考えている。
- ●「商品を販売する側による簡易包装」は、徐々に減少しており、企業の環境配慮行動が進んでいると考えられる。

【各アンケート調査の比較（上位順)】

環境施策	令和７年度調査
商品を買うときは、必要な量や賞味期限を考えて買い、むだにならないようにする	58.5%
買い物には、買い物袋(マイバッグ)を持参する	55.1%
食品トレーなどのプラスチック類をリサイクルする	39.2%
商品を販売する側が、簡易包装にするよう努める	22.1%
使い捨て製品はなるべく買わないようにする	10.9%
生ごみの水切りや堆肥化を行うようにする	10.5%

環境施策	平成 28 年度調査
買い物には買い物袋(マイバッグ)を持参する	55.3%
商品を買うときは、必要な量や賞味期限を考えて買い、むだにならないようにする	51.6%
食品トレーなどのプラスチック類をリサイクルする	43.4%
商品を販売する側が、簡易包装にするよう努める	30.5%
使い捨て製品はなるべく買わないようにする	17.6%

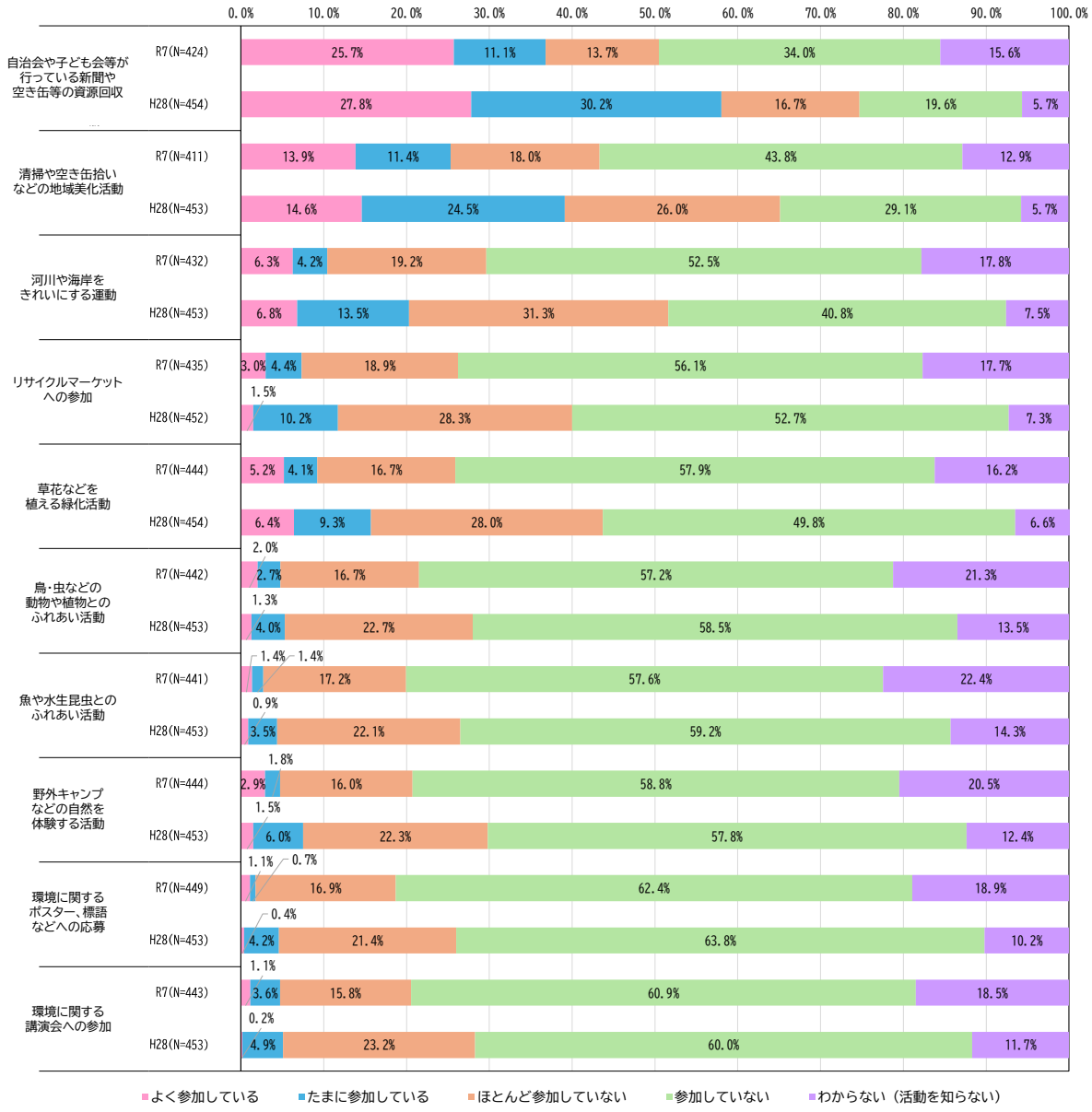
環境施策	平成 13 年度調査
食品トレーなどのプラスチック類をリサイクルする	42.4%
売る側が簡易包装に努める	39.5%
生ごみをコンポストにする	27.6%
買い物袋を持参する	24.0%
過剰包装を断る	21.5%
ごみがでないように商品を買うとき気を付ける	19.1%
電気式生ごみ処理機で生ごみを処理する	18.4%

(4) 環境に関する活動の参加状況

環境に関する活動の参加状況は、過年度調査を踏まえ、以下に示す特徴が見られる。

●環境に関する活動の参加率は、全体的に大幅に低下している。これは、コロナ禍による活動の中止・縮小や少子高齢化・人口減少などが要因であると考えられる。
●「わからない」と回答した方の割合が大きく増加しており、活動の認知度自体が低下している。そのため、活動の認知度を上げる必要があると考えられる。

【各アンケート調査の比較】



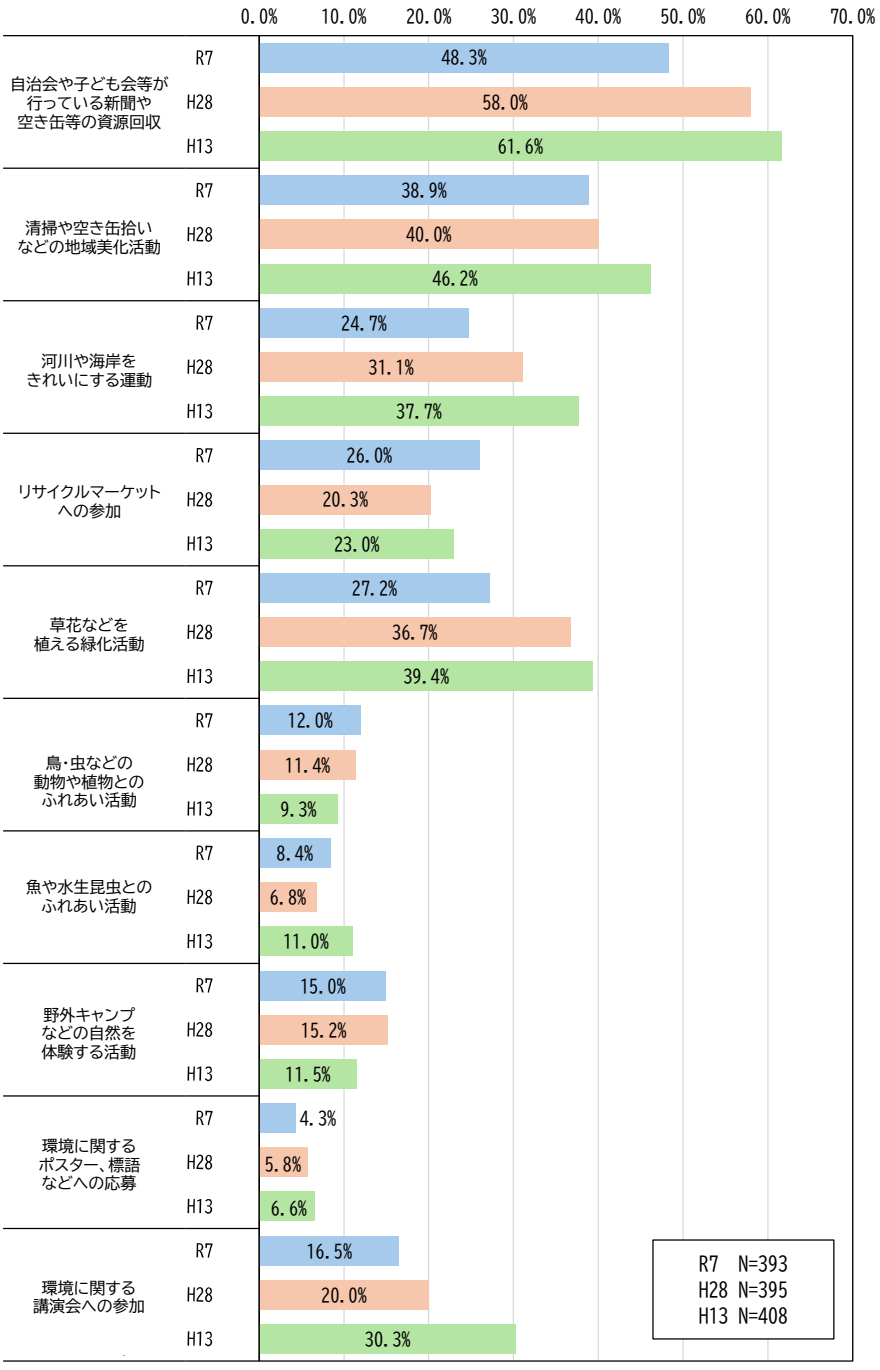
【平成 13 年度調査（参加率上位）】
●子ども会等が行っている新聞やアルミ缶の資源回収
●清掃や空き缶拾いなどの地域美化活動
●河川や海岸をきれいにする活動
●草花などを植える緑化活動
●環境に関する講演会への参加

(5) 環境に関する活動の参加意欲

環境に関する活動の参加意欲は、過年度調査を踏まえ、以下に示す特徴が見られる。

●環境に関する活動への参加意欲は、全体的に減少しており、環境に関する活動の関心が低くなっている。
●一方、「動植物とのふれあい活動」、「自然を体験する活動」への参加意欲は増加しており、体験型・レジャー志向が高まっていると考えられる。また、「リサイクルマーケットへの参加」への参加意欲も増加しており、資源循環に関する関心は高いと考えられる。

【各アンケート調査の比較】



(6) 環境に関する情報を得るための媒体

環境に関する情報を得るための媒体は、過年度調査を踏まえ、以下に示す特徴が見られる。

●「テレビ・ラジオ」が最も多くなっているが、減少傾向である。「新聞・雑誌」や「市の広報誌」に関しては、大幅に減少している。
●「web サイト」や「SNS」といったインターネットを活用している市民が多くなっており、情報媒体が「マスメディア」から「インターネット」に変わっていることが考えられる。

【各アンケート調査の比較（上位順)】

情報媒体	令和 7 年度調査
テレビ・ラジオ	50.7%
web サイト	35.4%
新聞・雑誌	25.5%
学校・職場・家族・身近な人	23.4%
SNS	22.3%
広報誌	16.2%
環境白書、統計書、ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄなど	4.5%
セミナーや講演会、説明会など	3.2%

情報媒体	平成 28 年度調査
テレビ・ラジオ	84.7%
新聞・雑誌	64.5%
市の広報誌	45.5%
インターネット	35.1%
学校・職場・家族・身近な人	23.7%

情報媒体	平成 13 年度調査
テレビ	93.3%
新聞・雑誌	77.5%
市の広報誌	60.5%
ラジオ	17.9%
学校や友達	17.7%
職場	8.9%
インターネット	3.2%
学校の先生	2.2%

(7) 重要だと思う環境施策

重要だと思う環境施策は、過年度調査を踏まえ、以下に示す特徴が見られる。

●「ごみの減量やリサイクルの推進」といった資源循環に関する関心が非常に高い。「山や森の保全」や「自然を生かした河川の整備」といった身近な環境保全に関する関心も高い。
●気候変動による影響を踏まえ、「熱中症や異常気象への備え」といった気候変動(適応)に関する関心が高くなっている。
●生活排水対策に関する関心は、過年度と比較すると減少しているが、依然として高い。
●「環境教育」に関する関心は、徐々に減少しており、環境教育の重要性を周知していく必要がある。

【各アンケート調査の比較（上位順)】

環境施策	令和7年度調査
ごみの減量やリサイクルの推進	29.4%
熱中症や異常気象への備え	25.4%
山や森の保全	17.1%
きれいな街並みの創出	16.0%
自然を生かした河川の整備	14.4%
生活排水対策	13.0%
地産地消の推進	11.9%
騒音・振動・悪臭などの防止対策	10.1%
海洋の保全	8.5%
省エネルギー対策	8.5%
市民の環境保全活動への支援	6.3%
環境に関する情報の提供	5.6%
事業者の環境配慮への働きかけ	5.4%
貴重な動植物の保護	4.9%
エコな移動（公共交通機関を利用した移動や自転車を利用した移動）の推進	4.5%
再生可能エネルギーに関する調査・研究や積極的な導入	4.3%
環境教育の推進	3.8%
環境保全に関する調査・研究	3.1%

環境施策	平成28年度調査
ごみの減量やリサイクルの推進	33.3%
山や森の保全	24.7%
自然を生かした河川の整備	24.7%
きれいな街並みの創出	19.8%
生活排水対策	17.3%
省エネルギー対策	10.8%
新エネルギーに関する調査・研究	9.7%
環境に関する情報の提供	9.0%
環境教育の推進	9.0%
騒音・振動・悪臭などの防止対策	9.0%
市民の環境保全活動への支援	8.1%
事業者の環境配慮へのはたらきかけ	7.0%
環境保全に関する調査・研究	4.5%
貴重な動植物の保護	4.3%
わからない	3.8%

環境施策	平成13年度調査
下水道整備	48.9%
自然を生かした河川の整備	44.9%
家庭からでるごみの収集処理	38.3%
山や森の保全	25.2%
環境教育	16.8%
ダイオキシン対策	16.1%
事業者へのはたらきかけ	15.8%
生ごみ処理機への補助	15.1%
太陽光発電への補助	11.6%
市民の環境保全活動の支援	11.1%
環境情報の提供	10.1%
地域リーダーの育成	9.4%
環境保全型農業の推進	8.6%
環境保全に関する調査・研究	7.4%
省エネルギー対策	7.2%
貴重な動植物の保護	6.9%
環境ホルモン対策	5.2%